

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第355集

さいたま市

大木戸遺跡 I

大宮西部特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財発掘調査報告

(第1分冊)

2008

独立行政法人 都市再生機構
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



遺跡全景



第5・7地点 調査区全景



第2・3・4地点 調査区全景



第10地点 調査区全景



第4-2号住居跡出土土器



第5-3号住居跡(31図1)出土土器



第8-1号住居跡(291図1)出土土器



第11-6号土壇(358図1)出土土器



第4-2号住居跡(229図9)出土土器

大木戸遺跡の紹介

大木戸遺跡は、埼玉県南東部のさいたま市西区に所在しています。遺跡は荒川の支流の滝沼川によって、複雑な形に削られた高台の上に立地しています。

大木戸遺跡の発掘調査は、今までに7回実施されており、本書は第2～5次調査の成果をまとめたものです。遺跡からは、旧石器時代から近世にかけての人々の生活の跡が見つかっています。

旧石器時代は、埼玉県に人が住み始めた当時の古い石器（今から約28,000年前）が出土しています。縄文時代は、後期（今から約4,000年前）になると、ムラが営まれるようになります。床に大きくて平らな石を敷いた敷石住居跡しきいしが見つかり、荒川上流から河川を利用して大きな石が運ばれたと思われます。また、弥生時代の後期（今から約1,800年前）にもムラが営まれており、大木戸遺跡が生活するのに適した環境であったことがわかります。近世（江戸時代）は高台の縁ふちに近いところから建物跡と、それに伴う堀跡が見つかっています。

序

本県は首都東京に隣接し、高次の都市機能と交通利便性を備えながら豊かな緑に恵まれております。さいたま市西区周辺は、大宮台地の西縁にあたり低地には水田が広がり、高台には雑木林や屋敷林が多く残された緑豊かな地域です。

現在、さいたま市西区では独立行政法人都市再生機構によってJR川越線北側に、大宮西部特定土地区画整理事業が進められています。事業地内には平成15年にさいたま市西区役所が開設され、平成21年にはJR川越線の新駅「西大宮」駅が開業する予定となっており、都市と自然が調和した安心して暮らせる街づくりの推進とともに、活気に満ちた商業・業務施設の進出が期待されています。

大宮西部特定土地区画整理事業地内には、大木戸遺跡をはじめ多くの遺跡が知られており、埋蔵文化財の取扱いについては埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の処置が講じられることとなりました。発掘調査は都市基盤整備公団（当時）の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

調査の結果、旧石器時代から近世までの多時期にわたる人々の生活の跡が見つけられました。特に、大宮台地では発見例が少ない、後期旧石器時代前半の石器が出土しました。また、縄文時代中期後半から後期にかけての集落跡が調査され、床に大きくて平らな石を敷いた敷石住居跡が発見されました。石材は材質から荒川の上流から運ばれたと推定され、河川を利用した交流が活発に行われていたことが窺われます。

本書はこれらの成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護、普及・啓発の資料として、また、学術研究の資料として広く活用いただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力を頂きました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、独立行政法人都市再生機構埼玉地域支社、さいたま市教育委員会並びに地元関係者の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年12月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 刈部 博

例言

1. 本書は、埼玉県さいたま市西区指扇に所在する大木戸遺跡第2次から5次調査の発掘調査報告書である。

2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

大木戸遺跡第2次 (OOKD地点No)

埼玉県さいたま市西区大字指扇3747番地3他

平成12年9月26日付け 教文第2-62号

大木戸遺跡第3次 (OOKD地点No)

埼玉県さいたま市西区大字指扇3750番地他

平成13年8月10日付け 教文第2-52号

大木戸遺跡第4次 (OOKD地点No)

埼玉県さいたま市西区大耕地3738番地1他

平成16年11月1日付け 教文第2-54号

大木戸遺跡第5次 (OOKD地点No)

埼玉県さいたま市西区大字指扇3714番地他

平成17年9月30日付け 教生文第2-62号

埼玉県さいたま市西区大字指扇3758番地1他

平成17年11月4日付け 教生文第2-79号

3. 発掘調査は、大宮西部特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課(当時)が調整し、都市基盤整備公団(当時)の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4. 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3の組織により実施した。

第2次調査は、平成12年9月1日から平成13年3月23日まで、大和 修・小野美代子・橋本勉・齋持和夫・富田和夫・宮井英一・木戸春夫・鈴木孝之・西井幸雄・岩瀬 誠・新屋雅明・君島勝秀・上野真由美・福田 聖・栗岡 潤・渡辺清志が担当し実施した。

第3次調査は、平成13年8月1日から平成14

年3月22日まで、西井・福田・渡辺が担当し、末次雄一郎の補助を受け実施した。

第4次調査は、平成16年10月18日から平成17年2月10日まで、西井・吉田 稔が担当し、渡辺慎太郎の補助を受け実施した。

第5次調査は、平成17年9月26日から平成17年11月30日まで、新屋・松本美佐子が担当し実施した。

整理報告書作成事業は、平成19年4月9日から平成20年9月30日まで実施した。このうち、平成19年4月9日から平成20年3月24日は鈴木が担当し、平成20年4月8日から平成20年9月30日までは西井が担当して実施し、平成20年12月26日に事業団報告書第355集として印刷・刊行した。

5. 発掘調査における基準点測量は、平成12・13・17年度は中央航業株式会社に委託し、平成16年度は株式会社東京航業研究所に委託した。空中写真撮影は、平成12・17年度は中央航業株式会社、平成13年度は株式会社東日本朝日航洋に委託した。また、巻頭図版の遺物集合写真および展開写真撮影は小川忠博氏に委託した。

6. 発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は富田・西井が行った。

7. 出土品の整理・図版作成は主に鈴木・西井が行い、金子直行・黒坂禎二・新屋・上野・篠田泰輔の協力を得、矢田美智子の補助を受けた。

8. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、IV-3、V-3、VII-3、VIII-3、IX-3、X-2、XI-2を上野が、VI-3を新屋が、V-3の一部を金子直行が、XI-3を篠田が、XI-1を西井が、XI-4を鈴木が行った。その他を西井・鈴木が行った。

9. 本書の編集は西井・鈴木が行った。

10. 本書に掲載した資料は、平成21年1月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。

11. 発掘調査、本書の作成にあたり、下記の機関・

方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします。(敬称略)

さいたま市教育委員会 小林博範 田代 治

凡例

1. 遺跡全体におけるX・Yの数値は、日本測地系(旧測地系)、国土標準平面直角座標第IX系(原点北緯36°00'00"、東経139°50'00")に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を示す。

L9・D1グリッド北西杭の座標

日本測地系

X=-8630.000m Y=-22600.000m

北緯35°55'19" 東経139°34'58"

世界測地系による変換数値

X=-8274.9358m Y=-22892.8685m

北緯35°55'30" 東経139°34'46"

2. 調査区で使用したグリッドは、座標値X=-7500.000m、Y=-23500.000mを基準(A1・A1グリッド)とし、大宮西部特定土地区画整理事業地内全域をカバーする100×100mの大グリッドを設定し、その中を10×10mの中グリッドに細分した。

3. 大グリッドの名称は、北から南方向にアルファベット(A・B・C…)、西から東方向に算用数字(1・2・3…)を付し、アルファベットと算用数字を組み合わせた。中グリッドは北西杭を基準に北から南にA~J、西から東に1~10とし、100グリッドに区分けした。

4. 本書の本文、挿図、表中に記した遺構の略号は以下のとおりである。

SJ…竪穴住居跡 SB…掘立柱建物跡

SA…柵列 SK…土壌 SE…井戸跡

FP…炉穴 SK・SS…集石土壌

SD…溝跡 P…ピット・柱穴

5. 遺構番号は地点ごとに振った。本書においては、地点-Noとして表記した。

例：SK1-2 (第1地点の第2号土壌)

6. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりで

ある。例外的なものについては、個別に示した。

遺構図面

全体図 1/1500 1/1000 1/400

住居跡 1/60 掘立柱建物跡 1/60

土壌・井戸跡 1/60 集石土壌 1/30

旧石器遺物集中部 1/60

溝跡・グリッドピット 1/200

遺物図版

縄文土器実測図 1/4

縄文土器拓本 1/3

弥生土器 1/4

陶磁器類 1/3

石器 4/5 2/3 1/3 1/4

石製品 1/3

7. 遺構断面図に表記した水準数値は、海抜標高を表す。

8. 挿図中の網掛け部分の表示は以下のとおりである。

焼土



赤彩



銅緑釉



油煙



9. 遺物観察表の金属器の計測部は、金属器計測位置図による。

10. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

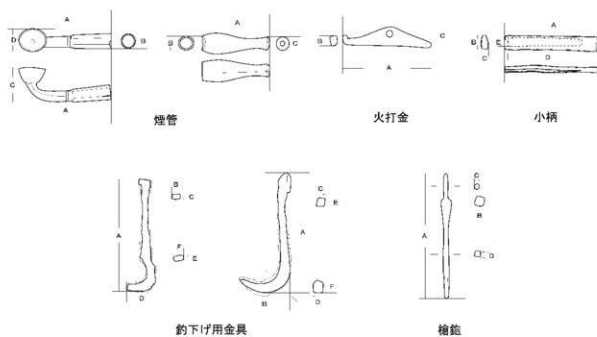
- 口径・器高・底径の単位はcmである。
- ()内の数値は復元推定値、[]内の数値は残存値である。
- 胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。
 - A：石英 B：長石 C：砂粒子 D：雲母
 - E：角閃石 F：赤色粒子 G：白色粒子
 - H：黒色粒子 I：白色針状物質 J：片岩
- 焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。
- 色調は「新版標準土色帖」2002年度版（農林

水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を基とし、通用表記とした。

- 残存率は、図示した器形の部分に対する割合（%）を示した。

11. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行1/50,000、さいたま市の都市計画図1/2,500、荒川流域地形分類図1/25,000を使用して、編集した。

金属器計測位置図



目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	1. 概要	383
1. 発掘調査に至る経過	1	2. 旧石器時代	385
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	3. 縄文時代	386
3. 発掘調査・報告書作成の組織	5	4. 近世	393
II 遺跡の立地と環境	7	VIII 第9地点の遺構と遺物	405
1. 地理的環境	7	1. 概要	405
2. 歴史的環境	7	2. 旧石器時代	405
III 遺跡の概要	15	3. 縄文時代	406
IV 第1・5・7地点の遺構と遺物	20	4. 近世	413
1. 概要	20	IX 第10地点の遺構と遺物	421
2. 旧石器時代	27	1. 概要	421
3. 縄文時代	30	2. 旧石器時代	421
4. 近世	77	3. 縄文時代	441
V 第2・3地点の遺構と遺物	161	4. 近世	455
1. 概要	161	X 第11地点の遺構と遺物	458
2. 旧石器時代	168	1. 概要	458
3. 縄文時代	180	2. 縄文時代	458
4. 近世	191	3. 近世	464
VI 第4・6地点の遺構と遺物	261	XI 調査のまとめ	468
1. 概要	261	1. 旧石器時代	468
2. 旧石器時代	264	2. 縄文時代	474
3. 縄文時代	270	3. 弥生時代	484
4. 弥生時代	306	4. 近世	488
5. 近世	322	引用・参考文献	
VII 第8地点の遺構と遺物	383	写真図版	

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形	7	第34図	第5-3号住居跡出土遺物(4)	45
第2図	遺跡周辺の地形	8	第35図	第5-5号住居跡	46
第3図	周辺の遺跡(旧石器・縄文)	11	第36図	第5-6号住居跡	47
第4図	周辺の遺跡(弥生以降)	12	第37図	第5-6号住居跡出土遺物	47
第5図	大木戸遺跡調査地点位置図	15	第38図	第5-7号住居跡	48
第6図	大宮西部特定土地区画整理事業地内の遺跡分布	16	第39図	土壌(1)	50
第7図	大木戸遺跡全体図(1)	18	第40図	土壌遺物出土状況	51
第8図	大木戸遺跡全体図(2)	19	第41図	土壌(2)	53
〈第1・5・7地点〉			第42図	土壌(3)	54
第9図	第1・5・7地点全体図区割図	21	第43図	土壌(4)	55
第10図	第1・5・7地点全体図(1)	22	第44図	土壌出土遺物	57
第11図	第1・5・7地点全体図(2)	23	第45図	土壌(5)	59
第12図	第1・5・7地点全体図(3)	24	第46図	第5-44号土壌	60
第13図	第1・5・7地点全体図(4)	25	第47図	第5-44号土壌出土遺物	61
第14図	第1・5・7地点全体図(5)	26	第48図	集石土壌(1)	62
第15図	第1・5・7地点旧石器調査区	27	第49図	集石土壌出土遺物	63
第16図	第1・5・7地点土層断面図	28	第50図	集石土壌(2)	64
第17図	グリッド出土石器	29	第51図	集石土壌(3)	65
第18図	第1-1号住居跡(1)	31	第52図	集石土壌(4)	66
第19図	第1-1号住居跡(2)	32	第53図	集石土壌(5)	67
第20図	第1-1号住居跡出土遺物	32	第54図	炉穴	68
第21図	第1-2号住居跡(1)	33	第55図	グリッド出土遺物(1)	69
第22図	第1-2号住居跡(2)	34	第56図	グリッド出土遺物(2)	70
第23図	第5-1号住居跡	35	第57図	グリッド出土遺物(3)	71
第24図	第5-1号住居跡出土遺物	36	第58図	グリッド出土遺物(4)	72
第25図	第5-2号住居跡	37	第59図	グリッド出土遺物(5)	74
第26図	第5-2号住居跡出土遺物	37	第60図	グリッド出土遺物(6)	75
第27図	第5-3号住居跡(1)	38	第61図	第1地点掘立柱建物跡配置図	78
第28図	第5-3号住居跡(2)	39	第62図	第1-1号掘立柱建物跡	79
第29図	第5-3号住居跡(3)	40	第63図	第1-2号掘立柱建物跡(1)	80
第30図	第5-3号住居跡遺物出土状況	41	第64図	第1-2号掘立柱建物跡(2)	81
第31図	第5-3号住居跡出土遺物(1)	42	第65図	第1-3号掘立柱建物跡	82
第32図	第5-3号住居跡出土遺物(2)	43	第66図	第1-4号掘立柱建物跡(1)	83
第33図	第5-3号住居跡出土遺物(3)	44	第67図	第1-4号掘立柱建物跡(2)	84
			第68図	第1-5号掘立柱建物跡	85

第69図	第5地点掘立柱建物跡配置図	86	第106図	溝跡出土遺物(1)	140
第70図	第5-1号掘立柱建物跡(1)	87	第107図	溝跡出土遺物(2)	141
第71図	第5-1号掘立柱建物跡(2)	88	第108図	溝跡出土遺物(3)	142
第72図	第5-2号掘立柱建物跡(1)	89	第109図	溝跡出土遺物(4)	143
第73図	第5-2号掘立柱建物跡(2)	90	第110図	ピット(1)	146
第74図	第5-3号掘立柱建物跡	91	第111図	ピット(2)	147
第75図	第5-4号掘立柱建物跡	92	第112図	ピット(3)	148
第76図	第5-5号掘立柱建物跡	93	第113図	ピット(4)	149
第77図	第5-6号掘立柱建物跡	94	第114図	ピット(5)	150
第78図	第5-7号掘立柱建物跡	95	第115図	ピット出土遺物	151
第79図	第5-8号掘立柱建物跡	96	第116図	グリッド出土遺物(1)	158
第80図	第5-9号掘立柱建物跡	97	第117図	グリッド出土遺物(2)	159
第81図	第7地点掘立柱建物跡配置図	98	《第2・3地点》		
第82図	第7-1号掘立柱建物跡(1)	99	第118図	第2・3地点全体図区割図	162
第83図	第7-1号掘立柱建物跡(2)	100	第119図	第2・3地点全体図(1)	163
第84図	第7-2号掘立柱建物跡	101	第120図	第2・3地点全体図(2)	164
第85図	第7-3号掘立柱建物跡	102	第121図	第2・3地点全体図(3)	165
第86図	掘立柱建物跡出土遺物	103	第122図	第2・3地点全体図(4)	166
第87図	柵列	104	第123図	第2・3地点全体図(5)	167
第88図	土壌(1)	107	第124図	第2・3地点日石器調査区	169
第89図	土壌(2)	108	第125図	第3-1号石器集中(1)	171
第90図	土壌(3)	109	第126図	第3-1号石器集中(2)	172
第91図	土壌(4)	110	第127図	第3-1号石器集中(3)	173
第92図	土壌(5)	111	第128図	第3-1号石器集中出土遺物(1)	175
第93図	土壌(6)	112			
第94図	土壌(7)	113	第129図	第3-1号石器集中出土遺物(2)	176
第95図	井戸跡	117			
第96図	土壌出土遺物	118	第130図	第3-1号石器集中出土遺物(3)	177
第97図	土壌・井戸跡出土遺物	119			
第98図	溝跡(1)	132	第131図	第3-1号石器集中出土遺物(4)	178
第99図	溝跡(2)	133			
第100図	溝跡(3)	134	第132図	グリッド出土石器	179
第101図	溝跡(4)	135	第133図	第3-1号住居跡	180
第102図	溝跡(5)	136	第134図	第3-2号住居跡	181
第103図	溝跡(6)	137	第135図	第3-3号住居跡	183
第104図	溝跡(7)	138	第136図	第3-3号住居跡出土遺物	184
第105図	溝跡(8)	139	第137図	土壌	184

第138図	第2-18号土堀出土遺物	184	第175図	溝跡(6)	243
第139図	第3-8号土堀出土遺物	185	第176図	溝跡(7)	244
第140図	集石土壇	185	第177図	溝跡出土遺物(1)	246
第141図	炬穴	186	第178図	溝跡出土遺物(2)	247
第142図	炬穴出土遺物	187	第179図	溝跡出土遺物(3)	248
第143図	グリッド出土遺物(1)	189	第180図	溝跡出土遺物(4)	249
第144図	グリッド出土遺物(2)	190	第181図	ピット(1)	254
第145図	第2-1号掘立柱建物跡(1)	192	第182図	ピット(2)	255
第146図	第2-1号掘立柱建物跡(2)	193	第183図	ピット(3)	256
第147図	掘立柱建物跡出土遺物	193	第184図	ピット(4)	257
第148図	第2-2号掘立柱建物跡(1)	194	第185図	ピット(5)	258
第149図	第2-2号掘立柱建物跡(2)	195	第186図	グリッド出土遺物	259
第150図	柵列(1)	196	<第4・6地点>		
第151図	柵列(2)	197	第187図	第4・6地点全体図(1)	262
第152図	土壇(1)	205	第188図	第4・6地点全体図(2)	263
第153図	土壇(2)	206	第189図	第4・6地点旧石器調査区	264
第154図	土壇(3)	207	第190図	第4-1号石器集中(1)	265
第155図	土壇(4)	208	第191図	第4-1号石器集中(2)	266
第156図	土壇(5)	209	第192図	第4-1号石器集中出土遺物	267
第157図	土壇(6)	210	第193図	グリッド出土石器	268
第158図	土壇(7)	211	第194図	第4-12号住居跡	270
第159図	土壇(8)	213	第195図	第4-12号住居跡出土遺物	271
第160図	土壇(9)	214	第196図	第4-13号住居跡	272
第161図	土壇(10)	215	第197図	第4-13号住居跡出土遺物	273
第162図	土壇(11)	216	第198図	第4-14号住居跡	274
第163図	土壇(12)	217	第199図	第4-14号住居跡出土遺物	274
第164図	井戸跡	223	第200図	第4-15号住居跡	275
第165図	土堀出土遺物(1)	224	第201図	第4-15号住居跡出土遺物	275
第166図	土堀出土遺物(2)	225	第202図	第6-1号住居跡	276
第167図	土堀出土遺物(3)	226	第203図	第6-2号住居跡	277
第168図	土堀出土遺物(4)	227	第204図	第6-3号住居跡	278
第169図	土壇・井戸跡出土遺物	228	第205図	第6-8号掘立柱建物跡	279
第170図	溝跡(1)	238	第206図	土壇(1)	281
第171図	溝跡(2)	239	第207図	土壇(2)	282
第172図	溝跡(3)	240	第208図	土壇(3)	283
第173図	溝跡(4)	241	第209図	土壇(4)	286
第174図	溝跡(5)	242	第210図	土壇出土遺物(1)	287

第211図	土壙出土遺物(2)	288	第246図	第4-2号掘立柱建物跡(2)	327
第212図	土壙出土遺物(3)	289	第247図	第4-2号掘立柱建物跡(3)	328
第213図	集石土壙	291	第248図	第4-2号掘立柱建物跡(4)	329
第214図	グリッド出土遺物(1)	292	第249図	第4-3号掘立柱建物跡(1)	330
第215図	グリッド出土遺物(2)	293	第250図	第4-3号掘立柱建物跡(2)	331
第216図	グリッド出土遺物(3)	294	第251図	第4-4号掘立柱建物跡(1)	332
第217図	グリッド出土遺物(4)	295	第252図	第4-4号掘立柱建物跡(2)	333
第218図	グリッド出土遺物(5)	296	第253図	第4-5号掘立柱建物跡	334
第219図	グリッド出土遺物(6)	297	第254図	第4-7号掘立柱建物跡	335
第220図	グリッド出土遺物(7)	298	第255図	柵列	336
第221図	グリッド出土遺物(8)	299	第256図	第6地点掘立柱建物跡配置図	337
第222図	グリッド出土遺物(9)	302	第257図	第6-2号掘立柱建物跡	337
第223図	グリッド出土遺物(10)	303	第258図	第6-1号掘立柱建物跡	338
第224図	グリッド出土遺物(11)	304	第259図	第6-3号掘立柱建物跡	339
第225図	第4-1号住居跡	307	第260図	掘立柱建物跡出土遺物	340
第226図	第4-2号住居跡(1)	308	第261図	土壙(1)	347
第227図	第4-2号住居跡(2)	309	第262図	土壙(2)	348
第228図	第4-2号住居跡遺物分布図	310	第263図	土壙(3)	349
第229図	第4-2号住居跡出土遺物(1)	311	第264図	土壙(4)	350
			第265図	土壙(5)	351
第230図	第4-2号住居跡出土遺物(2)	312	第266図	土壙(6)	352
			第267図	土壙(7)	353
第231図	第4-3号住居跡	313	第268図	土壙(8)	354
第232図	第4-4号住居跡	314	第269図	井戸跡	355
第233図	第4-5号住居跡(1)	315	第270図	土壙・井戸跡出土遺物	356
第234図	第4-5号住居跡(2)	316	第271図	溝跡(1)	359
第235図	第4-5号住居跡出土遺物	316	第272図	溝跡(2)	360
第236図	第4-6号住居跡	317	第273図	溝跡(3)	361
第237図	第4-6号住居跡出土遺物	317	第274図	溝跡出土遺物(1)	365
第238図	第4-7・8号住居跡	318	第275図	溝跡出土遺物(2)	366
第239図	第4-9・10号住居跡	319	第276図	溝跡出土遺物(3)	367
第240図	第4-10号住居跡出土遺物	320	第277図	溝跡出土遺物(4)	368
第241図	第4-11号住居跡	321	第278図	ピット(1)	372
第242図	グリッド出土遺物	321	第279図	ピット(2)	373
第243図	第4地点掘立柱建物跡配置図	323	第280図	ピット(3)	374
第244図	第4-1号掘立柱建物跡	325	第281図	ピット(4)	375
第245図	第4-2号掘立柱建物跡(1)	326	第282図	ピット(5)	376

第283図	グリッド出土遺物	380
-------	----------	-----

〈第8地点〉

第284図	第8地点全体図	383
第285図	第8地点旧石器調査区	383
第286図	第8-1号石器集中	384
第287図	第8-1号石器集中・出土石器	385
第288図	第8-1号住居跡(1)	387
第289図	第8-1号住居跡(2)	388
第290図	第8-1号住居跡遺物出土状況	388
第291図	第8-1号住居跡出土遺物	390
第292図	土壌	391
第293図	土壌出土遺物	391
第294図	グリッド出土遺物	392
第295図	第8-1号掘立柱建物跡	393
第296図	土壌(1)	395
第297図	土壌(2)	397
第298図	井戸跡	398
第299図	土壌・井戸跡出土遺物	398
第300図	溝跡	401
第301図	溝跡・グリッド出土遺物	402
第302図	ピット	404

〈第9地点〉

第303図	第9地点全体図	405
第304図	第9地点旧石器調査区	405
第305図	グリッド出土石器	405
第306図	第9-1号住居跡出土遺物	406
第307図	第9-1号住居跡	406
第308図	第9-2号住居跡	407
第309図	第9-2号住居跡出土遺物	408
第310図	土壌	409
第311図	土壌出土遺物	410
第312図	グリッド出土遺物	412
第313図	土壌(1)	415
第314図	土壌(2)	416
第315図	土壌(3)	417
第316図	土壌(4)	418
第317図	溝跡	419

第318図	ピット	420
-------	-----	-----

〈第10地点〉

第319図	第10地点全体図	421
第320図	第10地点旧石器調査区	422
第321図	旧石器時代全体図	422
第322図	第10-1号石器集中(1)	424
第323図	第10-1号石器集中(2)	425
第324図	第10-1号石器集中出土遺物(1)	426
第325図	第10-1号石器集中出土遺物(2)	427
第326図	第10-1号石器集中出土遺物(3)	428
第327図	第10-1号石器集中出土遺物(4)	429
第328図	第10-1号石器集中出土遺物(5)	430
第329図	第10-1号石器集中出土遺物(6)	431
第330図	第10-2号石器集中(1)	432
第331図	第10-2号石器集中(2)	433
第332図	第10-2号石器集中出土遺物	434
第333図	第10-3号石器集中(1)	435
第334図	第10-3号石器集中(2)	436
第335図	第10-3号石器集中出土遺物	437
第336図	第10-4号石器集中	438
第337図	グリッド出土石器	439
第338図	第10-1号住居跡	442
第339図	第10-2号住居跡	443
第340図	第10-2号住居跡出土遺物	443
第341図	第10-3号住居跡	444
第342図	第10-3号住居跡出土遺物	445
第343図	第10-4号住居跡	445
第344図	土壌(1)	447
第345図	土壌(2)	448
第346図	土壌(3)	449
第347図	土壌出土遺物	449

第348図	炉穴	452	第361図	土壌	464
第349図	グリッド出土遺物(1)	453	第362図	グリッド出土遺物	465
第350図	グリッド出土遺物(2)	454	第363図	大木戸遺跡出土旧石器	469
第351図	土壌(1)	455	第364図	土層断面図	472
第352図	土壌(2)	456	第365図	土層断面と石器出土ヒストグラム	472
第353図	土壌・グリッド出土遺物	456	第366図	大木戸遺跡遺構出土石器	475
第354図	ピット	457	第367図	周辺の遺跡遺構出土石器(1)	476
〈第11地点〉			第368図	周辺の遺跡遺構出土石器(2)	477
第355図	第11地点全体図	458	第369図	大木戸遺跡縄文時代遺構分布図(1)	482
第356図	土壌(1)	459			
第357図	土壌(2)	460	第370図	大木戸遺跡縄文時代遺構分布図(2)	483
第358図	土壌出土遺物(1)	462			
第359図	土壌出土遺物(2)	463	第371図	大木戸遺跡出土弥生石器	486
第360図	グリッド出土遺物	463	第372図	大木戸遺跡近世遺構分布図	489

表 目 次

第1表	発掘調査・整理報告書作成工程表	4	〈第4・6地点〉	
第2表	周辺の遺跡一覧	13	第18表	第4-1号石器集中・出土石器観察表
〈第1・5・7地点〉				269
第3表	グリッド出土石器観察表	29	第19表	出土石器観察表
第4表	出土石器観察表	76		305
第5表	掘立柱建物跡出土遺物観察表	103	第20表	第4-2号住居跡出土遺物観察表
第6表	土壌・井戸跡出土遺物観察表	117		313
第7表	溝跡出土遺物観察表	143	第21表	第4-5号住居跡出土遺物観察表
第8表	ピット出土遺物観察表	151		316
第9表	ピット計測表	152	第22表	第4-6号住居跡出土遺物観察表
第10表	グリッド出土遺物観察表	159		317
〈第2・3地点〉			第23表	第4-10号住居跡出土遺物観察表
第11表	第3-1号石器集中・出土石器観察表	179		320
			第24表	グリッド出土遺物観察表
第12表	出土石器観察表	190		321
第13表	掘立柱建物跡出土遺物観察表	193	第25表	掘立柱建物跡出土遺物観察表
第14表	土壌・井戸跡出土遺物観察表	229		341
第15表	溝跡出土遺物観察表	249	第26表	土壌・井戸跡出土遺物観察表
第16表	ピット計測表	251		356
第17表	グリッド出土遺物観察表	259	第27表	溝跡出土遺物観察表
				369
			第28表	ピット計測表
				371
			第29表	グリッド出土遺物観察表
				381
〈第8地点〉			〈第8地点〉	
			第30表	第8-1号石器集中・出土石器観察表

.....	385
第31表 出土石器観察表	392
第32表 土壌・井戸跡出土遺物観察表	398
第33表 溝跡・グリッド出土遺物観察表	403
第34表 ビット計測表	403
〈第9地点〉	
第35表 出土石器観察表	411
第36表 ビット計測表	420

〈第10地点〉

第37表 第10-1～4号石器集中・グリッド出土 石器観察表	440
第38表 出土石器観察表	454
第39表 土壌・グリッド出土遺物観察表	456
第40表 ビット計測表	457

〈第11地点〉

第41表 グリッド出土遺物観察表	465
第42表 遺構番号新旧対照表	466

図版目次

巻頭図版1 遺跡全景	第5-3号住居跡遺物出土状況(1)
巻頭図版2 第5・7地点 調査区全景	第5-3号住居跡遺物出土状況(2)
第2・3・4地点 調査区全景	図版7 第5-5号住居跡
巻頭図版3 第10地点 調査区全景	第5-6号住居跡
第4-2号住居跡出土土器	第1-45号土壌
巻頭図版4 第5-3号住居跡出土土器	図版8 第1-34号土壌
第8-1号住居跡出土土器	第1-48・49・54・55号土壌
第11-6号土壌出土土器	第1-50・51・52号土壌
第4-2号住居跡出土土器	図版9 第5-44号土壌
図版1 第1-1号住居跡	第1-20号集石土壌
第1-2号住居跡	第1-4号土壌
第1-2号住居跡 跡	図版10 第5-1号集石土壌検出状況
図版2 第5-1号住居跡検出状況	第5-1号集石土壌
第5-1号住居跡	第5-2号集石土壌
第5-1号住居跡 埋裏検出状況	図版11 第5-3号集石土壌検出状況
図版3 第5-1号住居跡 埋裏(1)	第5-3号集石土壌
第5-1号住居跡 埋裏(2)	第5-4号集石土壌
第5-1号住居跡 埋裏(3)	図版12 第5-5号集石土壌
図版4 第5-2号住居跡	第7-1号炉穴
第5-3号住居跡(1)	第1-1号炉穴
第5-3号住居跡(2)	図版13 第1-2号炉穴
図版5 第5-3号住居跡 敷石検出状況	第1-1号掘立柱建物跡
第5-3号住居跡 埋裏(1)	第1-2号掘立柱建物跡
第5-3号住居跡 埋裏(2)	図版14 第1-3号掘立柱建物跡
図版6 第5-3号住居跡 埋裏(3)	第1-4号掘立柱建物跡

	第1-5号掘立柱建物跡		第1-28号土壌出土遺物
図版15	第5-7～9号掘立柱建物跡群		第7-1号溝跡出土遺物
	第5-1～5号掘立柱建物跡群		第7-1号溝跡出土遺物
	第5-5号掘立柱建物跡		第5-1号溝跡出土遺物
図版16	第7-1号掘立柱建物跡	図版24	第5-1号溝跡出土遺物
	第7-2号掘立柱建物跡		第5-1号溝跡出土遺物
	第7-3号掘立柱建物跡		第5-1号溝跡出土遺物
図版17	第7-3号掘立柱建物跡 炉跡		第5-1号溝跡出土遺物
	第1-35号土壌		第7-3号溝跡出土遺物
	第1-28号土壌		第7-10号溝跡出土遺物
図版18	第1-28号土壌遺物出土状況		第7-10号溝跡出土遺物
	第1-1号井戸跡		第7-17号溝跡出土遺物
	第1-1～9号溝跡	図版25	第7-17号溝跡出土遺物
図版19	第1-10～12号溝跡		第7-17号溝跡出土遺物
	第1-13号溝跡		ピット出土遺物
	第7-8～15号溝跡		グリッド出土遺物
図版20	第7-2・3・11号溝跡		グリッド出土遺物
	第1地点 L8・C9ピット1遺物出土 状況		グリッド出土遺物
	第7地点 L8・A8ピット1遺物出土 状況	図版26	第1地点 旧石器
図版21	第5-1号住居跡出土遺物		第1-1号住居跡出土遺物
	第5-3号住居跡出土遺物		第5-1・2・6号住居跡出土遺物
	第5-3号住居跡出土遺物	図版27	第5-3号住居跡出土遺物
	第5-44号土壌出土遺物		第5-3号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物	図版28	土壌出土遺物
	グリッド出土遺物		土壌出土遺物
図版22	グリッド出土遺物		第5-44号土壌出土遺物
	L8・A1ピット1出土遺物	図版29	グリッド出土遺物
	L8・C9ピット1出土遺物		グリッド出土遺物
	グリッド出土遺物		グリッド出土遺物
	グリッド出土遺物	図版30	グリッド出土遺物
	グリッド出土遺物		グリッド出土遺物
図版23	グリッド出土遺物		グリッド出土遺物
	グリッド出土遺物	図版31	グリッド出土遺物
	グリッド出土遺物		掘立柱建物跡・土壌出土遺物
	第1-23号土壌出土遺物		土壌・井戸跡出土遺物

図版32	溝跡出土遺物 溝跡出土遺物 溝跡出土遺物	第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物
図版33	溝跡・ピット出土遺物 グリッド出土遺物 グリッド出土遺物	第2-71号土壠出土遺物 第2-87号土壠出土遺物 第2-90号土壠出土遺物
図版34	第3-1号石器集中遺物出土状況 第3地点 土層断面 第3地点 調査区北西側	図版43 第2-90号土壠出土遺物 第2-4号溝跡出土遺物 第2-4号溝跡出土遺物
図版35	第3-1号住居跡 第3-2号住居跡 第3-3号住居跡	第2-4号溝跡出土遺物 第2-5号溝跡出土遺物 第2-5号溝跡出土遺物
図版36	第3-3号住居跡遺物出土状況 第2-18号土壠 第2-79号集石土壠(1)	第2-15号跡溝出土遺物 グリッド出土遺物
図版37	第2-79号集石土壠(2) 第3-1号集石土壠(1) 第3-1号集石土壠(2)	図版44 第3-1号石器集中出土石器 第3-1号石器集中出土石器 第3-1号石器集中出土石器
図版38	第3-1号炉穴 第3-1号炉穴遺物出土状況(1) 第3-1号炉穴遺物出土状況(2)	図版45 第3-1号石器集中出土石器 第3-1号石器集中出土石器 第3-3号住居跡出土遺物
図版39	第2-1・2号掘立柱建物跡・柵列 第2-1・2号掘立柱建物跡 第2-4号溝跡	図版46 第2-18・3-8号土壠出土遺物 グリッド出土遺物 グリッド出土遺物
図版40	第2-2号溝跡 第2地点 調査区南側土壠群 第3-1号炉穴出土遺物	図版47 掘立柱建物跡・土壠出土遺物 土壠出土遺物 土壠出土遺物
図版41	第2-1号掘立柱建物跡出土遺物 第2-24号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物	図版48 土壠出土遺物 土壠出土遺物 土壠出土遺物 土壠出土遺物 土壠出土遺物 土壠出土遺物 土壠出土遺物
図版42	第2-71号土壠出土遺物 第2-71号土壠出土遺物	図版49 土壠・グリッド出土遺物 土壠出土遺物 井戸跡出土遺物 図版50 溝跡出土遺物 溝跡出土遺物 溝跡出土遺物 図版51 溝跡出土遺物 溝跡出土遺物

	グリッド出土遺物		第4-4号住居跡
図版52	第4-1号石器集中	図版64	第4-5号住居跡
	第6-1号住居跡		第4-6号住居跡
	第6-1号住居跡 炉跡		第4-7号住居跡
図版53	第6-2号住居跡 炉跡	図版65	第4-9号住居跡
	第6-3号住居跡 炉跡		第4-10号住居跡
	第4-11号住居跡 炉跡断面		第4地点 掘立柱建物跡群全景
図版54	第4-12号住居跡	図版66	第4-1号掘立柱建物跡
	第4-13号住居跡		第4-2～7号掘立柱建物跡群(1)
	第4-14号住居跡		第4-2～7号掘立柱建物跡群(2)
図版55	第4-15号住居跡	図版67	第6-1・2号掘立柱建物跡
	第4-3号土壌		第4-1号溝跡
	第4-3号土壌遺物出土状況		第6-3～6号溝跡
図版56	第4-5号土壌	図版68	第4-3号土壌出土遺物
	第4-10号土壌遺物出土状況		第4-10号土壌出土遺物
	第4-31号土壌		第4-31号土壌出土遺物
図版57	第4-31号土壌遺物出土状況(1)		グリッド出土遺物
	第4-31号土壌遺物出土状況(2)		第4-37号土壌出土遺物
	第4-37号土壌遺物出土状況(1)		第4-37号土壌出土遺物
図版58	第4-37号土壌遺物出土状況(2)	図版69	第4-19号土壌出土遺物
	第4-38号土壌		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-15号集石土壌		第4-2号住居跡出土遺物
図版59	第4-1号住居跡(1)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-1号住居跡(2)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-2号住居跡		第4-2号住居跡出土遺物
図版60	第4-2号住居跡遺物出土状況(1)	図版70	第4-2号住居跡出土遺物
	第4-2号住居跡遺物出土状況(2)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-2号住居跡遺物出土状況(3)(貯蔵穴)		第4-2号住居跡出土遺物
図版61	第4-2号住居跡遺物出土状況(4)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-2号住居跡遺物出土状況(5)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-2号住居遺物出土状況(6)	図版71	第4-2号住居跡出土遺物
図版62	第4-2号住居跡遺物出土状況(7)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-2号住居跡遺物出土状況(8)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-2号住居跡遺物出土状況(9)		第4-2号住居跡出土遺物
図版63	第4-2号住居跡遺物出土状況(10)		第4-2号住居跡出土遺物
	第4-3号住居跡		第4-2号住居跡出土遺物

図版72	第4-2号住居跡出土遺物	グリッド出土遺物
	第4-2号住居跡出土遺物	図版81 グリッド出土遺物
	第4-5号住居跡出土遺物	グリッド出土遺物
	第4-5号住居跡出土遺物	グリッド出土遺物
	第4-5号住居跡出土遺物	図版82 グリッド出土遺物
	第4-5号住居跡出土遺物	グリッド出土遺物
図版73	第4-5号住居跡出土遺物	グリッド出土遺物
	第4-6号住居跡出土遺物	図版83 掘立柱建物跡・土壇・井戸跡出土遺物
	第4-1号掘立柱建物跡出土遺物	土壇・井戸跡出土遺物
	第4-3号掘立柱建物跡出土遺物	溝跡出土遺物
	第4-3号掘立柱建物跡出土遺物	図版84 溝跡出土遺物
	第4-3号掘立柱建物跡出土遺物	溝跡出土遺物
図版74	第4-12号土壇出土遺物	溝跡出土遺物
	第4-1号溝跡出土遺物	図版85 溝跡出土遺物
	第6-3～6号溝跡出土遺物	グリッド出土遺物
	第4-4号溝跡出土遺物	グリッド出土遺物
	第6-4～6号溝跡出土遺物	図版86 第8地点 調査区全景
	第4-5号溝跡出土遺物	第8地点 調査区全景
	第4-5号溝跡出土遺物	第8-1号石器集中
	第4-5号溝跡出土遺物	図版87 第8地点 旧石器出土状況
図版75	第4-1号石器集中出土石器	第8-1号住居跡
	グリッド出土石器	第8-1号住居跡遺物出土状況(1)
	第4-12号住居跡出土遺物	図版88 第8-1号住居跡遺物出土状況(2)
図版76	第4-13・14・15号住居跡出土遺物	第8-11号土壇遺物出土状況(1)
	土壇出土遺物	第8-11号土壇遺物出土状況(2)
	土壇出土遺物	図版89 第8-1号掘立柱建物跡
図版77	土壇・集石土壇出土遺物	第8-1号土壇
	グリッド出土遺物	第8-12・13号土壇
	グリッド出土遺物	図版90 第8-1号井戸跡
図版78	グリッド出土遺物	第8-1号井戸跡断面
	グリッド出土遺物	第8-1号井戸跡遺物出土状況
	グリッド出土遺物	図版91 第8-1号住居跡出土遺物
図版79	グリッド出土遺物	第8-1号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物	第8-1号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物	第8-1号住居跡出土遺物
図版80	グリッド出土遺物	第8-1号井戸跡出土遺物
	グリッド出土遺物	第8-2号溝跡出土遺物

図版92	第8-2号溝跡出土遺物	第10-1号埋壘半截状況(1)
	第8-2号溝跡出土遺物	第10-1号埋壘半截状況(2)
	第8-6号溝跡出土遺物	図版102 第10-1号炉穴断面
	第8-1号石器集中出土石器	第10-4号炉穴断面
	第8-1号住居跡出土遺物	第10-4号炉穴
図版93	グリッド出土遺物	図版103 グリッド出土遺物
	溝跡・グリッド出土遺物	第10-3号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物	第10-1号石器集中出土石器
図版94	第9-1号住居跡 炉跡(1)	第10-1号石器集中出土石器
	第9-1号住居跡 炉跡(2)	図版104 第10-1号石器集中出土石器
	第9-2号住居跡 埋壘(1)	第10-1号石器集中出土石器
図版95	第9-2号住居跡 埋壘(2)	第10-2号石器集中出土石器
	第9-2号住居跡 炉跡検出状況	図版105 第10-3号石器集中出土石器
	第9-29~31・33~35・39・40号土壌	グリッド出土石器
図版96	第9-2号住居跡出土遺物	第10-2号住居跡・土壌出土遺物
	グリッド出土石器	図版106 グリッド出土遺物
	土壌出土遺物	グリッド出土遺物
	グリッド出土遺物	図版107 第11地点 土壌群完掘状況
図版97	第10地点 調査区全景	第11-1号土壌遺物出土状況
	第10-1号石器集中(1)	第11-6号土壌遺物出土状況
	第10-1号石器集中(2)	図版108 第11-6号土壌出土遺物
図版98	第10-2号石器集中	第11-15号土壌出土遺物
	第10-3号石器集中	第11-6号土壌出土遺物
	第10-1号住居跡	第11-15号土壌出土遺物
図版99	第10-1号住居跡 炉跡断面	第11-6号土壌出土遺物
	第10-2号住居跡	グリッド出土遺物
	第10-2号住居跡 炉跡断面	図版109 土壌出土遺物
図版100	第10-3号住居跡	第10・11地点 出土遺物
	第10-3号住居跡・土壌群	図版110 第5-3号住居跡出土遺物展開写真
	第10-4号住居跡	第8-1号住居跡出土遺物展開写真
図版101	第10-1号埋壘検出状況	第11-6号土壌出土遺物展開写真

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

独立行政法人都市再生機構によって、さいたま市北西部で、大宮西部特定土地区画整理事業が施行されている。対象面積は約115haで、新駅を中心としたさいたま市西区における地域拠点の形成を図っている。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、このような施策の推進に伴う文化財の保護について、従前より関係機関との事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

本事業の計画段階における埋蔵文化財の所在および取扱いについては、昭和63年8月17日付けし21-21号で、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部開発本部長（当時）より埼玉県教育委員会教育長あて照会があった。

文化財保護課（当時）では平成元年1月14日付け教文第1106号で、計画内には埋蔵文化財包蔵地が15箇所所在することから、取扱いについて別途協議が必要な旨、回答した。

本事業の市街化区域等の都市計画決定後、事業区域内における埋蔵文化財の取扱いについて、平成10年7月9日付けさ25-4号で、住宅・都市整備公団埼玉地域支社長（当時）より教育長あて照会があった。以後、事業の進捗に合わせ、取扱いを決定するための確認調査を生生涯学習文化財課が実施してきた。

大木戸遺跡の取扱いについては平成10年度から平成17年度の8年間に14件の回答を行い、そのうち、工事計画上やむを得ず現状を変更する場合に、記録保存のための発掘調査が必要な旨の回答を行ったものは下記の9件である。

平成11年11月17日付け 教文第795号
平成11年12月27日付け 教文第929号
平成13年2月9日付け 教文第1078号

平成13年2月27日付け 教文第1134号
平成13年12月6日付け 教文第1216号
平成15年9月10日付け 教文第2797号
平成16年8月5日付け 教文第1882号
平成17年7月28日付け 教生文第1089号
平成17年10月13日付け 教生文第1587号
本事業に係る発掘調査に先立つ平成12年9月1日付けで「大宮西部地区埋蔵文化財に関する協定書」が、都市基盤整備公団（当時）、埼玉県教育委員会、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の三者により締結され、発掘調査については、事業団が実施機関としてあたることとなった。発掘調査の実施にあたっては、関係機関で調査方法、調査期間等の協議が行われ、その結果、平成12、13、16、17年度に発掘調査が実施された。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知は、平成12年9月1日付けさ24-11号、平成13年3月26日付けさ24-27号で都市基盤整備公団埼玉地域支社地域支社長から県教育長あてに提出され、それに対する保護上必要な勧告は平成12年9月26日付け教文第3-426号等で行った。また、第92条の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査の届出に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知番号は次のとおりである。

平成12年9月26日付け 教文第2-62号
平成13年8月10日付け 教文第2-52号
平成16年11月1日付け 教文第2-54号
平成17年9月30日付け 教生文第2-62号
平成17年11月4日付け 教生文第2-79号
(埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

大木戸遺跡の発掘調査は、大宮西部特定土地区画整理事業に先立ち、平成12・13・16・17年度にわたって実施した。

大木戸遺跡の調査は、大宮市遺跡調査会(当時)によって、昭和61・62年度と平成5年度に一般国道16号バイパスの建設に関連して実施され、平成6年度に報告書が刊行された。その際、遺跡名は一般国道16号バイパス関連として東から西にNo1～6が付された。本遺跡は西大宮バイパスNo6遺跡にあたる。今回、大宮西部特定土地区画整理事業に関連して、同遺跡を大木戸遺跡とし、さいたま市発掘調査部分を第1次調査とした。

遺跡の所在するさいたま市西区指扇は、大宮台地の西縁に位置し、滝沼川によって複雑に開析された樹枝状台地上に多くの遺跡が分布している。大木戸遺跡は其中でも、面積的に最も大規模な遺跡である。

事業地内には、滝沼川の両岸に現在13箇所の遺跡が確認されている(第6図)。南西から時計回りにC-380号遺跡、福田跡跡、C-378号遺跡、高木道下遺跡、高木道下北遺跡、高木水川遺跡、高木小町遺跡、清河寺西原遺跡、清河寺丸山遺跡、C-98号遺跡、清河寺前原遺跡、西大宮バイパスNo.5遺跡、大木戸遺跡である。その中で、大木戸遺跡以外で発掘調査が実施されたのは、清河寺前原遺跡、高木道下遺跡、高木道下北遺跡と西大宮バイパスNo.5遺跡の4遺跡である。

以下、年次ごとに発掘調査の経過についてみてゆくことにする。

平成12年度

第2次調査は、平成12年9月1日から平成13年3月23日まで実施した。調査区は第1・2・3・4地点の4箇所である。第1地点は遺跡範囲の北東部に位置し、一般国道16号バイパスの北側に接している。第2地点は遺跡範囲の中央からやや西

寄りである。現道を挟んで2つの調査区に分かれる。第3地点は第2地点の西側に位置し、一般国道16号バイパスの南側に接している。遺跡範囲の西側に位置し、台地西縁部付近である。第4地点は、一般国道16号バイパスを挟んで第2地点の北側に対峙している。

9月までに事務手続きを終了。現場事務所を設置し、器材の搬入を行った。

第1地点は、9月上旬に囲柵工事、休憩棟、器材棟の設置、重機による表土掘削作業に着手した。10月上旬に基準点測量、作業員による遺構確認及び精査に着手し、12月下旬までに遺構の調査がほぼ終了し、1月より旧石器時代の調査を開始し、3月に遺構・遺物の記録作業を完了した。

第2地点は、12月上旬に囲柵工事、重機による表土掘削作業に着手し、中旬に基準点測量、作業員による遺構確認、精査に着手した。1月より旧石器時代の調査を開始し、3月に遺構・遺物の記録作業を完了した。

第3地点は、12月中旬に囲柵工事、重機による表土掘削作業に着手し、基準点測量を行い、1月上旬から遺構確認及び精査を開始した。2月下旬から旧石器時代の調査に着手し、3月中旬に旧石器時代の石器集中検出されたグリッドを拡張した。3月下旬に遺構・遺物の記録作業を完了した。

第4地点は、1月上旬に囲柵工事、重機による表土掘削作業に着手し、1月下旬に基準点測量、2月上旬に遺構確認及び精査を開始した。3月上旬から旧石器時代の調査に着手し、3月下旬に遺構・遺物の記録作業を完了した。

3月下旬に空中写真撮影を行い、発掘調査を終了し、器材の撤収、現場事務所の撤去を行った。

平成13年度

第3次調査は、平成13年8月1日から平成14年3月22日まで実施した。大木戸遺跡と合わせて清河寺前原遺跡の発掘調査を実施した。調査区は第

5・6・7地点の3箇所である。

第5地点は、遺跡範囲の北東部に位置し、第1地点の西側に隣接している。

第6地点は、遺跡範囲の北西部に位置し、第4地点の東側に隣接している。

第7地点は、遺跡範囲の北東部に位置し、第1・5地点の北側に隣接している。第1・5・7地点は現在、西区役所となっている。

7月に事務手続きを完了し、8月に現場事務所の設置を行い、器材を搬入した。

8月に清河寺前原遺跡第1地点の調査を終了し、9月から第5地点の囲柵工事、重機による表土掘削作業を開始した。続けて基準点測量を行い、作業員による遺構確認作業を行った後、遺構の精査及び測量・写真撮影などの記録作業を行った。

第6地点は、11月初旬に囲柵工事、重機による表土掘削作業をおこなった。その後、基準点測量・作業員による遺構確認作業に引き続き、遺構の精査及び測量・写真撮影などの記録作業を行った。

第7地点は、12月初旬に囲柵工事、重機による表土掘削作業を行った。基準点測量・作業員による遺構確認作業に引き続き、遺構の精査及び測量・写真撮影などの記録作業を行った。

1月下旬に、空中写真撮影を実施した。

2月からは、清河寺前原遺跡第2地点の調査に着手し、3月下旬、発掘器材の搬出、現場事務所の撤去を行った。

平成16年度

第4次調査は、平成16年10月18日から平成17年2月10日まで実施した。調査区は第8・9地点の2箇所である。

第8地点は、遺跡範囲の南東部に位置する。

第9地点は、遺跡範囲の東部に位置し、台地の東縁に近く、一般国道16号バイパスの南側に隣接している。

10月下旬に事務手続きを完了し、現場事務所の設置、器材搬入を行った。

11月初旬、第8地点の重機による表土掘削作業を開始した。作業員による遺構確認作業を行い、基準点測量の後、遺構精査及び測量・写真撮影など記録作業を行う。12月中旬にほぼ作業を完了した。

11月下旬、第9地点の重機による表土掘削作業に着手し、12月初旬に基準点測量を行い、第8地点の調査が終了した時点で、第9地点の遺構確認及び遺構精査を行った。その後、測量・写真撮影等の記録作業を行い1月下旬に、器材の搬出、現場事務所の撤去を行った。

平成17年度

第5次調査は平成17年9月26日から平成17年11月30日まで実施した。調査区は第10・11地点の2箇所である。

第10地点は、遺跡範囲の東部、第9地点の南側に位置する。

第11地点は、調査範囲の中央よりやや東側に位置する。第5地点と第8地点の間になるが、他の調査地点から離れている。

9月下旬に事務手続きを行い、現場事務所の設置、機材の搬入を行う。合わせて、第10地点の重機による表土掘削作業を実施した。

10月上旬、基準点測量を行い、作業員による遺構確認・遺構精査作業を行う。11月下旬に遺構精査及び実測・写真撮影等記録作業を終了した。

第11地点は、11月初旬に重機による表土掘削作業を開始し、基準点測量を行った後、作業員による遺構確認・遺構精査を行った。11月中旬に実測・写真撮影等の記録保存作業を終了した。

11月下旬に空中写真撮影を行い、発掘作業を終了する。その後、器材の搬出、現場事務所を撤去した。

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書作成作業は、平成19年4月9日から平成20年9月30日までの、1年6ヶ月間実施した。

平成19年度

4月上旬から、出土遺物の水洗い、注記を行い、続けて遺物を調査地点・遺構別に整理し、土器や石器に分類した。整理が完了したもとのから、遺構ごとに接合・復元を行った。

復元できたものから、実測図や拓本を作成した。土器類の実測では、機械実測による素図をもとに完成図を作成し、墨入（トレース）を行い、遺物挿図の版下を作成した。

遺構図版は、第二原図を作成し、スキャナーで画像データとして取り入れ、それを下図にデジタルトレースを行った。併行して遺構の規模等のデータを計測し一覧表にまとめ、原稿執筆の為の基礎データとした。

実測が終了した遺物は、大きさや胎土等のデータを記録した。

平成20年度

4月上旬から、平成20年度分の出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業に着手した。併行して

遺物実測を行った。土器類の実測では、機械実測による素図をもとに完成図を作成した。5月から遺物実測図のトレース作業を開始し、6月中にはほぼ完了した。

遺構第二原図は、スキャナーで画像データとして取り入れ、それを下図にデジタルトレースを行い、5月中にはほぼ完了し、遺構図版の作成を行った。

6月下旬から7月に遺物写真撮影を行い、併せて現場で撮影した写真から報告書に使用するものを選択し、フィルムスキャナーで取り込み、パソコンで色調整を行った。7月中旬から電子トレースされた遺構図版の見直し・修正に着手した。さらに、遺構・遺物のデータを基に順次、原稿執筆を開始した。

下旬に写真図版の編集に着手した。8月から原稿執筆と併行して割付・編集作業を開始した。

9月下旬に日副社に入稿し、3回の校正を経て、平成20年12月26日に報告書を刊行した。

9月に遺物や図版・写真等の記録類を整理分類し、報告書との対照を可能にした上で収納作業を行った。

第1表 発掘調査・整理報告書作成工程表

発掘調査	面積	平成12年度	平成13年度	平成16年度	平成17年度	平成19年度	平成20年度
第2次調査 (第1～4地点)	19,300㎡	■	(清河寺前原遺跡調査を含む)				
第3次調査 (第5～7地点)	9,390㎡		■	(清河寺前原遺跡調査を含む)			
第4次調査 (第8・9地点)	1,900㎡			■			
第5次調査 (第10・11地点)	1,134㎡				■		
整理報告書作成作業						■	■

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成12年度 (発掘調査)

理事長	中野 健一	調査部	
常務理事兼管理部長	広木 卓	調査部長	高橋 一夫
管理部		副部長	石岡 憲雄
副部長	関野 栄一	専門調査員	
主席	阿部 正浩	(調査第二担当)	大和 修
主席	野中 廣幸	主席調査員	
主席	江田 和美	(調査第三担当)	小野 美代子
		統括調査員	橋本 勉
		統括調査員	齋持 和夫
		統括調査員	富田 和夫
		統括調査員	宮井 英一
		統括調査員	木戸 春夫
		統括調査員	鈴木 孝之
		統括調査員	西井 幸雄
		統括調査員	岩瀬 譲
		主任調査員	新屋 雅明
		主任調査員	君島 勝秀
		主任調査員	上野 真由美
		主任調査員	福田 聖
		主任調査員	栗岡 潤
		主任調査員	渡辺 清志

平成13年度 (発掘調査)

理事長	中野 健一	調査部	
常務理事兼管理部長	大館 健	調査部長	高橋 一夫
管理部		副部長	坂野 和信
管理幹	持田 紀男	専門調査員	
		(調査第一担当)	村田 健二
		統括調査員	西井 幸雄
		主任調査員	福田 聖
		主任調査員	渡辺 清志

平成16年度（発掘調査）

理事長	福田 陽 充	調査部	
常務理事兼管理部長	中 村 英 樹	調査部長	宮 崎 朝 雄
管理部		副 部 長	坂 野 和 信
副 部 長	村 田 健 二	主席調査員	
主 席	田 中 由 夫	（調査第二担当）	劍 持 和 夫
		統括調査員	西 井 幸 雄
		統括調査員	吉 田 稔

平成17年度（発掘調査）

理事長	福田 陽 充	調査部	
常務理事兼管理部長	保 永 清 光	調査部長	今 泉 泰 之
管理部		副 部 長	坂 野 和 信
副 部 長	村 田 健 二	主席調査員	
主 席	高 橋 義 和	（調査第一担当）	昼 間 孝 志
		統括調査員	新 屋 雅 明
		調 査 員	松 本 美 佐 子

平成19年度（報告書作成）

理事長	刈 部 博	調査部	
常務理事兼総務部長	岸 本 洋 一	調査部長	村 田 健 二
総務部		副 部 長	磯 崎 一
副 部 長	昼 間 孝 志	整理第二課長	富 田 和 夫
総務課長	松 盛 孝	主 査	鈴 木 孝 之

平成20年度（報告書作成）

理事長	刈 部 博	調査部	
常務理事兼総務部長	萩 元 信 隆	調査部長	村 田 健 二
総務部		副 部 長	磯 崎 一
副 部 長	昼 間 孝 志	整理第二課長	富 田 和 夫
総務課長	松 盛 孝	主 査	西 井 幸 雄

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

大木戸遺跡は、大宮西部特定土地区画整理事業地内に位置し、JR川越線指扇駅の北東約1.5kmに所在する。遺跡は大宮台地の西縁に当たり、北緯35度55分、東経139度34分である。

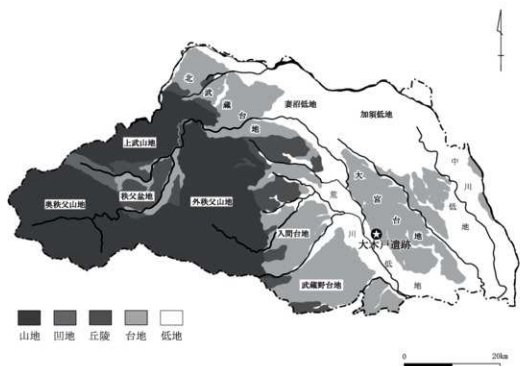
埼玉県の地形は、大きく西側の山地部と東側の平野部からなっている(第1図)。大宮台地は埼玉平野の中央部に位置し、荒川と中川の大河川に挟まれている。南北約25km、東西約18kmで、四方を低地に囲まれた島状の台地である。台地は元荒川西側の比較的大きな狭義の大宮台地と、東側の河川によって島嶼状に分断されている蓮田台地、岩槻台地、白岡台地、慈恵寺台地と狭義の大宮台地から南東方向に延びる安行台地からなっている。

大宮台地の特徴は、関東造盆地運動による加須低地の沈降に伴い、標高は北本市周辺が最も高く、東及び北に向かって低くなっている。その為、台

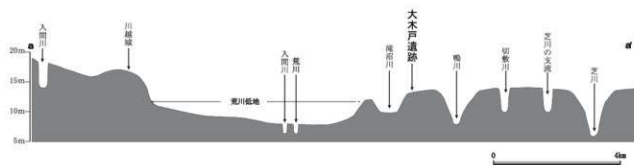
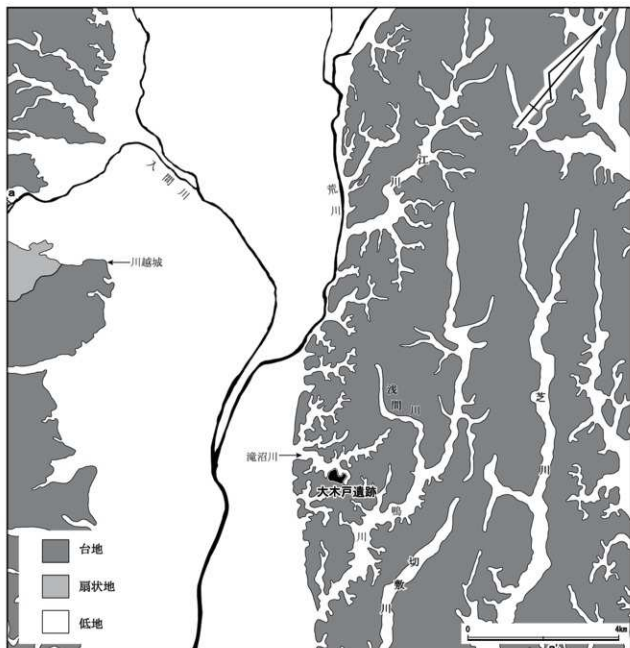
地の東西断面をみると、荒川低地に面する西側縁辺は、低地との標高差があり、明確な崖線が見られるのに対し、東部は低地との標高差が殆ど無く、崖線は不明確になる。また、北東の加須低地では、台地の多くが埋没しており、沖積面と台地との境は不明瞭である。

大木戸遺跡は、大宮台地西縁の鴨川と江川の間中に位置し、滝沼川によって樹枝状に開折された台地上に立地している。滝沼川は清河寺と高木の境、標高14m付近を水源とし、平方領々家までの約2.5kmを流路とし、平方領々家で荒川低地に入る。現在の荒川本流までは約3.2kmである(第2図)。遺跡の南西約3.3kmの地点で荒川と入間川が合流している。対岸は川越台地の東端に位置し川越城跡がある。

大木戸遺跡は滝沼川の左岸に位置し、滝沼川に



第1図 埼玉県の地形



第2図 遺跡周辺の地形

注ぐ谷によって東側は西大宮バイパスNo.5遺跡、北東側は清河寺前原3遺跡、北側はC-98号遺跡と対峙している。遺跡の範囲は南北約480m、東西約

580mと広範囲である。標高は14～16mを測り、東が高く西が低くなっている。

2. 歴史的環境

大木戸遺跡は、一般国道16号バイパスの建設に伴い大宮市遺跡調査会（現さいたま市）が1986・1987・1993年に西大宮バイパスNo.6遺跡として発掘調査を実施し、1995年に報告書が刊行されており、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかになっている。

【旧石器時代】

大宮台地の旧石器時代遺跡は約250を数えるが、その殆どは後期旧石器時代後半の遺跡で、A-T降灰以前の前半期の遺跡は極端に少ない。大宮台地最古段階は、さいたま市の明花向遺跡A区第IX層（武蔵野台地標準層位で第X層に対応）の石器群で、第2暗色帯下位から出土している。剥片類と石核の接合資料が主体で、定型的な石器はない。

明花向遺跡A区以外に第2暗色帯下位の石器群は無く、他は第2暗色帯中の石器群である。さいたま市西大宮バイパスNo.6（大木戸）遺跡（1）第3文化層は、ガラス質黒色安山岩の剥片類と石核の接合資料で、明花向遺跡の石器群と近似している。東側に谷を挟んで対峙する西大宮バイパスNo.5遺跡（2）第III文化層では、ガラス質黒色安山岩を主体とする石器群に台形様石器が組成している。同じく北東側に谷を挟んで隣接する清河寺前原遺跡（7）は、黒耀石を主体的に用いた石器群が検出され、台形様石器等の製品を多数含んでいる。大宮台地では後期旧石器時代前半期の遺跡が少ないなか、当該地域から多くの遺跡が見つかるのは注目される。

後期旧石器時代後半期になると、遺跡数は急激に増加する。岩宿II期（武蔵野台地第V～IV層下部段階）の遺跡は、上尾市殿山遺跡（44）で黒耀

石製のナイフ形石器と共に、玉髓製の国府型ナイフ形石器が複数出土し、県指定文化財となっている。また、天沼遺跡（28）から国府型ナイフ形石器に類似するナイフ形石器が出土している。西大宮バイパスNo.4～6遺跡（4・2・1）でもこの時期の資料が最も充実している。

砂川期（武蔵野台地第IV層上部）の遺跡は、上尾市前戸崎遺跡（61）から、資料数は少ないがチャートを用いたナイフ形石器・挟り入り削器が出土しており、剥片類と石核の接合資料が注目される。在家遺跡（38）では複数の石器集中が検出され、ナイフ形石器・槍先形尖頭器・削器・彫器等多様な石器が出土した。石器石材は黒耀石・ガラス質黒色安山岩等が用いられている。

B-53号遺跡（64）から、石器集中1箇所が検出されている。

【縄文時代】

縄文時代草創期の遺跡は、西大宮バイパスNo.4遺跡（4）から、黒耀石製の槍先形尖頭器の製品及び未成品が径1.5mの範囲に7点がまとまり、北東に約2m離れて1点出土している。他の石器とは明確に分布域が分かれており、その出土状況からアポと考えられている。また、黒耀石の産地分析の結果、高原山産と推定された。

大丸山遺跡（73）は、燃糸文を横位に施した草創期の土器が出土した。

縄文時代早期は、大丸山遺跡（73）で燃糸文系土器群と押型文系土器群が、西大宮バイパスNo.4遺跡（4）で、燃糸文系土器群・沈線文系土器群・押型文系土器群の良好な資料が出土した。

早期末には当該地域で貝塚が形成される。昭和3年に大山史前学研究所によって、東京湾に注ぐ

主要渓谷の貝塚調査による縄文土器編年研究の一環として五味貝戸貝塚(74)が調査され、指扇式が提唱された。しかしその後、茅山式の範疇に含まれると考えられ、使われなくなった。1970年に榎本金之丞・佐藤達夫によって縄文海進の上限の土器形式を明らかにする目的で、平方貝塚(29)が調査され、茅山上層式と花積下層式をつなぐ土器として注目された。貝層はヤマトシジミを主体とする淡水産の貝からなり、ハイガイ・カキ・ハマグリなど鹹水産の貝が共存していた。

菜園耕地前遺跡(26)の住居跡覆土中から貝のブロックが3箇所検出された。殿山遺跡(44)と上尾市稲荷台遺跡(27)から住居跡が検出されている。また、西大宮バイパスNo.5遺跡(2)・B-53遺跡(64)・下加遺跡(68)では炉穴が見つかった。

縄文時代前期は、箕輪II遺跡(35)から花積下層式期の住居跡が検出され、比較的まとまった資料が得られた。上尾市稲荷台遺跡(27)は関山式期の住居跡が7軒、宿北II遺跡(34)は関山式期の住居跡2軒が検出された。水川遺跡(56)では、関山式期と諸磯a式期の住居跡がそれぞれ5軒検出されている。上加遺跡(65)と指扇下戸遺跡(72)から諸磯b式期の住居跡が検出されている。

在家遺跡(38)からは、前期終末期の住居跡が見ついている。

荒川を挟んで対岸の、ふじみ野市驚森遺跡(117)から諸磯a～b式期の集落跡が検出されている。

縄文時代中期は、下加遺跡(68)のこれまでの調査で、勝坂式から加曾利EIII式期の住居跡が約40軒検出され、拠点集落と考えられる。雨沼I遺跡(30)は、勝坂式から加曾利EIII式期の住居跡が8軒検出されている。他に、西大宮バイパスNo.4遺跡(4)で勝坂式期の住居跡、指扇下戸遺跡(72)から勝坂式期の土壌が検出された。

前戸崎遺跡(61)と白銀宮腰遺跡(103)からは、加曾利EIII式期の住居跡が検出されている。

B-53号遺跡(64)は、中期の住居跡と後期初頭の柄鏡形住居跡が検出された。また、包含層から甕形の注口土器が出土している。

縄文時代後期は、西大宮バイパスNo.5遺跡(2)で後期初頭の柄鏡形住居跡が2軒検出され、石鏝の製作工程を復元できる資料が出土した。指扇下戸遺跡(72)は、後期初頭の柄鏡形住居跡を含む集落が見ついている。

下加遺跡(68)は、中期の集落域の北側から後期初頭の集落が見ついている。加曾利E終末期から堀之内式期の柄鏡形住居跡が約10軒検出され、大形の石棒がまとまって出土した住居跡がある。小林遺跡(39)は、後期の住居跡と土壌が検出された。住居跡からは、注口土器が2個体ほぼ完全な形で出土した。天沼遺跡(28)は、後期の住居跡・集石土壌・土壌等が検出されている。

縄文晩期の遺跡は、在家遺跡(38)から晩期終末期に位置する大洞A式・千網式土器が、住居跡と土壌から検出された。

【弥生時代】

大木戸遺跡の周辺は弥生時代の遺跡は少なく、雨沼I遺跡(30)と菜園耕地前遺跡(26)から、後期の住居跡が検出されたぐらいである。遺跡から南側に少し離れた地域では、内道西遺跡(111)から中期の住居跡が検出されている。また、荒川低地の大久保条里(115)に隣接する神田天神後遺跡・外東遺跡から後期の住居跡及び方形周溝墓が検出されている。

対岸のふじみ野市伊佐島遺跡(116)は後期の住居跡とV字状断面の大溝が検出されている。

【古墳時代】

大宮台地西縁の荒川低地に面する台地上には、古墳及び古墳群が幾つか存在する。北から南に概観すると、上尾市殿山古墳(44)は墳丘の3分の2を削平されているが、それでも現状で高さ2mを測る。周溝のみの調査であるが、壺及び鉄鏝が出土し、5世紀前半頃と推定された。古墳に隣接



第3図 周辺の遺跡 (旧石器・縄文)



第4図 周辺の遺跡(弥生以降)

第2表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時期	番号	遺跡名	時期
1	大木戸 (西大宮バイパス№6)	旧石器、縄文(早～後)、弥生、中・近世	54	B-43号	縄文(中)
2	西大宮バイパス№5	旧石器、縄文(早～後)	55	B-45号	縄文(中・後)
3	大塚古墳	古墳	56	水川	縄文(前・中)、奈良・平安
4	西大宮バイパス№4	旧石器、縄文(早～後)、中・近世	57	B-46号	縄文(中)
5	西大宮バイパス№2	旧石器、縄文(早～後)	58	B-47号	縄文(前)
6	西大宮バイパス№1	旧石器、縄文(早～後)	59	西谷裏	縄文(中)
7	清河寺前原	旧石器、縄文(早～後)	60	宮前遺跡	縄文(早・後)、平安
8	C-16号	縄文(早)	61	前戸崎	旧石器、縄文(中・後)
9	C-66号	縄文(早・前)	62	日蓮西谷	縄文(中・後)
10	C-39号	旧石器、縄文(早)	63	B-50号	縄文(中～晩)、平安
11	滝沼	縄文(早～後)、弥生、古墳、平安	64	B-53号	旧石器、縄文(早・中・後)、古墳
12	C-98号	縄文(早)	65	上加	縄文(前・中)
13	清河寺丸山		66	B-55号	縄文(中・後)、古墳
14	清河寺西原	縄文	67	B-56号	縄文(中・後)
15	C-33号		68	下加	旧石器、縄文(早・中・後)
16	C-31号	縄文(早)	69	控巻島	旧石器、縄文(早)
17	福田跡跡	近世	70	控巻島貝塚	旧石器、縄文(早・前)
18	高木道下	中世	71	C-73号	旧石器、縄文(早)
19	高木道下北	縄文(中)	72	指扇下戸	縄文(早～後)、中・近世
20	高木道小明	縄文、古墳	73	大丸山	縄文(舊期～後)
21	高木水川	縄文(中)	74	五味貝戸貝塚	旧石器、縄文(早～中)
22	C-23号	旧石器、縄文(早～中)	75	B-92号	縄文(早～後)
23	C-92号	縄文(中)	76	青葉園東	縄文(前・後)
24	C-93号	縄文(中)、古墳、平安	77	原	旧石器、縄文(早～後)
25	辻	縄文(中)	78	C-45号	縄文(後)
26	薬師耕地前	縄文(早・中)、弥生(後)、古墳	79	C-67号	縄文(中)、古墳、平安
27	上尾寺稲荷台	縄文(早～中)、弥生(後)、古墳(前)、奈良・平安	80	C-65号	縄文(中・後)、平安
28	天沼	旧石器、縄文(早～後)、古墳(前後)、中・近世	81	C-64号	縄文(前・後)
29	平方貝塚	縄文(早・前)	82	C-63号	縄文(中)
30	雨沼I	旧石器、縄文(早・中)、弥生(後)、古墳(前・後)、中・近世	83	C-62号	縄文(中)、古墳
31	東谷	縄文(後)	84	C-15号	縄文(早・中)、古墳、平安
32	沼北I	縄文、古墳	85	八幡耕地	縄文(前・中)、古墳
33	箕輪I	旧石器、縄文(早～後)、中・近世	86	C-12号	縄文(前・中)、古墳、平安
34	沼北II	縄文(早～後)、古墳、中・近世	87	下加貝塚	縄文、弥生、古墳
35	箕輪II	縄文(前)、古墳(後)	88	B-60号	縄文(中・後)、古墳、平安
36	小塚	古墳(前)	89	C-59号	縄文(中)
37	小塚II	旧石器、縄文(前)	90	C-58号	縄文(中)
38	在家	旧石器、縄文(前～後)、古墳(後)、中・近世	91	下手	縄文(前)、弥生、古墳
39	小林	縄文(中・後)、平安	92	B-61号	縄文(早～中)、平安
40	平方丸山	縄文(前・中)	93	C-7号	縄文(中・後)、弥生、平安
41	畔吉貝塚	縄文、古墳(前)	94	並木貝塚	縄文(早～晩)
42	畔吉	旧石器、縄文(早)、古墳(前)	95	B-70号	縄文(中)、弥生(後)
43	八幡(江川山古墳)	縄文(前・後)、古墳(前)	96	B-67号	縄文(中)、弥生(後)、近世
44	鹿山・鶴山古墳	旧石器、縄文(早～後)、古墳(前～後)	97	小村田	縄文(中)、近世
45	雲雀	縄文(前)、古墳(前)、近世	98	江東東4号	縄文、平安
46	西通I	縄文(前～後)、中・近世	99	小村田西	縄文(中)、近世
47	向山	縄文(後)	100	小村田東	縄文(中)、古墳(後)、平安、中世
48	後耕地	縄文(中～後)、中・近世	101	与野東	縄文(中)、弥生(後)、古墳(後)、平安
49	B-37号	縄文(中・後)	102	西浦1号	縄文(早～後)、古墳(前・後)、平安
50	B-44号	旧石器、縄文(前・中)	103	白鎌宮腰	旧石器、縄文(中)、古墳(前・後)、奈良・平安
51	三番耕地	縄文、古墳、近世	104	寺田	奈良
52	山王	縄文(早～後)	105	与野西	縄文(中)、古墳(後)、平安
53	奈良瀬戸	縄文(早～晩)、平安	106	苗塚	縄文(後)、古墳(後)
			107	八王子前原	縄文(早・中)、平安
			108	八王子前原西	旧石器、縄文(早～後)、奈良・平安

番号	遺跡名	時期
109	南上峠	縄文(後)、古墳(後)、平安
110	粗野谷1号	旧石器、縄文(中)
111	内道西	旧石器、縄文(早～晩)、弥生(中)、平安
112	諏訪坂	縄文(後)、弥生(中)、古墳(前)
113	上大久保新田	弥生(後)、古墳(前・後)、中・近世
114	殿ノ前	古墳(後)

番号	遺跡名	時期
115	大久保桑里	平安、中世
116	伊佐島	弥生(後)、平安、中・近世
117	鷺森	縄文(前)、平安、中・近世
118	川袋	古墳、平安、中世
119	城山	中・近世
120	天神廻	縄文、古墳
121	根切	奈良・平安

して方形周溝墓が4基検出された。時期的には方形周溝墓のほうが古いと考えられる。

大木戸遺跡に隣接する古墳は、西大宮バイパスNo.5遺跡(2)内に大塚古墳(3)が存在する。

さいたま市浦和区には、植水古墳群・側ヶ谷戸古墳群・白銀宮腰古墳群が並んでいる。白銀宮腰遺跡(103)は白銀宮腰古墳群の範囲の一部に重なる。白銀宮腰古墳群は権現塚古墳・白銀塚山古墳・御嶽山古墳・かね山古墳等が含まれる。平成8年に当事業団が実施した調査により、前期の集落跡と6世紀初頭から7世紀前半頃の古墳跡が調査された。

薬師耕地前遺跡(26)からは、古墳時代初頭の住居跡と方形周溝墓7基が検出された。主体部が検出され、ガラス小玉・管玉・鉄剣等が副葬されていた。また、周溝からは底部穿孔の壺形土器が出土した。

上尾市稲荷台遺跡(27)は薬師耕地前遺跡(26)の北側に近接しており、市教育委員会及び当事業団が実施した発掘調査の結果、古墳時代前期の住居跡が多数調査され、大規模集落であることが明らかになっている。

雨沼I遺跡(30)・宿北II遺跡(34)・天沼遺跡(28)は後期の住居跡が検出されているが、何れも軒数は少なく小規模である。

【奈良・平安時代】

根切遺跡(121)は、旧入間川の流路によって形成された自然堤防上に位置し、遺跡の範囲は広く

複数回の発掘調査によって、奈良から平安時代にかけての住居跡が密集し、掘立柱建物跡群が伴うことが明らかになった。また、大溝が検出され、その性格が注目される。

大久保桑里(115)は、根切遺跡(121)の南西側の低地に広がっている。平安時代から中世の地割に伴う溝跡が多数検出されている。

【中・近世】

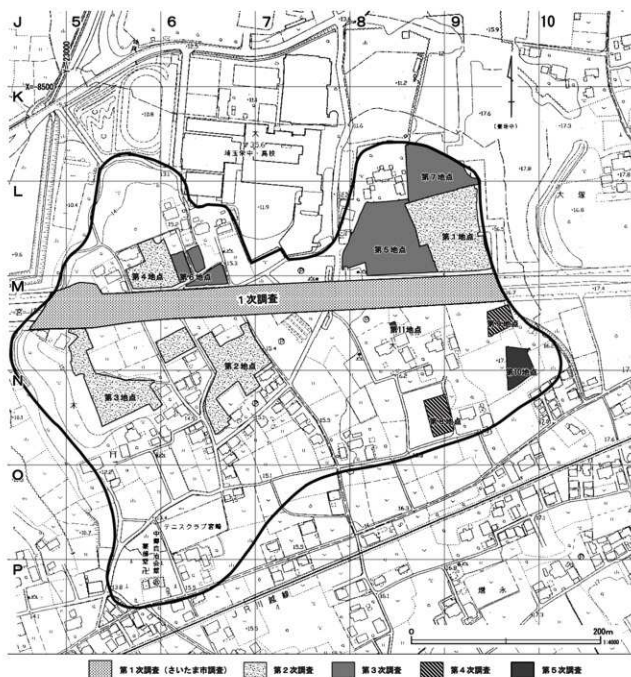
大木戸遺跡では、溝による区画と掘立柱建物跡群が多数確認された。現在も屋敷林を有する旧家が残っており、当時の景観を髣髴させる。また、区画整理事業地内で、滝沼川を挟んだ対岸に福田館跡(17)があり、今後調査が進めば大木戸遺跡との関連が注目される。

当該地域は、江戸時代は新編武蔵風土記稿によると差扇(さしおうぎ)領に属し、差扇村と記されている。元和9年(1623)旗本山内氏の所領に含まれたが、山内氏の転出後は幕末まで幕府領であった。差扇村は赤羽(赤羽根)・増永(升永)・大西・大木戸・下郷・五味ヶ谷戸(五味貝戸)・台の7組に分かれ、名主・組頭が置かれていた。村は滝沼川の左岸に位置し、村内を通る主要道は「川越道」と「与野道」である。「川越道」は村域の北東、清河寺村、上内野村境を通過して、大木戸の南側を抜けて川越に至っている。「与野道」は清河寺村、上内野村境を南下すると与野、北上すると上尾宿に至る道である。

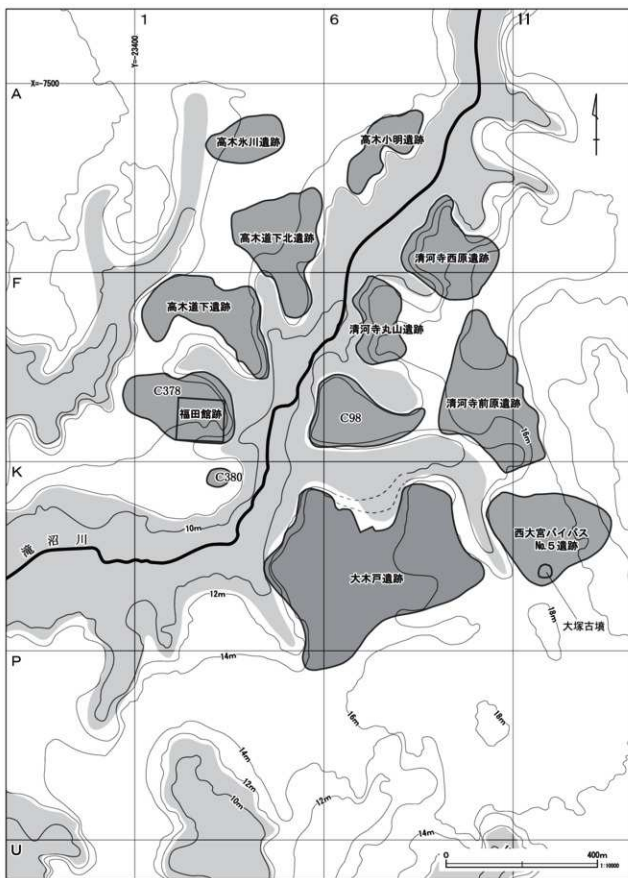
III 遺跡の概要

大木戸遺跡は、JR川越線指扇駅の北東約1.5 kmに位置する。遺跡の範囲は南北約480m、東西約580mと広く、標高は14～16mと東から西側に僅かに低くなっている。滝沼川の低地部とは標高差約4mである。

遺跡は、大宮西部特定土地区画整理事業に関連して調査が進められている。区画整理地内には13箇所の遺跡が確認されている(第6図)。南西から時計回りにC-380号遺跡、福田跡、C-378号遺跡、高木道下遺跡、高木道下北遺跡、高木水川遺



第5図 大木戸遺跡調査地点位置図



第 6 図 大宮西部特定土地地区画整理事業地内の道路分布

跡、高木小町遺跡、清河寺西原遺跡、清河寺丸山遺跡、C-98号遺跡、清河寺前原遺跡、西大宮バイパスNo.5遺跡、大木戸遺跡である。その中で、大木戸遺跡以外で発掘調査が実施されたのは、清河寺前原遺跡・高木道下遺跡・高木道下北遺跡と西大宮バイパスNo.5遺跡の4遺跡である。

グリッドは、X=-7500.000m、Y=-23500.000mを基点(A・A1グリッド)に、100×100mの大グリッドを設定し、北から南にA・B・C…、西から東に1・2・3…として大宮西部特定土地区画整理事業地内全体を覆っている。

大グリッドを10×10mに区分し、北から南にA～J、西から東に1～10とし、100区画に分割した。

大木戸遺跡の西側は、滝沼川の開口部近くで、そのまま荒川低地に面している。東から北側は、滝沼川に注ぐ湧水によって開析された谷により区切られている。北部は谷が蛇行するため、駱駝の瘤のように、真ん中が窪み東西に2つの突起状の迫り出しが見られる。南部は台地奥部になるため、平坦な地形が広がっている。

大木戸遺跡の発掘調査は、大宮市遺跡調査会(現さいたま市)が、一般国道16号バイパスの建設に関連して西大宮バイパスNo.6遺跡として報告したのが第1次調査である。その後、大宮西部特定土地区画整理事業に関連して、大木戸遺跡として平成12年度から当事業団が継続的に調査を実施、現在も継続している。

第2次調査 平成12年度 (第1～4地点)

第3次調査 平成13年度 (第5～7地点)

第4次調査 平成16年度 (第8・9地点)

第5次調査 平成17年度 (第10・11地点)

第6次調査 平成19年度 (第12地点)

今回報告するのは、第2～5次調査(第1～11地点)である。

発掘調査の結果、旧石器時代から近世にかけての、遺構・遺物が検出された。

旧石器時代は、第1次調査で台地の東西両縁部から石器集中と礫群が検出されている。今回の調査では、西縁の第3地点から後期旧石器時代前半期の石器群、東縁に当たる第10地点から後期旧石器時代後半期の石器群が検出された。

縄文時代は、早期の炉穴が第1・7地点と第3地点から検出され、中期末葉から後期は広範囲から住居跡が検出されている。

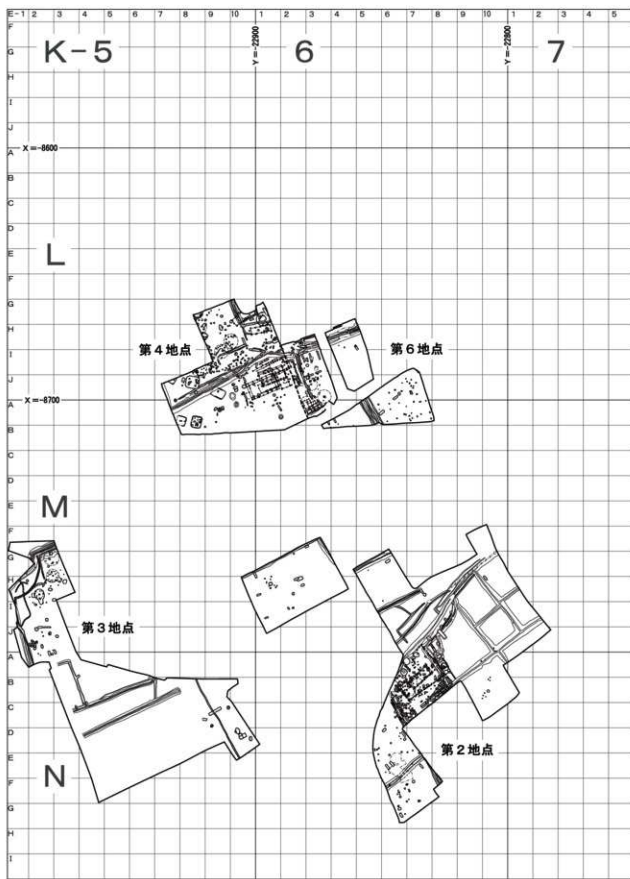
弥生時代は、遺跡範囲の北西部の第4地点から住居跡11軒が見つまっている。集落の範囲は狭く、台地西縁部から北側の径約50mの範囲に収束するようである。

近世は、北側に迫り出す2つの突起部をそれぞれ、台地奥部の平坦な部分から切り取るように、溝が東西方向に掘られ、それに伴って掘立柱建物跡群がみられる。この群とは別に、台地奥の第2地点から、コの字状に柵列で囲まれた掘立柱建物跡が検出された。

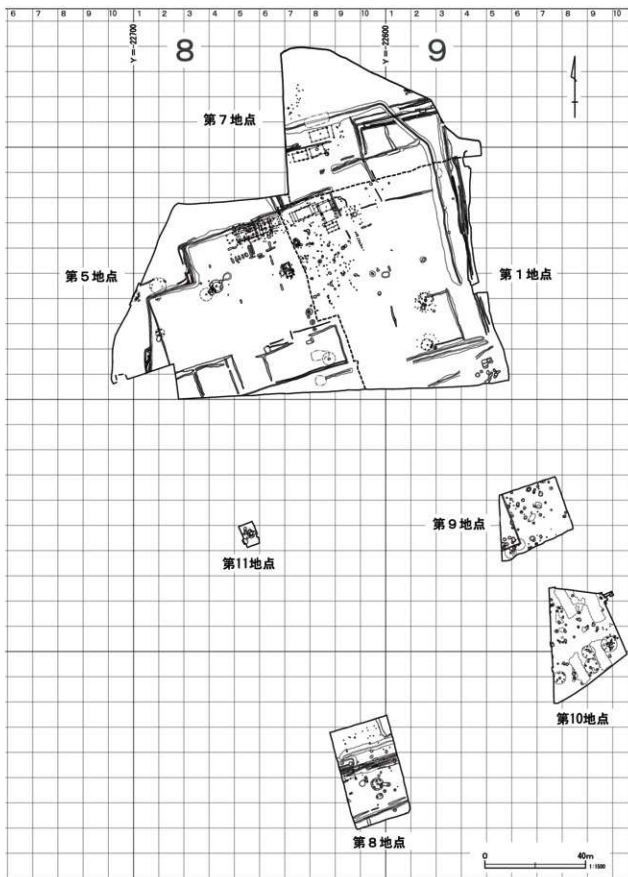
基本層位

当該地域は、南関東系の火山灰と北関東系の火山灰の交差点にあたり、どちらからも遠距離である。その為、立川ローム層の堆積は1.5m程度と薄く層位区分を難しくしている。しかし、基本的には、武蔵野台地の標準層に対比される。また、当該地域はソフトロームが厚い地域でもあり、地点によっては第2暗色帯の直上までソフト化している所もある。

大木戸遺跡は範囲が広いため、地点により層厚及び堆積状況が異なり、どこまでソフトローム化しているのかによって第1暗色帯と第2暗色帯の間の層位(第VI層)が明確な地点と分層不能な地点があった。また、第2暗色帯の上下分層に関しても、不明確な地点がある。



第7図 大木戸遺跡全体図(1)



第8図 大木戸遺跡全体図(2)

Ⅳ 第1・5・7地点の遺構と遺物

1. 概要

大木戸遺跡第1・5・7地点は、遺跡範囲の北東部、一般国道16号バイパスの北側に当たる。発掘調査は、第1地点は第2次調査、第5・7地点は第3次調査で実施した。大木戸遺跡の範囲は南北約480m、東西約580mと広く、東側は滝沼川に注ぐ湧水によって谷が形成され、北側はその谷が蛇行して入り込んでいる。谷部は埼玉栄高校の校舎とグラウンドになっている。台地は駱駝の瘤のように、西側と東側が北側に張り出している。第1・5・7地点は東側の張り出部に当たる。

発掘調査前の状況は、第1・5地点は陸田、第7地点は屋敷地であった。第1・5地点の標高は、東側が高く西側が低くなっているため、東側はより多く削平されており、遺構の遺存状況は悪かった。第7地点は、屋敷林であったため木の根やゴミ穴等の攪乱が著しい。

遺構・遺物は、隣接する第1次調査区（一般国道16号バイパス部分）で旧石器時代の石器集中、縄文時代中期後半から後期の住居跡が検出されており、旧石器時代と縄文時代の遺構・遺物の検出が想定された。

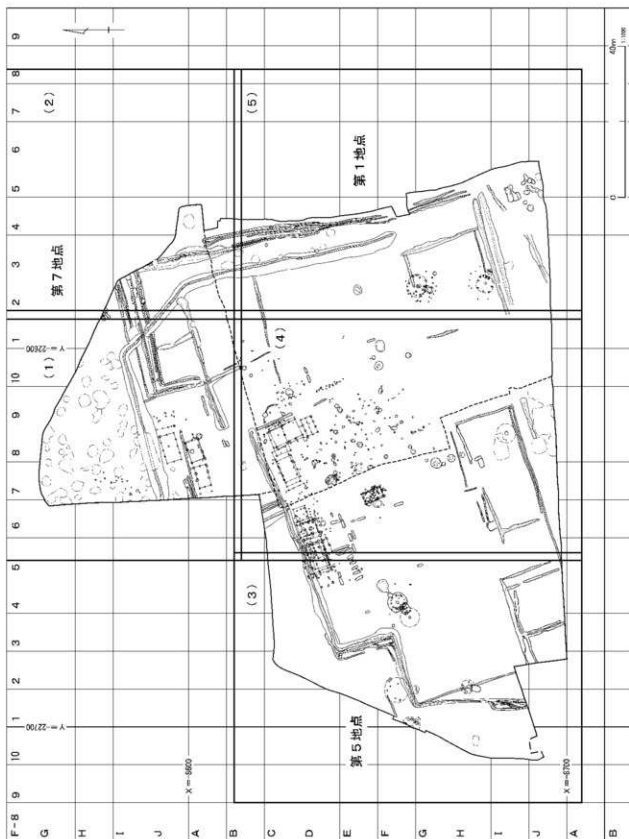
旧石器時代に関しては、遺構確認作業の時点で、ナイフ形石器が数点出土したので、台地東側の肩部を中心に旧石器調査を実施したが、遺構・遺物は出土しなかった。ルーム層断面の観察から、谷に向かってROOMの堆積が水平になっており、旧石器時代の谷は現状よりも小規模であると考えら

れる。仮に、旧石器時代の遺構・遺物が台地肩部にあったとしても、湧水による谷の浸食過程で消失している可能性が高いと思われる。

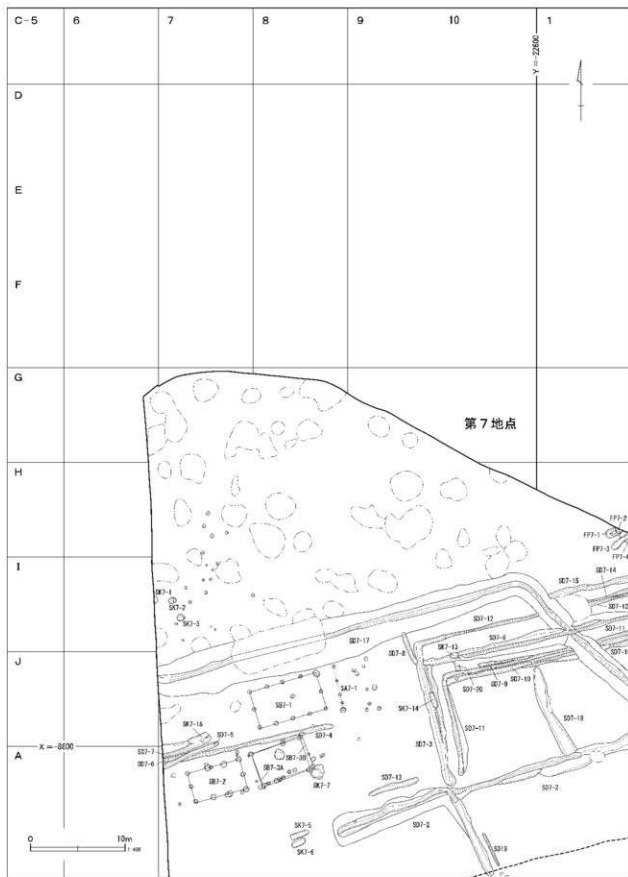
縄文時代は、中期末葉から後期初頭の住居跡8軒と集石土壇9基、土壇43基、早期の炉穴6基が検出された。住居跡は第1・5地点の広範囲に分布している。地形的には、台地東端部付近と、西部の谷に面した地域に、住居跡数軒がまとまって検出された。台地東部は、陸田の整地による削平のためか、柱穴と炉跡が検出されただけで、遺構の掘り込みは検出されなかった。西側の谷に面した地域は、台地東端部よりは遺構の遺存状態が良く、第5-1号住居跡から埋塞が検出された。また、第5-3号住居跡は、柄杓から埋塞、床面からは大形の扁平礫が検出された。台地部では珍しい敷石住居跡と考えられる。

集石土壇は、住居跡と異なり台地奥部にまとまっていた。炉穴は台地東縁部から検出された。

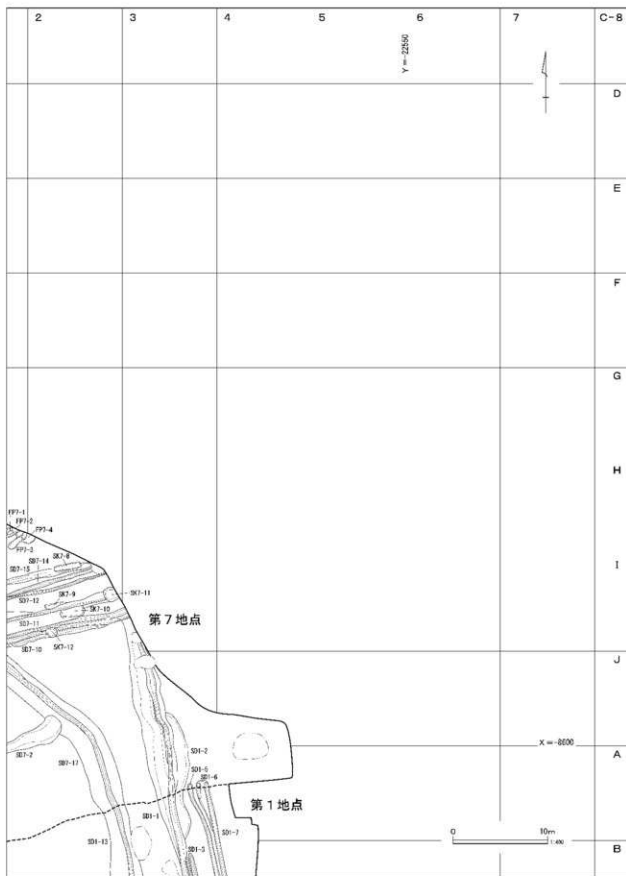
近世の遺構は、掘立柱建物跡17棟、土壇69基、井戸跡1基、溝跡65条、ビット多数が検出された。掘立柱建物跡群は、台地が北側へ張り出した溝跡に沿って3つの建物群を成している。南側の2つの建物跡群は、柱穴が多く同じ場所建て替えを繰り返していたことが窺える。一方、北側の建物跡群は、掘立柱建物跡3棟と柵列が溝跡に沿って、ほぼ同じ軸方位で整列している。



第 9 图 第 1·5·7 地点全体园区分割图



第10図 第1・5・7地点全体図(1)



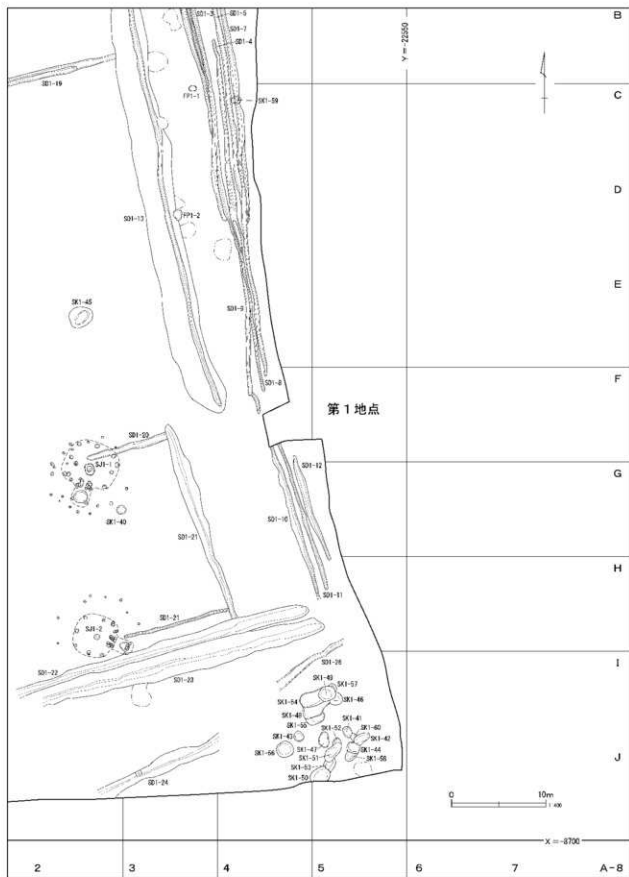
第11圖 第1・5・7地点全体圖(2)



第12図 第1・5・7地点全体図(3)



第13图 第1・5・7地点全体图(4)



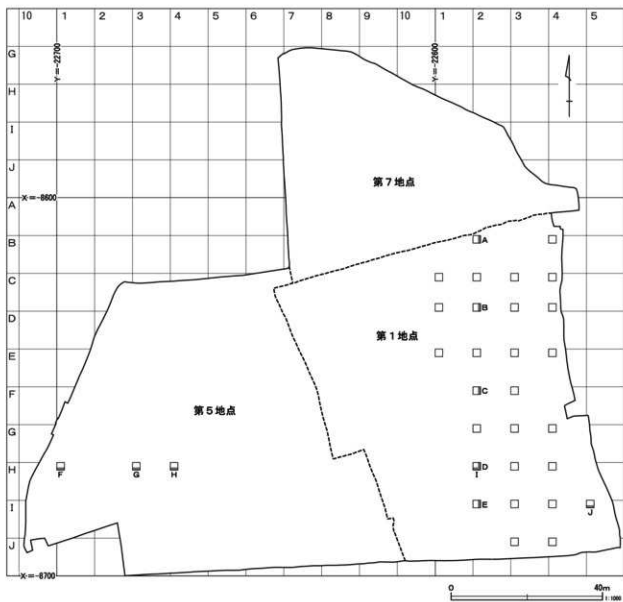
第14图 第1・5・7地点全体图(5)

2. 旧石器時代

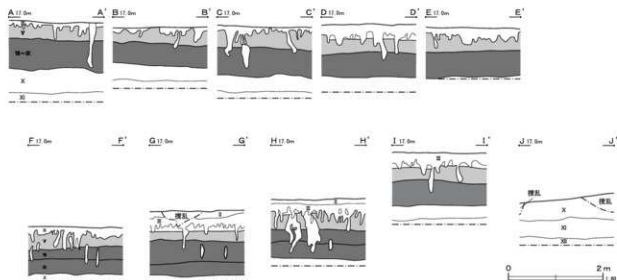
旧石器時代の調査は、遺構確認作業の際にナイフ形石器が数点出土し、調査区南側に位置する第1次調査区（西大宮バイパス部分）で石器集中が見つかっていることから、その存在が想定された。調査は第1地点の東側は滝沼川に注ぐ湧水による谷が形成されていることから、台地肩部を中心に10mグリッドの北西杭を基本に、2×2mの小グリッドを31箇所設定し、ローム層の掘り下げを行った。その結果、谷に向かう第1地点の東西方

向（I・J断面図）でローム層の傾斜はみられず、ほぼ水平に堆積しており、旧石器時代の谷は現在より小規模であったと想定される。また、第5地点のF～H断面図をみると、東から西に向かって標高が下がっていることがわかる。南北方向のA～E断面図は、第2暗色帯の上部で北から南に僅かに標高が下がっていた。

調査は、台地肩部を中心に実施したが遺構・遺物は検出されなかった。



第15図 第1・5・7地点旧石器調査区



第16図 第1・5・7地点土層断面図

グリッド出土石器 (第17図)

1～5はナイフ形石器である。

1：外形は最大幅が基部側1/3ぐらにある幅広の菱形状を呈し、左右対象形で先端と基部は尖っている。刃部は右刃である。素材剥片は器軸と約45度左側に振れており、打面の厚さを側刃縁に使っている。正面の剝離面は、器軸と約90度、素材剥片の主要剝離面と約45度ずれている。調整加工は、左側縁に角度は浅いか規格的な剝離が施され、側刃縁は頭部調整による細かい剝離が施されているだけで、二次加工とは言えず、打面の厚さを利用した擬似二側縁加工である。石器石材は黒色頁岩である。

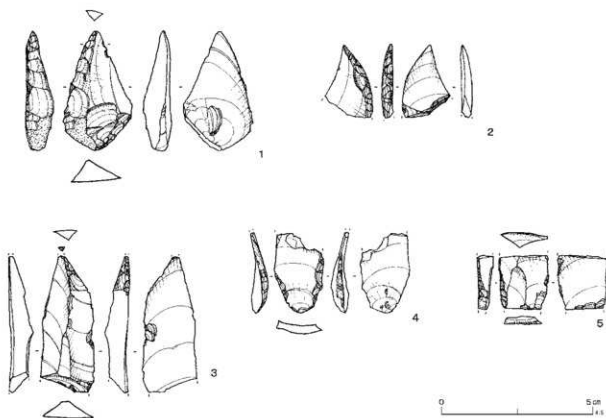
2：下半部を欠損する。素材剥片は下位方向の縦長剥片が用いられている。正面の剝離面は素材剥片の剝離方向と約90度異なる。外形は欠損が大きく全体は把握できないが、菱形になるものと思われる。刃部は左刃である。調整加工は右側縁に施されている。石器石材は透明度の高い良質な黒曜石である。

3：下半部を欠損する。下位の厚手の縦長剥片を素材にしている。正面を構成する剝離面は、主要剝離面と、同一方向と180度逆方向の剝離面が

みられ、両設打面の石核から剝離されたものと考えられる。横断面は三角形又は台形を呈している。刃部は左刃である。調整加工は、先端右側縁に部分的に施されている。基部に関しては欠損のため不明である。石器石材は黒曜石が用いられている。

4：上半部を欠損する。下位の縦長剥片が用いられており、正面の剝離面は主要剝離面と同一方向である。打面は細かい剝離によって除去されている。外形は、基部が丸く左右対称形の槍状になると思われるが、上半部が欠損するため詳細は不明である。調整加工は、基部を中心に細かい剝離が施されている。石器石材は黒曜石が用いられている。

5：上下両端を欠損する。下位方向の縦長剥片が用いられており、正面を構成する剝離面は主要剝離面と同一方向である。調整加工は左側縁に細かい剝離が施されている。両端を欠損し全体の形状が把握できないため、ナイフ形石器として分類できるのか、疑問もあったが、両側縁が整い明確な調整加工が施されていることからナイフ形石器と判断した。石器石材は珪質頁岩が用いられている。



第17図 グリッド出土石器

第3表 グリッド出土石器観察表

No	グリッド	器種	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備 考
1	L 9・G 4	ナイフ形石器	黒色頁岩	3.95	2.30	0.95	6.0	
2	L 9・G 4	ナイフ形石器	黒燧石	(2.40)	(1.60)	0.40	1.2	
3	L 8・E 7	ナイフ形石器	黒燧石	(4.50)	1.85	0.80	4.8	
4	L 9・D 1	ナイフ形石器	黒燧石	(2.60)	1.65	0.60	1.7	
5	L 8・E 10	ナイフ形石器	珪質頁岩	(1.75)	1.65	0.50	1.8	

3. 縄文時代

第1・5・7地点からは、住居跡8軒、土壇43基、集石土壇9基、竈穴6基が検出された。住居跡は密集しておらず、土壇が分布している調査区の中央部を囲むように、散漫に分布して検出された。住居跡のうち、調査区の西側から検出された第5-3号住居跡は敷石住居跡で、竈跡の北側には大型の紅崖石片岩が敷かれた状態で残存していた。出土した遺物などから、住居跡は中期木葉から後期初頭、調査区中央部の土壇は中期木葉から後期前葉の時期であると考えられる。集石土壇からは中期木葉の土器が検出された。早期の土壇や竈穴は調査区の東端部分から検出された。

(1) 住居跡

第1-1号住居跡 (第18~20図)

L9・G2、F2グリッドに位置する。住居跡の北側には近世の第1-20号溝跡が重複している。住居跡の掘り込みは確認されなかったが、ピットの配置から平面形は、南向きに張り出しを持つ柄杓形であると考えられる。竈跡と柄杓部を基準とした主軸方向は、N-19°Eをとる。推定される住居跡の規模は長径7.00m、短径5.75mを測る。推定される柄杓部の長さ1.95m、幅2.18mである。

竈跡は地床竈で、主体部の中央からやや柄杓部よりに検出された。竈跡の平面形は隅丸方形で、長径1.22m、短径1.00m、深さ0.24mである。

ピットは、推定される住居跡の範囲内からは29本が検出された。P15~P28は出入り口部に对ピット状に検出されたものである。またP29は柄杓部の中央に、幅広く浅く掘り込まれたものである。またP30~P45は、推定される住居跡の範囲外から検出されたが、住居跡を囲むように配置されることや、周辺から他のピットが検出されないことから、第1-1号住居跡に関連するピットとした。ピットの深さはP1=0.16m、P2=0.75m、P3=0.15m、P4=0.40m、P5=0.20m、P6=

0.63m、P7=0.15m、P8=0.45m、P9=0.20m、P10=0.49m、P11=0.55m、P12=0.22m、P13=0.40m、P14=0.78m、P15=0.49m、P16=0.42m、P17=0.65m、P18=0.45m、P19=0.40m、P20=0.31m、P21=0.14m、P22=0.27m、P23=0.30m、P24=0.35m、P25=0.31m、P26=0.30m、P27=0.53m、P28=0.50m、P29=0.12m、P30=0.24m、P31=0.09m、P32=0.27m、P33=0.20m、P34=0.15m、P35=0.14m、P36=0.29m、P37=0.18m、P38=0.12m、P39=0.10m、P40=0.16m、P41=0.21m、P42=0.20m、P43=0.34m、P44=0.41m、P45=0.18mである。

遺物はピット内などから、土器片や石器が出土した(第20図1~5)。時期は後期初頭である。

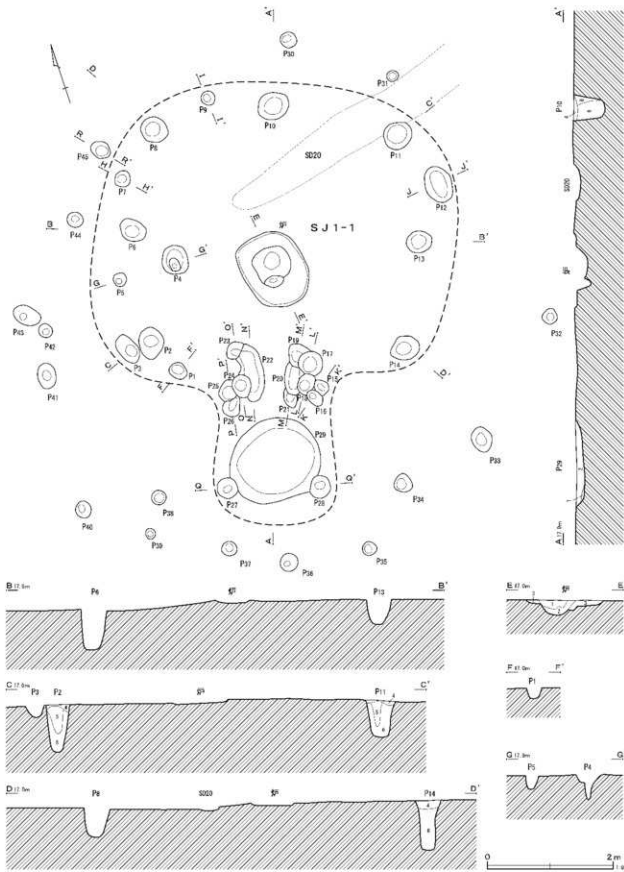
1~4は深鉢形土器の胴部の破片である。2本1組の沈線文間に縄文を充填するものである。3・4は同一個体である。いずれも地文は単節LRの縄文を文様に沿って縦方向や、斜め方向に施文している。3・4は撚りのゆるい単節LRの縄文を地文としている。1~4は、称名寺式中段階と考えられる。

5は小型であるが石皿と考えられる。

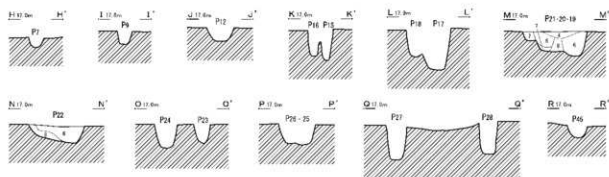
第1-2号住居跡 (第21・22図)

L9・H2、3、I2、3グリッドに位置する。住居跡の南西側では、近世の第1-22号溝跡が接して検出されている。住居跡の掘り込みは確認されなかったが、ピットの配置から平面形は、南東方向に柄杓部となる張り出しを持つ柄杓形であると考えられる。竈跡と柄杓部を基準とした主軸方向は、N-71°Wをとる。住居跡の柄杓部を含んだ推定される規模は、長径6.50m、短径4.50mを測る。柄杓部は長さ2.10m、幅1.50mを測る。

竈跡は地床竈で、主体部のほぼ中央部から検出された。竈跡の平面形は円形で、長径0.60m、短径0.55m、深さ0.12mを測る。



第18圖 第1-1号住居跡(1)

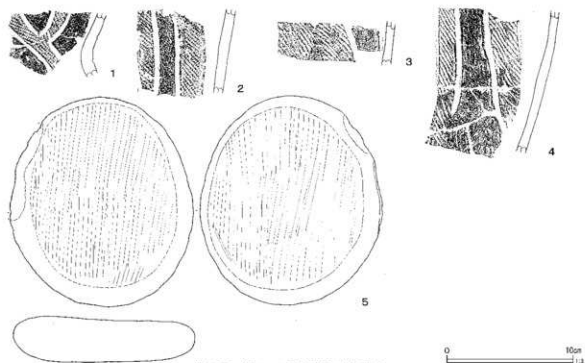


- B.J. 1-1
- 1 粘黄褐色土 ローム粒が多量
 - 2 暗黄褐色土 1 層より暗 ローム粒多量 炭化植物種子残像
 - 3 黄褐色土 ローム粒多量
 - 4 暗赤褐色土 ロームブロック多量
 - 5 粘褐色土 ロームブロック著し
 - 6 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 7 暗褐色土 ロームブロック少量 ローム粒子や中多量
 - 8 粘黄褐色土 ロームブロック少量 ローム粒子や中多量

- P7
- 1 粘褐色土 ローム粒子や中多量 粘土粒子少量
 - 2 暗赤褐色土 ローム粒子や中多量 粘土粒子少量 炭土ブロック若干
 - 3 粘黄褐色土 ローム粒子やロームブロック著し



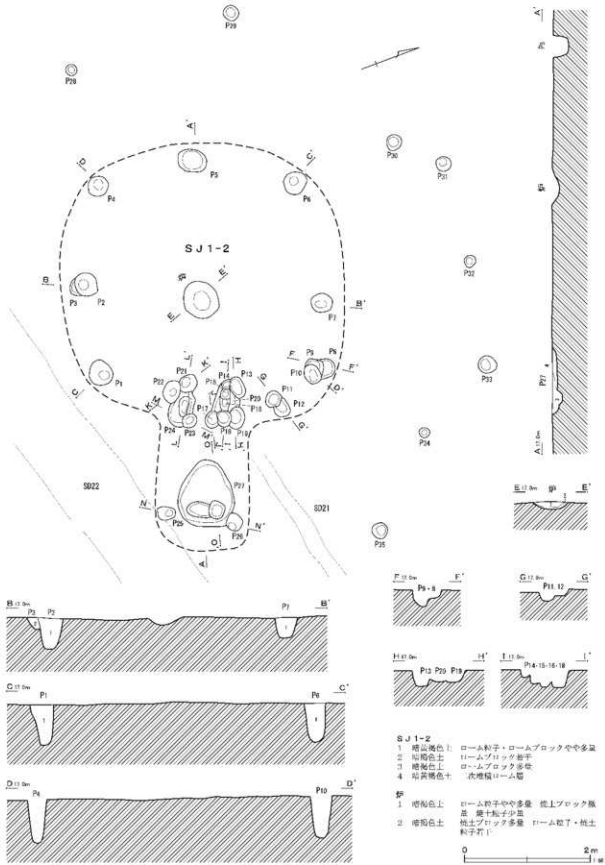
第19図 第1-1号住居跡(2)



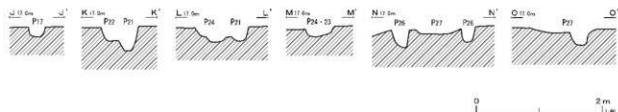
第20図 第1-1号住居跡出土遺物

ピットは、推定される住居跡の範囲内からは27本が検出された。P13~P26は出入り口部に対ピット状に検出されたものである。P27は柄部の中央に、幅広く浅く掘り込まれたものである。またP28~P35は、推定される住居跡の範囲外から検出されたが、住居跡を囲むように配置されることや、周辺からピットが検出されないことから、

第1-2号住居跡に関連するピットとした。ピットの深さP1=0.65m、P2=0.48m、P3=0.18m、P4=0.67m、P5=0.24m、P6=0.62m、P7=0.32m、P8=0.12m、P9=0.26m、P10=0.66m、P11=0.15m、P12=0.10m、P13=0.25m、P14=0.11m、P15=0.22m、P16=0.26m、P17=0.15m、P18=0.26m、P



第21図 第1-2号住居跡(1)



第22図 第1-2号住居跡(2)

19=0.17m、P 20=0.17m、P 21=0.37m、P 22=0.20m、P 23=0.11m、P 24=0.23m、P 25=0.27m、P 26=0.25m、P 27=0.25m、P 28=0.30m、P 29=0.24m、P 30=0.23m、P 31=0.34m、P 32=0.12m、P 33=0.21m、P 34=0.14m、P 35=0.34mである。

遺物は検出されなかったが、北側に隣接する第1-1号住居跡と同様の時期であると考えられる。

第5-1号住居跡(第23・24図)

L 8・F 1、G 1、L 7・G 10グリッドに位置する。住居跡の西半部分が、調査区域外のため検出することができなかった。掘り込みはないが、出土した遺物の時期から平面形は柄鏡形と考えられるが、張り出し部分は確認できなかった。炉跡と埋壙を基準とする主軸方向は、N-63°-Wをとる。ピットの配置から推定される残存する主体部の範囲は、長径4.90m、短径2.60mである。

炉跡は地床炉で、西側部分は調査区域外となり検出されなかった。残存する炉跡は長径0.64m、短径0.58m、深さ0.24mを測る。

埋壙は炉跡の南東側から検出された。埋設された土器は両耳壺形土器(第24図1)で、正位に埋設されていた。長径0.45m、短径0.42m、深さ0.54mを測る。

ピットは、12本が検出された。深さはP 1=0.67m、P 2=0.36m、P 3=0.25m、P 4=0.33m、P 5=0.37m、P 6=0.10m、P 7=0.23m、P 8=0.23m、P 9=0.31m、P 10=0.23m、P 11=0.20m、P 12=0.45mである。

遺物は埋壙のほかは、炉跡内から土器の破片が出土した(第24図1~4)。時期は中期末葉から後期初頭である。

1は埋壙に使用された両耳壺形土器である。ほぼ完形で出土した。推定径26cm、底径8cmで、現存高35cmである。無文の口縁部と胴部は、微隆起状の隆帯によって区画され、隆帯は頸部の中央で舌状に突起を作り出している。頸部の両側には把手を貼付する。把手の表面にも地文が施文される。胴部は地文のみが施文される。地文は、単節LRの縄文が縦方向に施文される。

2~4は深鉢形土器の2・3は口縁部、4は胴部の破片である。2・3は無文の狭い口縁部文様帯を持ち、胴部とは微隆起状の隆帯で区画している。地文は単節LRの縄文を施文している。

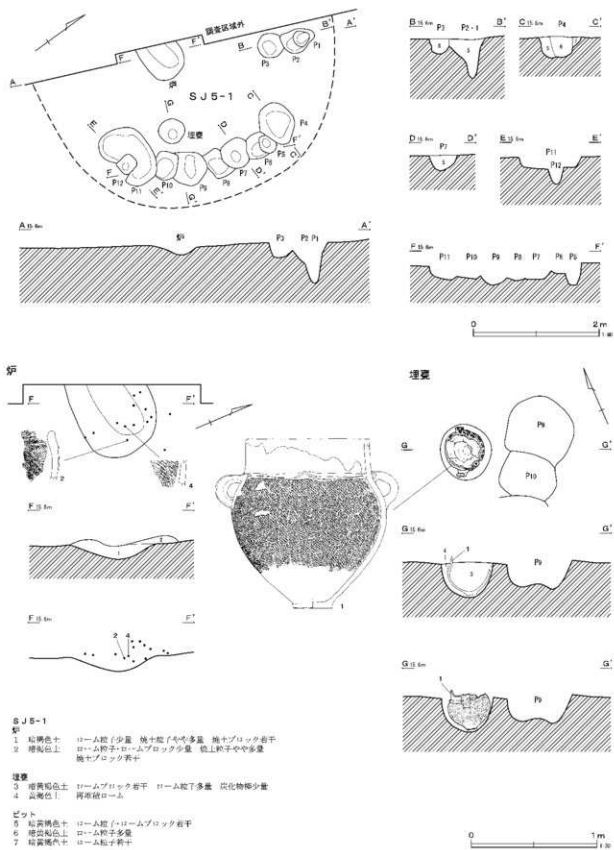
1~4は加曽利EIV式である。

第5-2号住居跡(第25・26図)

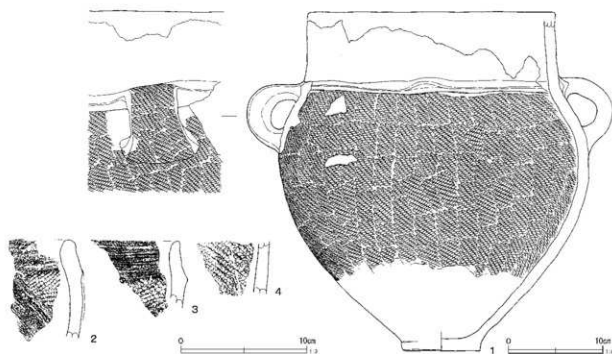
L 8・H 1、2グリッドに位置する。住居跡内を近世の第5-2号溝跡が北から南方向に縦断している。平面形は、南方向に張り出しを持つ柄鏡形である。後世における削平のため、主体部に掘り込みはなく、ピットと炉跡のみが検出された。炉跡と柄部を基準とした主軸方向は、N-16°-Eをとる。柱穴の配置から推定される住居跡は長径5.20m、短径3.70mである。柄部は長さ1.95m、幅1.67m、深さ0.15mを測る。

炉跡は地床炉で、規模は長径1.20m、短径0.80m、深さ0.30mである。

柱穴は、8本が検出された。深さはP 1=0.31



第23図 第5-1号住居跡



第24図 第5-1号住居跡出土遺物

m、P 2 = 0.52m、P 3 = 0.34m、P 4 = 0.30m、P 5 = 0.20m、P 6 = 0.28m、P 7 = 0.24m、P 8 = 0.26mである。

遺物は土器の小破片数点と、石器が出土した(第26図1～4)のみである。遺物の時期は中期末葉から後期初頭である。

1は壺形土器の口縁部の破片で、地文として単節L.Rの縄文を施文している。2は深鉢形土器の胴部の破片で、2本1組の平行沈線文間に、単節L.Rの縄文を地文として施文している。

3・4は出土した石器で、剝片である。

第5-3号住居跡 (第27～34図)

L 8・F 3、4グリッドに位置する。第5-7号住居跡、第5-34号土壇と部分的に重複する。

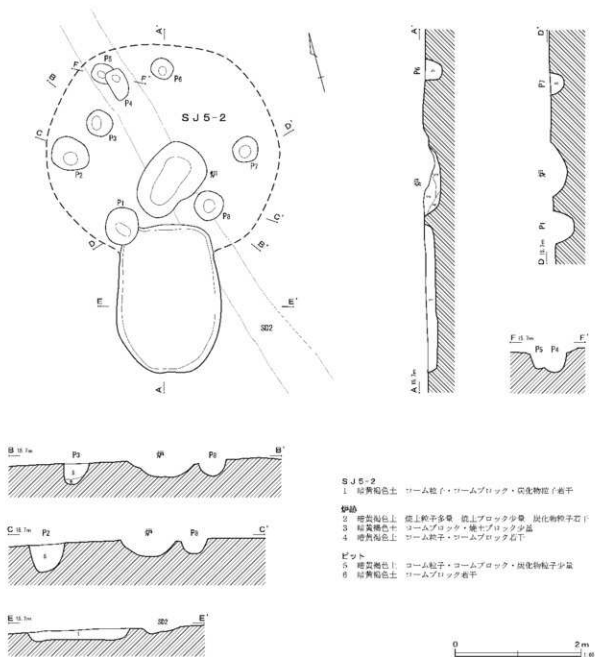
平面形は柄鏡形である。跡跡の北側には敷石の一部が残存しており、敷石住居であったと考えられる。住居跡は建て替えが行われたと考えられ、土層断面図から、古い住居跡を焼土が混入する土で最大で10cm程度埋め戻して、床面を形成し、新

たな炉跡を掘り込んでいることがわかる。

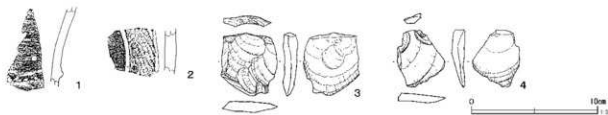
残存していた敷石は、紅簾石片岩製の1枚岩で、最大長が1.42m、最大幅が0.75m、厚みが0.08mである。扁平で表裏面ともに平坦面を持つ石材を使用している。また敷石の敷設範囲が主体部のみであったか、主体部でも全面か部分的であったかについては、他に敷石と考えられる石材が出土していないため不明である。

柄部については幅の広い柄部を、新しい住居跡では幅を狭くして使用している。第30図の遺物の出土状況からも、幅が狭い柄部に、遺物が分布していることがわかる。また幅のせまい柄部の先端部の中央に埋甕が設置され、埋設土器がほぼ完形で残存していることから、幅の狭い柄部が、最終的な住居跡に伴うものと考えられる。

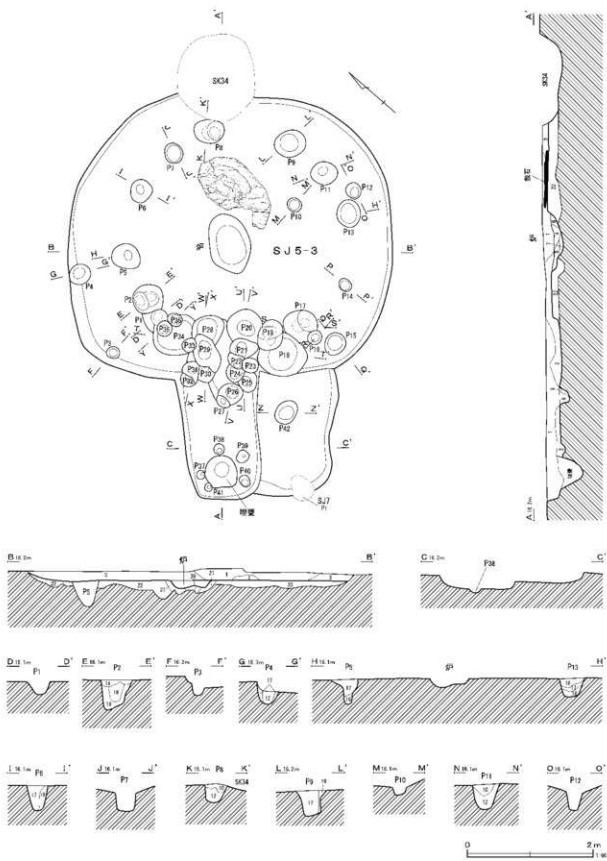
住居跡の炉跡と柄部を基準とした主軸方向は、N-48°-Eをとる。長径6.40m、短径5.20m、主体部の深さ0.18mを測る。柄部は長さ1.95m、新旧柄部合わせた最大幅が、2.60mで、新しい柄部(左側)の幅は1.28mである。(右側)1.32m、深さは



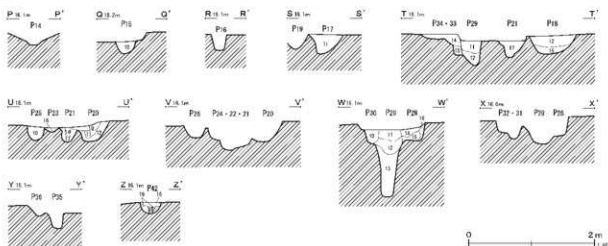
第25図 第5-2号住居跡



第26図 第5-2号住居跡出土遺物



第27图 第5-3号住居跡(1)



5・J 5-3		
1 結核色土	ローム粒下・ロームブロック・焼土粒少量	
2 結核色土	炭化物粒下層	
3 結核色土	ローム粒子や多量 焼土粒少量 炭化物粒下層	
4 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
5 結核色土	ローム粒下・焼土粒下層	
6 結核色土	ローム粒子・炭化物粒下層	
7 結核色土	ローム粒下・焼土粒下層	
8 結核色土	ローム粒子・炭化物粒下層	
9 結核色土	ローム粒下・焼土粒下層	
10 結核色土	ローム粒子・炭化物粒下層	
11 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
12 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
13 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
14 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
15 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
16 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
17 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
18 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
19 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
20 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
21 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	
22 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量	

第28図 第5-3号住居跡(2)

旧柄で0.13m、新柄で0.23mを測る。炉跡は主体部のほぼ中央に位置し、長径0.98m、短径0.65m、深さ0.13mを測る。

埋壘は新柄部の先端部中央から検出された。深鉢形土器(第31図1)がほぼ完形で正位に埋設されていた(第29図)。長径1.20m、短径1.10m、深さ0.66mを測る。

柱穴は、42本が検出された。深さはP1=0.19m、P2=0.51m、P3=0.13m、P4=0.19m、P5=0.39m、P6=0.40m、P7=0.30m、P8=0.30m、P9=0.40m、P10=0.11m、P11=0.49m、P12=0.30m、P13=0.30m、P14=0.05m、P15=0.20m、P16=0.26m、P17=0.38m、P18=0.31m、P19=0.29m、P20=0.32m、P21=0.32m、P22=0.39m、P23=0.11m、P24=0.20m、P25=0.24m、P26=0.18m、P27=0.17m、P28=0.29m、P29=1.09m、P30=0.29m、P31=0.33m、P32=0.26m、P33=0.26m、P34=0.13m、P35=0.30m、P

11 結核色土	ローム粒少量 焼土粒少量
12 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
13 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
14 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
15 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
16 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
17 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
18 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
19 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
20 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
21 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
22 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量

遺物下

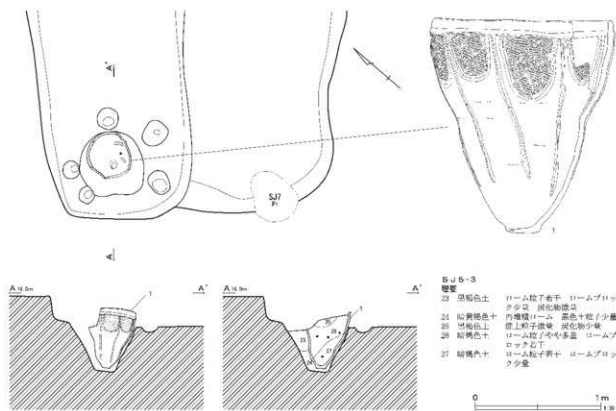
20 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
21 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量
22 結核色土	ローム粒子多量 焼土粒少量

36=0.11m、P37=0.13m、P38=0.04m、P39=0.18m、P40=0.14m、P41=0.14m、P42=0.18mである。

遺物は住居跡全体から散漫に出土している(第30図)。遺物は土器、石器とともに比較的少量に出土した(第31~34図)が、出土した遺物のうち、第34図32の大型の石棒は、細かく破砕した状態で住居跡内から検出されたものである。表面や割れ口には被熱による赤化が認められた。

第31図1・2、第32図3~22は検出された土器である。3・4は縄文時代中期中葉である。

1は埋壘に使用された深鉢形土器である。口径37cm、底径7.5cm、器高45cmである。口縁部からやや丸みを持って膨らみ、胴部の中央よりやや上でゆるい括れを持ち、やや膨らみながら底部にいたる器形である。口縁には幅の狭い無文部を持ち、胴部とは微隆起状の隆帯を巡らして区画している。胴部括れ部より上には微隆起状の隆帯で、U字区画文を9単位口縁部区画の隆帯から貼付して



第29図 第5-3号住居跡埋遺

いる。U字区画間には微隆起伏の隆帯を9単位垂下させている。地文はU字文内に単節LRの縄文を充填させるのみで、他は無文である。

2、5～17は微隆起伏の隆帯を器面に貼付して文様を施している。岩坪類や一本懸垂文類の深鉢形土器の破片である。2は口縁部から胴上部にかけての破片で、推定口径は28cmである。口縁はゆるやかな波状口縁で、幅の狭い無文部を持っている。胴部にはU字状文を施文し、その間には逆V字状の文様を施している。文様内には単節LRの縄文を充填している。5～10は口縁部の破片で、地文はいずれも単節LRの縄文を口縁部直下は横方向に胴部は縦方向に施文している。11～17は胴部の破片である。15、17は胴部に対向するU字文を施文し、結合部を突起状に盛り上げるものである。地文は11～15は単節LR、16・17は単節RLの縄文を、いずれも隆帯の文様内に充填している。

19・20は文様として、沈線文を施す深鉢形土器の胴部の破片である。地文として単節LRの縄文

を施文している。

18は壺形土器の破片で、擦りのゆるい単節LRの縄文を地文としている。22は注口土器の破片で、地文は単節LRの縄文である。

21は縄文時代後期前葉の堀之内2式の深鉢形土器の破片である。

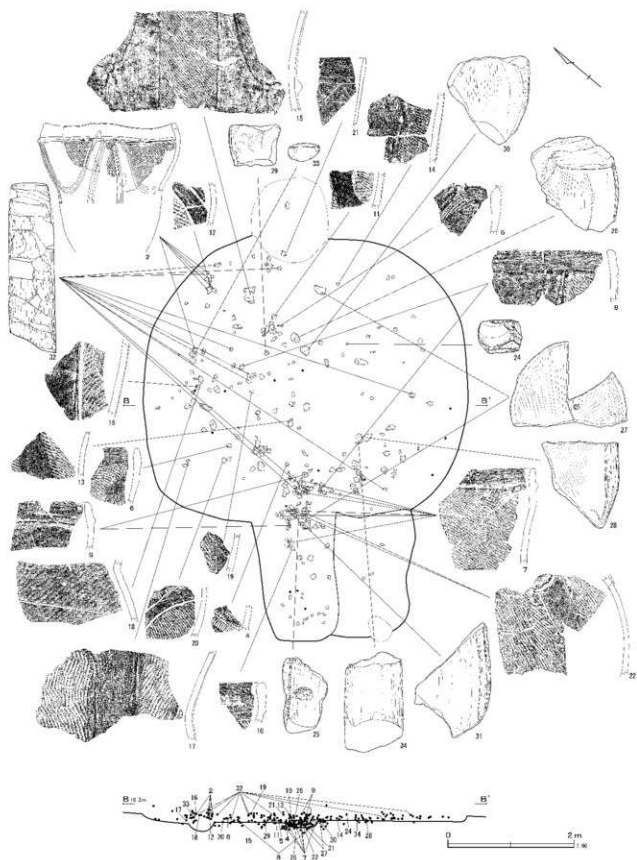
第33図23～29、第34図30～34は出土した石器である。23・24以外は、石皿と石棒の破片である。前述のように32は被熱しており、廃棄された石器の種類や破片の状態に、なんらかの意味合いを持っているとも考えられる。

23・24は小型の石器で、23は無茎の石鏃で、24は剝片である。

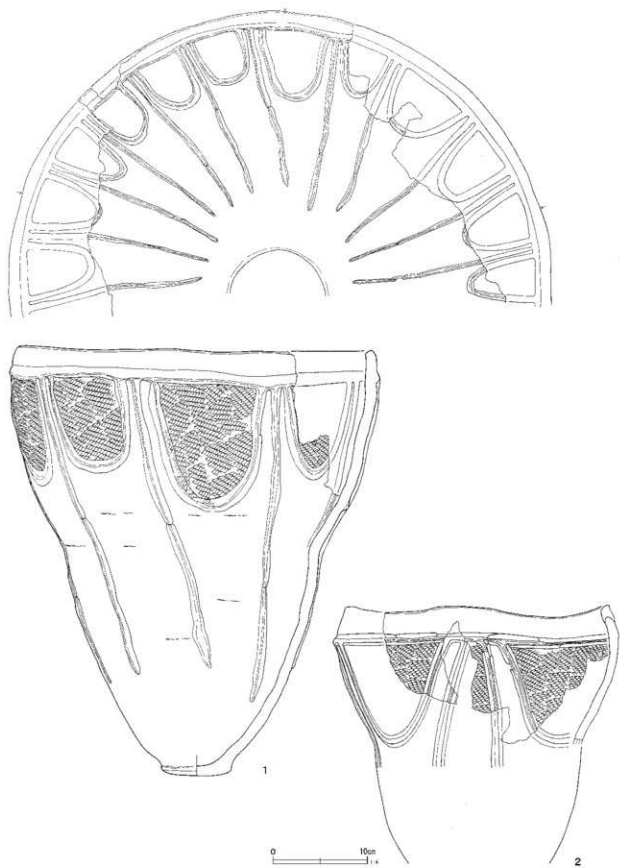
25～31は石皿の破片である。器面に凹部を持つものが多い。26は使用のため中央付近の厚みが、ごく薄くなるものである。

33～34は石棒である。完形のものはなく、いずれも破片である。

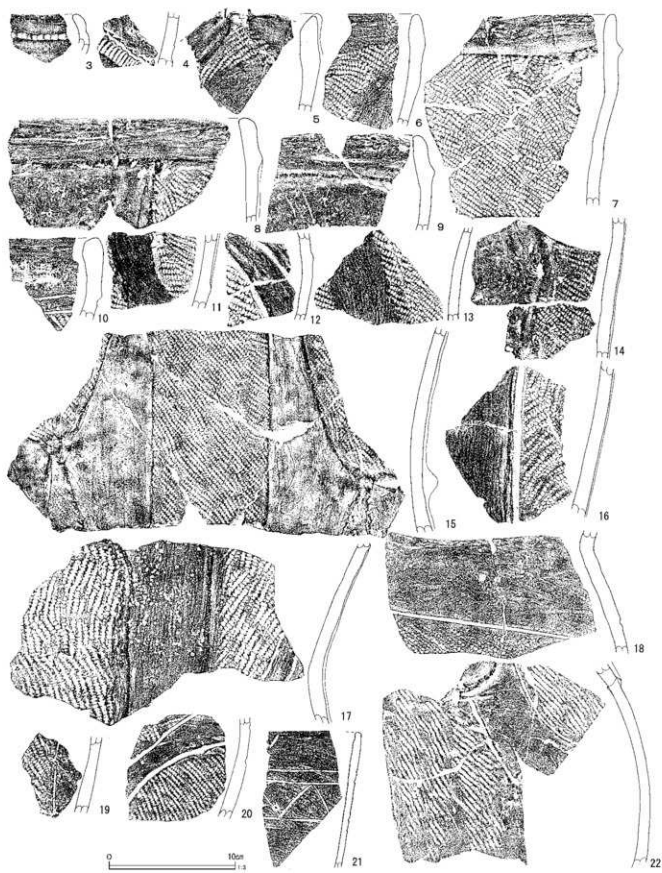
遺物の時期は後期初頭である。



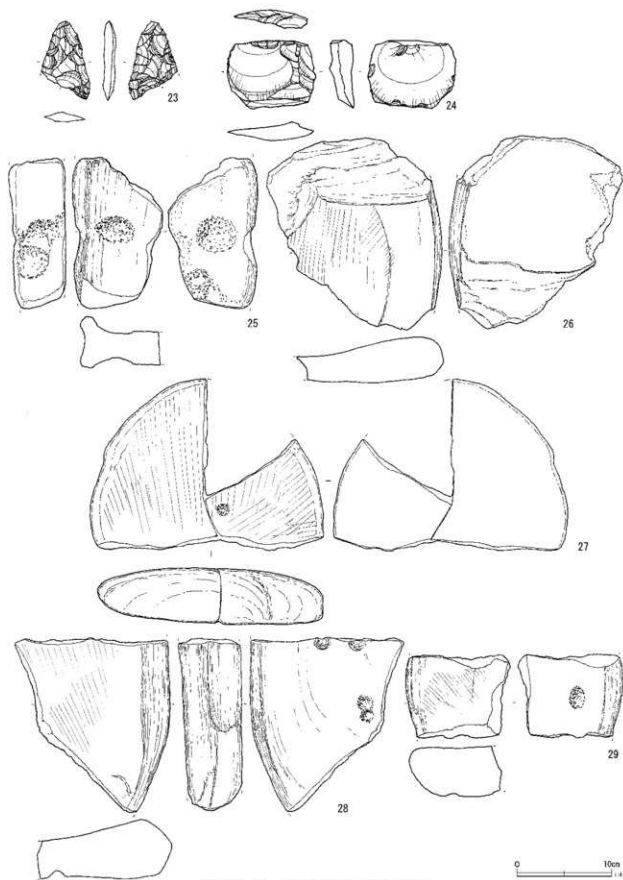
第30图 第5-3号住居跡遺物出土状況



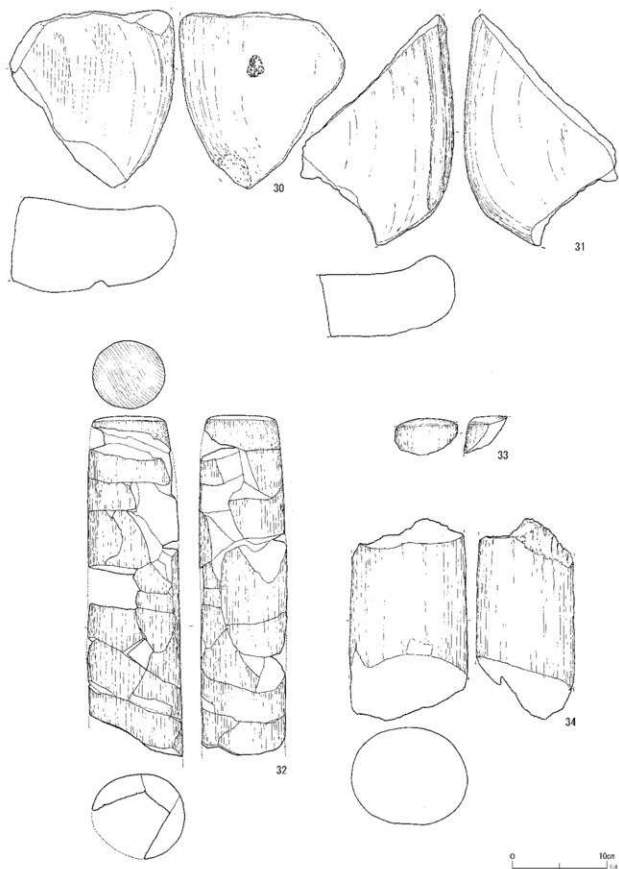
第31图 第5-3号住居跡出土物(1)



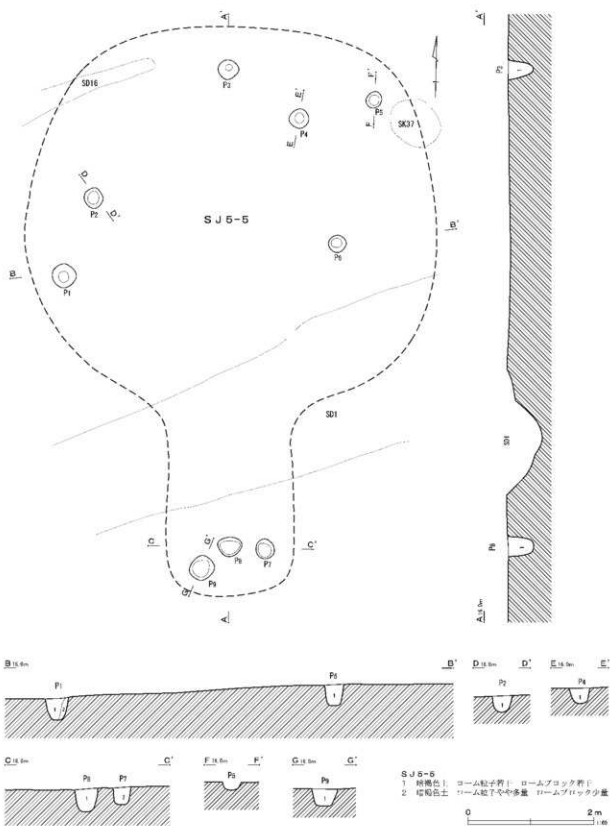
第32图 第5-3号住居跡出土遺物(2)



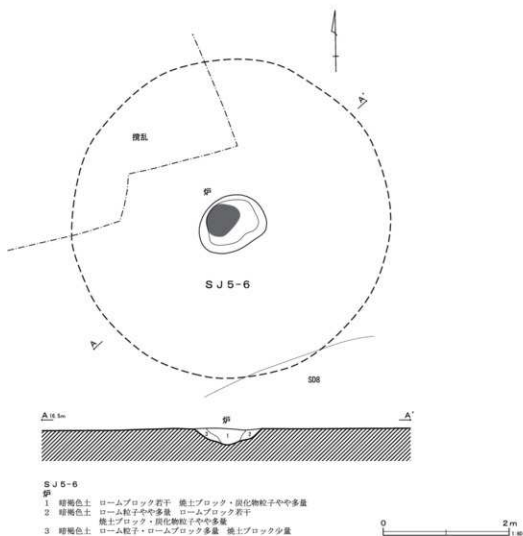
第33图 第5-3号住居跡出土遺物(3)



第34图 第5-3号住居跡出土遺物(4)



第35図 第5-5号住居跡



第36図 第5-6号住居跡



第37図 第5-6号住居跡出土遺物

第5-5号住居跡 (第35図)

L 8・F 1、2、G 1、2 グリッドに位置する。住居跡の南側で、近世の第5-1号溝跡が東西方向に横断している。住居跡は、ピットのみが検出され、炉跡や掘り込みなどは検出されなかった。平面形はピットの配置から柄鏡形と考えられる。

ピットの配置から推定される住居跡は長径9.01m、短径6.55mで、柄部の長さ3.05m、幅2.03

mである。

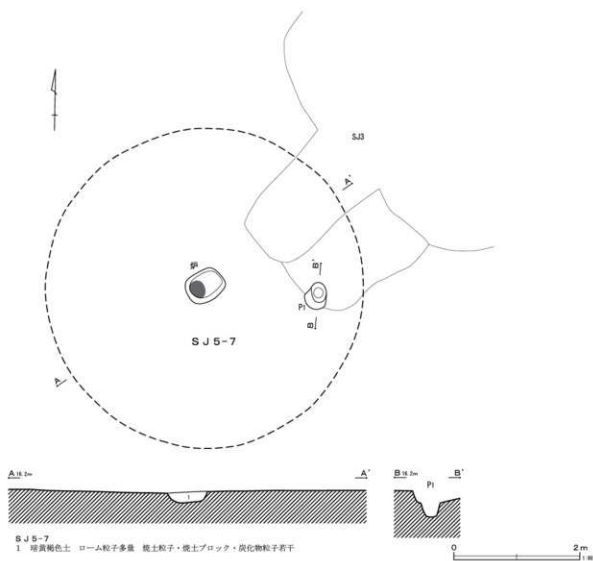
柱穴は、9本が検出された。深さはP 1 = 0.34 m、P 2 = 0.25m、P 3 = 0.40m、P 4 = 0.24m、P 5 = 0.12m、P 6 = 0.32m、P 7 = 0.26m、P 8 = 0.40m、P 9 = 0.28mである。

遺物は検出されなかったが、住居跡の形状などから中期末から後期初頭の時期と考えられる。

第5-6号住居跡 (第36図)

L 8・I 8、9 グリッドに位置する。住居跡の北西側に攪乱が存在し、南側には近世の第5-8号溝跡が東西に横断している。

住居跡は炉跡のみが検出され、掘り込みやピッ



第38図 第5-7号住居跡

トなどは検出されなかった。出土遺物の時期からは平面形が柄鏡形と推定されるが、住居跡の規模は不明である。

炉跡には焼土が多量に残存していた。長径1.10m、短径0.85m、深さ0.25mを測る。

遺物は土器の小破片が数点検出されたのみであった（第37図1・2）。時期は中期末から後期初頭である。

1・2は深鉢形土器の破片である。1は幅の狭い無文の口縁部を持つもので、胴部とは微隆起状の隆帯によって区画している。2は地文のみが施文される胴部の破片である。地文として単筋LR

の縦文を縦方向に施している。

第5-7号住居跡（第38図）

L8・F3、4、G3、4グリッドに位置する。住居跡の北東側で、第5-3号住居跡と重複している。掘り込みはなく、炉跡とピット1本のみが検出されたため、平面形は不明である。

住居跡に伴うと考えられる遺物は出土しなかったが、炉跡の覆土や周辺の出土遺物から、時期は中期末から後期初頭であると推定される。

炉跡の規模は、長径0.60m、短径0.50m、深さ0.16mである。ピットは、1本が検出された。深さはP1=0.40mである。

(2) 土壇**第1-1号土壇** (第39・40・44図1～5)

L8・F8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.21m、短径0.91m、深さ0.51mである。

第44図1～5は出土した遺物である。

1～4は出土した深鉢形土器の破片である。1は口縁部の破片で、口縁部には列点を巡らし、胴部とは沈線を施文して区画している。2・3は胴部の破片で、2本の平行沈線文によって文様を施文している。文様内は無文である。

5は出土した石器で、石匙である。丁寧な作りで基部には握み部が作り出されている。

遺物の時期は後期前葉で、称名寺式最終末から堀之内式最古段階であると考えられる。

第1-5号土壇 (第39図)

L8・D8グリッドに位置する。西側に縄文時代の第1-7号土壇、東側に近世の第1-4号土壇が隣接している。平面形は楕円形で、長径0.85m、短径0.78m、深さは0.27mである。

第1-7号土壇 (第39図)

L8・D7グリッドに位置する。東側に第1-5号土壇が隣接している。平面形は楕円形で、長径1.03m、短径0.61m、深さ0.19mである。

第1-8号土壇 (第39・第44図6～11)

L8・D7グリッドに位置する。西側に近世の第1-1号井戸跡が隣接する。平面形はほぼ円形で、長径1.00m、短径0.93m、深さ0.34mである。

第44図6～11は出土した土器である。いずれも深鉢形土器の破片で、6は口縁部、7～11は胴部の破片である。7～9は2本の平行沈線文によって文様を施文するもので、7は沈線文間に列点が施されている。10は細く浅い条線を流水状に施文している。11は微隆起伏の隆帯を垂下させるもので、地文として単筋RLの縄文を施文している。

遺物の時期は後期前葉で、称名寺式最終末から堀之内式最古段階であると考えられる。

第1-10号土壇 (第39・40図・第44図12～21)

L8・D8グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.20m、短径1.05m、深さ0.28mである。

第44図12～21は出土した深鉢形土器の破片である。12は波状口縁で、波頂部内側には円形文が刺突されている。13～17は同一個体と考えられる、口縁部から胴部の破片である。器面調整は粗く、器面には沈線文を施文するが文様は粗雑である。18～20は胴部の破片で、18は平行沈線文間に列点文を施文する。19・20は器面に列点文が施文されている。21は底部の破片で、器面は丁寧な磨き状に整形がなされている。底径は7.2cmである。

遺物の時期は後期前葉で、称名寺最終末から堀之内最古段階であると考えられる。

第1-11号土壇 (第39図・第44図22)

L8・E7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.47m、短径0.98m、深さ0.29mである。

第44図22は出土した土器である。大型の深鉢土器の口縁部の破片で、無文の口縁部と胴部は微隆起伏の隆帯によって区画されている。胴部には地文として、燃りのゆるい単筋LRの縄文を縦方向に施文している。

遺物の時期は後期初頭で、称名寺式段階の加曾利E系の土器である。

第1-12号土壇 (第39図)

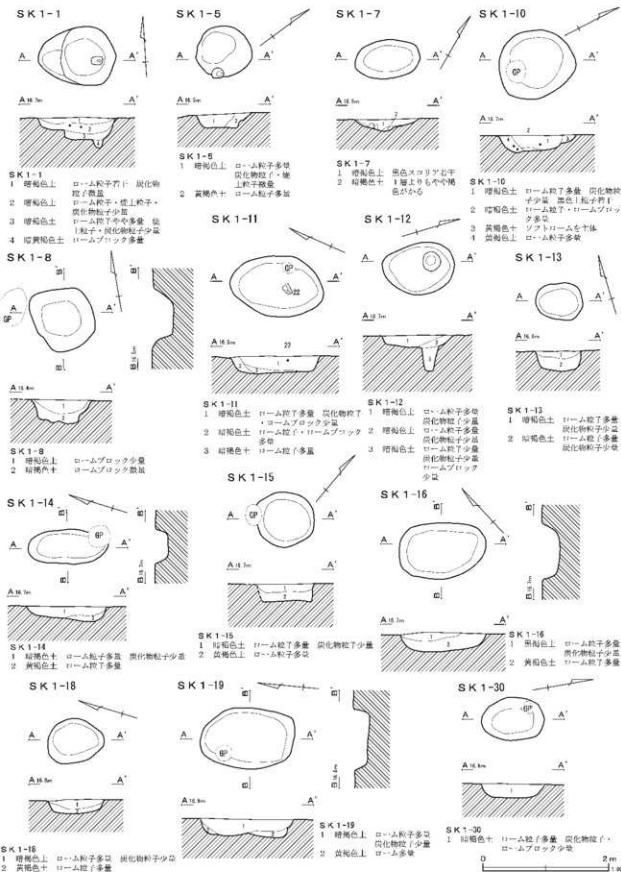
L8・E8グリッドに位置する。南西側に近世の第1-20号土壇が隣接する。平面形は楕円形で、長径1.15m、短径0.80m、深さ0.59mである。

第1-13号土壇 (第39図)

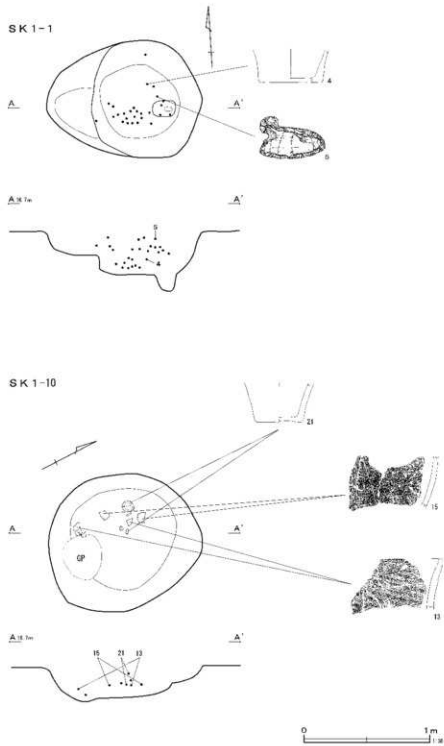
L8・E8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.75m、短径は0.57m、深さは0.33mである。

第1-14号土壇 (第39図)

L8・E9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.26m、短径0.53m、深さ0.18mである。



第39図 土壌 (1)



第40圖 土壤遺物出土狀況

る。

第1-15号土壌 (第39図・第44図23)

L8・F8グリッドに位置する。西側に近世の第1-17号土壌が隣接している。平面形は円形で、長径0.90m、短径0.90m、深さ0.28mである。

第44図23は出土した深鉢形土器の口縁部の破片である。バケツ状の器形であると考えられる。器面には赤彩の痕跡が認められる。地文として単節LRの縄文を横方向に施文している。

遺物の時期は後期初頭で、称名寺式段階の加曾利E系土器と考えられる。

第1-16号土壌 (第39図・第44図24)

L8・E8、F8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.38m、短径0.90m、深さ0.29mである。

第44図24は出土した深鉢形土器の口縁部の破片で、胴部とは沈線によって区画されている。

遺物の時期は後期初頭で、称名寺式最終末段階と考えられる。

第1-18号土壌 (第39図)

L8・F9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.90m、短径0.69m、深さ0.23mである。

第1-19号土壌 (第39図)

L8・F8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.46m、短径0.97m、深さは0.32mである。

第1-30号土壌 (第39図)

L8・E9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.99m、短径0.69m、深さ0.22mである。

第1-31号土壌 (第41図)

L8・F9グリッドに位置する。北側に近世の第1-30号土壌が隣接する。平面形は楕円形で、長径0.96m、短径0.80m、深さ0.21mである。

第1-33号土壌 (第41図)

L8・F9グリッドに位置する。平面形は楕円

形で、長径1.62m、短径は1.00m、深さ0.20mである。

第1-34号土壌 (第41・第44図25~27)

L8・E10、F10グリッドに位置する。落とし穴状土壌である。平面形は楕円形である。断面形が漏斗状となる深い土壌で、短径方向は底部にかけて、幅が狭く作り出されている。長径2.46m、短径2.10m、深さは2.75mである。

第44図25~27は、出土した深鉢形土器の破片である。25・26は胴部で、25は隆帯に沿って2列の角押文が施される。26はベン先状の文様を施文している。27は頸部の破片で、胴部とは沈線文を巡らして区画している。25・26は中期中葉の猪沢式、27は中期後葉の加曾利E式である。

第1-35号土壌 (第41図)

L8・E10、F10、L9・E1、F1グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径3.18m、短径2.31m、深さ0.22mである。

第1-36号土壌 (第41図)

L8・E10グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.03m、短径0.88m、深さ0.22mである。

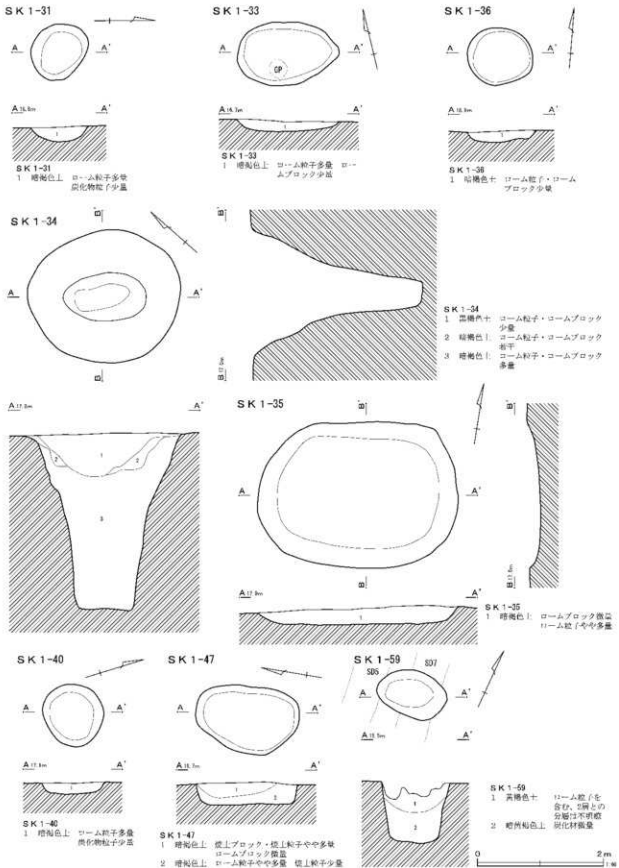
第1-40号土壌 (第41図)

L9・G2グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.00m、短径0.95m、深さ0.20mである。

第1-41号土壌 (第42図)

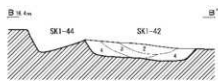
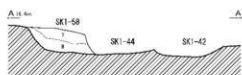
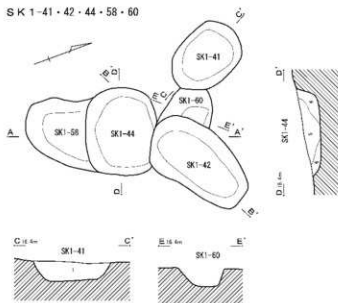
L9・I5グリッドに位置する。重複する第1-41・42・44・58・60号土壌のうちの1基である。重複する土壌の覆土中からは、焼土ブロックや焼土粒子が少量検出されている。周辺の土壌からは早期の条痕文系の土器が検出されていることから、重複する6基の土壌は伊穴群の可能性も考えられるが、伊床は検出されず、焼土ブロックなどが少量であることから、土壌とすることとした。

平面形は楕円形で、長径1.22m、短径0.86m、深さ0.30mである。



第41図 土壌 (2)

S K 1 - 41 - 42 - 44 - 58 - 60



S K 1 - 41

1 黄褐色土 コーム粒子若干 後土粒子微量

S K 1 - 42

2 暗褐色土 コーム粒子若干 後土粒子微量

3 暗褐色土 コーム粒子・後土粒子・後土ブロック若干

4 暗褐色土 コーム粒子・後土粒子・後土

S K 1 - 44

5 暗褐色土 粘土粒子や小骨 土 コーム粒子多量

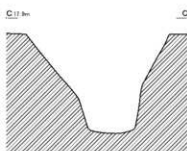
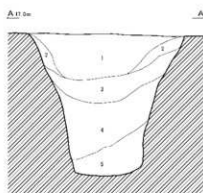
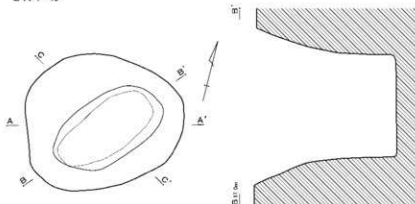
6 暗褐色土 後土粒子・後土ブロック若干

S K 1 - 58

7 暗褐色土 コーム粒子若干 後土粒子微量

8 暗褐色土 コーム粒子多量

S K 1 - 45



S K 1 - 45

1 黄褐色土 コーム粒子・ロームブロック

2 黄褐色土 粘土粒子・後土粒子少量

3 暗褐色土 コーム粒子多量

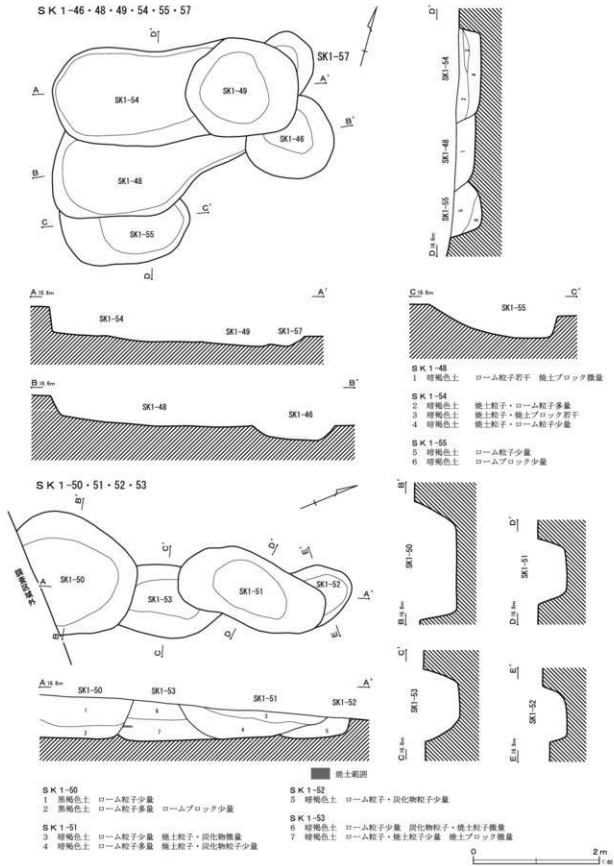
4 暗褐色土 コーム粒子・ロームブロック多量

5 暗褐色土 コーム粒子・ロームブロック多量

(黄色土と互層)



第42図 土坑 (3)



第43図 土壌(4)

第1-42号土壌 (第42図)

L9・I5グリッドに位置する。重複している第1-41・42・44・58・60号土壌のうちの1基である。焼土ブロック、焼土粒子が検出されたが第1-41号土壌と同様に、土壌としたものである。平面形は楕円形で、長径1.78m、短径0.96m、深さ0.20mである。

第1-44号土壌 (第42図)

L9・I5、J5グリッドに位置する。重複している第1-41・42・44・58・60号土壌のうちの1基である。焼土ブロック、焼土粒子が検出されたが第1-41号土壌と同様に、土壌としたものである。平面形は楕円形で、残存する長径1.35m、短径1.10m、深さ0.41mである。

第1-58号土壌 (第42図)

L9・J5グリッドに位置する。重複している第1-41・42・44・58・60号土壌のうちの1基である。焼土粒子が検出されたが第1-41号土壌と同様に、土壌としたものである。平面形は不明で、残存する長径1.00m、短径0.96m、深さは0.37mである。

第1-60号土壌 (第42図)

L9・I5グリッドに位置する。重複している第1-41・42・44・58・60号土壌のうちの1基である。第1-41号土壌と同様に、土壌としたものである。平面形は不明で、長径0.75m、短径0.57m、深さ0.26mである。

第1-45号土壌 (第42図・第44図28)

L9・E2グリッドに位置する。落とし穴状土壌である。平面形は不定形である。断面形が漏斗状となる深い土壌で、短径方向は底部にかけて、幅が狭く作り出されている。長径は2.58m、短径は2.28m、深さは2.25mである。

第44図28は出土した深鉢形土器の胴部の破片である。地文は幅の狭い原体で、単筋LRの縄文を施文している。時期は後期初頭で、称名寺式段階の加曾利E式系土器である。

第1-46号土壌 (第43図)

L9・I5グリッドに位置する。重複している第1-46・48・49・54・55・57号土壌のうちの1基である。重複する土壌の覆土中からは、焼土ブロックや焼土粒子が少量だが検出されている。また第1-49号土壌からは早期の条痕文系の土器が検出されていることから、重複する6基の土壌は炉穴群の可能性が高いが、炉球は検出されず、焼土ブロック、焼土粒子も少量であることから、土壌とすることとした。

平面形はほぼ円形と考えられる。残存する長径1.40m、短径は1.32m、深さは0.71mである。

第1-48号土壌 (第43図)

L9・I4、I5グリッドに位置する。重複している第1-46・48・49・54・55・57号土壌のうちの1基である。覆土には焼土ブロックが微量含まれていたが、第1-46号土壌と同様に、土壌としたものである。

平面形は不明で、残存する長径3.15m、短径1.10m、深さ0.53mである。

第1-49号土壌 (第43図・第44図29・30)

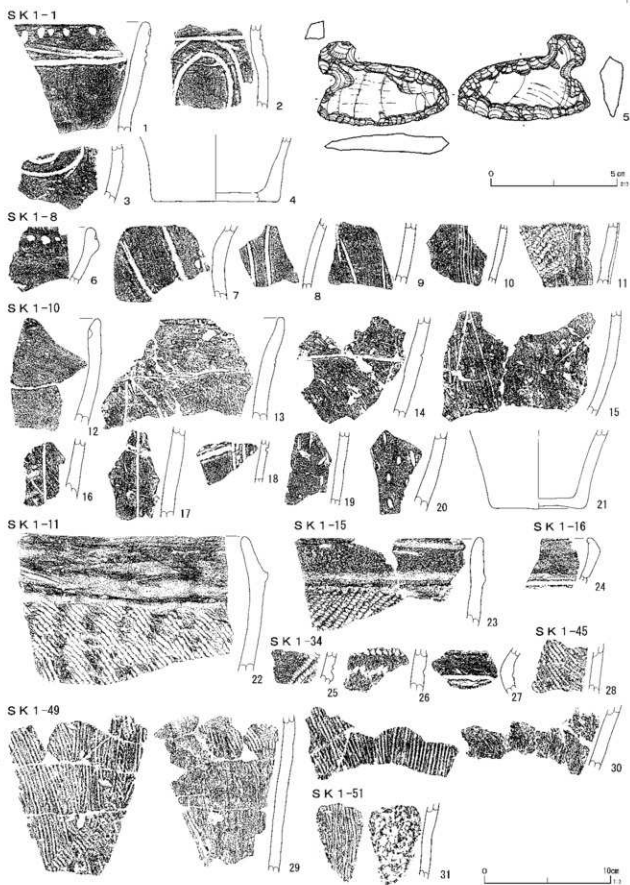
L9・I5グリッドに位置する。重複している第1-46・48・49・54・55・57号土壌のうちの1基である。覆土中からは、早期の条痕文系の土器が出土したが、第1-46号土壌と同様に、土壌としたものである。

平面形は楕円形で、長径1.79m、短径は1.55m、深さは0.58mである。

第44図29・30は出土した胴下半部の土器の破片である。同一個体で、両面に条痕が施文されている。早期後葉の条痕文系土器である。

第1-54号土壌 (第43図)

L9・I4、I5グリッドに位置する。重複している第1-46・48・49・54・55・57号土壌のうちの1基である。覆土には焼土ブロック、焼土粒子が含まれていたが、第1-46号土壌と同様に、土壌としたものである。



第44圖 土坑出土遺物

平面形は楕円形で、残存する長径2.07m、短径1.45m、深さは0.53mである。

第1-55号土壌 (第43図)

L9・I4、I5グリッドに位置する。重複している第1-46・48・49・54・55・57号土壌のうちの1基である。第1-46号土壌と同様に、土壌としたものである。

平面形は楕円形で、残存する長径2.10m、短径0.76m、深さは0.60mである。

第1-57号土壌 (第43図)

L9・I5グリッドに位置する。重複している第1-46・48・49・54・55・57号土壌のうちの1基である。第1-46号土壌と同様に、土壌としたものである。

平面形は不明で、残存する長径0.99m、短径0.33m、深さは0.62mである。

第1-47号土壌 (第41図)

L9・I5グリッドに位置する。第1-51・52号土壌などが隣接している。覆土からは焼土ブロックや焼土粒子が検出されている。炉穴である可能性は高いが、遺物が出土せず明確な炉床も認められないため、土壌としたものである。

平面形は楕円形で、長径1.60m、短径1.06m、深さは0.32mである。

第1-50号土壌 (第43図)

L9・J5グリッドに位置する。重複している第1-50・51・52・53号土壌のうちの1基である。重複する土壌の覆土中には、焼土ブロックや焼土粒子、炭化物が少量含まれており、第1-51号土壌からは早期の条痕文系土器が出土している。それらから、炉穴群である可能性が高いと考えられるが、炉床は検出されず、遺物もごく少量であることから、土壌とすることとしたものである。

平面形は楕円形で、残存する長径は1.90m、短径は1.60m、深さは0.66mである。

第1-51号土壌 (第43図・第44図31)

L9・I5、J5グリッドに位置する。重複し

ている第1-50・51・52・53号土壌のうちの1基である。早期の条痕文系土器が出土したが、第1-50号土壌と同様に、土壌としたものである。

平面形は楕円形で、長径2.40m、短径1.05m、深さ0.48mである。

第44図31は出土した土器である。胴部の破片で、外面には条痕が施文されている。内面は器面が剝落しており不明である。早期後葉の条痕文系土器である。

第1-52号土壌 (第43図)

L9・I5、J5グリッドに位置する。重複している第1-50・51・52・53号土壌のうちの1基である。

平面形は不明で、長径0.89m、短径0.48m、深さ0.38mである。

第1-53号土壌 (第43図)

L9・J5グリッドに位置する。重複している第1-50・51・52・53号土壌のうちの1基である。覆土には焼土ブロックや焼土粒子が少量含まれていたが、第1-50号土壌と同様に、土壌としたものである。

平面形は不明で、残存する長径1.14m、短径0.85m、深さ0.65mである。

第1-59号土壌 (第41図)

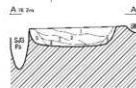
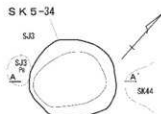
L9・C4グリッドに位置する。第1-5・7号溝跡と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.10m、短径0.70m、深さは0.70mである。

第5-34号土壌 (第45図)

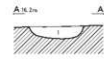
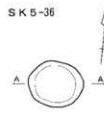
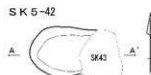
L8・F4グリッドに位置する。南側の一部が第5-3号住居跡と重複する。また北西側には第5-44号土壌が隣接している。平面形は楕円形で、長径は1.36m、短径は1.22m、深さは0.32mである。

第5-36号土壌 (第45図)

L8・F3グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.88m、短径0.72m、深さ0.21mである。



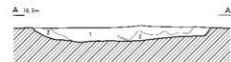
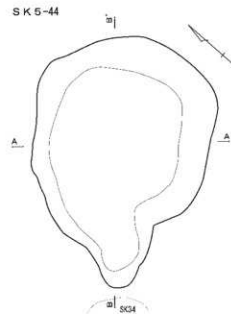
- SK 5-34
- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭上粒子少量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子多し ロームブロック・炭化物粒少量
 - 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 - 4 暗褐色土 ローム粒子多し ロームブロック少量
 - 5 暗褐色土 ローム粒子多量
 - 6 暗褐色土 ロームブロック少量多量



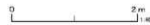
- SK 5-36
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 3 暗褐色土 炭化物粒少量
 - 4 暗褐色土 炭化物粒少量
 - 5 暗褐色土 炭化物粒少量
 - 6 暗褐色土 炭化物粒少量



- SK 5-37
- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒少量
 - 2 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 3 暗褐色土 ローム粒子多量
 - 4 暗褐色土 ロームブロック少量

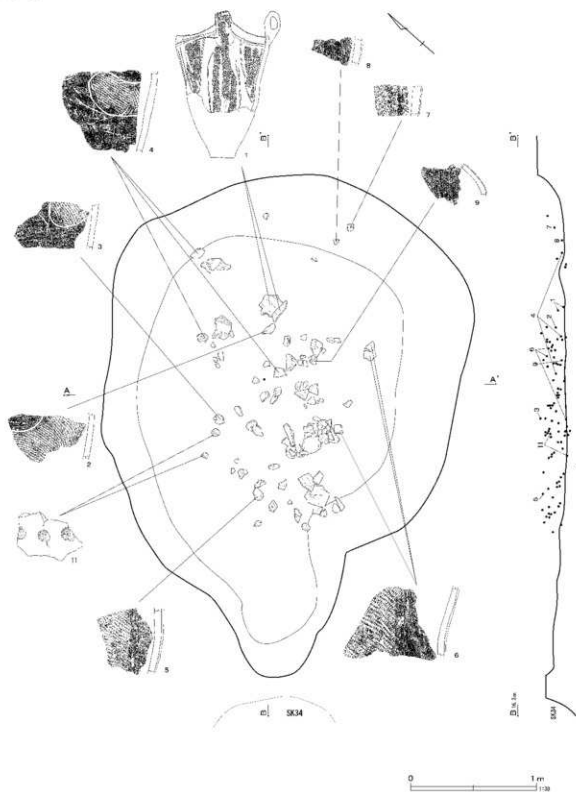


- SK 5-44
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 炭化物粒子少量
 - 3 暗褐色土 炭化物粒子少量
 - 4 暗褐色土 炭化物粒子少量
 - 5 暗褐色土 炭化物粒子少量
 - 6 暗褐色土 炭化物粒子少量

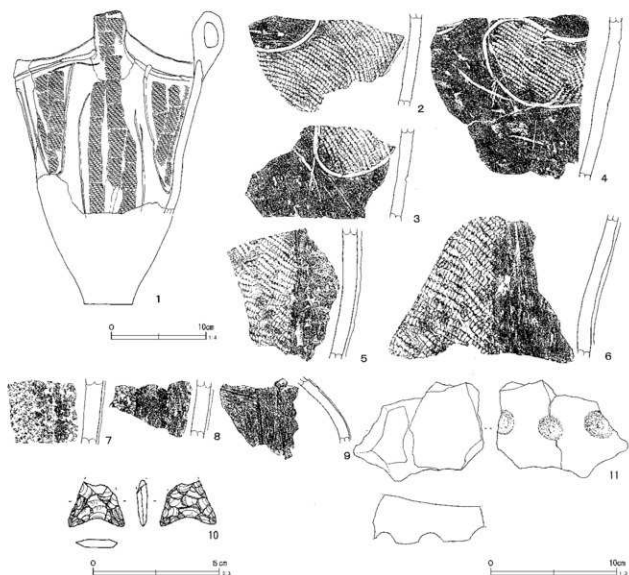


第45図 土壌 (5)

SK5-44



第46图 第5-44号土城遺物出土状況



第47図 第5-44号土壌出土遺物

第5-37号土壌 (第45図)

L 8・F 2 グリッドに位置する。第5-5号住居跡と重複している。平面形はほぼ円形で、長径0.85m、短径0.71m、深さ0.33mである。

第5-42号土壌 (第45図)

L 8・D 2、E 2 グリッドに位置する。西側部分を近世の第5-43号土壌と重複して、攪乱されている。平面形は楕円形と考えられ、残存する長径0.78m、短径0.75m、深さは0.22mである。

第5-44号土壌 (第45・46図、第47図1~11)

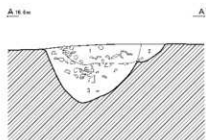
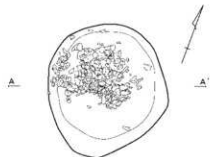
L 8・F 4 グリッドに位置する。第5-3号住居跡、第5-34号土壌の北東側に隣接している。当初

は住居跡としていたが、炉跡やピットが検出されないことや、住居跡としては小規模であることから土壌としたものである。平面形は不定形で、長径4.00m、短径2.80m、深さは0.24mである。

遺物は覆土中から比較的多く検出された(第46図)が、覆土の上部は削平されていると考えられ、完形の土器などは出土しなかった。

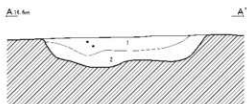
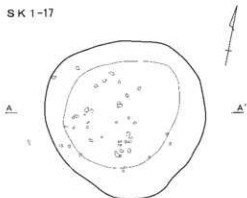
第47図1~9は出土した土器である。1~8は深鉢形土器の破片である。1は器形が復元できたものである。口縁部は波状口縁で、波頂部には橋状把手が貼付され、把手部表面にも地文が施文される。把手はやや斜めに捻って貼付されている。

SK 1-4



- SK 1-4
 1 赤褐色土 炭化物粒子やや多量
 2 暗褐色土 炭化物粒子やや多量 黄色スロリア少量
 3 赤土 小片焼石

SK 1-17



- SK 1-17
 1 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物粒子少量
 2 暗褐色土 二枚層状ローム層 炭化物粒子少量



第48図 集石土壇 (1)

施文された文様は岩坪類と考えられるが、沈線によって施されている。沈線は細く、文様も途切れがちである。地文は単節LRの縄文である。2～4は同一個体の胴下半部の破片である。沈線によって大柄のJ字文が施され、内側には単節LRの縄文が充填されている。5～8は微隆起線状の隆帯を貼付する胴部の破片である。5～7は1段懸垂文類で、8は岩坪類と考えられる。地文として7が単節RLの縄文、他は単節LRの縄文を施している。9は瓢形土器の破片と考えられる。

第47図10・11は出土した石器である。10は先端部を欠損する無茎の石鏃である。11は石皿の破片で、裏面には複数の凹部が認められる。

遺物の時期は中期末葉から後期初頭で、加曾利EIV式である。

(3) 集石土壌

第1-4号集石土壌 (第48図・第49図1・2)

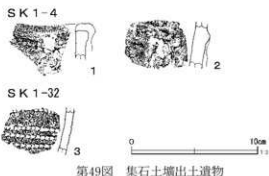
L8・D8グリッドに位置する。平面形はほぼ円形を呈する。長径は1.03m、短径は0.97m、深さは0.5mである。すり鉢状となる土壌である。焼礫は土壌の中央にまとまりを持つように分布していたが、覆土中では上層から下層まで含まれており面的には密集して検出されていない。

検出された礫は、最大長3～6cm、重さ20～40gがほとんどを占め、10cm以上のものは検出されなかった。礫の総重量は8488.11gで、そのうち砂岩が7090.92gで83%を占め、次に多いホルンフェルスが361.04gで4%であった。

第49図1・2は焼礫中に混入して出土した、深鉢形土器の破片である。1は口縁部、2は胴部の破片である。中期中葉の阿玉台式である。

第1-17号集石土壌 (第48図)

L8・F8グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.30m、短径1.24m、深さ0.24mである。焼礫は土壌内から散漫に検出され、覆土中も上層から下層までまとまりなく分布していた。



第49図 集石土壌出土遺物

検出された焼礫は最大長3～5cm、重さ10～20g程度で、5cmを超えるものは検出されなかった。礫の総重量は513.20gで、そのうちチャートが211.01gで41%、砂岩が181.89gで35%である。

第1-20号集石土壌 (第50図)

L8・E8グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.53m、短径1.42m、深さ0.38mである。焼礫は平面的には土壌中央部にまとまりを持つが、覆土中からは上層から下層まで、まとまりなく分布している。

検出された焼礫は最大長3～6cm、重さ10～30g程度で、7cmを超えるものはない。礫の総重量は2385.15gで、そのうち砂岩が1841.55gで77%、ホルンフェルスが356.36gで15%である。

第1-32号集石土壌 (第50図・第49図3)

L8・F10グリッドに位置する。平面形は不定形を呈する。長径は1.52m、短径は1.36m、深さは0.3mである。焼礫は平面的には土壌中央部にまとまりを持つが、覆土中は上層から下層までまとまりなく分布している。

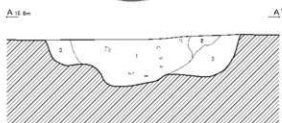
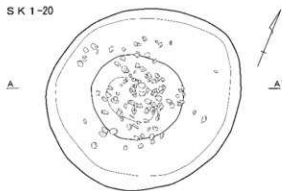
検出された焼礫は最大長3～6cm、重さ10～50g程度で、8cmを超えるものはなかった。礫の総重量は3410.74gで、そのうち砂岩は2224.44gで65%、ホルンフェルスは388.63gで11%を占める。

第49図3は焼礫中から検出された土器である。器面には角押文が沈線状に施文されている。中期中葉の猪沢式である。

第5-1号集石土壌 (第51図)

L8・G7、G8グリッドに位置する。南側で

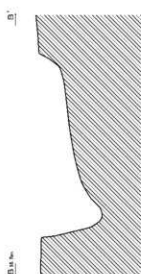
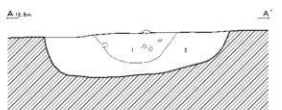
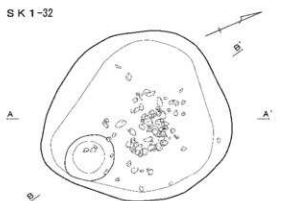
SK 1-20



- SK 1-20
 1 暗褐色土 焼土粒丁若干 コーラム粒丁数個
 2 暗褐色土 焼土粒丁少量 コーラム粒丁若干
 3 暗褐色土 焼土粒丁・コーラム粒丁少量



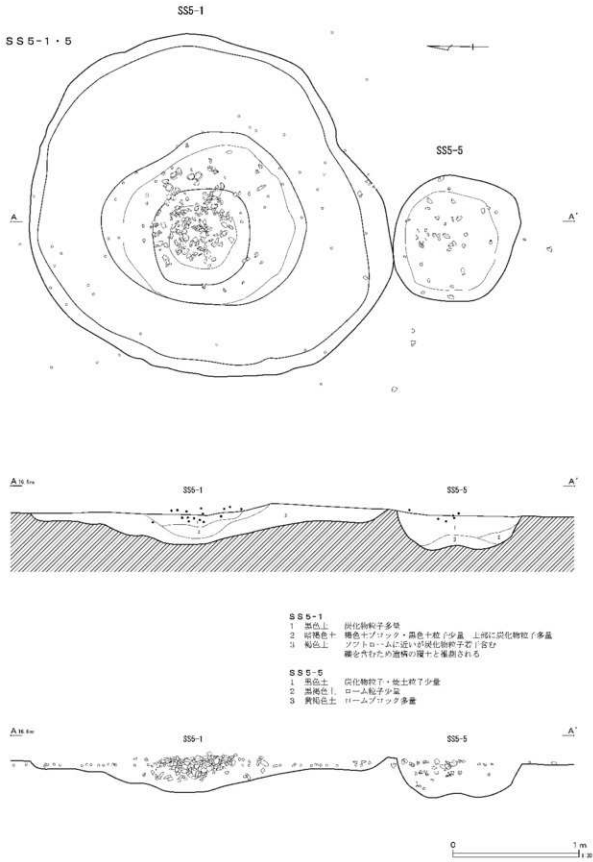
SK 1-32



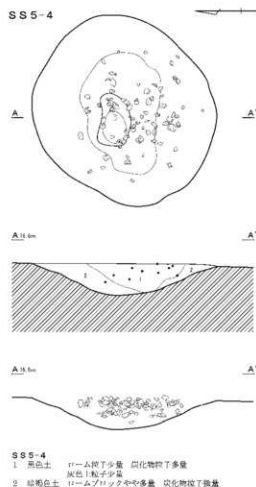
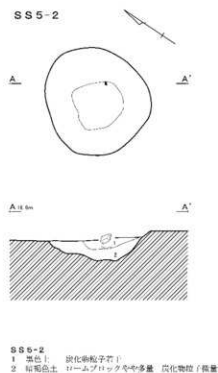
- SK 1-32
 1 暗褐色土 コーラム粒丁・コーラムブロック多数
 2 暗褐色土 コーラムブロック若干

0 1m
1:30

第50図 集石土壇(2)



第51図 集石土坑 (3)



第52図 集石土壌 (4)



第5-5号集石土壌と接している。平面形は不定形で、長径2.84m、短径2.70m、深さ0.24mである。焼礫は土壌中央部に密集して分布し、覆土中では、上層に集中している。焼礫は最大長3~6cm、重さ10~20g程度で、7cmを超えるものはなかった。礫の総重量は6476.2gである。

第5-2号集石土壌 (第52図)

L8・G8グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径0.84m、短径0.80m、深さ0.16mである。焼礫は土壌から32点検出され、1点の重さ10~20g程度の礫で、総重量は624.2gである。

第5-3号集石土壌 (第53図)

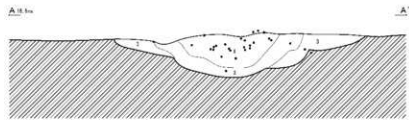
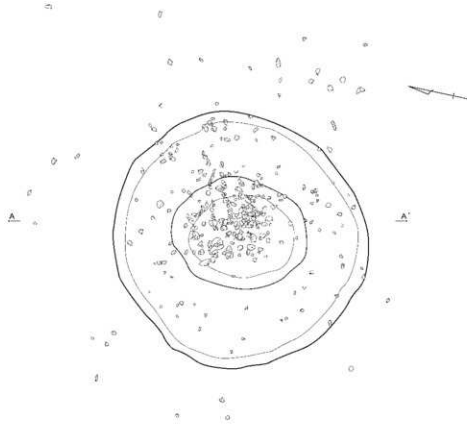
L8・G8、H8グリッドに位置する。平面形

はほぼ円形で、径2.02m、深さ0.34mである。焼礫は土壌中央に多く分布するが、周辺1m四方にも散らばって検出されている。覆土上層に焼礫は集中し、最下層からはほとんど出土しない。焼礫は最大で長さ8cm、重さ10~20g程度で、10cmを超えるものはない。礫の総重量は5585.7gである。

第5-4号集石土壌 (第52図)

L8・H8グリッドに位置する。平面形は不定形で、長径1.50m、短径1.44m、深さ0.25mである。焼礫は土壌の中央に面的には散漫に検出された。覆土上層から主に出土している。焼礫は最大で長さ7cm、重さ10~20g程度で、10cmを超えるものはなかった。礫の総重量は3227.5gである。

SS5-3



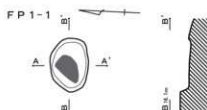
- SS5-3
- 1 褐色土 ①--土粒子少量 炭化物粒子若干
 - 2 暗褐色土 ②--土粒子中程度量 炭化物粒子少量
 - 3 暗黄褐色土 ③--土粒子多量 炭化物粒子少量



第53回 集石土墳 (5)

第5-5号集石土塙 (第51図)

L8・G7、G8グリッドに位置する。北側で第5-1号集石土塙と接している。平面形は不定形で、長径1.00m、短径0.93m、深さは0.28mである。焼礫は散漫に分布して検出された。焼礫は覆土上層からほとんど検出されている。焼礫は最大で長さ6cm、重さ10~20g程度であった。礫の総重量は621.8gである。



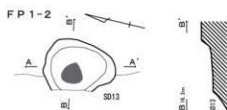
FP1-1
1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量 焼土ブロック少量
2 赤褐色土 焼土ブロック箱

(4) 炉穴

炉穴は6基確認されている。第1地点では周辺が攪乱されており、炉穴は単独で確認された。第7地点では炉穴4基が連結して検出され、1群を構成していた。遺物は出土しなかったが、早期に属するものと考えられる。

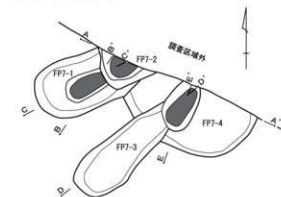
第1-1号炉穴 (第54図)

L9・C3グリッドに位置する。平面形は不定

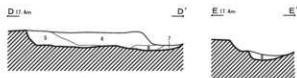


FP1-2
1 暗褐色土 ローム粒子多量
2 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量 炭化物粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物粒子微量

FP7-1・2・3・4



■ 焼土



FP7-1
1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量 焼土・炭化物粒子若干
2 暗褐色土 ローム粒子・焼土ブロック多量 焼土粒子少量 炭化物粒子若干

FP7-2
3 赤褐色土 焼土粒子・焼土ブロック少量

FP7-3
4 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子若干
5 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物粒子若干
6 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量 焼土ブロック若干
7 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子若干
8 暗褐色土 焼土ブロック・焼土粒子多量

FP7-4
9 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物粒子若干



第54図 炉穴

形で、長径0.85m、短径0.60m、深さ0.10mである。底面は焼土ブロック化しており、炉床と考えられる。

第1-2号炉穴 (第54図)

L9・D3グリッドに位置する。近世の第1-13号溝跡によって西側部分が壊されている。平面形は不定形で、残存する長径1.10m、短径0.80m、深さ0.25mである。覆土上層からは、焼土がまとめて検出されている。

第7-1・2・3・4号炉穴 (第54図)

K9・H1グリッドに位置する。北東側は調査区域外となるため検出されなかった。第7-1～4号炉穴は、連結して3.3m×2.1mほどの範囲で検出されたもので、同一の炉穴群と考えられる。

第7-1号炉穴の平面形は楕円形で、残存する長径1.60m、短径0.90m、深さは0.28mである。

第7-2号炉穴の平面形は不明で、残存する長径0.48m、短径0.40m、深さ0.50mである。

第7-3号炉穴の平面形は楕円形で、残存する長径2.45m、短径0.58m、深さ0.32mである。

第7-4号炉穴の平面形は楕円形で、残存する長径1.90m、短径1.05m、深さ0.25mである。

第7-1・2・3号炉穴内には、焼土が範囲を持って確認されており、炉床である可能性が考えられる。

(5) グリッド出土遺物

出土土器

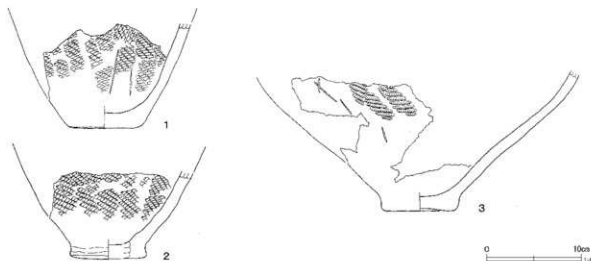
第1群土器 (第56図4～35)

早期後葉の条痕文系土器群を一括する。

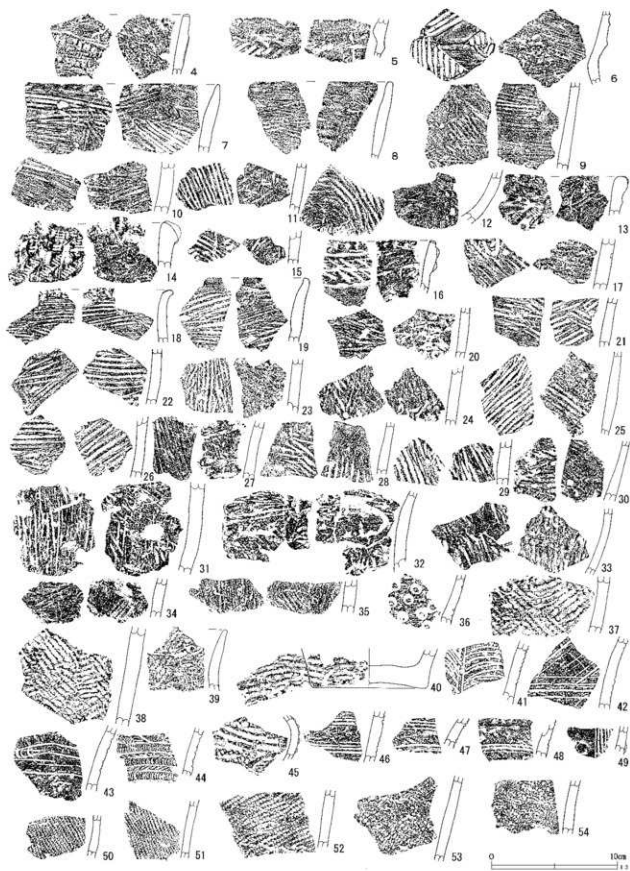
4～6は細隆起線文などの文様を施文するもので、野島式の土器である。4は口縁部の破片で、口唇部には刻みを入れている。並行する細隆起線文を施文し、その内側には細隆起線文をはしご状に施文している。5・6は胴部の破片である。屈曲部で細隆起線文を施文し区画している。5は並行する細隆起線文内、太沈線による集合沈線文を充填している。6の文様も5と同様であるが、屈曲部の区画下に施文される並行する区画文の一边が、細隆起線文ではなく細沈線文によって施文されているものである。

7～12は条痕文系土器の前中期と考えられる土器である。織痕をあまり含まない堅緻な土器で、両面に条痕を施文するものである。7・8は口縁部、9～11は胴部、12は底部の破片である。

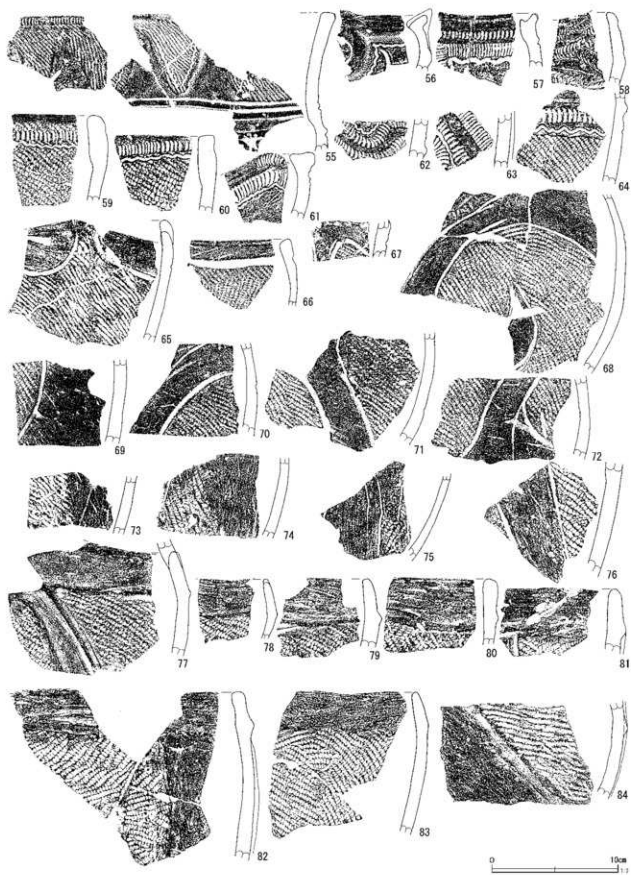
13～30は茅山上層以降の条痕文系土器の後中期と考えられる土器である。13～15は絡条体圧痕が施される土器で、13・14は口縁部の破片で隆帯が貼付される。下沼部式に並行する土器と考えられる。16は口縁部の破片で、2本の隆帯を貼付している。口唇部と隆帯上には貝殻腹縁の刻みを入



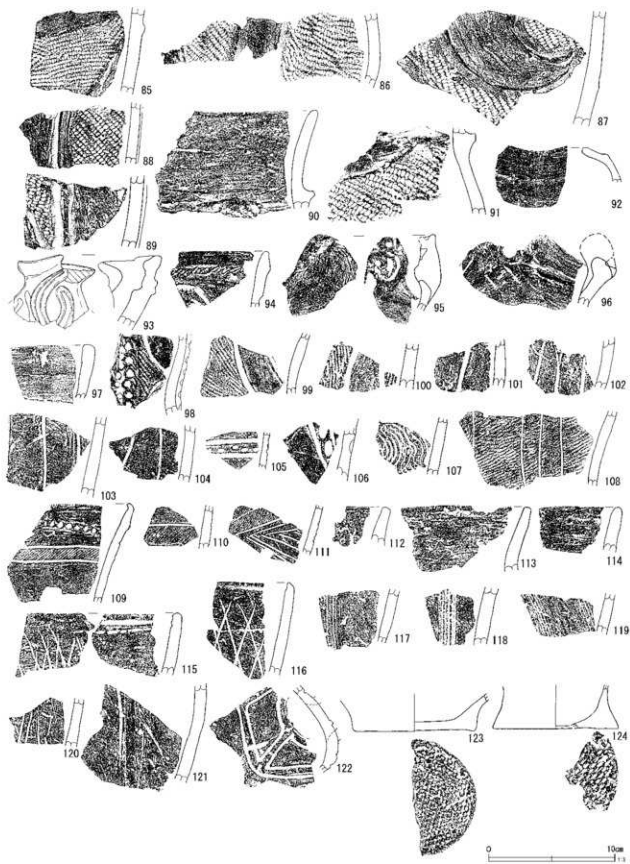
第55図 グリッド出土遺物 (1)



第56図 グリッド出土遺物(2)



第57図 グリッド出土遺物(3)



第58図 グリッド出土遺物(4)

れている。17は円形竹管によって円形刺突文を施文するものである。18の口唇部には貝殻腹縁による刻みか施されている。19～30は内外面に条痕整形のみを施すものである。

31～35は繊維が多量に入る土器で、花積下層式である可能性も考えられる土器である。31～33は胎土が単一的で条痕が粗いものである。

第II群土器 (第56図36～54)

前期の土器群を一括する。

36、38は花積下層式で、胎土に繊維が含まれる土器である。36は円形竹管によって円形刺突文が複数施される土器である。38は無節Lの縄文を、方向を変えて羽状に施文するものである。

37・39・40は黒浜式で、胎土に繊維が含まれる土器である。37は胴部の破片で、地文として無節Lと無節Rを羽状に施文している。39は口縁部の破片で、器面は荒れているが無節Lの縄文が施文される。40は底径9cmの底部の破片である。底部直前まで無節Rの縄文を施文している。

41～54は諸磯式土器である。

41は諸磯a式で、縦位の区画線文間は、平行沈線文を弧状に施文している。

42～48は諸磯b式で、42～44は幅広の沈線文を施文するもので、43・44は沈線文間に爪形文を施文するものである。45は浮線文を貼付するもので、地文は単節RLの縄文を施文している。46～48は複数の単位で構成される平行沈線文を、横方向に施文するもので、47・48は単節RLの縄文を地文としている。

49は諸磯c式で、集合沈線文を施文し、ボタン状の貼付文を施している。

50～54は地文のみで、50・51は単節RLの縄文を、52～54は縁部縄文を施文するものである。

第III群土器 (第55図1～3、第57図55～84、第58図85～92)

中期の土器群を一括する。

55～64は中期中葉の勝坂系土器である。口縁部

や文様の形状に沿って、幅広のキャタピラ状爪形文を施文する。キャタピラ状爪形文には、鋸歯状の沈線文を縁取る。55～61は口縁部、62～64は胴部の破片である。56はペン先状の工具で、キャタピラ状に施文するものである。57はキャタピラ文を、ペン先状の工具で鋸歯状に縁取るもので、他と比較し古い様相を持つ土器である。55・59・60・64は地文として単節RLの縄文を施文している。55～64は藤内式と考えられる。

1～3、65～92は後期初頭の加増利E式系土器を含む、中期末から後期初頭の土器群である。

65～76は沈線によって文様を施文する深鉢形土器の破片である。65・66は口縁部の破片で、65は波状口縁で、波頂部を基準として沈線文で口縁部を区画している。地文として燃りのゆるい単節LRの縄文を施文する。66は地文として単節RLの縄文を口縁部直下は横方向に、他は縦方向に施文している。67～76は胴部の破片である。67は逆U字状文を沈線で施文し、文様内には単節LRの縄文を充填している。68～72は、大柄の渦巻き文などを施文するもので、地文は単節LRの縄文である。73～75は沈線が細く途切れるなど、明瞭な沈線文が施文されない。73・74は単節LR、75は単節RLの縄文を地文として施文する。

77～89は微隆起状の隆帯によって文様を施文する深鉢形土器の破片である。77～83は口縁部の破片である。口縁部は幅の狭い無文部で、胴部と微隆起線状の隆帯で区画している。77・81・82は微隆起状隆帯による文様が残存していたもので、77は岩坪類、82・83は1段懸垂文類の文様を持つものであると考えられる。地文は77～79、81～83が単節LRの縄文を、80は単節RLの縄文を施文している。口縁部直下は横方向に施文するものが多い。82は斜めから横方向に地文を施文している。84～89は胴部の破片である。87以外は文様から岩坪類であると考えられる。87は大柄渦巻き文を施文しているもので、渦巻き先端部分は尖らして

施文されている。地文は文様の形状に沿って充填される。地文は84～88が単節L R、89が単節R Lの縄文を施文している。

90・91は両耳壺形土器の破片で、91は地文として単節L Rの縄文を施文する。92は瓢形の注口土器の口縁部の破片であると考えられる。

1～3は底部の破片で、1は深鉢形土器、2・3は壺形土器で、3には赤彩が認められた。

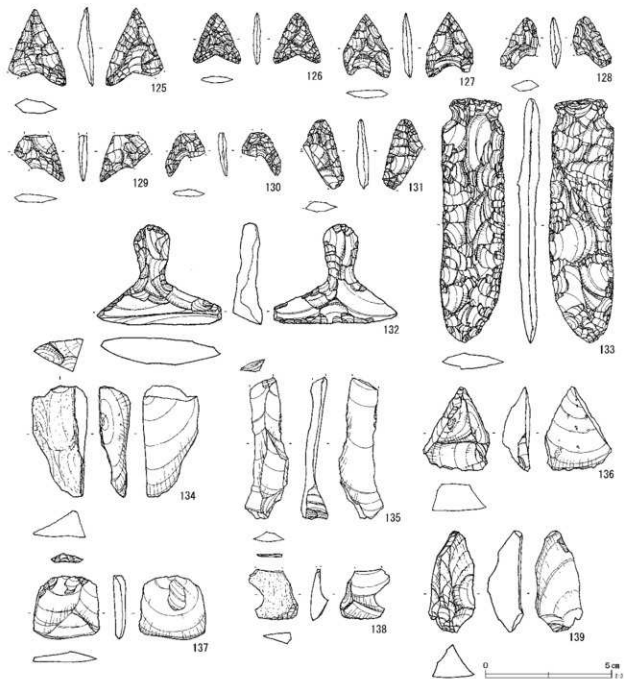
1～3、65～92はほとんどが加曾利EIV式に相当すると考えられ、そのうちには後期初頭に相当する土器も多く含まれていると考えられる。

第IV群土器 (第58図93～124)

後期の土器を一括する。

93～106は後期初頭の称名寺式土器である。中段階以降の土器が出土している。

93～97は口縁部の破片で、93・95・96は波状口



第59図 グリッド出土遺物 (5)

縁の把手部分である。93は把手部分が円筒状に作りだされる。98～106は胴部の破片で、98～100は沈線文様内に縄文が施文されるもので、101～106は無文または列点が施文されるものである。

107～124は後期前葉の堀之内式土器である。

107・108は堀之内1式と考えられる、深鉢形土器の胴部の破片で、108は地文が単節LRの縄文で、器面には3本1組の沈線を垂下させている。

109～121は堀之内2式の深鉢形土器の破片である。109～111は朝筒形の形状をした土器で、沈線文間には単節LRの縄文を充填する。109は口縁部で、口辺部に隆帯を巡らし内面には1条の沈線を施している。110・111は胴部の破片である。112～121は沈線や条線のみを施文する土器である。112～116は口縁部の破片で、115・116は沈線

を格子目状に施文し、内面には1条の沈線を巡らしている。117～119は櫛歯状工具によって文様を施文している。

122は注口土器の破片である。

123・124は底面に網代痕が残存している。

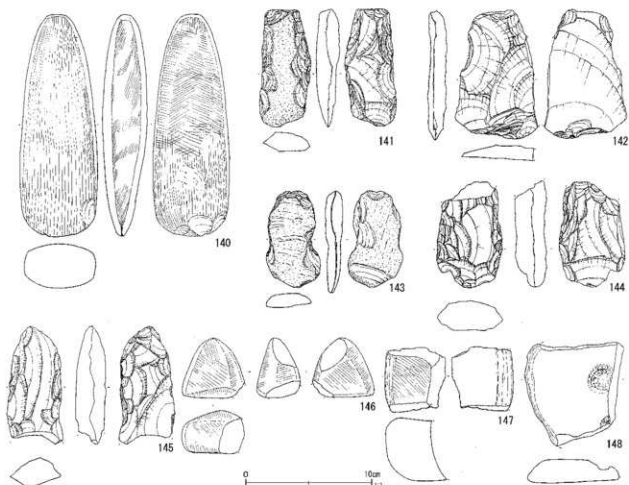
出土石器

石鏃 (第59図125～131)

125～130は無茎の石鏃である。基部に扶りが入るものである。131は基部を欠損する。

石匙 (第59図132・133)

132・133は石匙である。132は刃部がつまみ部に対し横方向に作り出されている。刃部欠損後に再加工を施しており、再加工後も使用されているもので、刃部に磨耗が認められる。133は刃部がつま



第60図 グリッド出土遺物(6)

み部に対し縦方向に作られる、縦長のものである。
調整は丁寧で、器面全体に及んでいる。

剥片 (第59図134~139)

134~139は2次剥離が認められる剥片である。

磨製石斧 (第60図140)

140は定角式の磨製石斧で、完形で出土したものである。器面は丁寧に磨き調整が行われている。

打製石斧 (第60図141~145)

141~145は打製石斧である。141は表面に大きく自然面が残存するものである。143は両面に大

きく自然面が残存するもので、素材の形状を利用して、最小限の調整を加える粗雑な作りとなっている。142・144・145は全面に調整を加えるもので、142は裏面に大きく1次剥離が残存する。

磨石 (第60図146)

146は三角形に加工されるもので、器面全体を使用しているものである。

石皿 (第60図147・148)

147・148は石皿の破片である。148は凹部が複数器面に残存している。

第4表 出土石器観察表

図版No.	出土遺構	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第20図5	第1-1号住居跡	石皿	安山岩	16.65	(14.40)	4.12	1422.8	
第26図3	第5-2号住居跡	剥片	ホルンフェルス	4.95	4.45	1.25	28.9	
第26図4	第5-2号住居跡	剥片	黒色頁岩	4.50	3.80	1.10	12.8	
第33図23	第5-3号住居跡	石鏃	黒色頁岩	3.10	(1.90)	0.50	2.2	
第33図24	第5-3号住居跡	剥片	チャート	2.70	3.55	0.95	7.6	
第33図25	第5-3号住居跡	石皿	安山岩	11.95	7.10	4.50	331.1	
第33図26	第5-3号住居跡	石皿	網雲母片岩	15.20	13.70	3.60	773.7	
第33図27	第5-3号住居跡	石皿	安山岩	18.05	24.70	5.80	2995.3	
第33図28	第5-3号住居跡	石皿	安山岩	13.65	12.30	5.10	910.4	
第33図29	第5-3号住居跡	石皿	安山岩	6.60	8.25	4.05	279.8	
第34図30	第5-3号住居跡	石皿	安山岩	14.05	13.05	7.10	1756.6	
第34図31	第5-3号住居跡	石皿	安山岩	18.35	12.20	7.15	1263.5	
第34図32	第5-3号住居跡	石棒	安山岩 (36.0)	9.70	8.95	3346.2		
第34図33	第5-3号住居跡	石棒	安山岩	3.90	6.70	4.40	93.9	
第34図34	第5-3号住居跡	石棒	緑泥片岩	15.90	9.30	8.00	1875.0	
第4図5	第1-1号土壇	石匙	チャート	3.45	4.25	0.95	14.5	
第47図10	第5-44号土壇	石鏃	安山岩	(1.80)	2.25	0.40	1.5	
第47図11	第5-44号土壇	石皿	安山岩	(7.75)	(10.35)	(4.21)	225.1	
第59図125	グリッド	石鏃	チャート	3.05	(2.30)	0.65	2.5	
第59図126	L 8・F 3	石鏃	黒曜石	2.00	1.90	0.30	0.7	
第59図127	L 8・G 4	石鏃	チャート	2.55	1.90	0.40	1.4	
第59図128	L 8・F 3	石鏃	チャート	2.00	1.55	0.40	0.9	
第59図129	グリッド	石鏃	チャート	(1.90)	(1.95)	(0.35)	0.9	
第59図130	グリッド	石鏃	黒曜石	(1.70)	(1.60)	0.40	0.5	
第59図131	L 8・F 4	石鏃	黒曜石	2.80	1.70	0.50	1.3	
第59図132	グリッド	石匙	チャート	3.95	4.95	1.15	9.6	
第59図133	グリッド	石匙	硬質頁岩	9.70	2.55	0.85	22.9	
第59図134	L 8・A 9	剥片	黒曜石	4.50	2.15	1.20	8.4	
第59図135	グリッド	剥片		(5.10)	1.75	1.05	5.0	
第59図136	L 8・A 7	剥片	黒曜石	3.30	2.65	1.15	7.5	
第59図137	K 8・H10	剥片	頁岩	2.45	2.60	0.50	3.4	
第59図138	K 8・H10	剥片	黒曜石	(2.00)	2.00	0.70	1.3	
第59図139	グリッド	剥片	チャート	4.00	1.85	1.40	8.1	
第60図140	グリッド	磨製石斧	緑色岩	17.50	6.05	3.50	672.1	
第60図141	L 9・D 2	打製石斧	ホルンフェルス	9.25	4.05	1.90	82.0	
第60図142	グリッド	打製石斧	片岩	10.25	(6.50)	1.60	114.6	
第60図143	グリッド	打製石斧	緑泥片岩	7.65	4.30	1.40	60.7	
第60図144	C 8・F 4	打製石斧	ホルンフェルス	(8.35)	5.20	2.50	130.9	
第60図145	グリッド	打製石斧		(9.25)	4.45	2.40	100.5	
第60図146	K 8・H 8	磨石	閃緑岩	4.70	(4.90)	(3.40)	85.3	
第60図147	L 8・G 3	石皿	安山岩	(5.10)	(4.85)	(5.44)	183.3	
第60図148	K 8・H 8	石皿	緑泥片岩	(8.15)	(7.80)	(0.96)	185.8	

4. 近 世

(1) 建物群 (掘立柱建物跡・柵列跡)

第1・5地点の掘立柱建物跡群は、第1-1・2号掘立柱建物跡と第1-3～5号掘立柱建物跡とがL字状に配されており、第1-1号柵列跡を挟んで、第5-1～5号掘立柱建物跡と直線状に並んだ状態で検出された。

第1-1～5号掘立柱建物跡の周辺は、比較的ピットが疎らであるため、ここで想定した5棟は蓋然性が高いと考えられる。第5-1～9号掘立柱建物跡が検出された周辺はピットが多く、ここで想定した掘立柱建物跡以外にも建物が存在した可能性もある。

第1-12号柵列跡などと共に、重複関係にあるものの、第1-14(7-1)・17・28号溝跡で区画された範囲内に存在しており、同一の屋敷地内に存在する2つの掘立柱建物群といえよう。

第7地点の掘立柱建物跡群は、第7-1～3号掘立柱建物跡と第7-1号柵列跡は、第7-2・14・17号溝跡に区画され、第1・5地点の掘立柱建物跡群とは別な一群を形成している。

第1-1号掘立柱建物跡 (第62図)

L8・C7、C8グリッドに位置する。

第1-2号掘立柱建物跡と幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。

母屋の規模は、桁行3間(6.1m)×梁行1間(4.2m)、面積は25.62㎡である。主軸方位はN-65°-Eを指す。柱間は桁行2.0～2.1m(平均2.03m)である。

柱穴の規模は32×36cm～40×58cmの円形または楕円形で、深さは25～40cmと比較的浅い。P6は、柱痕跡(第5層)が確認された。

掘立柱建物跡と柵列の位置から、第1-2号柵列跡は、第1-1号掘立柱建物跡が第1-3・4号掘立柱建物跡のいずれか、もしくは複数に属する可能性が考えられる。第1-1号掘立柱建物跡と第1-2号柵列との距離は2.16mである。

遺物は検出されなかった。

第1-2号掘立柱建物跡 (第63・64図)

L8・C7、C8グリッドに位置する。

第1-1・3号掘立柱建物跡と幾つかのピットが重複するが、新旧関係については不明である。

母屋の規模は、桁行5間(9.9m)×梁行1間(3.9m)、面積は38.61㎡である。主軸方位はN-65°-Eを指す。

柱間は桁行1.8～2.1m(平均1.98m)である。柱穴は、概ね深度が小さいといえる。

柱穴の規模は25×25cm～35×50cmの円形または楕円形で、深さは8～35cmと小規模である。P5・8では、柱痕跡(第6層)が確認された。

第1号柵列跡は、本遺構の西側梁行に平行し、長さも同じである。因みに、両者の距離は0.96mである。第1-1号柵列跡は、第1-2号掘立柱建物跡と第1-1号掘立柱建物跡のいずれか、もしくは両方に属する可能性が考えられる。

P2から、瀬戸・美濃系の播鉢片(第86図1)が1点出土した。

第1-3号掘立柱建物跡 (第65図)

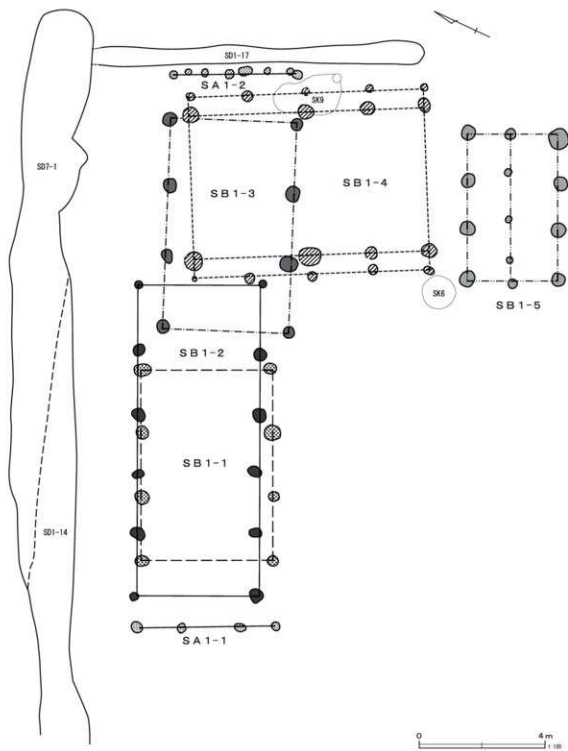
L8・C8グリッドに位置する。

第1-2・4号掘立柱建物跡の幾つかのピットと重複するが、新旧関係については不明である。

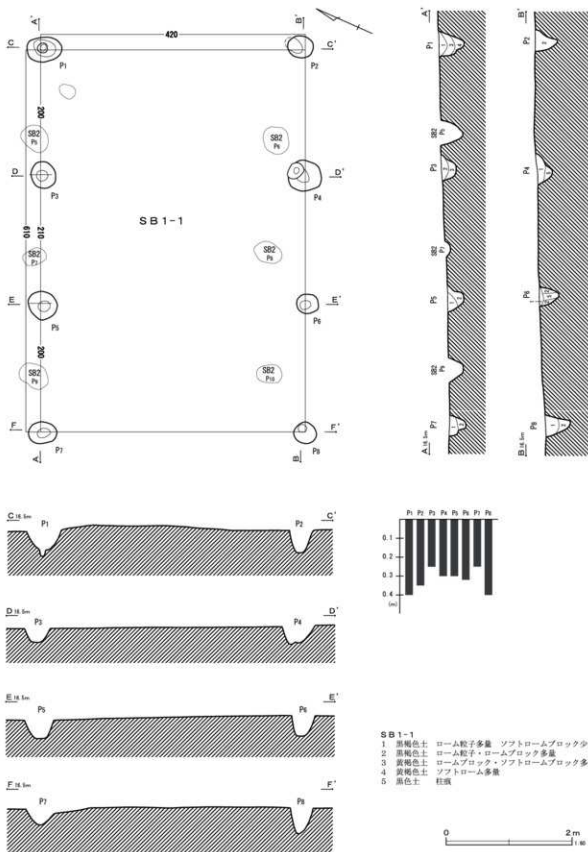
母屋の規模は、桁行3間(6.7m)×梁行1間(4.0m)であり、主軸方位はN-69°-Eを指す。

柱間は桁行2.2～2.3m(平均2.25m)である。柱穴の規模は38×40cm～48×50cmの円形または楕円形で、深さは29～50cmと比較的規模が大きい部類に属す。P1・2・4では、柱痕跡(第7層)が確認された。

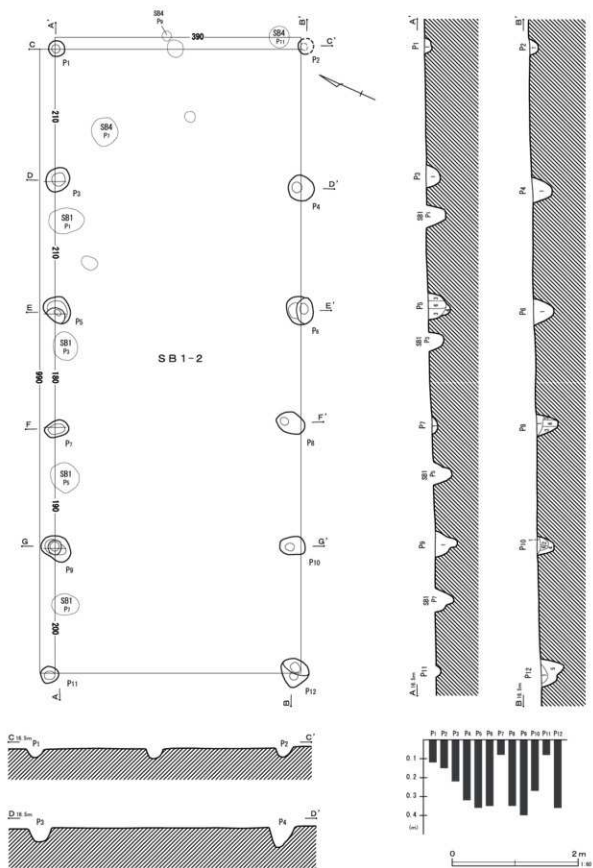
第1-2号柵列跡は、第1-3号掘立柱建物跡の東側梁行に平行(N-22°-W)している。このことから、第1-2号柵列跡は、第1-3号掘立柱建物跡が第1-4号掘立柱建物跡のいずれか、もしくは両方に属する可能性が考えられる。第1-3号掘立柱建物跡と第1-2号柵列との距離は1.5mである。



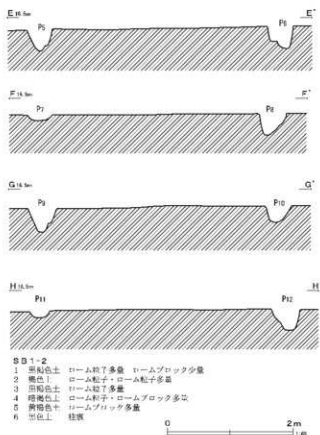
第61图 第1地点掘立柱建物跡配置图



第62図 第1-1号掘立柱建物跡



第63图 第1-2号掘立柱建物跡(1)



第64図 第1-2号掘立柱建物跡(2)

P9 (HP9) からは、「寛永通宝」(第86図2) 1点が出土している。

第1-4号掘立柱建物跡(第66・67図)

L8・C8グリッドに位置する。

第1-3号掘立柱建物跡の幾つかのピットと重複するが、新田関係については不明である。

母屋の規模は、桁行4間(7.5m)×梁行1間(4.6m)、面積は34.5㎡である。東西面に廂をもち、廂までを含めた面積は43.5㎡である。主軸方位はN-27°Wを指す。

母屋の桁行は1.8~3.7m(平均1.93m)、廂部分では1.8~2.0m(平均1.88m)である。

母屋の柱穴の規模は38×48cm~58×75cmの円形または楕円形で、深さは36~56cmと比較的規模が大きい部類に属す。

廂部分の柱穴の規模は14×16cm~32×35cmの

円形または楕円形で、深さは8~50cmと母屋の柱穴より小規模である。

P7の第2層、P15の第4層、およびP16・18の第2層は柱痕跡の可能性がある。

第1-2号柵列跡は、第1-4号掘立柱建物跡の東側桁行に平行(N-26°W)し、さらに梁行規模に合致している。第1-4号掘立柱建物跡と第1-2号柵列との距離は1.2mである。

第1-2号柵列跡は、第1-4号掘立柱建物跡か第1-3号掘立柱建物跡のいずれか、もしくは両方に帰属する可能性が考えられる。

P6・P2から、瀬戸・美濃の陶器皿とかかわり(第86図3・4)が各1点ずつ出土した。

第1-5号掘立柱建物跡(第68図)

L8・C9、D8、D9グリッドに位置する。

他遺構との重複関係は認められなかった。

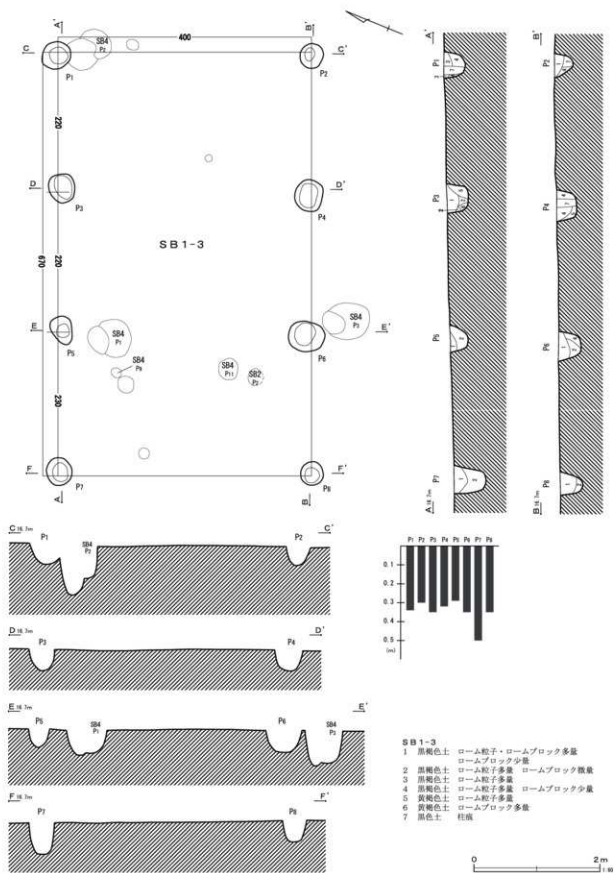
母屋の規模は、桁行3間(4.7m)×梁行2間(2.9m)、面積は13.63㎡の総柱建物跡である。主軸方位はN-67°Eを測る。柱間は桁行1.5~1.7m(平均1.57m)、梁行1.4~1.5m(平均1.45m)である。桁行P1・3・5・7とP2・4・6・8とP9~13では、柱穴の規模が異なっている。

前二者の柱穴規模は、41×45cm~45×54cmの円形または楕円形で、深さ35~65cm、後者では20×23cm~32×38cmの円形または楕円形で、深さ10~31cmと小規模である。床を支えるための柱穴と推定される。

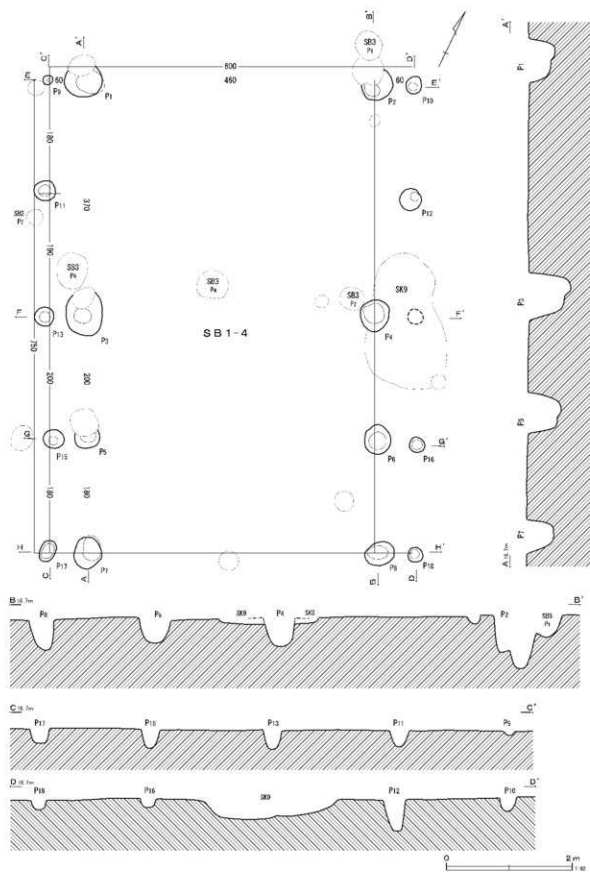
P1・2・4・6・8の第1層は柱痕跡と考えられる。P9~12でも第1層が確認されているが、これらの柱穴については打ち込まれた柱の痕跡と考えたい。

第1-2号柵列跡は、第1-5号掘立柱建物跡の東側梁行に平行(N-26°W)している。この点から、第1-3・1-4号掘立柱建物跡のいずれか、もしくは両方に帰属する可能性が考えられる。

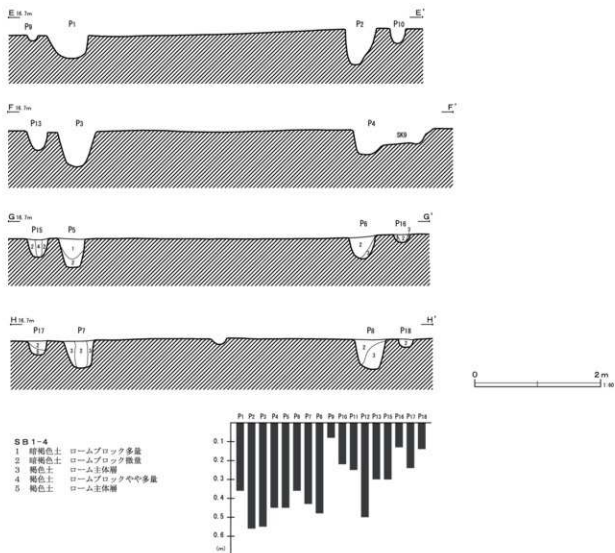
遺物は出土しなかった。



第65図 第1-3号掘立柱建物跡



第66图 第1-4号掘立柱建物跡(1)



第67図 第1-4号掘立柱建物跡(2)

第1-1号柵列跡(第87図)

L 8・C7、D7グリッドに位置する。

他遺構との重複関係は認められなかった。

第1-1・2号掘立柱建物跡の、西側の梁に沿う形で平行関係をもつ、3間分の柵列跡である。各建物跡との距離は、第1-1号掘立柱建物跡と2.16m、第1-2号掘立柱建物跡と0.96m程である。位置関係から推して、両遺構に帰属していたと考えられる。総延長4.3m、柱の通りは比較的良好である。柱穴の規模は25×26cm～32×35cmの円形または楕円形で、深さは10～25cmと規模は小さい。方位はN-24°Wを指す。

遺物は出土しなかった。

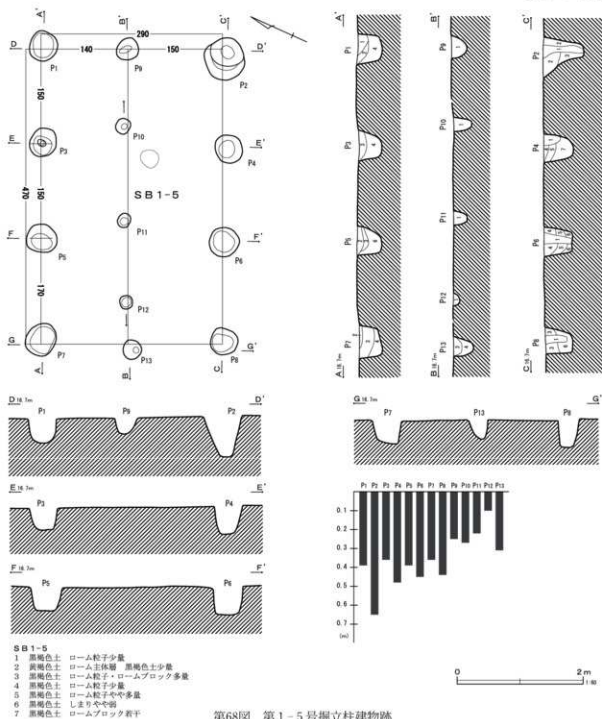
第1-2号柵列跡(第87図)

L 8・C8、C9グリッドに位置する。

他遺構との重複関係は認められなかった。

第1-2号柵列跡は、第1-3号掘立柱建物跡の東側の梁と、第1-17号溝跡に挟まれ平行している。第1-2号柵列跡と第1-3号掘立柱建物跡の北側を、軸方位が同じ第1-14号溝跡が巡っている。第1-3号掘立柱建物跡と第1-17号溝跡との距離は1.9mで、間に第1-2号柵列跡が設けられており、屋敷地の一面を形成していたと考えられる。

第1-2号柵列跡の総延長は4.0mである。柱間が小さいことや、重複しているピットが存在するが、ピットが直列に並んではない部分もあり、造り替えの可能性が考えられる。

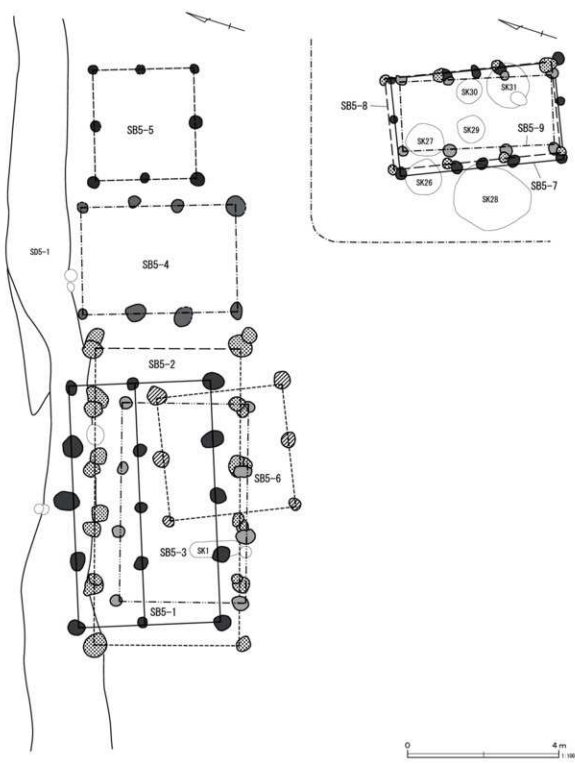


柱穴の規模は20×20cm～25×33cmの円形または楕円形で、深さは10～35cmである。方位はN-25°Wを指す。

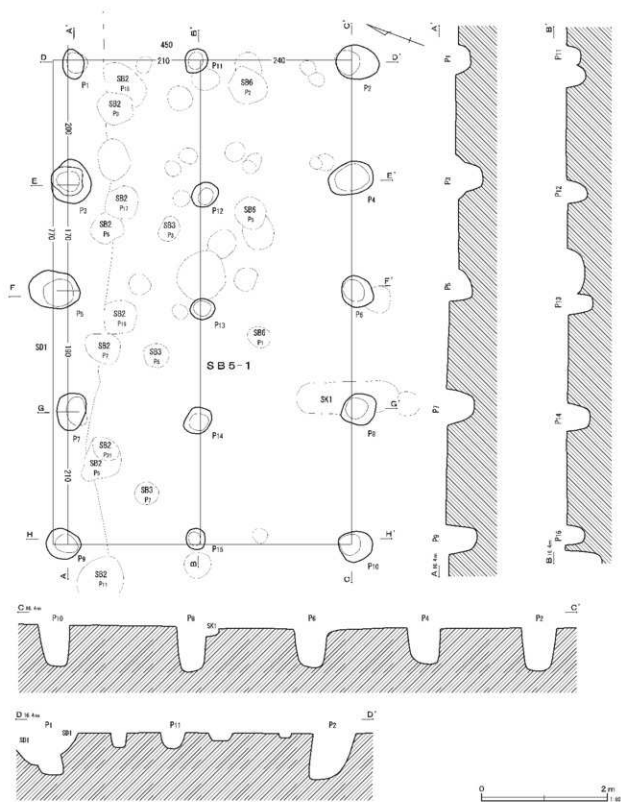
第1-2号柵列跡は、第1-3・5号掘立柱建物跡の梁行及び第1-4号掘立柱建物跡桁行方位に平行し、第1-3号掘立柱建物跡の東側梁行の規模に近似している。これらの点から、第1-2号柵列

跡は第1-3・4号掘立柱建物跡に附属する可能性が考えられる。第1-2号柵列跡と各遺構との距離は、第1-3号掘立柱建物跡と1.5m、第1-4号掘立柱建物跡と1.2m、第1-5号掘立柱建物跡と5.5mである。

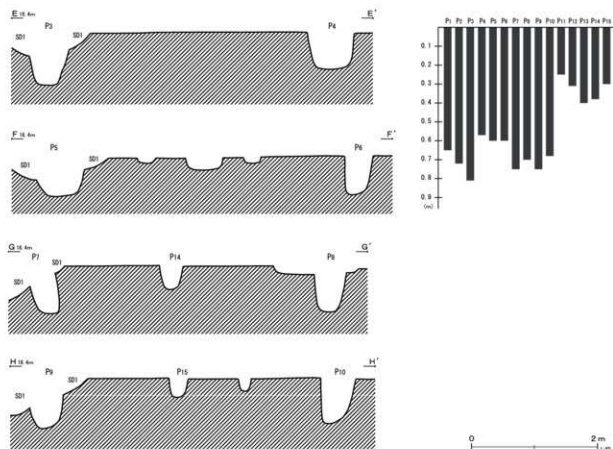
遺物は出土しなかった。



第69图 第5地点掘立柱建物跡配置图



第70图 第5-1号掘立柱建物跡(1)



第71図 第5-1号掘立柱建物跡(2)

第5-1号掘立柱建物跡(第70・71図)

L8・D5グリッドに位置する。

第5-2・3・6号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(7.7m)×梁行2間(4.5m)、面積は34.65㎡の純柱建物である。主軸方位はN-71°-Eを指す。柱間は桁行1.7~2.1m(平均1.93m)、梁行2.1~2.5m(平均2.25m)である。桁行P1・3・5・7・9とP2・4・6・8・10とP11~15では、柱穴の規模が異なっている。

前二者の柱穴規模は35×50cm~58×80cmの円形または楕円形で、深さ58~80cm、後者では30×35cm~38×48cmの円形または楕円形で、深さ25~40cmと共に幅がある

遺物は、P5から鎌の先端部と思われる鉄製品(第86図5)が出土した。

第5-2号掘立柱建物跡(第72・73図)

L8・D5、D6グリッドに位置する。

第5-1・3・6号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係については不明である。

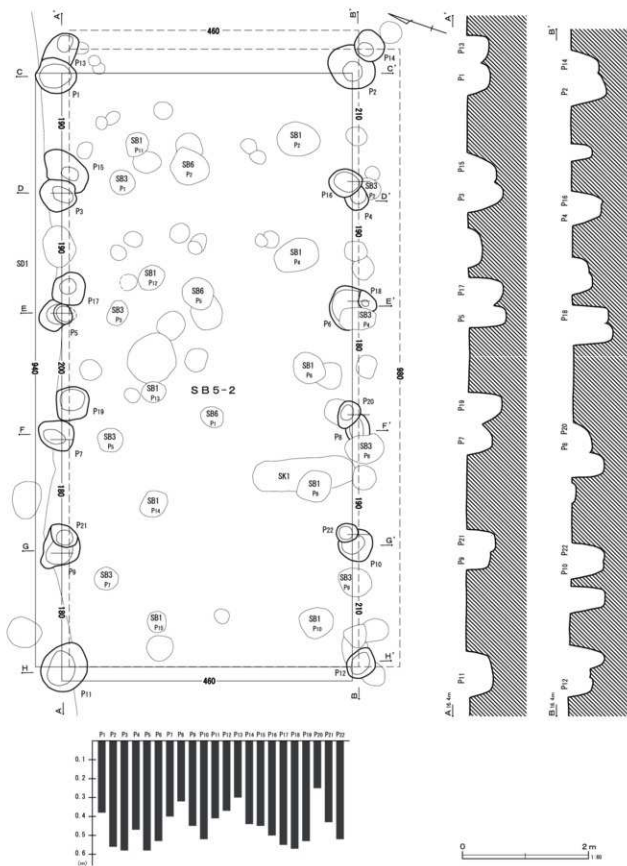
第5-2号掘立柱建物跡は、複数回の建て替えが行われたと考えられる。

1：P1~12で1棟、P11~22で1棟。この場合、P11・12は建て替えの際に柱穴は移動しなかったことになる。

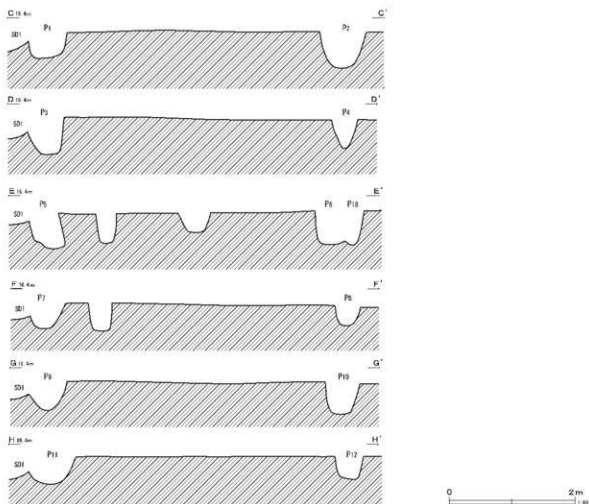
2：P1~10で1棟、P11~P22で1棟。この場合、建て替え時において1間分拡張もしくは縮小したことになる。

建て替えは、以下の4回の可能性がある。

- a：P1~10からなる1×4間の掘立柱建物
- b：P1~12からなる1×5間の掘立柱建物
- c：P13~22からなる1×4間の掘立柱建物



第72图 第5-2号掘立柱建物迹(1)



第73図 第5-2号掘立柱建物跡(2)

d : P11~22からなる1×5間の掘立柱建物

1間は平均1.97mである。柱穴の規模は28×38cm~55×80cmの円形または楕円形で、深さは25~57cmである。

aは母屋の規模は、桁行4間(7.6m)×梁行1間(4.6m)、面積は34.96㎡である。主軸方位はN-73°-Eを指す。柱間は桁行1.8~2.0m(平均1.9m)である。

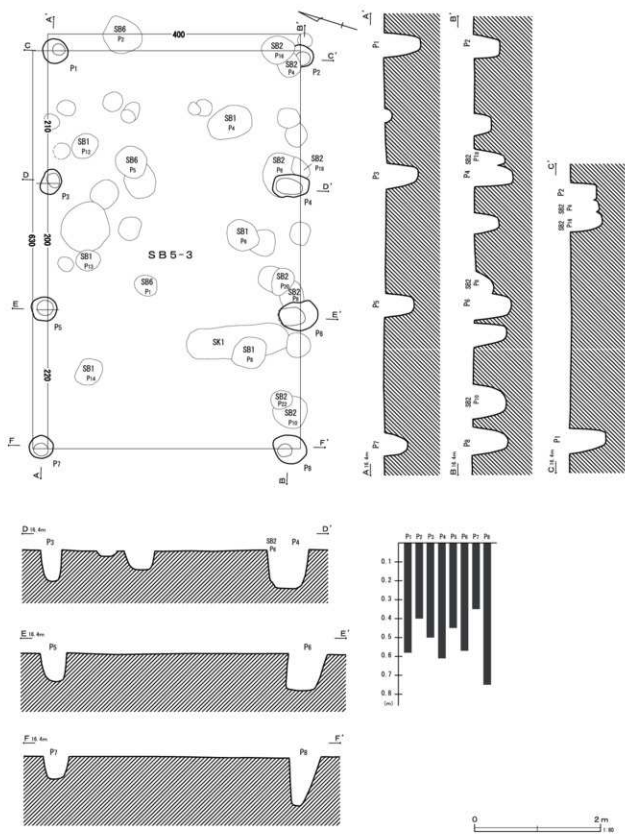
柱穴の規模は35×40cm~75×85cmの円形または楕円形で、深さは25~56cmである。

bは母屋の規模は、桁行5間(9.4m)×梁行1間(4.6m)、面積は46.0㎡である。主軸方位はN-73°-Eを指す。柱間は桁行1.8~2.1m(平均1.87

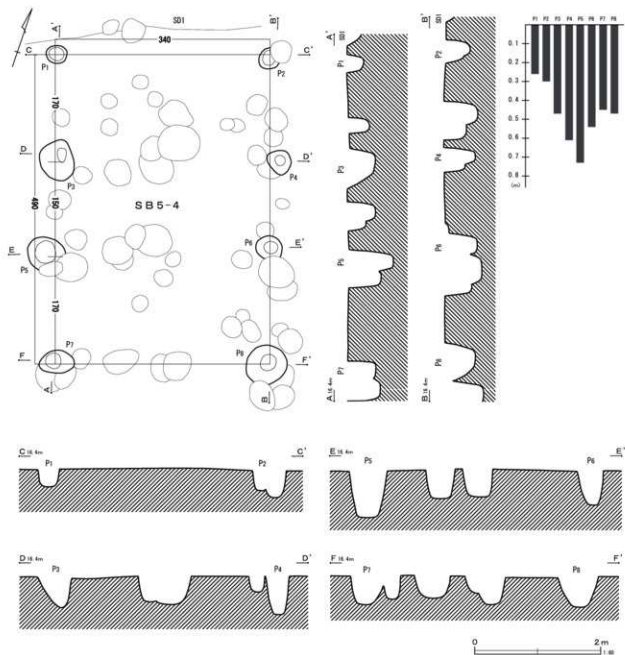
m)である。柱穴の規模は35×40cm~70×82cmの円形または楕円形で、深さは25~56cmである。

cは母屋の規模は、桁行4間(7.7m)×梁行1間(4.6m)、面積は36.34㎡である。主軸方位はN-73°-Eを指す。柱間は桁行1.8~2.2m(平均1.95m)である。柱穴の規模は28×38cm~55×80cmの円形または楕円形で、深さは25~57cmである。

dは母屋の規模は、桁行5間(9.8m)×梁行1間(4.6m)、面積は46.0㎡である。主軸方位はN-73°-Eを指す。柱間は桁行1.8~2.2m(平均1.87m)である。柱穴の規模は25×30cm~43×45cmの円形または楕円形で、深さは28~48cmである。



第74图 第5-3号掘立柱建物跡



第75図 第5-4号掘立柱建物跡

aとbの場合の柱穴は、cとdの場合の柱穴よりやや規模が大きいといえる。

遺物は、P2からは肥前系の磁器碗、P13からは肥前系磁器皿と砥石、P19からはかわらけと、刀子片と思われる鉄製品が出土している（第86図6～8）。

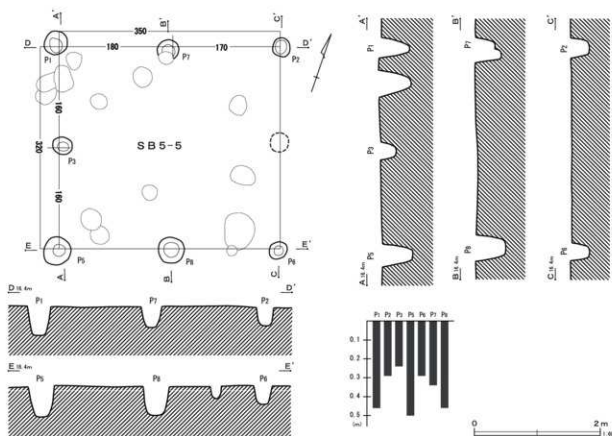
第5-3号掘立柱建物跡（第74・86図）

L3・D4グリッドに位置する。

第5-1・2・6号掘立柱建物跡のほか、多数のビットと重複するが、新旧関係については不明である。

母屋の規模は、桁行3間(6.3m)×梁行1間(4.0m)、面積は25.2㎡である。主軸方位はN-76°-Eを指す。柱間は桁行2.0～2.2m(平均2.1m)である。

柱穴の規模は25×30cm～45×56cmの円形また



第76図 第5-5号掘立柱建物跡

は楕円形で、深さは35～75cmというように、平面規模・深度ともに幅がある。

第5-4号掘立柱建物跡 (第75図)

L 8・C 6、D 6グリッドに位置する。

建物の範囲内に多数のピットが検出されているが、他の掘立柱建物跡との重複関係は認められなかった。

母屋の規模は、桁行3間(4.9m)×梁行1間(3.4m)、面積は16.7m²である。主軸方位はN-17°-Wを指す。柱間は桁行1.4～1.9m (平均1.63m)である。

柱穴の規模は29×35cm～60×65cmの円形または楕円形で、深さは26～73cmというように、平面規模・深度ともに幅がある。

遺物は出土しなかった。

第5-5号掘立柱建物跡 (第76図)

L 8・C 6、D 6グリッドに位置する。

建物の範囲内に多数のピットが検出されているが、他の掘立柱建物跡との重複関係は認められなかった。

母屋の規模は、桁行2間(3.5m)×梁行2間(3.2m)、面積は11.2m²である。主軸方位はN-71°-Eを指す。柱間は桁行1.7～1.8m(平均1.75m)、梁行1.6mである。なお、P 2とP 6の間に柱穴は確認されなかった。

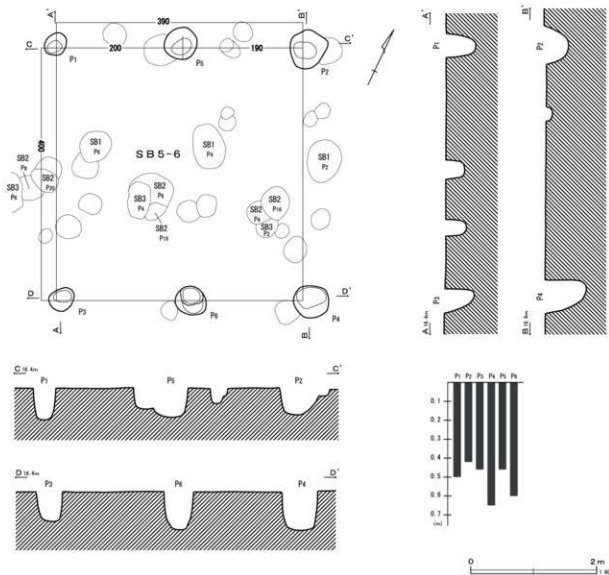
柱穴の規模は28×30cm～43×45cmの円形または楕円形で、深さは24～50cmである。

遺物は出土しなかった。

第5-6号掘立柱建物跡 (第77図)

L 8・D 5グリッドに位置する。

第5-1～3号掘立柱建物跡および多数のピットと重複するが、いずれも新旧関係は不明である。



第77図 第5-6号掘立柱建物跡

母屋の規模は、桁行1間(4.0m)×梁行2間(3.9m)、面積は15.6㎡である。主軸方位はN-26°-Wを指す。柱間は、桁行1.9~2.1m(平均2.0m)である。

柱穴の規模は32×35cm~55×60cmの円形または楕円形で、深さは42~65cmである。

重複関係にある第1~3号掘立柱建物跡とは、建物の形態を異にしている。

遺物は出土しなかった。

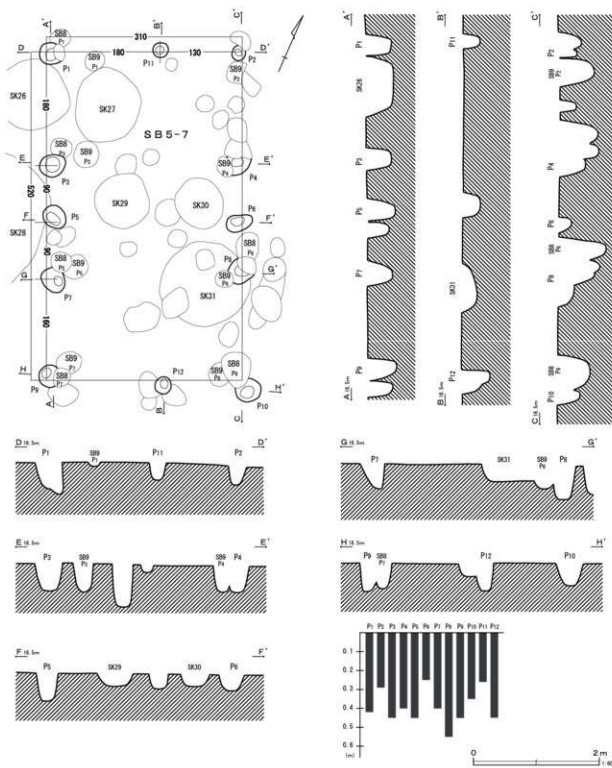
第5-7号掘立柱建物跡 (第78図)

L 8・E 6、E 7、F 7グリッドに位置する。

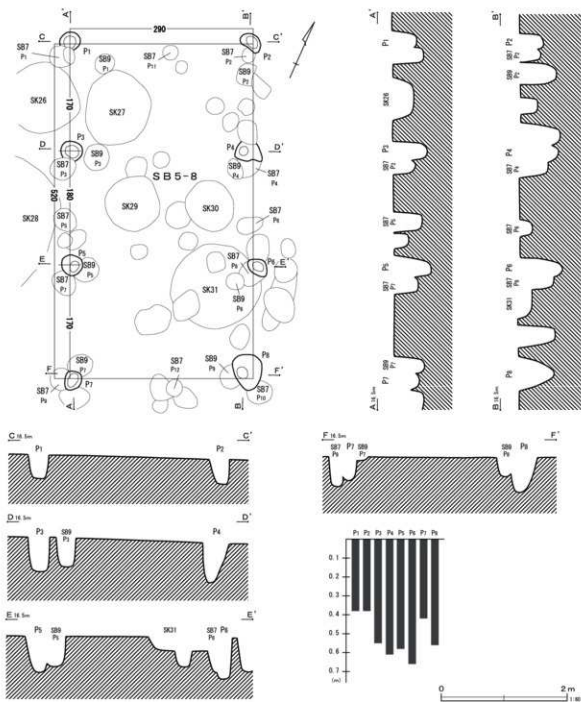
第5-8・9号掘立柱建物跡および、多数のピットと重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行4間(5.2m)×梁行2間(3.1m)、面積は16.12㎡である。主軸方位はN-24°-Wを指す。柱間は桁行0.9~1.8m(平均1.3m)、梁行1.2~1.9m(平均1.55m)である。

なお、P 3とP 5間、P 5とP 7間、P 4とP 6間、P 6とP 8間はいずれも0.9mとなっている。



第78图 第5-7号掘立柱建物跡



第79図 第5-8号掘立柱建物跡

柱穴の規模は20×25cm～35×53cmの円形または楕円形で、深さは26～55cmである。

梁行2間で、桁行の2間目・3間目の柱間が短いことを除けば、第5-8号掘立柱建物跡と規模・主軸方向が極めて類似しており、柱穴も位置的に重複しているため新旧関係は不明であるが、建て

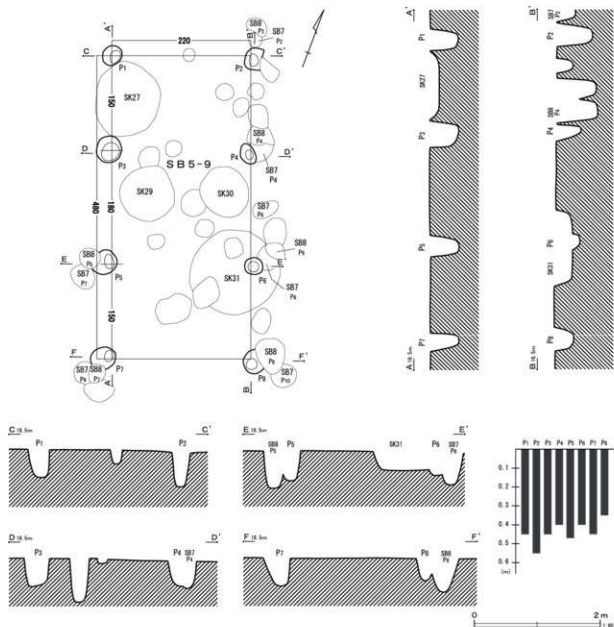
替えの結果であると推定される。

遺物は出土しなかった。

第5-8号掘立柱建物跡 (第79図)

L 8・E 6、E 7、F 7グリッドに位置する。

第5-7・9号掘立柱建物跡および、多数のピットと重複関係にあるが、新旧関係は不明である。



第80図 第5-9号掘立柱建物跡

母屋の規模は、桁行3間(5.2m)×梁行1間(2.9m)、面積は15.37㎡である。主軸方位はN-25°-Wを指す。柱間は桁行1.7~1.8m(平均1.77m)である。

柱穴の規模は25×32cm~48×60cmの円形または楕円形で、深さは38~66cmである。

上記のように、第5-7号掘立柱建物跡の建て替えと考えられる。

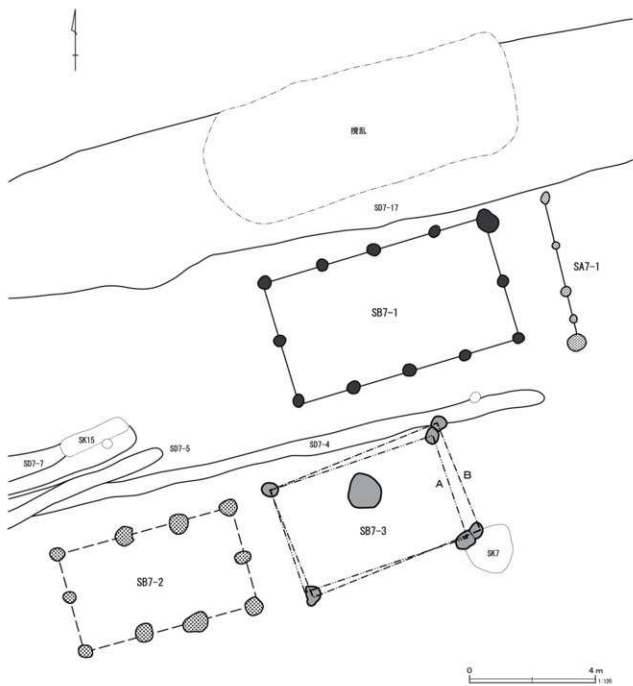
遺物は出土しなかった。

第5-9号掘立柱建物跡(第80図)

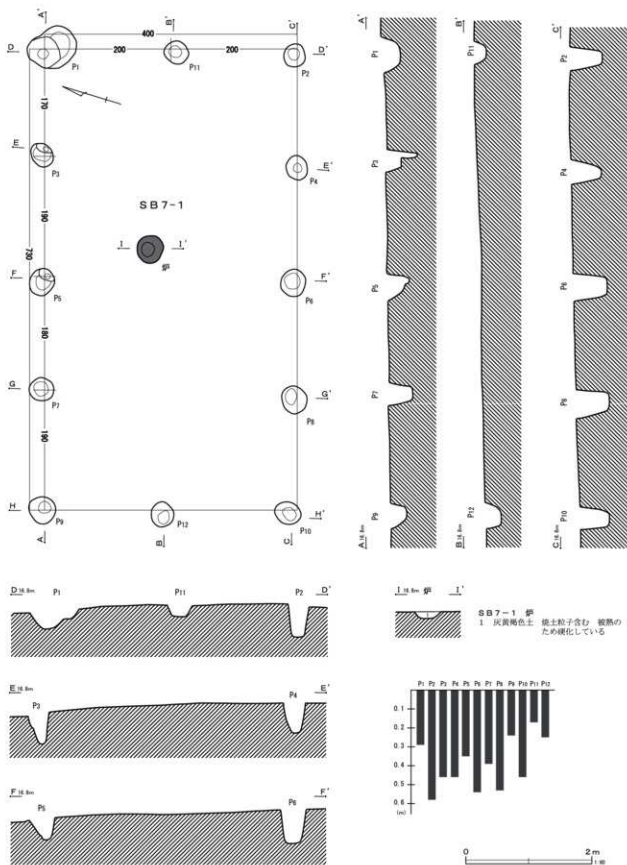
L 8・E 6、E 7、F 7グリッドに位置する。

第5-7・8号掘立柱建物跡および多数のピットと重複するが、いずれも新旧関係は不明である。

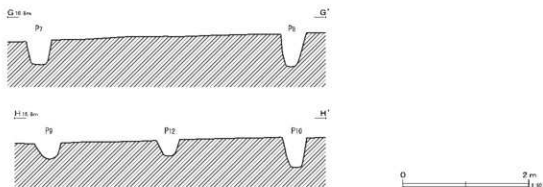
母屋の規模は、桁行3間(4.8m)×梁行1間(2.2m)、面積は10.56㎡である。主軸方位はN-21°-Wを指す。柱間は、桁行1.5~1.8m(平均1.6m)で



第81图 第7地点掘立柱建物跡配置图



第82図 第7-1号掘立柱建物跡(1)



第83図 第7-1号掘立柱建物跡(2)

ある。

柱穴の規模は28×30cm～35×42cmの円形または楕円形で、深さは35～55cmである。

第5・7・8号掘立柱建物跡とは規模・主軸方位を異にしている。

遺物は出土しなかった。

第7-1号掘立柱建物跡(第82・83図)

K8・J7、J8グリッドに位置する。

第7-1号掘立柱建物跡の周辺に、ピットが1基検出された。第7-1号掘立柱建物跡に伴う可能性のあるピットを図示した。

母屋の規模は、桁行4間(7.3m)×梁行2間(4.0m)、面積は29.2㎡である。主軸方位はN-75°-Eを指す。柱間は、桁行1.7～1.9m(平均1.83m)、梁行1.9～2.1m(平均2.0m)である。

柱穴の規模は34×38cm～40×45cmの、円形または楕円形で、深さは24～58cmであり、柱穴の規模は比較的小さいといえる。

第7-1号柵列跡は、伴うものと考えられる。

遺物は出土しなかった。

第7-2号掘立柱建物跡(第84図)

L8・A7グリッドに位置する。

幾つかのピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

母屋の規模は、桁行3間(3.7m)×梁行2間(3.2m)、面積は18.24㎡である。主軸方位はN-75°-Eを指す。柱間は、桁行1.6～2.1m(平均1.9m)、

梁行1.14～1.8m(平均1.6m)である。

柱穴の規模は33×40cm～61×65cmの円形または楕円形で、深さは15～65cmであり、柱穴の規模は比較的小さいといえる。

遺物は出土しなかった。

第7-3号掘立柱建物跡(第85図)

K8・L8、A8グリッドに位置する。

第7-3号掘立柱建物跡の周辺からピットと、炉跡1基が存在している。調査時の所見により、炉跡は第7-3号掘立柱建物跡に伴うと考えられる。ピットとの新旧関係は不明であるが、P5～7については建て替えの可能性があるため図化した。

P1～4で想定した母屋(A)の規模は、桁行1間(5.4m)×梁行1間(3.4m)、面積は18.36㎡である。主軸方位はN-68°-Eを指す。

柱穴の規模は45×45cm～48×60cmで、深さは30～45cmである。P1・3は楕円形、P4・6はやや隅丸方形に近い。

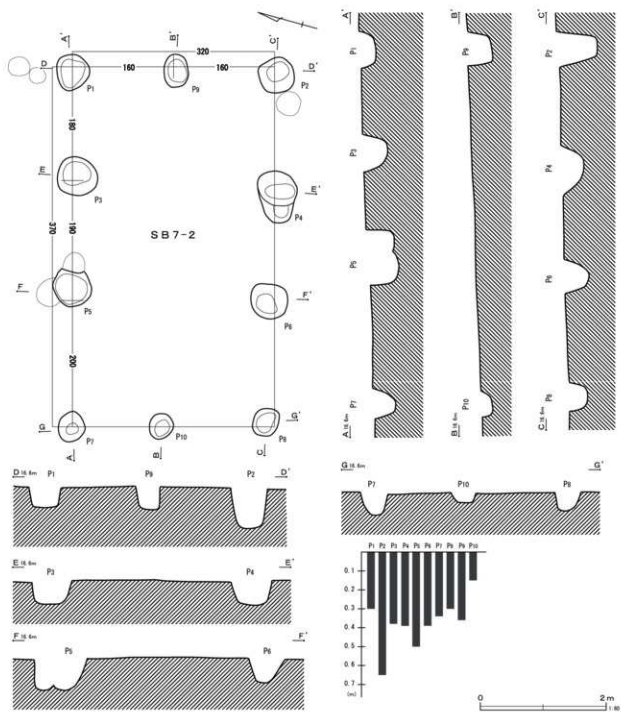
遺物は出土しなかった。

P3・5～7で想定した母屋(B)の規模は、桁行1間(5.7m)×梁行1間(3.7m)、面積は21.09㎡である。主軸方位はN-72°-Eを指す。

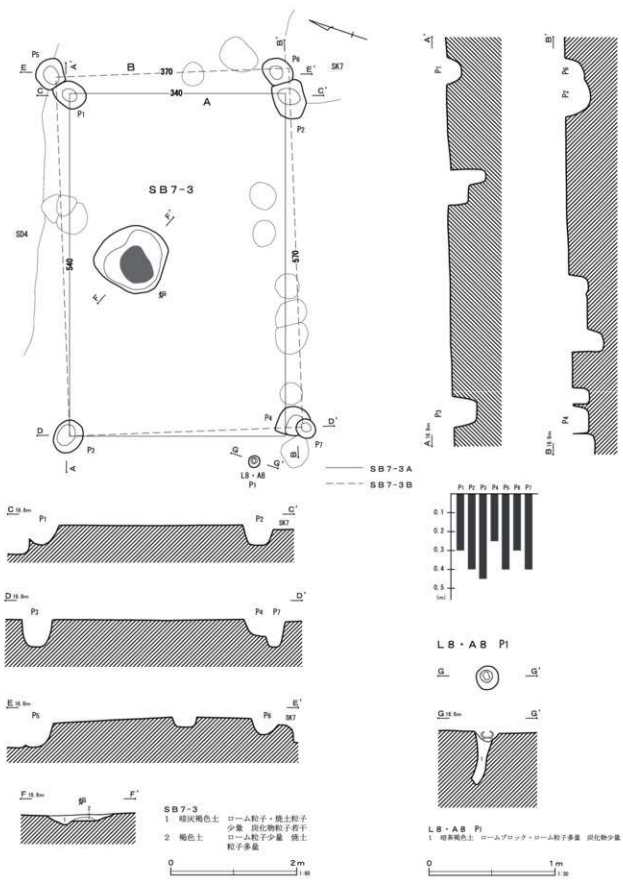
柱穴の規模は29×32cm～45×55cmで、深さは30～45cmで、円形または楕円形である。

遺物は出土しなかった。

炉跡は、平面形は円形に近く、長径1.02、短径



第84图 第7-2号掘立柱建物跡



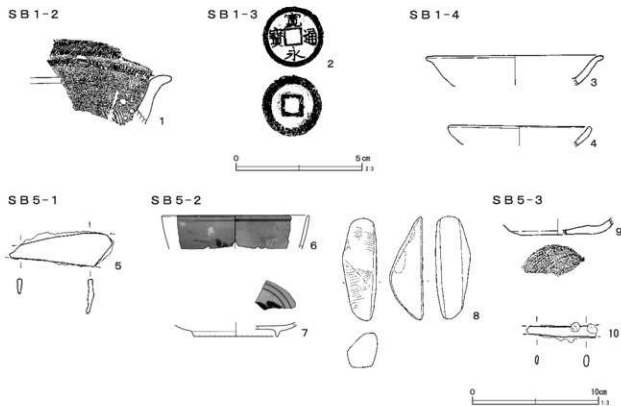
第85図 第7-3号掘立柱建物跡

1.1mで、深さは0.15mである。覆土は、焼土粒子や炭化物粒子を少量含むが、底面はそれほど被熱を受けていないようであった。

この炉が、どちらかの建物に帰属するのか、ま

たは建替え後も同じ位置で用いられたのかは不明である。

遺物は出土しなかった。



第86図 掘立柱建物跡出土遺物

第5表 掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	産地	焼成率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	軸葉装飾	成形技法	器種・器形の 特徴	文様	備考
1	SB 1-2	陶器	磁鉢	瀬戸・美濃	5			(3.2)	灰白 砂粒	普通	刷毛				掘立柱本瓦葺跡 掘く浅い・楕円 18C代
2	SB 1-3	古銭	寛永通寶												
3	SB 1-4	陶器	碗	瀬戸・美濃	5	(13.6)		(2.3)	灰白 網漉	良好	灰物	刷毛			18C
4	SB 5-1	土器	かわらけ		5	(11.0)		(1.8)	砂質 微砂粒	普通					
5	SB 5-2	鉄製品	鎌か			A: 1cm B: 2.7cm	C: 0.5cm D: 3cm	長さ28.4g							
6	SB 5-2	磁器	碗	肥前	5	(11.7)		(2.7)	灰白 網漉	良好	灰物	刷毛		外面草花文	口径内外面 一葉刷毛 18C代
7	SB 1-2	磁器	皿か	肥前	10		(6.4)	(1.1)	灰白 網漉	良好	灰物	刷毛	周りに出し其台		18C前～中
8	SB 5-2	石製品	磁石			長さ89.05cm 幅2.32cm	厚さ2.57cm	長さ56.4g	凝灰岩						
9	SB 5-3	土器	かわらけ		30	(6.0)		(1.3)	灰白砂	普通					
10	SB 5-3	鉄製品	刀子か			A: 5.5cm 長さ3.7g									錆化著しい

第7-1号柵列跡 (第85図)

K8・J8グリッドに位置する。

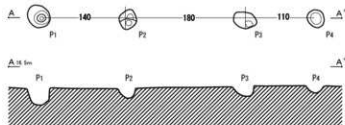
他遺構との重複関係は認められなかった。

第7-1号掘立柱建物跡の、東側の梁に沿う形で平行関係をもつ、4間分の柵列跡である。各建物跡との距離は、第7-1号掘立柱建物跡までは2m程度である。本柵列跡に直行して、北側には第17号溝跡が巡っていることから、第7-1号掘立柱建物

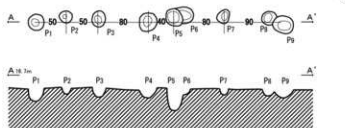
跡(および第7-2・3号掘立柱建物跡、第7-1号柵列跡・第17号溝跡は、新旧関係はあるかも知れないが、セット関係にあったと想定される。総延長4.7m、柱の通りは比較的良好である。柱穴の規模は20×25cm～55×60cmの円形または楕円形で、深さは15～52cmと規模は小さいながらも幅がある。方位はN-13°Wを指す。

遺物は出土しなかった。

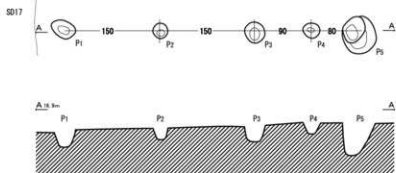
SA 1-1



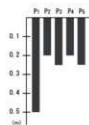
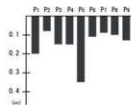
SA 1-2



SA 7-1



第87図 柵列



(2) 土壇

第1-6号土壇 (第88図)

L8・D8グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。長径は1.02m、深さは0.24mである。

遺物は出土していない。

第1-9号土壇 (第88図、第96図1)

L8・C8、C9グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、南側が深くなっている。長径は2.15m、短径は0.93m、深さは0.30mである。長軸方位はN-24°-Wを指す。

遺物は、瀬戸・美濃系の碗が出土した。

第1-21号土壇 (第88図)

L8・D9、E9グリッドに位置する。東側は第1-22号土壇と接している。平面形は円形を呈し、周縁が深くなっている。径は1.56m、深さは0.31mである。

遺物は出土しなかった。

第1-22号土壇 (第88図、第96図2)

L8・D9グリッドに位置する。西側は第1-21号土壇と接している。平面形は円形を呈する。径は1.10m、深さは0.12mである。

遺物は、かわらけ底部破片が少量出土した。

第1-28号土壇 (第88図、第96図3～10)

L8・C9グリッドに位置する。第1-4号掘立柱建物跡の東側約6m位置し、関連が想定される。

平面形は楕円形を呈する。長径は1.93m、短径は1.60m、深さは0.60mである。長軸方位はN-67°-Eを指す。

遺物は、3～5は肥前系の碗、鉢、9は瀬戸・美濃系の菊皿、6はかわらけ、7・8は焙烙の破片が出土した。

第1-24号土壇 (第88図)

L8・C9グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.91m、深さは0.17mである。

遺物は出土しなかった。

第1-25号土壇 (第88図)

L8・B9、C9グリッドに位置する。平面形

は楕円形を呈する。長径は1.36m、短径は1.03m、深さは0.19mである。長軸方位はN-21°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第1-26号土壇 (第88図)

L8・C9グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.77m、短径は0.61m、深さは0.15mである。長軸方位はN-65°-Eを指す。

遺物は焙烙の破片が出土した。

第1-29号土壇 (第88図)

L9・E1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.13m、短軸は0.52m、深さは0.19mである。長軸方位はN-17°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第1-37号土壇 (第89図)

L8・B10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.8m、短径は0.7m、深さは0.1mである。長軸方位はN-69°-Wを指す。

遺物は瀬戸美濃の碗の破片が出土した。

第1-38号土壇 (第89図、第96図13・14)

L8・B10グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.07m、深さは0.34mである。

遺物は、13の瀬戸・美濃系の擂鉢と14の砥石が出土した。

第1-39号土壇 (第89図)

L9・B1グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、東側がビット状に深くなっている。長径は0.73m、短径は0.52m、深さは0.41mである。

長軸方位はN-2°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第1-43号土壇 (第89図)

L9・I4グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.09m、深さは0.55mである。

遺物は出土しなかった。

第1-56号土壇 (第89図)

L9・I4、J4グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、底面は平らである。長径は1.77m、

短径は1.68m、深さは0.76mである。

遺物は出土しなかった。

第1-61号土壌 (第89図)

L8・D7グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。長軸は2.27m、短軸は0.75m、深さは0.19mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第1-62号土壌 (第89図)

L8・C7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.03m、短径は0.76m、深さは0.29mである。長軸方位はN-84°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-1号土壌 (第89図)

L8・D5グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.60m、短軸は0.52m、深さは0.08mである。長軸方位はN-23°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-2号土壌 (第89図)

L8・D4、E4グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.22m、短軸は0.74m、深さは0.22mである。長軸方位はN-65°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-3号土壌 (第89図)

L8・D4、E4、L8・D5、E5グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.50m、短径は0.60m、深さは0.18mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-4号土壌 (第89図、第96図13)

L8・E4グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.30m、短軸は0.72m、深さは0.08mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は、寛永通宝が出土しなかった。

第5-6号土壌 (第89図)

L8・E5グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.03m、短軸は0.56m、深さは

0.12mである。長軸方位はN-21°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-7号土壌 (第90図)

L8・E5グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.84m、短軸は0.59m、深さは0.08mである。長軸方位はN-27°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-8号土壌 (第90図)

L8・E5グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.38m、短軸は0.55m、深さは0.19mである。長軸方位はN-72°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-9号土壌 (第90図)

L8・E5グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.66m、短軸は0.60m、深さは0.12mである。長軸方位はN-26°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-10号土壌 (第90図)

L8・E5グリッドに位置する。第5-11号土壌と北東側は重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は1.37m、短軸は現況で0.41m、深さは0.07mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-11号土壌 (第90図)

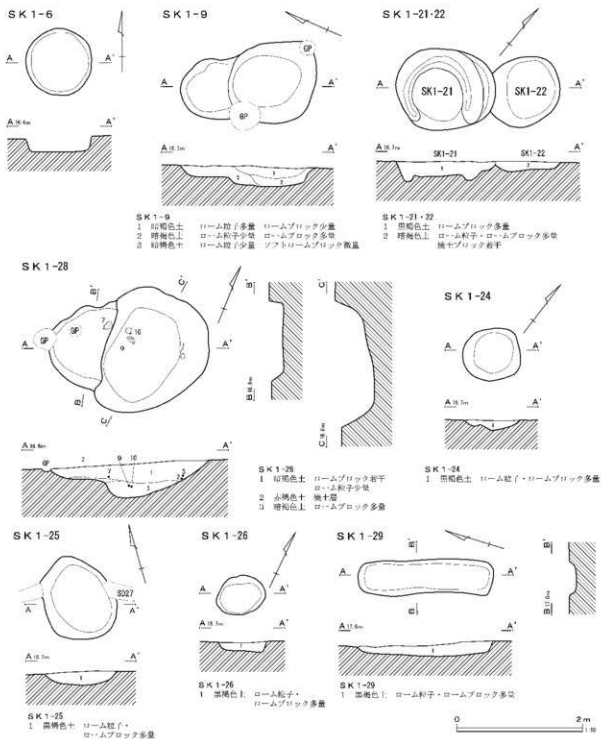
L8・E5グリッドに位置する。南西側は第5-10号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は1.60m、短軸は0.72m、深さは0.16mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-12号土壌 (第90図)

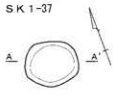
L8・D5、E5グリッドに位置する。第5-12~15号土壌の4基がまとまって検出された。東側を第5-13号土壌に切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は4.04m、短軸は現況で0.47m、深さは0.12mである。長軸方位はN-19°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。



第88図 土壌 (1)

SK 1-37

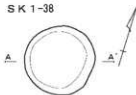


A 11.6m



SK 1-37
1 黒褐色土
ローム粒子・炭化植物種子少量
ロームブロック多量

SK 1-38

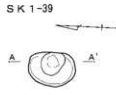


A 11.6m



SK 1-38
1 暗褐色土 ソフトローム多量
炭化植物種子微量
2 黒褐色土 ローム粒子多量
ロームブロック少量
3 暗褐色土 炭化植物種子微量
4 暗褐色土 ロームブロック多量

SK 1-39

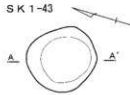


A 11.6m



SK 1-39
1 暗褐色土 ローム粒子多量
2 暗褐色土 ローム粒子少量

SK 1-43

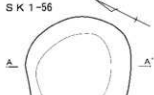


A 11.6m



SK 1-43
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量
2 暗褐色土 ローム粒子若干
3 暗褐色土 ローム粒子少量

SK 1-56

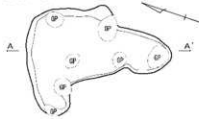


A 11.6m



SK 1-56
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子多量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック若干
3 暗褐色土 ロームブロック多量

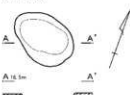
SK 1-61



A 11.6m



SK 1-62



A 11.6m



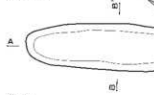
SK 5-1



A 11.6m



SK 5-4

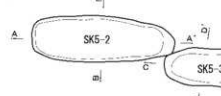


A 11.6m



SK 5-4
1 暗褐色土 ロームブロック少量

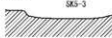
SK 5-2・3



A 11.6m SK 5-2



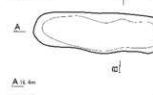
C 11.6m SK 5-3



SK 5-2
1 暗褐色土 ロームブロック少量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

SK 5-3
1 暗褐色土 ロームブロック・灰色シルトブロック少量
2 暗褐色土 ロームブロックやや多量

SK 5-6



A 11.6m

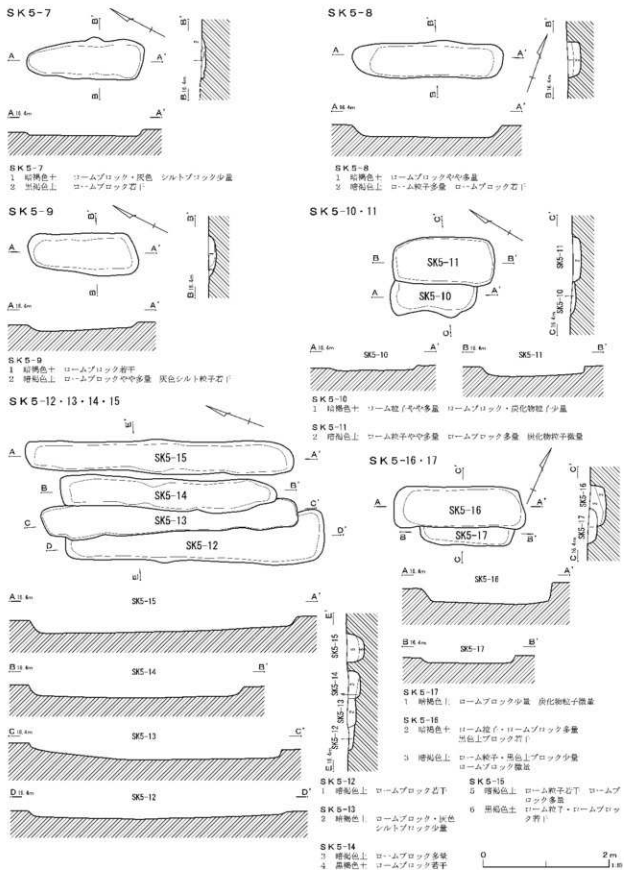


SK 5-6
1 暗褐色土 ロームブロックやや多量
灰色シルトブロック少量
底上ブロック微量



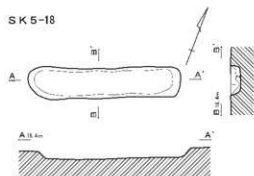
0 2m

第89図 土壌 (2)



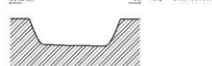
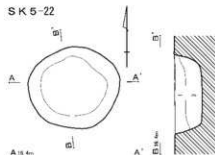
第90図 土壌 (3)

SK 5-18



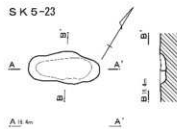
- SK 5-18
1 暗褐色土 ローム粒子若干 ロームブロック少量
2 暗褐色土 ローム粒子やや多量 ロームブロック少量

SK 5-22



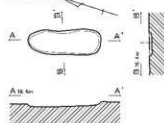
- SK 5-22
1 暗褐色土 ローム粒子若干 ロームブロック少量
焼ナブロツク少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック少量

SK 5-23



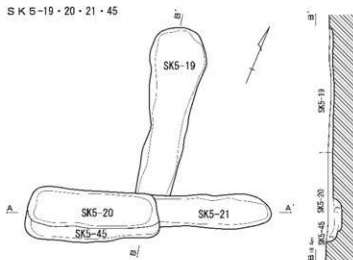
- SK 5-23
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック若干

SK 5-24



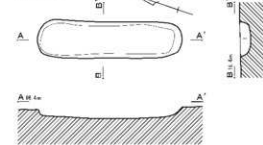
- SK 5-24
1 暗褐色土 ロームブロック少量

SK 5-19・20・21・45



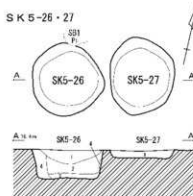
- SK 5-19・20・45
1 暗褐色土 ローム粒子若干 ロームブロック少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック若干 灰色シルトブロック少量

SK 5-25



- SK 5-25
1 暗褐色土 ローム粒子若干 ロームブロック少量

SK 5-26・27

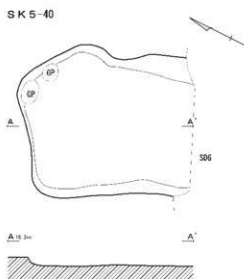
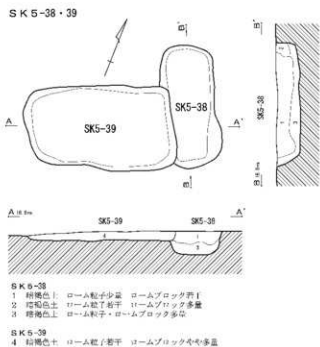
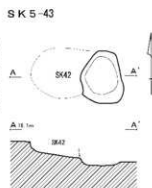
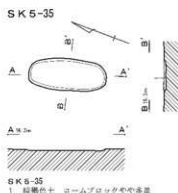
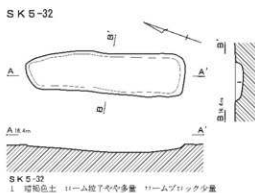
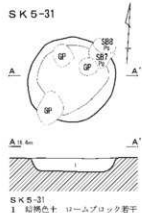
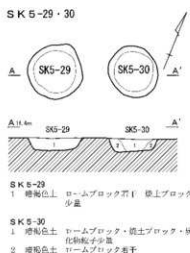
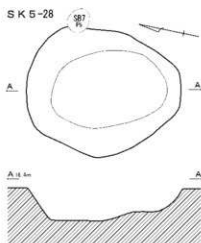


- SK 5-26
1 暗褐色土 ロームブロック・焼ナブロツク・灰色シルト少量
2 暗褐色土 ロームブロック若干 焼ナブロツク少量
3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
4 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック少量

- SK 5-27
1 暗褐色土 ロームブロック若干 焼ナブロツク少量

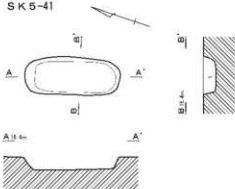
0 2m 1cm

第91図 土壌(4)



第92図 土壌 (5)

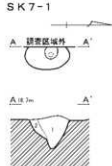
SK 5-41



SK 5-41

- 1 暗褐色土 ローム粒子・灰色シルトブロック少量
ロームブロックやや多量

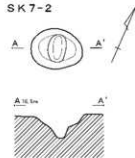
SK 7-1



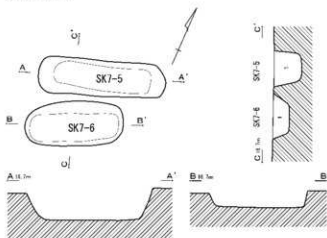
SK 7-1

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量
炭化植物種子
2 褐色土 ローム粒子多量

SK 7-2



SK 7-5・6



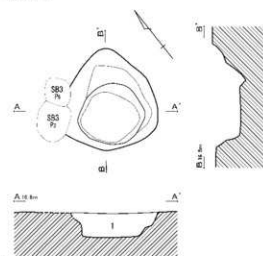
SK 7-5

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

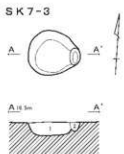
SK 7-6

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

SK 7-7



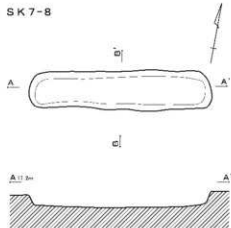
SK 7-3



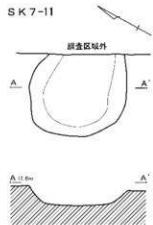
SK 7-3

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量
炭化植物種子
多量

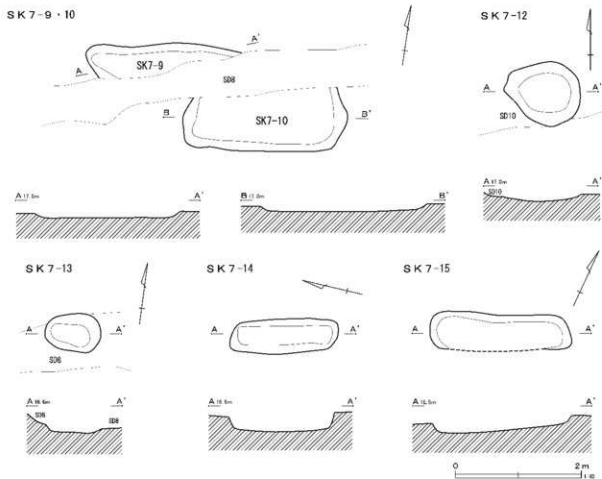
SK 7-8



SK 7-11



第93図 土壌 (6)



第94図 土坑(7)

第5-13号土坑 (第90図)

L8・D5、E5グリッドに位置する。東側を第5-14号土坑に切られている。平面形は長方形を呈する。長軸は3.98m、短軸は現況で0.32m、深さは0.16mである。長軸方位はN-19°-Wを指し。

遺物は出土しなかった。

第5-14号土坑 (第90図)

L8・D5、E5グリッドに位置する。西側で第5-13号土坑を切っている。平面形は長方形を呈する。長軸は3.35m、短軸は現況で0.48m、深さは0.23mである。第5-12~14土坑の新旧は土層断面から12→13→14の順で新しくなる。長軸方位はN-19°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-15号土坑 (第90図、第96図14・15)

L8・D5、E5グリッドに位置する。西側は第5-14号土坑と隣接する。平面形は長方形を呈する。長軸は4.16m、短軸は0.51m、深さは0.27mである。長軸方位はN-19°-Wを指す。

遺物は、14の砥石と15の鉄製品が出土した。

第5-16号土坑 (第90図)

L8・E5、E6グリッドに位置する。南側を第5-17号土坑によって切られているが、掘込みが深いため、遺構の規模は把握できる。平面形は長方形を呈する。長軸は2.03m、短軸は0.68m、深さは0.28mである。長軸方位はN-67°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-17号土坑 (第90図)

L8・E5、E6グリッドに位置する。北側を

第5-16号土壌と重複する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.45m、短軸は断面図から計測すると0.57m、深さは0.11mである。長軸方位はN-67°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-18号土壌 (第91図)

L8・E5、E6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.37m、短軸は0.45m、深さは0.18mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-19号土壌 (第91図)

L8・D6、E6グリッドに位置する。南側を第5-20・21号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で2.63m、短軸は0.56m、深さは0.04mである。長軸方位はN-12°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-20号土壌 (第91図)

L8・E6グリッドに位置する。第5-19・21・45号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.04m、短軸は0.81m、深さは0.27mである。長軸方位はN-68°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-21号土壌 (第91図、第96図16)

L8・E6グリッドに位置する。第5-19・20・45号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は現況で1.74m、短軸は0.50m、深さは0.09mである。長軸方位はN-68°-Eを指す。

遺物は、肥前系の碗が出土した。

第5-45号土壌 (第91図)

L8・E6グリッドに位置する。第5-19・20・21号土壌と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は2.05m、短軸は現況で0.22m、深さは0.15mである。長軸方位はN-68°-Eを指す。第19～21・45号土壌の新旧は土層断面から第20→45→19号土壌の順で新しくなる。また、第5-21号土

壌との新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第5-22号土壌 (第91図)

L8・D6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.43m、深さは0.43mである。

遺物は出土しなかった。

第5-23号土壌 (第91図)

L8・D6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.10m、短径は0.45m、深さは0.10mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-24号土壌 (第91図)

L8・E6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.14m、短径は0.37m、深さは0.04mである。長軸方位はN-16°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-25号土壌 (第91図)

L8・E6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.50m、短軸は0.56m、深さは0.16mである。長軸方位はN-19°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-26号土壌 (第91図、第96図17・18)

L8・E6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、底面は平坦である。径は1.13m、深さは0.45mである。

遺物は、17と18のかわらけが出土した。

第5-27号土壌 (第91図)

L8・E6、E7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.17m、深さは0.13mである。

遺物は出土しなかった。

第5-28号土壌 (第92図、第97図19)

L8・E6、F6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は2.40m、短径は1.98m、深さは0.58mである。長軸方位はN-12°-Wを指す。

遺物は、瀬戸・美濃系の播鉢破片が出土した。

第5-29号土壌 (第92図)

L8・E7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。長径は0.88m、深さは0.21mである。遺物は出土しなかった。

第5-30号土壌 (第92図、第97図20)

L8・E7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。長径は0.82m、深さは0.20mである。

遺物は、瀬戸・美濃系の皿が出土した。

第5-31号土壌 (第92図)

L8・E7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.40m、深さは0.22mである。

遺物は出土しなかった。

第5-32号土壌 (第92図)

L8・F6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.50m、短軸は0.62m、深さは0.13mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-35号土壌 (第92図)

L8・E4グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.23m、短径は0.50m、深さは0.03mである。長軸方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-38号土壌 (第92図)

L8・H8グリッドに位置する。西側を第5-39号土壌に切られている。平面形は隅丸方形を呈する。長軸は1.93m、短軸は0.69m、深さは0.38mである。長軸方位はN-24°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-39号土壌 (第92図)

L8・H7、H8グリッドに位置する。東側を第5-38号土壌と重複する。平面形は隅丸方形を呈する。長軸は2.28m、短軸は1.34m、深さは0.10mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-40号土壌 (第92図)

L8・H6、I6グリッドに位置する。南側を第5-6号溝によって削平されている。平面形は隅

丸方形を呈する。長軸は現況で2.65m、短軸は2.13m、深さは0.15mである。長軸方位はN-27°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第5-43号土壌 (第92図)

L8・D2、E2グリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈する。縄文時代の第5-42号土壌を切っている。径は約0.80m、深さは0.31mである。

遺物は出土しなかった。

第5-41号土壌 (第93図)

L8・G5グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.48m、短軸は0.59m、深さは0.20mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第7-1号土壌 (第93図)

K8・I6グリッドに位置する。西側は調査区外となる。平面形は楕円形を呈すると思われる。長径は0.70m、深さは0.47mである。

遺物は出土しなかった。

第7-2号土壌 (第93図)

K8・I7グリッドに位置する。平面形は楕円形呈し、中央が深くなっている。長径は0.80m、短径は0.64m、深さは0.37mである。長軸方位はN-66°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第7-3号土壌 (第93図)

K8・I7グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、東側が一部深くなっている。径は0.81m、深さは0.21mである。

遺物は出土しなかった。

第7-5号土壌 (第93図)

L8・A8グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.98m、短軸は0.54m、深さは0.49mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第7-6号土壌 (第93図)

L8・A8、B8グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸は1.52m、短軸は0.69m、深さは0.38mである。長軸方位はN-66°Eを指す。

遺物は瀬戸美濃の碗破片が出土した。

第7-7号土壌 (第93図)

L8・A8グリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈し、中央が1段深くなっている。長径は1.62m、短径は1.42m、深さは0.43mである。

遺物は出土しなかった。

第7-8号土壌 (第93図)

K9・I2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.85m、短軸は0.60m、深さは0.24mである。長軸方位はN-80°Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第7-11号土壌 (第93図)

K9・I2グリッドに位置する。東側は調査区外となる。平面形は楕円形を呈すると思われる。長径は現況で1.28m、短径は1.53m、深さは0.31mである。

遺物は出土しなかった。

第7-9号土壌 (第94図)

K9・I2グリッドに位置する。南側を第7-8号溝跡によって壊されている。平面形は楕円形を呈すると思われる。深さは0.09mである。

遺物は出土しなかった。

第7-10号土壌 (第94図)

K9・I2グリッドに位置する。北側を第7-8号溝跡によって壊されている。平面形は方形を呈すると思われる。長軸は2.60m、短軸は現況で0.94m、深さは0.14mである。長軸方位はN-82°Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第7-12号土壌 (第94図)

K9・I2グリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈する。径は1.21m、深さは0.12mである。

遺物は出土しなかった。

第7-13号土壌 (第94図)

K8・J10グリッド、第7-8号溝跡内に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.86m、短径は0.57m、深さは0.13mである。長軸方位はN-82°Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第7-14号土壌 (第94図)

K8・J9グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.70m、短軸は0.55m、深さは0.31mである。長軸方位はN-25°Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第7-15号土壌 (第94図)

K8・J7グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.20m、短軸は0.57m、深さは0.25mである。長軸方位はN-65°Eを指す。

遺物は出土しなかった。

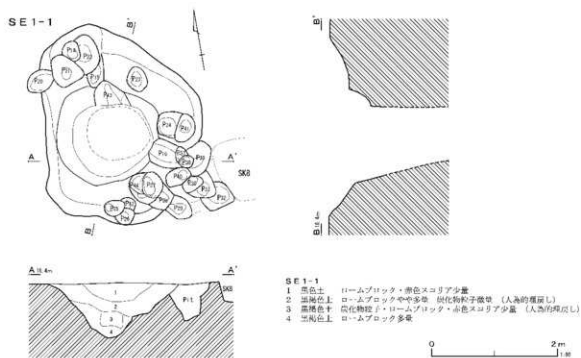
(3) 井戸跡

第1-1号井戸跡 (第95図、第97図21~25)

L8・D7グリッドに位置する。

平面形は歪んだ楕円形で長径3.3m、短径2.6m、長軸方位はN-21°Wを指す。断面はロート状を呈し、中央が深くなっている。深さは1.0mまで調査したが、安全のためその時点で、掘り下げを中止した。その為、底面は不明である。

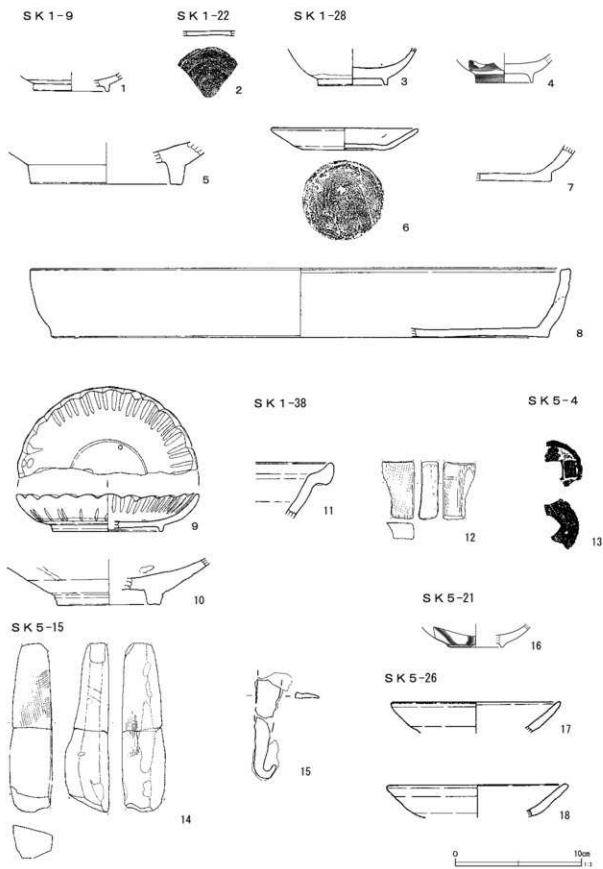
遺物は、瀬戸・美濃系の碗、搦鉢とかわらけ、磁石が出土している。



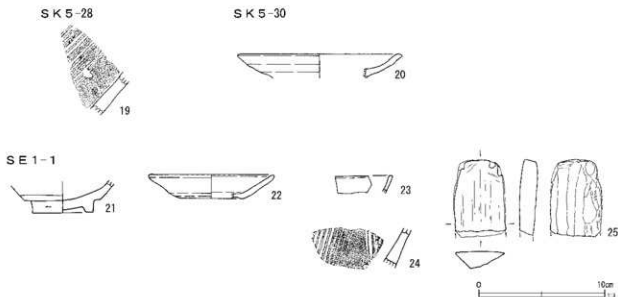
第95図 井戸跡

第6表 土境・井戸跡出土遺物観察表

番号	遺構	種類	遺種	所在地	残存率 (%)	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	胎土	底成	胎土状態	成型技法	器種・器材の 数	文 種	備 考
1	SK1-9	陶器	甕	瀬戸・美濃	5		(6.0)	(1.5)	灰白	緻密	良好	灰胎	縦織	割り出し高台	18C代か
2	SK1-22	土器	おわらけ		10			(6.4)	紅褐色	粗	普通				
3	SK1-28	陶器	甕	肥前	30		(5.6)	(2.9)	灰白	緻密	良好	灰胎	縦織	比高 胴土 付	17C末~18C初 貫入多
4	SK1-28	磁器	鉢	肥前	10		(4.5)	(2.4)	白	緻密	良好	縦織			18C前~中
5	SK1-28	陶器	鉢	肥前	10		(12.6)	(2.4)	灰黄褐	良好	白化粧土	縦織			餅毛目17C末~18C前
6	SK1-28	土器	おわらけ		50	(11.3)	(6.0)	1.7	紅褐色	粗	普通	縦織			
7	SK1-28	土器	燗瓶		5	(28.2)	(2.5)	紅褐色	粗	普通	縦織				
8	SK1-28	土器	燗瓶		10	(42.6)	(29.4)	(3.5)	褐	普通	縦織				
9	SK1-28	陶器	皿	瀬戸・美濃	50	(14.1)	(6.0)	(3.9)	灰黄	緻密	良好	灰胎 割縁輪 型内	縦織	付高台 見込 共に円縁 入付着	菊出 外蓋 17C中 割縁輪 出し掛け
10	SK1-28	陶器	鉢	肥前	15		(4.6)	(3.5)	橙	緻密	良好	白化粧土	縦織	見込み 砂目 跡	17C末~18C前か
11	SK1-28	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	5		(4.4)		浅黄	普通	鉄胎	縦織			18C前半
12	SK1-28		磁石			長さ4.6cm 幅2.6cm 厚3.1cm									瀬灰岩
13	SK5-4	鉄													
14	SK5-15	石製品	磁石			長さ8.2cm 幅2.8cm 厚3.3cm									瀬灰岩
15	SK5-15	鉄製品	約り下付 用金具か			A7.8cm B2.1cm C1.9cm D9.5cm									重8.22g
16	SK5-21	磁器	甕	肥前	5	(4.0)	(1.9)	(1.9)	灰白	緻密	良好	灰胎	縦織		顕化表しい
17	SK5-26	土器	おわらけ		10	(11.6)		(2.6)	橙	普通	普通	縦織			割り出し高台 ゴス跡 高台部 一重割縁 高台内 一重割縁 18C前~中
18	SK5-26	土器	おわらけ		10	(11.5)		(2.1)	橙	普通	普通	縦織			
19	SK5-28	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	5			(2.4)	浅黄	普通	鉄胎か	縦織か			餅目の跡残す 18C後半
20	SK5-30	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(13.0)		(1.9)	灰白	微砂粒	良好	灰石胎	縦織		志野 17C初
21	SE1-1	陶器	甕	瀬戸・美濃	20		4.8	(2.5)	浅黄	良好	良好	鉄胎	縦織		天目焼 17C後半
22	SE1-1	土器	おわらけ		10	(1.0)	(6.0)	(1.8)	紅褐色	粗	普通	縦織			
23	SE1-1	土器	おわらけ		5			(1.4)	橙	普通	普通	縦織			
24	SE1-1	陶器	鉢鉢	瀬戸・美濃	5			(3.3)	黄褐	普通	鉄胎	縦織			微砂粒
25	SE1-1	石製品	磁石			長さ6.1cm 幅4.1cm 高さ1.5cm									重5.46.1g 貫径6?



第96図 土壙出土遺物



第97図 土壌・井戸跡出土遺物

(4) 溝跡

第1・5・7地点で検出された溝跡は、各々28・19・20条の合計67条である。各地点の溝跡については、掘立柱建物跡や欄柵跡、井戸跡などを取り込むかに存在していることから、家敷地を区画する溝が多数を占めると考えられる。

第1-1号溝跡 (第100図、第106図1・2)

K9・I3、J3、L9・A3、B3、C3グリッドに位置する。

第1-2・3号溝跡と重複しているが、セット関係にあるのか、別個の遺構であるか、別個である場合の新旧関係等いずれも不明である。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方位の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。北側は第7-10号溝跡に重複もしくは合流して終わる。南側は途切れている。

検出した範囲内での長さは39.5m、幅は0.8~3.3m、深さは0.6mを測り、方位は概ねN-12°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は幅広いV字状である。

遺物は、瀬戸・美濃系の碗と皿が各1点出土し

た。2には、二次的被熱の痕跡が認められる。

第1-2号溝跡 (第100図)

L9・B3、C3、D3、D4、E4、F4グリッドに位置する。

第1-1・3号溝跡と重複しているが、セット関係にあるのか、別個の遺構であるか、別個である場合の新旧関係等いずれも不明である。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。北側と南側は共に途切れている。

検出した範囲内での長さは41.0m、幅は0.6m、深さは0.5mを測り、方位は概ねN-12°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は幅広いV字状である。

遺物は出土しなかった。

第1-3号溝跡 (第100図)

L9・B3、C3、D3、D4グリッドに位置する。

第1-1・2号溝跡と重複しているが、セット関係にあるのか、別個の遺構であるか、別個である場合の新旧関係等いずれも不明である。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが

同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。北側と南側は共に途切れている。

検出した範囲内での長さは23.0m、幅は0.6m、深さは0.7mを測り、方位は概ねN-9°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は幅広いV字状である。

遺物は出土しなかった。

第1-4号溝跡 (第100図)

L 9・B 3、C 3、C 4、D 4グリッドに位置する。

第1-9号溝跡と重複しているが、セット関係にあるのか、別個の遺構であるか、別個である場合の新旧関係等いずれも不明である。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。

北側と南側は共に途切れている。

検出した範囲内での長さは21.6m、幅は0.4~0.7m、深さは0.1mを測り、方位は概ねN-6°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は幅広いV字状である。

遺物は、小破片のため図化には至らなかったが、肥前系の陶器碗が1点出土した。

第1-5号溝跡 (第100図、第106図3)

L 9・A 3、B 3、B 4、C 4、D 4グリッドに位置する。

第1-7号溝跡を切っている。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。北側と南側は途切れている。

検出した範囲内での長さは29.0m、幅は0.6m、深さは0.4mを測り、方位は概ねN-13°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は幅広いV字状である。

遺物は、刀子片と思われる鉄製品が1点出土した。

第1-6号溝跡 (第100図)

L 9・A 3グリッドに位置する。

第1-7号溝を切っている。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。北側と南側は共に途切れている。

検出した範囲内での長さは1.8m、幅は0.5m、深さは0.3mを測り、方位は概ねN-5°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は皿状である。

遺物は出土しなかった。

第1-7号溝跡 (第100図)

L 9・A 3、B 3、B 4、C 4、D 4、E 4、F 4グリッドに位置する。

第1-6号溝切られている。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。北側と南側は共に途切れている。

検出した範囲内での長さは47.4m、幅は0.4~0.8m、深さは0.8mを測り、方位は概ねN-8°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は上方に開くU字状である。

遺物は出土しなかった。

第1-8号溝跡 (第100図)

L 9・C 4、D 4グリッドに位置する。

第1-7号溝跡と重複しているが、セット関係にあるのか、別個の遺構であるか、別個である場合の新旧関係等いずれも不明である。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。これらの溝跡との関連性には言及できない。北側と南

側は共に途切れている。

検出した範囲内での長さは8.5m、幅は0.5m、深さは0.4mを測り、方位は概ねN-6°-Wを指す。平面形は概ね直線状、断面形は幅広なU字状であると思われる。

遺物は出土しなかった。

第1-9号溝跡 (第100図)

L9・D4、E4、F4グリッドに位置する。

第2号溝跡に切られている。また、第1-4号溝跡とも重複しているが、セット関係にあるのか、別個の遺構であるか、別個である場合の新旧関係等いずれも不明である。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。北側と南側は共に途切れている。

検出した範囲内での長さは20.4m、幅は0.5m、深さは0.4mを測り、方位は概ねN-3°-Wを指す。平面形は概ね直線状を呈し、断面形は幅広なU字状であると思われる。

遺物は出土しなかった。

第1-10号溝跡 (第101図、第106図4)

L9・F4、G4、H4グリッドに位置する。

他遺構との重複関係はない。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。

北側は調査区外に続くが、第2・7・9号溝跡のいずれかに続く可能性が考えられる。南側は途切れている。

検出した範囲内での長さは16.2m、幅は0.3~0.9m、深さは0.3mを測り、方位は概ねN-17°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形はV字に近い形状である。

遺物は、肥前系の磁器碗1点が出土した。

第1-11号溝跡 (第101図)

L9・F4、G4、H4、G5、H5グリッドに位置する。

他遺構との重複関係はない。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。

北側は調査区外に続くが、第2・7・9号溝跡のいずれかに続く可能性が考えられる。南側は途切れている。

検出した範囲内での長さは16.0m、幅は0.5m、深さは0.2mを測り、方位は概ねN-17°-Wを指す。平面形は概ね直線状を呈し、断面形は碗状に近い形状である。

遺物は出土しなかった。

第1-12号溝跡 (第101図)

L9・F4、G4、G5、H5グリッドに位置する。

他遺構との重複関係はない。この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。

北側と南側は共に途切れているが、北側については、第2・7・9号溝跡のいずれかに続く可能性が考えられる。

検出した範囲内での長さは11.6m、幅は0.4~0.8m、深さは0.1mを測り、方位は概ねN-17°-Wを指す。

平面形は概ね直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

遺物は出土しなかった。

第1-13・7-17号溝跡 (第100図、第106図5~9、第109図80~82)

第1・7地点を跨いで存在しており、別個に遺構番号が振られているため、2つの番号をもつ結果となった。

K8・I7、I8、I9、I10、J7、J8、J9、J10、K9・I11、J1、J2、L9・A

2、A3、B2、B3、C3、D3、E3、F3、F4グリッドに位置する。

第7-8・10・11・15号溝跡およびピットと重複しているが、これらとの共伴関係や新旧関係は不明である。

南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。西側は調査区外に延びるが、南側は途切れている。

検出した範囲内での長さは121.5m、幅は2.4~4.7m、深さは1.1mを測り、検出範囲内にコーナーが2箇所あるため、方位は北からN-75°E、N-48°WとN-13°Wである。

平面形は、方形または長方形の家敷地の鬼門を隅切りしたかのような形状である。断面形は、幅広い葉研堀に近い。

遺物は、第1-13号溝跡の範囲内からは瀬戸・美濃系の陶器の碗2点が出土した。

他の遺物は、陶器の碗1点、肥前系の陶器の碗2点、磁器の碗3点の小破片が出土した。また、第7-17号溝跡の範囲内からは、陶器の小破片3点出土している。

第1-14・5-1-7-1号溝跡 (第103図、第106図14~45、第108図80~82)

第1・5地点を跨いで存在しており、別個に遺構番号が振られているため、2つの番号をもつ結果となった。

L8・B7、B8、C5、C6、C7、C8、D2、D3、D4、D5、E2、E3、F1、F2、F3、G1、H1、I1グリッドに位置する。

第1-62号土壇や幾つかのピットと重複しているが、共伴関係の有無、新旧関係は不明である。第5-42・43号溝跡は、本溝跡の一部分を掘り返した際の結果と推定される。また、第5-2号溝跡についても同様と考えられる。さらに、第5-1・2号掘立柱建物跡とも重複関係にあるが、共伴関係にありながら溝を幾度も掘りなおした結果、溝の範囲が広がってしまったためとも考えられるが、

詳細を述べるには根拠に欠ける。第1・5地点の南側には、南北方向：第1-10~12・25号溝跡、第5-3~5・7・11号溝跡、東西方向第1-22~24・26号溝跡など多数の溝跡が存在する。第1-13・7-17号溝跡はこれらの溝と共伴関係にある可能性が考えられる。

本溝跡は、南側は調査区外に延びるが、東側は途切れている。

検出した範囲内での長さは125.5m、幅は0.8~3.6m、深さは0.8mを測る

平面形は、記述の第1・5地点の溝も含めて西向きの「凸」字状となる。溝跡の断面形は、幅広い葉研堀に近い。

遺跡は、家敷地を区画する溝として巡らされている。

遺物は、石製品・金属製品を含め、図化できた遺物は32点である。陶磁器は、瀬戸・美濃系と肥前系が中心である。23の見込みには、輪ドチあとが認められる。24は志野と思われる。

第1-16号溝跡 (第104図)

L8・D10グリッドに位置する。

東西共に途切れており、間もところどころ途切れている。他遺構との重複関係はない。周辺の遺構との共伴関係は不明である。

検出した範囲内での長さは4.1m、幅は0.6m、深さは0.1mを測る。方位はN-74°Eである。

平面形は概ね直線状を呈している。

遺物は出土しなかった。

第1-17号溝跡 (第103図)

L8・B8、C8、C9グリッドに位置する。

南側は途切れており、北側は第5・7-1号溝跡に重複もしくは合流して終わると推定される。これ以外の遺構との重複関係はない。周辺には幾つかの溝跡があるが、共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは10.0m、幅は0.4~0.7m、深さは0.1mを測る。方位はN-25°W

を指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。

規模・位置関係から推して、第1-3・4号掘立柱建物跡と関連する、区画溝の可能性が高いと考えられる。

遺物は出土しなかった。

第1-18号溝跡 (第98図)

L 8・B10、C10グリッドに位置する。

北側と南側共に途切れている。他遺構との重複関係はない。周辺には幾つかの溝跡があるが、共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内の長さは5.8m、幅は0.2m、深さは0.1mを測る。方位はN-28°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。

遺物は出土しなかった。

第1-19号溝跡 (第99図)

L 8・C10、L 9・B1、B2、C1グリッドに位置する。

北側と南側は中間部分が途切れている。他遺構との重複関係はない。周辺には幾つかの溝跡があるが、共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内の長さは、途切れている部分も含めて28.0m、幅は0.3m、深さは0.1mを測る。方位はN-77°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。

遺物は出土しなかった。

第1-20号溝跡 (第101図)

L 9・F2、F3グリッドに位置する。

西側は途切れている。東側は、第1-21号溝跡に重複もしくは、合流して終わっている。周辺には幾つかの溝跡があるが、共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内の長さは、途切れている部分も含めて8.6m、幅は0.8m、深さは0.1mを測る。方位はN-74°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。

遺物は出土しなかった。

第1-21号溝跡 (第101図)

L 9・F3、G3、H2、H3、H4グリッドに位置する。

極端な表現をするならば、T字状を呈する2条の溝跡だが、調査時点で1つの遺構とした。北側と西側は途切れている。南側は、第1-22号溝跡に重複もしくは、合流して終わっている。周辺には幾つかの溝跡があり、方位的にも対応する様子が覗えるが、共伴関係の有無や新旧関係については、不明であるといわざるを得ない。

検出した範囲内の規模は、東西方向の溝跡で、長さ12.5m、幅は0.4~0.8m、深さは0.2mを測る。方位はN-75°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状である。

南北方向の溝跡で、長さ21.7m、幅は0.7~1.8m、深さは0.6mを測る。方位はN-19°-Wを指す。平面形は幅に振幅があるがほぼ直線状、断面形は碗状に近い。

遺物は出土しなかった。

第1-22号溝跡 (第101図)

L 9・H3、H4、I1、I2、I3グリッドに位置する。

第1-21号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。第1-23号溝跡との新旧関係についても不明であるが、掘り替えの結果と思われる。

第1-23号溝跡と同様に、東側・西側共に途切れている。周辺には幾つかの溝跡があるが、共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内の長さは31.2m、幅は1.5m、深さは0.24mを測る。方位はN-75°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。家敷地を区画する溝であるのか、根切りのための溝であるかについては不明であるが、前者の可能性が高いと思われる。

遺物は出土しなかった。

第1-23号溝跡 (第101図)

L9・H3、H4、H5、I1、I2、I3、I4グリッドに位置する。

第1-22号溝跡との新旧関係については不明であるが、掘り替えの結果と思われる。

第1-22号溝跡と同様に、東側・西側共に途切れている。周辺には幾つかの溝跡があるが、共存関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは30.0m、幅は1.7~2.8m、深さは0.6mを測る。方位はN-75°Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。本溝跡機能は、根切りの溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第1-24号溝跡 (第101図)

L9・I3、J2、J3グリッドに位置する。

西側・東側共に途切れているが、西側については調査区外に延びると推定される。東側については、第1-26号溝跡に連結する可能性が考えられる。

ピットと重複するが、新旧関係は不明である。周辺には幾つかの溝跡があるが、共存関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは13.2m、幅は1.1~1.8m、深さは0.96mを測る。方位はN-67°Eを指す。

平面形は、幅に振幅があるかほぼ直線状を呈し、断面形は菜研状に近い。

遺物は出土しなかった。

第1-25号溝跡 (第104図)

L9・G1、H1グリッドに位置する。

北側と南側は共に途切れている。他遺構との新旧関係はない。周辺には幾つかの溝跡があるが、共存関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは8.4m、幅は0.4~0.8m、深さは0.1mを測る。方位はN-15°Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。遺物は出土しなかった。

第1-26号溝跡 (第104図)

L9・H5、I4、I5グリッドに位置する。

西側と東側および中間が途切れている。西側については第1-24号溝跡に連結する可能性が考えられる。周辺には幾つかの溝跡や土壌が存在するが、共存関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは6.8m、幅は0.5~0.8m、深さは0.3mを測る。方位はN-57°Eを指す。

平面形は、幅に振幅があるかほぼ直線状を呈し、断面形は底面が平坦な逆台形である。

遺物は出土しなかった。

第1-27号溝跡 (第101図)

L8・B9、C9グリッドに位置する。

本溝跡は、第1-25号土壌と重複しているが、新旧関係は不明である。

西側・東側が途切れている。西側については二股に分岐している。南側部分では、溝に縦長の土壌が連結しているかのような表現になっているが、一連の溝跡と判断した。

周辺には幾つかの溝跡や土壌が存在するが、共存関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは5.8m、幅は0.3m、深さは0.2mを測る。方位はN-57°Wを指す。

平面形は円弧状を呈し、断面形はU字状である。遺物は出土しなかった。

第1-28号溝跡 (第104図)

L8・D9グリッドに位置する。

北側・南側が途切れている。北側については、延長線上に第1-17号溝跡が存在しており、何らかの有機性を窺わせる。

周辺には幾つかの溝跡や土壌・ピットなどが存在するが、本遺構との共存関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での長さは3.6m、幅は0.4m、深さは0.1mを測る。方位はN-28°Wとなる。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。遺物は出土しなかった。

第5-2号溝跡 (第102図)

L 8・G 1、H 1、H 2、I 2グリッドに位置する。

北側で、第5-1号溝跡と重複、もしくは合流している。南側については調査区外に続くが、東に屈曲して第5-3号溝または、第5-8号溝跡と連結する可能性が考えられる。

この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。

検出した範囲内での長さは26.2m、幅は0.4~0.7m、深さは0.1~0.2mを測り、方位はN-18°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状もしくは皿状に近い形状である。

本溝跡は、家敷地を区画する溝跡の可能性が高いと思われる。

遺物は出土しなかった。

第5-3号溝跡 (第104図)

L 8・I 2、I 3、I 4、I 5、J 2、J 3、J 5グリッドに位置する。

L字状の溝の、南並行する1条の溝跡も、同一遺構としての遺構番号が振られているが、調査時の判断を尊重して、これに倣った。

第5-4・5号溝跡と重複、もしくは合流している。重複の場合、新旧関係は不明である。東西溝2条の西側は、調査区外に続くが、第5-1号溝跡または第5-2号溝跡と連結する可能性が考えられる。東側については、どちらも途切れる。南北溝についても、南側は途切れている。

この一画には、多数の溝跡が検出されているが、すべてが同時に存在したのではなく、南北方向の溝跡が、何度も掘り返しを行った結果であると推定される。

検出した範囲内での規模は、以下のとおりである。

東西溝(北)側の溝跡は、長さ23.7m、幅は0.3~2.5m、深さは0.1~0.2m、方位N-73°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

東西溝(南)側の溝跡は、長さ19.8m、幅0.5~0.8m、深さ0.1~0.2m、方位N-73°-Eを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

南北溝跡は、長さ13.7m、幅0.2~1.8m、深さは0.1~0.2mを測り、方位はN-20°-Wを指す。

平面形はほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

家敷地を区画する溝の可能性が高いと思われる。遺物は出土しなかった。

第5-4号溝跡 (第104図、第108図67)

L 8・I 4、J 4、J 5グリッドに位置する。

北側は第5-3号溝跡と重複または合流している。南側と中間が途切れている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共存関係の有無や新旧関係は不明である。

検出した範囲内での途切れる部分も含めて、長さは15.0m、幅は0.4~0.8m、深さは0.1mを測る。方位はN-20°-Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

本溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

第5-5号溝跡 (第104図)

L 8・I 3、J 3グリッドに位置する。

南北に並行する2条の溝跡を、同一遺構としての遺構番号が振られている。西側の第5-5号溝跡は、調査区外に続いているが、屈曲して第5-8号溝跡と合流する可能性もある。東側の第5-5号溝跡は、南側で途切れている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との共存関係の有無や新旧関係は不明である。

西側の溝跡は、長さ12.1m、幅は0.4~0.7m、

深さは0.1m、方位N-20°-Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

東側の溝跡は、長さ11.1m、幅0.4~0.7m、深さ0.1m、方位N-20°-Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

本溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5-6号溝跡 (第105図、第108図68)

L8・H6、H7、I5、I6グリッドに位置する。

第5-7号溝跡と重複もしくは合流している。第5-40号土壌と重複しているが、新旧関係は不明である。東側の第5-5号溝跡は、南側で途切れている。

検出した範囲内での長さは15.8m、幅は0.8m、深さは0.1mを測り、方位はN-67°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状もしくは皿状に近い。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

この溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

第5-7号溝跡 (第105図)

L8・I6、J6グリッドに位置する。

第5-6号溝跡と重複もしくは合流している。南側で途切れている。

検出した範囲内での長さは10.4m、幅は0.8~1.1m、深さは0.1mを測り、方位はN-20°-Wを指す。

平面形は、幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は碗状もしくは皿状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

本溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5-8号溝跡 (第105図)

L8・I7、I8、I9、J5、J6、J7グリッドに位置する。

南北に並行する2条の溝跡である。調査時に同一遺構として遺構番号が振られているため、それに従う。北溝は、西側は調査区外に延びている。東側は、第5-11号溝跡に重複もしくは合流している。

北溝跡は、長さ29.2m、幅は0.4~0.5m、深さ0.3~0.4m、方位N-73°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形はU字状である。

南溝跡は、長さ44.9m、幅0.4~0.5m、深さ0.3~0.4m、方位N-73°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形はU字状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

本溝跡は、周辺の溝跡と共に、家敷地の区画溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5-9号溝跡 (第105図)

L8・G8、H7、H8グリッドに位置する。

西側・東側共に途切れている。他遺構との重複関係はない。

検出した範囲内での長さは15.3m、幅は0.4m、深さは0.12mを測り、方位はN-74°-Eを指す。

平面形は幅に振幅があるがほぼ直線状を呈し、断面形は碗状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

本溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5-10号溝跡 (第105図)

L8・I8、I9、J8グリッドに位置する。

西側は攪乱によって失われている。攪乱の西側には遺構は延びておらず途切れている。また、東側も途切れている。他遺構との重複関係はない。

検出した範囲内での長さは11.2m、幅は0.

5~1.2m、深さは0.1mを測り、方位はN-73°Eを指す。

平面形は幅に振幅があるかほぼ直線状を呈し、断面形は皿状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との伴関係の有無や新旧関係は不明である。

本溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5-11号溝跡 (第105図)

L 8・H 8、H 9、I 9 グリッドに位置する。

北側は途切れているが、第5-12号溝跡と合流する可能性もある。また南側も途切れているが、第5-8号溝跡と合流する可能性がある。いずれの点についても詳細は不明である。

検出した範囲内での長さは10.8m、幅は0.6~0.8m、深さは0.24mを測り、方位はN-67°Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形はU字状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5-12号溝跡 (第105図)

L 8・H 7、H 8 グリッドに位置する。

西側は途切れているが、東側は第5-11号溝跡と合流する可能性もある。

検出した範囲内での長さは15.5m、幅は0.5~0.7m、深さは0.24mを測り、方位はN-18°Wを指す。

平面形は幅に振幅があるもののほぼ直線状を呈し、断面形はU字状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡は、家敷地の区画溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第5-13号溝跡 (第105図)

L 8・H 6 グリッドに位置する。

西側・東側は途切れている。他遺構との重複は

ない。

検出した範囲内での長さは5.8m、幅は0.4m、深さは0.1mを測り、方位はN-72°Eを指す。

平面形は、幅に振幅があるもののほぼ直線状を呈し、断面形は碗状に近い。

遺物は出土しなかった。

第5-14号溝跡 (第105図)

L 8・H 6、H 7 グリッドに位置する。

西側は第5-40号土壇と重複しているが、新旧関係は不明である。東側と中間は途切れている。

検出した範囲内での長さは途切れている部分も含めて7.5m、幅は0.4m、深さは0.2mを測り、方位はN-77°Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状をしている。

遺物は出土しなかった。

第5-15号溝跡 (第105図)

L 8・H 7 グリッドに位置する。

北側・南側は途切れている。他遺構との重複関係はない。

検出した範囲内での長さは3.4m、幅は0.3m、深さは0.1mを測り、方位はN-16°Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状に近い形状をしている。

遺物は出土しなかった。

第5-16号溝跡 (第102図)

L 8・F 1 グリッドに位置する。

北側・南側は途切れている。

検出した範囲内での長さは6.4m、幅は0.5m、深さは0.1mを測り、方位はN-66°Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い。

遺物は出土しなかった。

第5-17号溝跡 (第102図)

L 8・B 6、C 6 グリッドに位置する。

北側は調査区外に続き、南側は第5-1号溝跡に重複もしくは合流して終わる。

検出した範囲内での長さは6.4m、幅は2.2m、

深さは0.4mを測り、方位はN-23°-Wを指す。
平面形は直線状を呈し、断面形は浅いロート状に近い形状をしている。

遺物は出土しなかった。

第5-18号溝跡 (第103図)

L8・B6、C6グリッドに位置する。

北側は調査区外に続き、南側は第1-14(5-1)号溝跡に重複もしくは合流して終わる。

検出した範囲内での長さは5.6m、幅は0.6m、深さは0.4mを測り、方位はN-23°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形はU字状に近い形状をしている。

遺物は出土しなかった。

第5-19号溝跡 (第103図)

L8・B6、C6、C7グリッドに位置する。

北側は調査区外に続き、南側は第1-14(5-1)号溝跡に重複もしくは合流して終わる。

検出した範囲内での長さは5.5m、幅は0.9m、深さは0.1mを測り、方位はN-23°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状である。

遺物は出土しなかった。

第7-2号溝跡 (第98・99図、第109図69～71)

K9・J1、J2、L8・A8、A9、A10、B8、B9、L9・A1、A2グリッドに位置する。

調査時にT字状を呈する2条の溝跡を、区分せず同一遺構番号を振った。その為、遺物等の分離はできず、一括して扱った。また、溝跡に関しても、混乱を避けるため、新番号を振らなかつた。

西側と東側は途切れ、東側は第7-17(1-13)号溝跡に重複もしくは合流して終わる。

検出した範囲内での長さは、東西の溝跡は長さ14.8m、幅1.22～0.22m、深さ0.61mである。方位はN-76°-Eを指す。

平面形は、概ね直線状を呈する。

南北の溝跡は、長さ4.0m、幅0.62～0.26m、深さ0.9～0.8mである。方位はN-14°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形はU字状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、性格は不明である。

遺物は、肥前系の磁器碗、陶器皿(69・70)、瀬戸・美濃系の陶器皿・搦鉢(71・72)である。

他の遺物は、肥前系の陶器鉢1点が出土した。

第7-3号溝跡 (第98図、第109図69～72)

K8・I9、I10、J9、J10、L8・A9、A10グリッドに位置する。

調査時に、南北に並行する2条の東西の溝跡に、同じ遺構番号を振った。その為、2条から出土した遺物は一括して扱った。また、混乱を避けるため、新たに遺構番号は振らなかつた。

第7-8号溝跡との新旧関係は、不明である。西溝と北側は東に屈曲し、第7-12号溝跡に重複もしくは合流する。南側は、図上では途切れているが第7-2号溝跡の南側に溝跡と重複すると考えられる。

西側の溝跡の規模は、長さ15.5m、幅0.5m、深さ0.3mで、方位はN-14°-WとN-76°-Eを指す。

平面形はL字状を呈し、断面形はU字状である。

東側の溝は、長さ9.6m、幅0.5～1.0m、深さ0.4mを測り、方位はN-14°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形はU字状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

遺構の性格は、屋敷の区画溝の可能性が考えられる。

遺物は、瀬戸・美濃系の灯明受皿(陶器)と、砥石が各1点、出土した。

第7-4号溝跡 (第98図)

K8・J7、J8、L8・A7グリッドに位置する。

第7-5・6・7号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。東側は途切れている。

検出した範囲内での長さは16.4m、幅は0.6m、深さは0.1～0.3mを測り、方位はN-77°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との伴関係の有無や新旧関係は不明である。

第7-2・3号掘立柱建物跡の北側に、ほぼ沿って走っており掘立柱建物跡との関連が推測され、家敷地の区画等に関連すると考えられる。

遺物は出土しなかった。

第7-5号溝跡 (第98図)

K8・J7、L8・A7グリッドに位置する。

第7-4・6・7号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に続き、東側は途切れている。

検出した範囲内での長さは6.5m、幅は0.5m、深さは0.2mを測り、方位はN-67°Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との伴関係の有無や新旧関係は不明である。

遺物は出土していない。

第7-6号溝跡 (第98図)

L8・A1グリッドに位置する。

第7-4・5・7号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に続き、東側は他遺構との重複によって失われている。

検出した範囲内での長さは2.4m、幅は0.4m、深さは0.2mを測り、強いて計測するならば方位はN-79°Eとなる。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との伴関係の有無や新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第7-7号溝跡 (第98図)

K8・J7、L8・A1グリッドに位置する。

第7-4号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に続き、東側は途切れてい

る。

検出した範囲内での長さは5.3m、幅は1.1m、深さは0.3mを測り、強いて計測するならば方位はN-72°Eとなる。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との伴関係の有無や新旧関係は不明である。また、本溝跡の性格は不明である。

遺物は出土しなかった。

第7-8号溝跡 (第99図)

K8・I9、I10、J9、J10、K9・I1、I2グリッドに位置する。

本溝跡は、西側で北側に大きく屈曲する。第7-9~11・13号土壌、第7-3・9・11・20号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。東側は調査区外に続くと思われる。西側は共に屈曲して途切れる。

検出した、東西側の溝跡は、長さは35.2m、幅は0.5~1.6m、深さは0.6mを測り、方位はN-72°Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は、中央部が窪む皿状に近い。

北側の屈曲する部分は、長さ3.5m、幅0.5m、深さ0.24mを測る。

平面は直線状を呈し、断面は碗状である。

南側の屈曲する部分は、長さ13.9m、幅0.6~0.7m、深さ0.4mを測る。

平面は直線状を呈し、断面はU字状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との伴関係の有無や新旧関係は不明である。また、これらの溝跡は、家敷地を区画するための溝と推定される。

遺物は出土しなかった。

第7-9号溝跡 (第99図)

K8・J10グリッドに位置する。

第7-9・10号溝跡と重複するが、新旧関係は不

明である。西側は途切れている。第7-9～11号溝跡は、複数回の掘り返しの結果と思われる。

検出した範囲内での長さは5.8m、幅は0.4m、深さは0.1mを測り、強いて計測するならば方位はN-84°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。また、これらの溝跡は、家敷地を区画するための溝と推定される。

遺物は出土しなかった。

第7-10号溝跡 (第99図、第109図75～77)

K8・J10、K9・I1、I2、I3、J1グリッドに位置する。

第7-9・11号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は途切れている。第7-9～11号溝跡は、複数回の掘り返しの結果と思われる。

検出した範囲内での長さは31.0m、幅は0.5～1.1m、深さは0.2mを測り、方位はN-78°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。また、これらの溝跡は、家敷地を区画するための溝と推定される。

遺物は、肥前系の磁器碗(75)、瀬戸・美濃系の陶器灯明受け皿(76)、焙烙(77)が出土した。

第7-11号溝跡 (第99図、第109図78)

K8・J10、K9・I1、I2、I3、J1、L8・A10グリッドに位置する。

第7-9・10・17号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。西側は南に屈曲して途絶える第7-19号溝跡がこの続きの可能性がある。東側は調査区外に延びている。

第7-9～11号溝跡は、複数回の掘り返しの結

果と思われる。なお、本遺構の、南北溝部分の南の延長線上には、第7-19号溝跡が存在しているが、両者の関連性については不明である。

検出した範囲内での長さは41.0m、幅は0.6～1.1m、深さは0.4mを測り、方位はN-78°-EとN-13°-Wとなる。

平面形はL字状を呈し、断面形は碗状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。本溝跡は、家敷地を区画するための溝であると推定される。

遺物は、瀬戸・美濃系の陶器の花皿1点が出土した(78)。

第7-12号溝跡 (第99図)

K8・I10、K9・I1、I2グリッドに位置する。

第7-3・12号溝跡重複するが、新旧関係は不明である。東側は調査区外に続く。第7-12・14号溝跡は、掘り返しの結果と思われる。

検出した範囲内での長さは28.60m、幅は0.4m、深さは0.1mを測り、方位はN-78°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は碗状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。本溝跡は、家敷地を区画するための溝であると推定される。

遺物は出土しなかった。

第7-13号溝跡 (第98図)

L8・A9グリッドに位置する。

他遺構との新旧関係はない。西側と東側は共に途切れる。

検出した範囲内での長さは6.0m、幅は0.6m、深さは0.2mを測り、方位はN-73°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。これらの溝跡の性格は不明である。

遺物は出土しなかった。

第7-14号溝跡 (第99図)

K9・I1、I2グリッドに位置する。

第7-12・14号溝跡は、掘り返しの結果と思われる。

検出した範囲内の長さは11.6m、幅は0.6m、深さは0.2mを測り、方位はN-73°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明であるが、本溝跡は、家敷地を区画するための、溝跡と考えられる。

遺物は出土しなかった。

第7-15号溝跡 (第99図、第109図79)

K9・I1、I2グリッドに位置する。

第7-17号溝跡と重複もしくは合流するが新旧関係等は不明である。

検出した範囲内の長さは15.6m、幅は0.5~0.8m、深さは0.2mを測り、方位はN-79°-Eを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明であるが、本溝跡は、家敷地を区画するための溝であると推定される。

遺物は、肥前系の磁器碗(79)と磁器瓶が1点ずつ出土したが、後者は図化には至らなかった。

第7-18号溝跡 (第99図)

K8・J10、K9・J1、L9・A1グリッドに位置する。

第7-2号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。北側は、第7-10号溝跡の直前で途絶えてい

る。南側は、第7-2号溝跡と重複し、その先には至っていない。両者には共伴関係の可能性も考えられる。

検出した溝跡の長さは9.8m、幅は1.0~1.5m、深さは0.2mを測り、方位はN-23°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状をしている。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本溝跡との共伴関係の有無や新旧関係は不明であるが、本溝跡は、家敷地を区画するための溝であると推定される。

遺物は出土しなかった。

第7-19号溝跡 (第98図)

L8・A10、B10グリッドに位置する。

他遺構との重複関係は認められない。北側・南側ともに途切れている。本溝跡の、北側延長線上には、第7-11号溝跡の南北溝が存在しているが、両者の関連性については不明である。

検出した範囲内の長さは3.6m、幅は0.3m、深さは0.1mを測り、方位はN-28°-Wを指す。

平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第7-20号溝跡 (第98図)

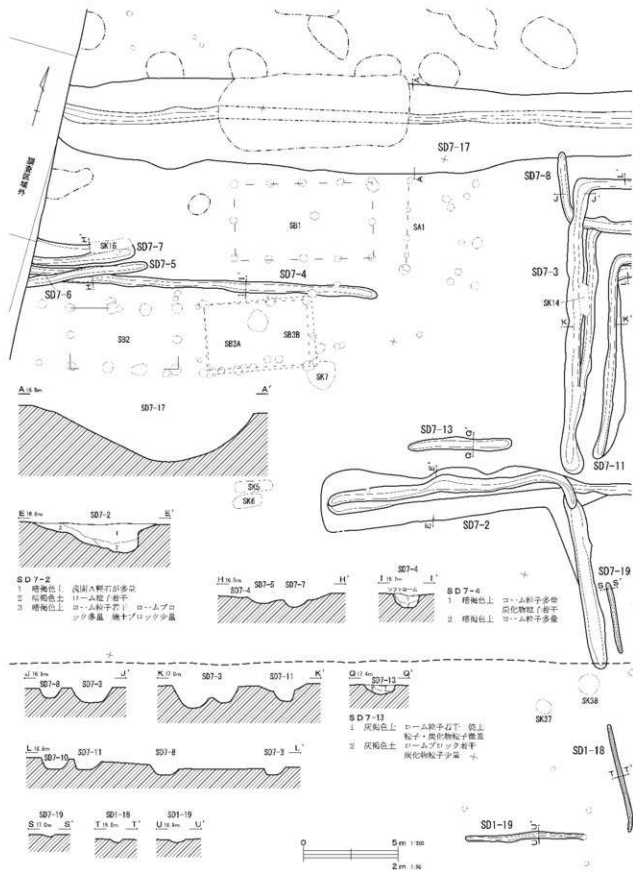
K8・J10グリッドに位置する。

第7-8・10号溝跡と重複または合流するが、新旧関係等は不明である。検出した範囲内の長さは1.2m、幅は0.4m、深さは0.1mを測り、強いて方位を求めるならば、N-10°-Wを指す。

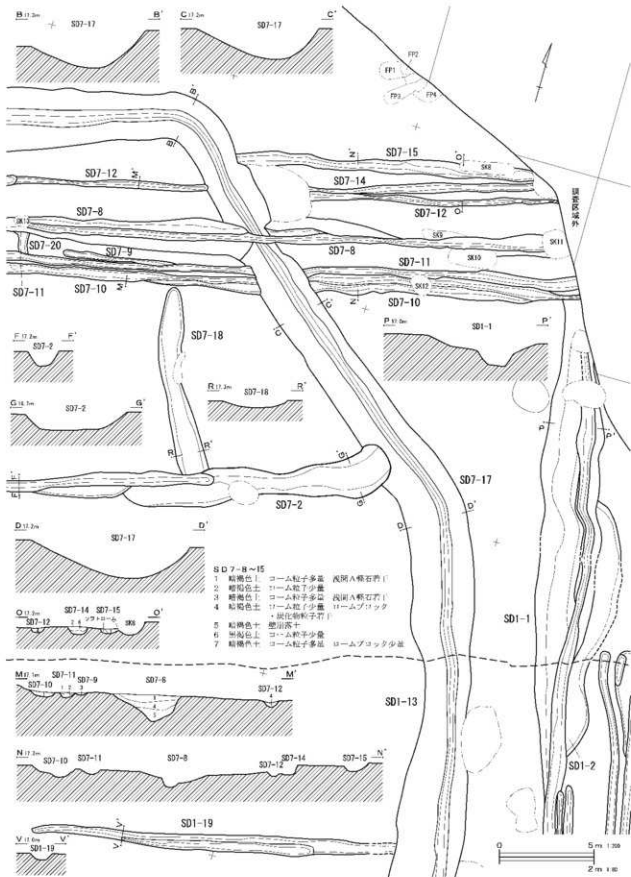
平面形は直線状を呈し、断面形は皿状に近い形状である。

周辺には幾つかの溝跡が存在するが、本遺構との共伴関係の有無や新旧関係は不明である。

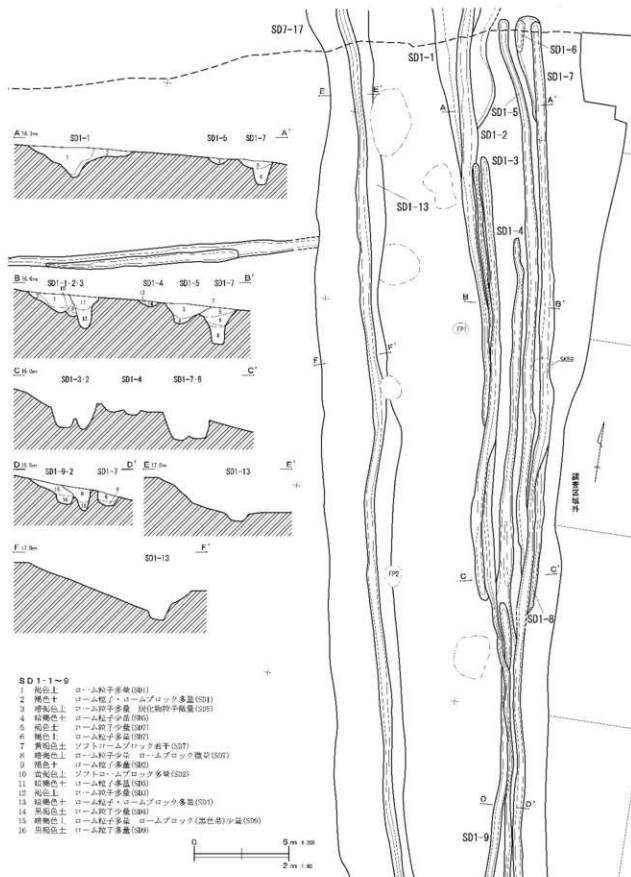
遺物は出土しなかった。



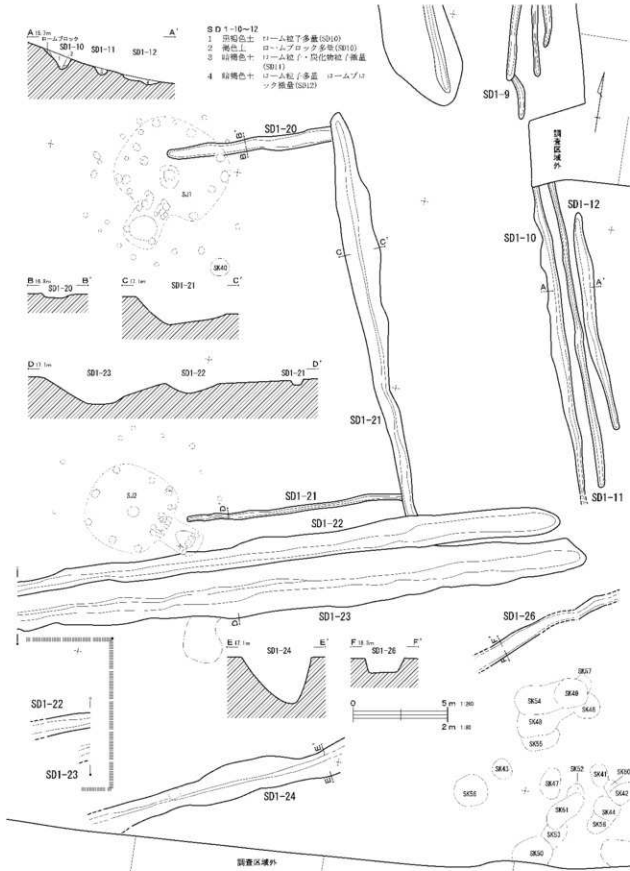
第98図 溝跡(1)



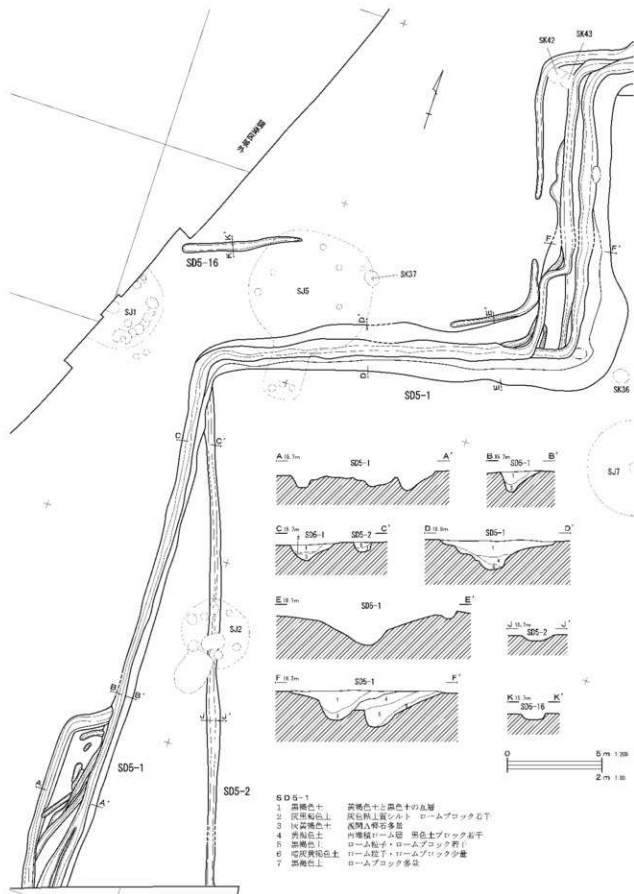
第99図 溝跡(2)



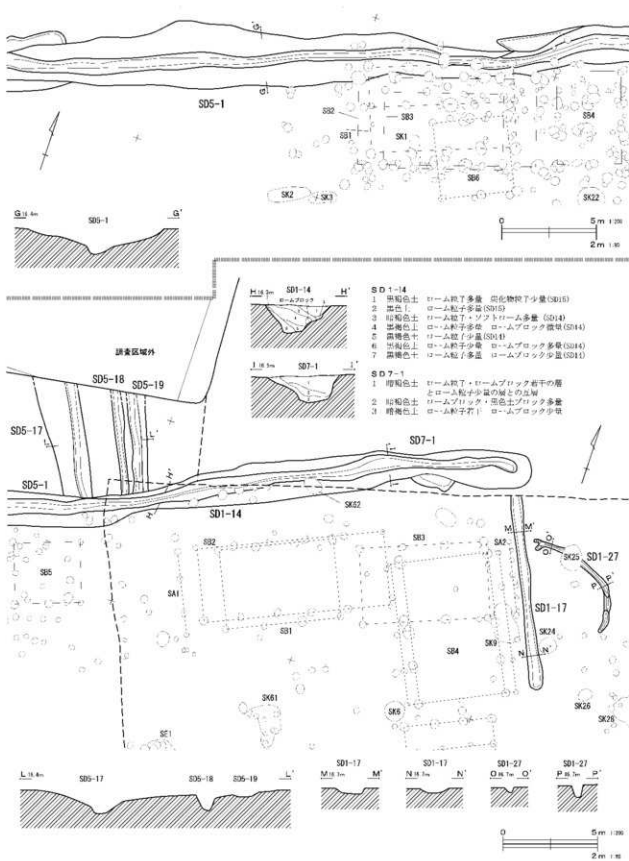
第100図 溝跡(3)



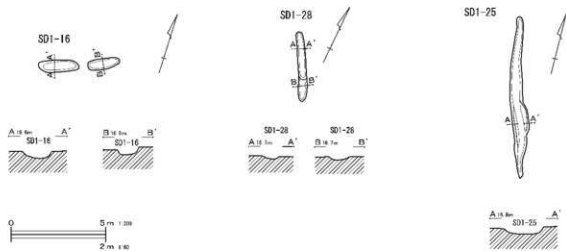
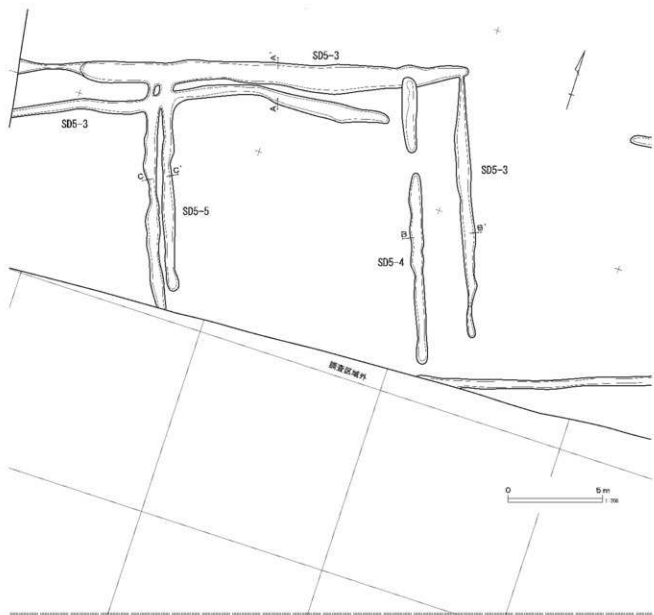
第101図 溝跡(4)



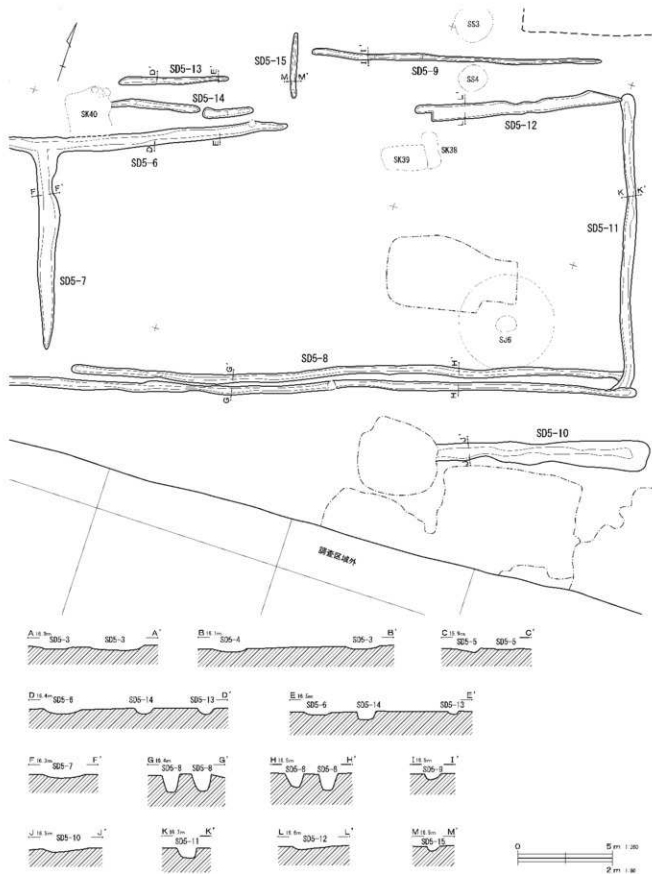
第102図 溝跡(5)



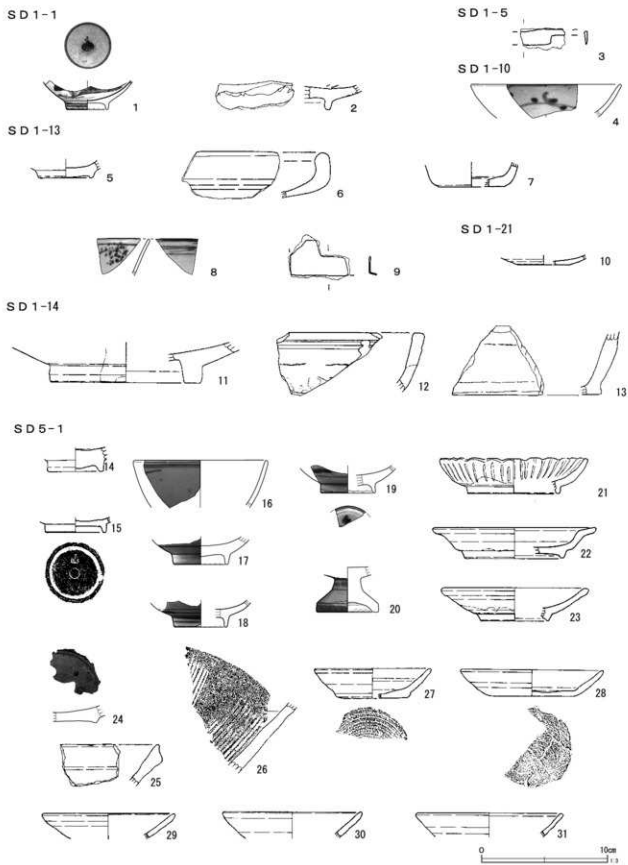
第103図 溝跡 (6)



第104図 溝跡 (7)

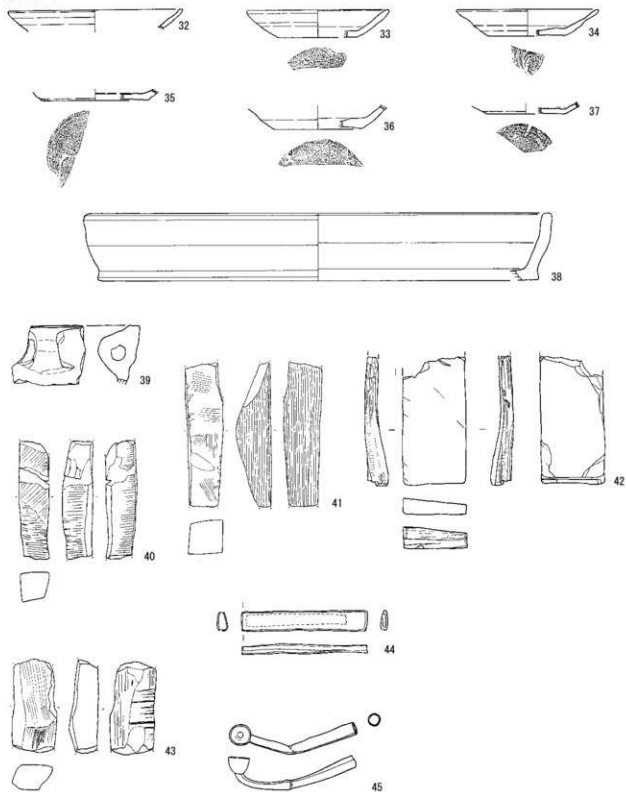


第105图 沟迹 (8)



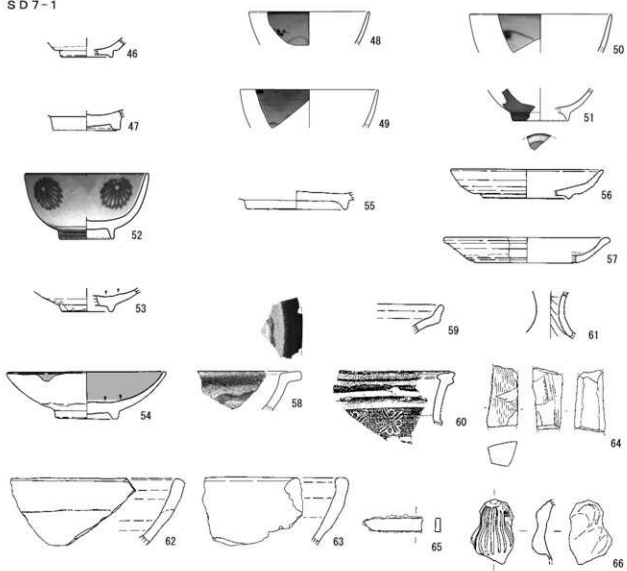
第106図 溝跡出土遺物(1)

SD 5-1



第107图 清跡出土遺物(2)

SD 7-1



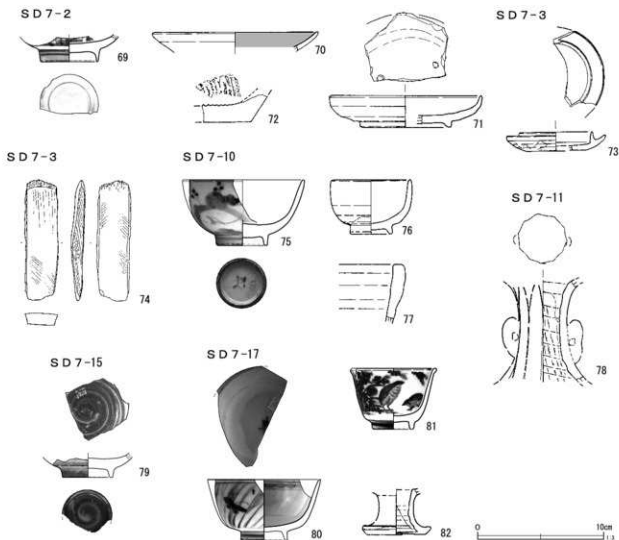
SD 5-4



SD 5-6



第108図 溝跡出土遺物(3)



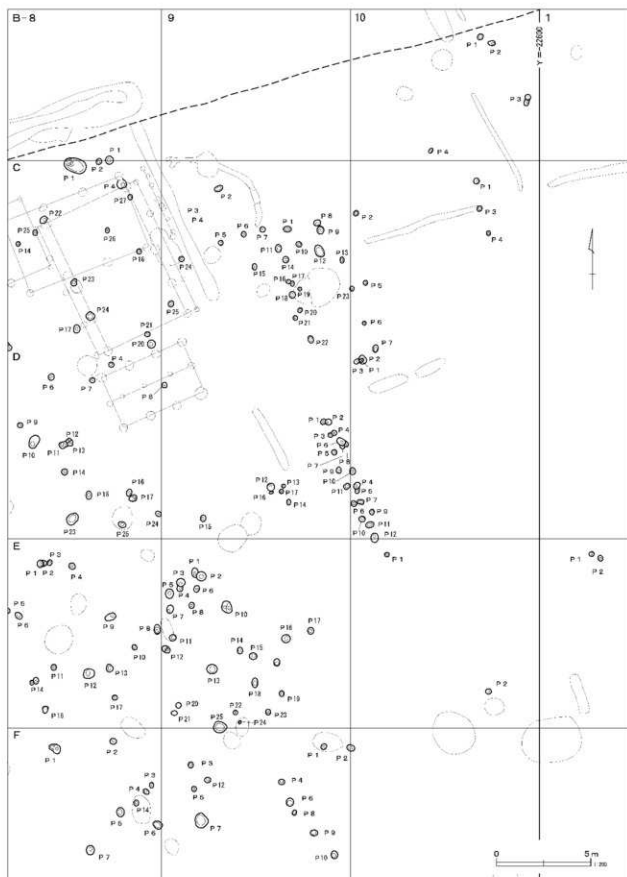
第109図 溝跡出土遺物(4)

第7表 溝跡出土遺物観察表

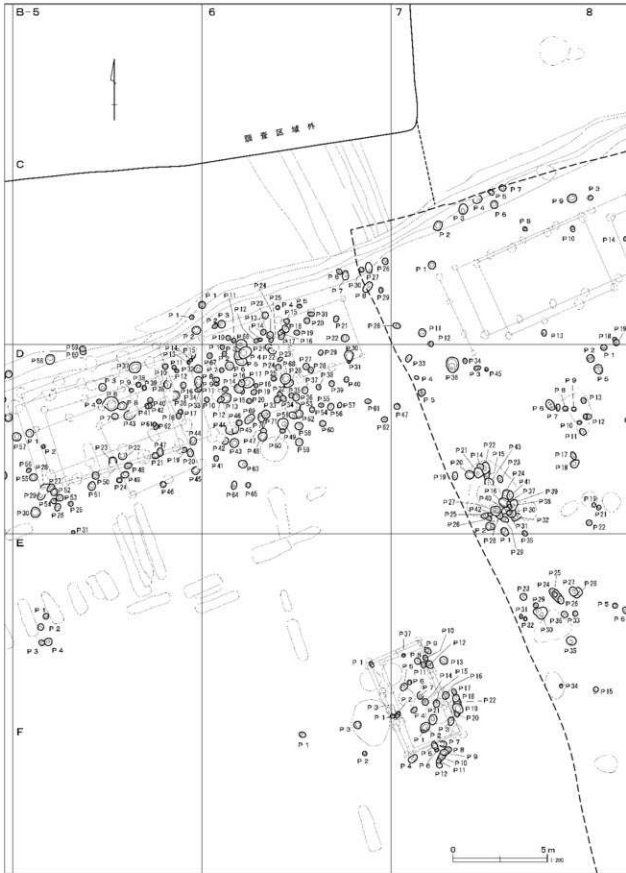
番号	遺構	類別	器種	用途	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色沢	釉薬装飾	成型技法	装飾・痕跡の 特徴	文様	備考
1	SD1-1	陶器	碗	飯器・美盛	75		3.2	(2.3)	灰白	良好	灰胎	刷繕		外面底心 面植物心	18C後半
2	SD1-1	陶器	皿	飯器・美盛	10			(2.0)	灰白	緻密	良好	灰胎 型打ち	刷繕	見込小円跡 シ跡	菊田 外面に丸ノミ削り 後半
3	SD1-5	鉄製品	刀子か			A3.4cm	B0.4cm	C1.1cm	D0.2cm				重24.7g		
4	SD1-10	磁器	碗	飯器	15	(2.6)		(2.6)	灰白	緻密	良好	刷繕		唐草文	18C前～中
5	SD1-13	陶器	碗小	飯器・美盛	10		(4.2)	(1.4)	灰白	緻密	良好	鉄製品	刷繕		目跡2g用 18C代か
6	SD1-13	磁器	碗	飯器・美盛	5			(3.0)	白	緻密	良好	刷繕			19C
7	SD1-13	土器	磁器		5			(3.6)	乳白色	普通		刷繕			刷繕
8	SD1-13	磁器	碗小		30		(5.2)	(1.9)		良好		刷繕			底部刷繕未切り離し
9	SD1-13	鉄製品	不明			A4.5cm	B2.8cm	C1.5cm	D0.1cm				重318.2g		
10	SD1-14	陶器	鉢	肥前	5	(11.8)	(3.2)		灰褐	緻密	良好	透明陶白 土配土	刷繕		見込小砂目跡 17C後～18C前
11	SD1-14	土器	磁器		5			(4.6)	灰白	普通					微砂粒微量 外面漆付着
12	SD1-14	土器	磁器		5			(5.0)	灰白・灰青	普通					砂粒微量
13	SD1-14	陶器	皿	飯器・美盛	5		(4.0)	(0.8)	灰白	良好	鉄胎	刷繕	灯明皿 燈状痕		灯明皿 18C後～19C

番号	造機	機名	機種	産地	機寸(%)	口径(mm)	吐出量(t/h)	動力	焼成	熟成設備	成型技法	原料・燃料の質	文種	備考	
14	SD5-1	陶器	陶	瀬戸・美濃	5		4.3	(3.0)	灰白	良好	灰焼	繊維	割り出し高台	18C代か	
15	SD5-1	陶器	陶	肥前	90		5.2	(6.9)	灰黄	良好	灰焼	繊維	高台内に印刷した下割(二次の焼成か)	意地焼し・17C後半か	
16	SD5-1	磁器	陶	肥前	10	(16.3)		(3.8)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	18C代か	
17	SD5-1	磁器	陶	肥前	50		4.2	(2.2)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	管付砂粒付着	18C前~中
18	SD5-1	磁器	陶	肥前	15			(2.0)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	高台内割込み管付砂粒付着	18C代
19	SD5-1	磁器	陶	肥前	5		(4.2)	(2.2)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	二重陶線 内側半割込み	高台内割込み(大割半割)
20	SD5-1	磁器	仏器具	肥前	90		4.8	(3.6)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	底面砂粒付着	19C代か
21	SD5-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	15	(12.0)	(7.3)	(3.0)	灰白	良好	灰焼	繊維	割入多 割込み分け 割り出し高台見込み高台跡	付け高台か 17C後半	
22	SD5-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	20	(11.8)	(5.0)	2.8	灰	良好	灰焼	繊維	管付輸付管 割り出し高台	18C中か	
23	SD5-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(13.9)	(9.5)	2.6	灰	良好	長石焼	繊維	割入多	17C中~後半	
24	SD5-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	10			(1.3)	淡黄	良好	長石焼	繊維	見込二重陶線 内割ミソ跡	17C初 打明跡に転用か	
25	SD5-1	陶器	磁鉢	丹波	5			(3.6)	暗灰		鉄壁				
26	SD5-1	陶器	磁鉢	瀬戸・美濃	5			(6.2)	灰黄	良好	灰焼	繊維か	鉄焼	18C後半 輪割跡は殆んどない	
27	SD5-1	土器	かわらけ		40	(9.8)	(6.0)	(2.5)	橙	普通	繊維		底面 陶線本 切り履し		
28	SD5-1	土器	かわらけ		30	(12.0)	(7.2)	(2.3)	橙	普通	繊維		底面 陶線本 切り履し		
29	SD5-1	土器	かわらけ		20	(11.0)		(2.1)	橙	普通	繊維		底面は割減してゐる		
30	SD5-1	土器	かわらけ		20	(11.8)		(2.0)	橙	普通	繊維				
31	SD5-1	土器	かわらけ		10	(12.0)		(2.0)	橙	普通	繊維				
32	SD7-1	土器	かわらけ		10	(13.6)		(1.7)	橙	普通	繊維				
33	SD7-1	土器	かわらけ		20	(11.2)	(6.4)	(2.2)	橙	普通	繊維				
34	SD7-1	土器	かわらけ		15	(11.2)	(6.0)	(2.1)	橙	普通	繊維				
35	SD7-1	土器	かわらけ		5	(8.2)		0.9	橙	普通	繊維				
36	SD7-1	土器	かわらけ		30		(7.0)	(3.8)	橙	普通	繊維				
37	SD7-1	土器	かわらけ		10		(6.2)	(6.9)	黄褐	普通	繊維			内面ケール付着 打明跡に転用か	
38	SD7-1	土器	磁鉢		20	(36.8)	(34.6)	(5.3)	灰黄	普通				外蓋スス付着	
39	SD7-1	土器	磁鉢		5			(4.6)	黄褐	普通				外蓋スス付着	
40	SD7-1	石製品	磁石				長さ(9.8)cm 幅2.13cm 厚0.2.30cm 重0.72.6g							磁灰岩	
41	SD7-1	石製品	磁石				長さ(11.3)cm 幅2.23cm 厚0.2.80cm 重0.107.2g							磁灰岩	
42	SD7-1	石製品	磁石				長さ9.7cm 幅5.0cm 厚0.9.8-1.3 重0.101.2g							磁灰岩	
43	SD7-1	石製品	磁石				長さ17.23cm 幅3.15cm 厚0.2.23cm 重0.66.7g							安山岩	
44	SD7-1	銅合金	小物				A1.9cm B1.6cm C0.5cm D0.8cm E0.9cm 重0.31g							銅合金	
45	SD7-1	銅合金	燈管		100		A(9.1)cm B(2.5)cm C(1.6)cm D(9.9)cm 重11.5g							緑銅	
46	SD7-1	陶器	香炉	瀬戸・美濃	5		(7.4)	(2.0)	淡黄	普通	灰焼	繊維		18C代か	
47	SD7-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(12.0)		(1.6)	灰白	調査	普通	長石焼	繊維	意地品跡	志野 17C初
48	SD7-1	陶器	陶	京・信楽	10		(4.0)	(1.5)	淡黄	良好	灰焼	繊維		割入多 割り出し高台	18C末~19C初
49	SD7-1	陶器	陶	瀬戸・美濃	90		(5.2)	(1.3)	灰黄	調査	良好	灰焼	繊維	割入多 割り出し高台	18Cか
50	SD7-1	磁器	陶	肥前	5	(9.6)		(2.7)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	外側華文文	18C前~中
51	SD7-1	磁器	陶	肥前	5	(16.9)		(3.1)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維		18C中
52	SD7-1	磁器	陶	肥前	5	(11.3)		(3.1)	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	華文文か	18C前~中
53	SD7-1	陶器	陶	肥前	20		(4.4)	(2.6)	灰白	普通	灰焼	繊維		割り出し高台 割入多	18C代
54	SD7-1	磁器	陶	肥前	90	9.7	4.2	5.3	灰白	調査	良好	灰焼	繊維	割り出し高台 華文文 割入多	こんにく印刷 管付砂粒付着 18C前半

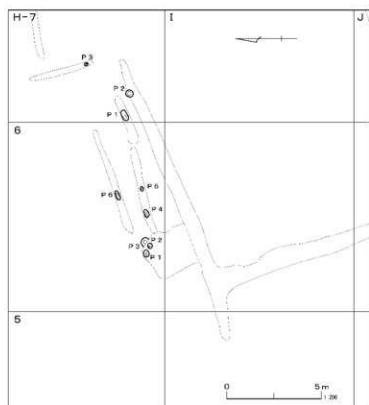
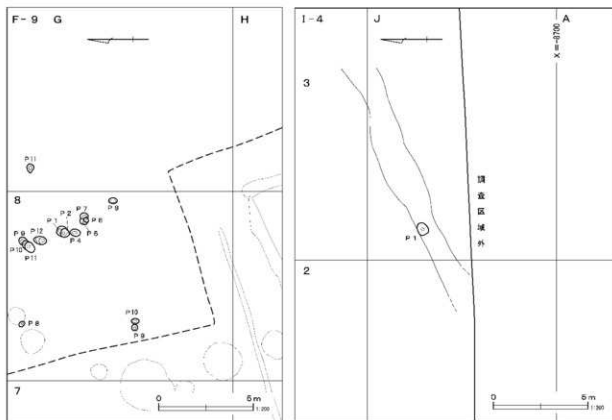
番号	道 橋	種 別	部 種	産 地	焼成率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎 土	焼成	胎土成分	成型技法	目録・部品の 名 称	文 様	備 考	
55	SD7-1	磁器	皿	肥前	5		(4.0)	(1.8)	灰白	良好	灰物	轆轤	見込み穴目輪 細子・取り出し 高台	白磁	18C中～後	
56	SD7-1	陶器	皿	肥前	75	12.3	4.9	2.7	灰白	良好	陶緑物 透明物	轆轤	見込み穴目輪 細子有・取り出 し高台・備 印粒・門扉ワ ン跡		18C初	
57	SD7-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	25		(7.0)	(1.8)	浅黄	良好	長石物	轆轤	打高台・二次 的焼成		17C末～18C初	
58	SD7-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(12.0)	(6.0)	(2.3)	陶灰 緑黄	良好	長石物	轆轤	取り出し高白 高台内輪トナ リ		諏志野か 17C後半	
59	SD7-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(12.0)	(0.0)	(2.0)	浅黄	良好	灰物	轆轤			19C代か	
60	SD7-1	陶器	皿	瀬戸・美濃	5			(3.4)	灰白	良好	灰物	轆轤	貫入多・洗滌 跡		石原品部 18C末～19C前	
61	SD7-1	陶器	踏鉢	瀬戸・美濃	5			(2.3)	灰青	良好	鉄物	轆轤			19C代か	
62	SD7-1	陶器			5			(4.0)	紅・白・青	良好	鉄物	轆轤			花源に類似	
63	SD7-1	陶器	掛札か	瀬戸・美濃	80			(2.6)	灰白	良好	灰物	轆轤			19C代か	
64	SD7-1	土器	燈籠		5			(3.2)	灰青	普通					外側に扉付着	
65	SD7-1	土器	燈籠		10			(5.4)	陶灰黄	普通						
66	SD7-1	石製品	磁石			長さ(4.50) 幅2.38 厚3.43 重334.3g										携
67	SD7-1	鉄製品	柄杓			A4.6cm B1.1cm C9.4cm 重38.4g										携 撰(著しい)
68	SD7-1	土製品	人形			高さ5.0cm 幅3.0cm 重3.1g										
69	SD7-2	磁器	碗	肥前	20		(4.0)	(2.3)	灰白	良好	灰物	轆轤	見込み内輪 ニ跡	高台内一環 溝		
70	SD7-2	陶器	皿	肥前	5	(13.0)		(1.6)	陶灰 緑黄	良好	透明物 陶緑物	轆轤	内野山		17C～18C前半	
71	SD7-2	陶器	皿	瀬戸・美濃	25	(12.0)	(7.2)	2.5	灰黄	普通	灰物	轆轤	見込み 内輪 ピン跡 二次 的焼成		17C後半～18C前半	
72	SD7-2	陶器	踏鉢	瀬戸・美濃	5			(2.0)	灰白	良好	鉄物	轆轤	目目割漆		花源に類(未切りなし)	
73	SD7-3	陶器	皿	瀬戸・美濃	20	(7.8)	(4.7)	1.5	灰白 緑黄	普通	鉄物	轆轤	環粒子備置		打明受皿 19C前半	
74	SD7-3	石製品	磁石			長さ9.34cm 幅2.50cm 厚3.0.86cm 重334.1g									瀬戸灰	
75	SD7-10	磁器	碗	肥前	30	(9.0)	3.8	5.3	灰白 緑黄	良好	灰物	轆轤	取り出し高白 骨輪輪 樹文 貫付粒粒付着		18C前～中	
76	SD7-10	陶器	小杯	瀬戸・美濃	20	(6.1)	(2.2)	4.2	灰黄	良好	灰物	轆轤	取り出し高白 内輪底シ跡		19C	
77	SD7-10	土器	燈籠		5			(4.7)	黄灰	普通					外扉付着	
78	SD7-11	陶器	花瓶	瀬戸・美濃	90	3.9		(8.0)	陶灰	良好	陶緑物・灰物				18C前半	
79	SD7-15	陶器	碗	肥前	85		(3.0)	(2.0)	陶灰 緑黄	良好	透明物 白化粧土	轆轤	貫入多・内野 山		綱毛目 17C後半～18C前半	
80	SD7-17	磁器	碗	瀬戸・美濃	35	(9.0)	(3.0)	5.8	灰白	良好	透明物	轆轤	取り出し高白		見込み「青」 19C代	
81	SD7-17	磁器	小碗	瀬戸・美濃	90	6.6	3.0	4.8	灰白 緑黄	良好	透明物	轆轤	樹林砂粒付着 貫付着		見込み目跡 江戸末～明治初	
82	SD7-17	陶器	受皿	京焼系	80				灰黄	良好	灰物	轆轤			樹付灯火 受皿 18C	



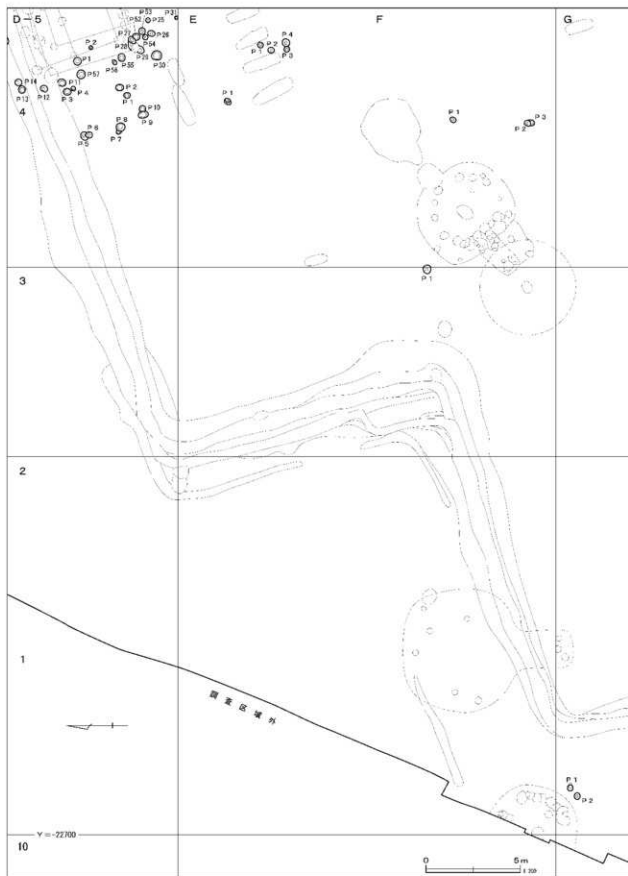
第110図 ビット(1)



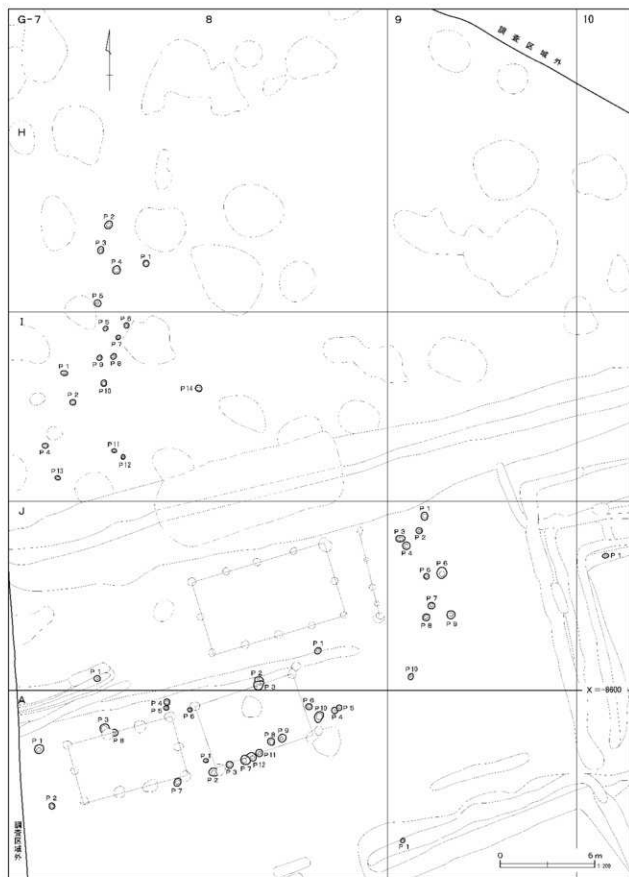
第111図 ピット(2)



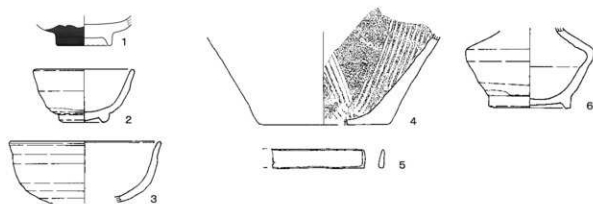
第112図 ビット (3)



第113図 ピット (4)



第114図 ピット(5)



第115図 ビット出土遺物

第8表 ビット出土遺物観察表

番号	類別	器種	産地	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	構成	胎土	施装	成型技法	器種・器形の備考	文様	備考
1	磁器	碗	肥前	35			(4.2)	灰白 陶質	良好	灰物	刷毛	刷毛	高台際一歯部		18C前-中
2	陶器	小杯	瀬戸・美濃	50	(7.8)	3.2	4.2	灰黄 陶質	普通	灰物	刷毛	刷り出し高台			17C
3	陶器	碗	瀬戸・美濃	20	(12.6)			灰黄 陶質	普通	灰物	刷毛	貫入多	無文	尾高茶碗か	18C前
4	陶器	碗	瀬戸・美濃	25	(10.8)	(7.4)		浅黄 陶質	普通	灰物	刷毛	部 目10本/歯部減少			18C後半
5	金属製品	小銅			A7.4cm	D1.4cm	C0.6cm	重さ10.6g		銅合金	鍛錬				
6	陶器	不明	瀬戸・美濃	100		6.4	(6.2)	浅黄 良好	灰物	刷毛	刷り出し高台			刷毛施し残りか	19C中

(5) ビット (第110~114図)

ビットは450基検出された。ビットは、第1地点と第5地点の掘立柱建物跡周辺から多数検出された。ビットの幾つかは掘立柱建物跡と関連すると思われるが、配置等の組み合わせはできなかった。特に、L8・A8グリッドのP1とL8・C9グリッドのP1から完形に陶磁器が出土し、掘立柱建物跡との関連が注目される。

掘立柱建物跡周辺以外は、第1地点の北西から比較的多く検出され、第1-1号井戸跡周辺に密集している。また、F8・D9、D10とF8・F8、G8グリッドで、ビットが列状に並んで検出されたが、配置が不規則なため欄列等には考えにくい。

第9表 ビット計測表

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・G1	1	0.30	0.28	0.67	5	L8・D4	9	0.46	0.34	0.12
5	L8・G1	2	0.32	0.28	0.40	5	L8・D4	10	0.34	0.28	0.08
5	L8・F3	1	0.39	0.35	0.19	5	L8・D4	11	0.43	0.40	0.21
5	L8・D4	1	0.29	0.24	0.09	5	L8・D4	12	0.34	0.27	0.35
5	L8・D4	2	0.38	0.33	0.18	5	L8・D4	13	0.37	0.36	0.10
5	L8・D4	3	0.36	0.36	0.09	5	L8・D4	14	0.36	0.30	0.31
5	L8・D4	4	0.25	0.25	0.06	5	L8・E4	1	0.36	0.32	0.55
5	L8・D4	5	0.44	0.30	0.11	5	L8・F4	1	0.28	0.26	0.24
5	L8・D4	6	0.30	0.29	0.12	5	L8・F4	2	0.37	0.28	0.48
5	L8・D4	7	—	0.23	0.16	5	L8・F4	3	—	0.32	0.23
5	L8・D4	8	0.44	0.37	0.16	5	L8・C5	1	0.22	0.18	0.28

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・C5	2	0.42	0.44	0.40
5	L8・D5	1	0.42	0.40	0.53
5	L8・D5	2	0.24	0.22	0.21
5	L8・D5	3	0.35	0.32	0.34
5	L8・D5	4	0.26	0.23	0.19
5	L8・D5	6	0.82	0.76	0.23
5	L8・D5	7	0.44	0.40	0.12
5	L8・D5	8	0.38	0.33	0.33
5	L8・D5	9	0.26	0.25	0.14
5	L8・D5	10	0.28	0.22	0.20
5	L8・D5	11	0.20	0.18	0.10
5	L8・D5	12	0.26	0.18	0.05
5	L8・D5	13	0.20	0.18	0.22
5	L8・D5	14	0.19	0.16	0.28
5	L8・D5	15	—	0.18	0.14
5	L8・D5	16	0.30	0.27	0.30
5	L8・D5	17	0.26	0.22	0.17
5	L8・D5	18	0.26	0.20	0.10
5	L8・D5	19	0.24	0.22	0.14
5	L8・D5	20	0.40	0.36	0.39
5	L8・D5	21	0.38	0.35	0.38
5	L8・D5	22	0.43	0.42	0.15
5	L8・D5	23	0.38	—	0.30
5	L8・D5	24	0.24	0.18	0.13
5	L8・D5	25	0.23	0.22	0.14
5	L8・D5	26	0.42	0.29	0.35
5	L8・D5	27	0.32	0.36	0.56
5	L8・D5	28	—	0.41	0.34
5	L8・D5	29	—	0.35	0.27
5	L8・D5	30	0.54	0.46	0.16
5	L8・D5	31	0.19	0.17	0.11
5	L8・D5	32	0.46	0.40	0.57
5	L8・D5	33	0.40	0.22	0.52
5	L8・D5	34	0.58	0.44	0.42
5	L8・D5	35	0.44	0.36	0.31
5	L8・D5	36	—	0.40	0.09
5	L8・D5	37	0.66	0.50	0.30
5	L8・D5	38	0.25	0.24	0.14
5	L8・D5	39	0.30	0.25	0.11
5	L8・D5	40	0.32	0.29	0.23
5	L8・D5	41	—	0.22	0.11
5	L8・D5	42	0.23	0.19	0.25
5	L8・D5	43	—	0.48	0.30
5	L8・D5	44	0.34	0.29	0.35

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・D5	45	—	0.34	0.35
5	L8・D5	46	0.30	0.26	0.32
5	L8・D5	47	0.36	0.32	0.31
5	L8・D5	48	0.35	0.31	0.45
5	L8・D5	49	0.40	0.38	0.36
5	L8・D5	50	0.39	0.38	0.51
5	L8・D5	51	0.41	0.36	0.28
5	L8・D5	52	—	0.35	0.44
5	L8・D5	53	0.36	0.32	0.24
5	L8・D5	54	0.32	0.29	0.28
5	L8・D5	55	0.45	0.37	0.28
5	L8・D5	56	0.21	0.18	0.25
5	L8・D5	57	0.46	0.40	0.49
5	L8・D5	58	0.47	0.40	0.30
5	L8・D5	59	0.27	0.27	0.51
5	L8・D5	60	—	0.29	0.46
5	L8・D5	61	0.20	0.16	0.40
5	L8・D5	62	0.27	0.26	0.31
5	L8・E5	1	0.33	0.32	0.25
5	L8・E5	2	0.36	0.34	0.20
5	L8・E5	3	0.31	0.31	0.21
5	L8・E5	4	0.36	0.36	0.27
5	L8・C6	1	0.36	0.34	0.16
5	L8・C6	2	0.22	0.24	0.09
5	L8・C6	3	0.38	0.38	0.34
5	L8・C6	4	0.18	0.20	0.09
5	L8・C6	5	0.22	0.22	0.16
5	L8・C6	6	0.30	0.22	0.28
5	L8・C6	7	0.32	0.46	0.12
5	L8・C6	8	0.58	0.30	0.61
5	L8・C6	10	0.26	0.24	0.15
5	L8・C6	11	0.24	0.24	0.15
5	L8・C6	12	0.24	0.20	0.20
5	L8・C6	13	0.22	—	0.09
5	L8・C6	14	0.36	0.30	0.40
5	L8・C6	15	0.30	0.32	0.20
5	L8・C6	16	0.24	—	0.44
5	L8・C6	17	0.28	0.42	0.50
5	L8・C6	18	0.30	—	0.11
5	L8・C6	19	0.26	0.24	0.41
5	L8・C6	20	0.44	0.30	0.23
5	L8・C6	21	0.30	0.28	0.11
5	L8・C6	22	0.40	0.30	0.11
5	L8・C6	23	0.46	0.30	0.41

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・C6	24	0.38	0.32	0.55
5	L8・C6	25	0.30	—	0.36
5	L8・C6	26	0.38	0.34	0.63
5	L8・C6	27	0.46	0.36	0.79
5	L8・C6	28	0.30	0.26	0.28
5	L8・C6	29	0.26	0.28	0.18
5	L8・C6	30	0.30	0.30	0.28
5	L8・C6	31	0.24	0.20	0.42
5	L8・D6	1	0.27	0.23	0.46
5	L8・D6	2	0.27	0.26	0.30
5	L8・D6	3	0.42	0.35	0.41
5	L8・D6	4	0.68	0.58	0.47
5	L8・D6	5	0.60	0.50	0.24
5	L8・D6	6	0.43	0.40	0.68
5	L8・D6	7	0.32	0.27	0.54
5	L8・D6	8	0.36	0.30	0.45
5	L8・D6	9	—	0.26	0.28
5	L8・D6	10	0.60	0.54	0.74
5	L8・D6	11	0.34	0.32	0.30
5	L8・D6	12	0.38	0.22	0.53
5	L8・D6	13	0.54	0.45	0.43
5	L8・D6	14	0.48	0.44	0.49
5	L8・D6	15	—	0.34	0.19
5	L8・D6	16	0.38	0.30	0.43
5	L8・D6	17	—	0.52	0.46
5	L8・D6	18	0.26	0.24	0.27
5	L8・D6	19	0.30	0.28	0.21
5	L8・D6	20	0.26	0.24	0.11
5	L8・D6	21	0.32	0.29	0.25
5	L8・D6	22	0.37	—	0.30
5	L8・D6	23	0.23	0.16	0.20
5	L8・D6	24	—	0.28	0.14
5	L8・D6	25	0.33	0.27	0.07
5	L8・D6	26	0.48	—	0.46
5	L8・D6	27	0.35	0.32	0.26
5	L8・D6	28	—	0.28	0.19
5	L8・D6	29	0.26	0.24	0.14
5	L8・D6	30	0.58	0.48	0.16
5	L8・D6	31	0.16	0.16	0.18
5	L8・D6	32	—	0.22	0.14
5	L8・D6	33	0.35	0.32	0.22
5	L8・D6	34	0.36	0.28	0.12
5	L8・D6	35	0.26	—	0.26
5	L8・D6	36	0.40	0.36	0.52

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・D6	37	0.36	0.30	0.29
5	L8・D6	38	0.23	0.20	0.16
5	L8・D6	39	0.32	0.28	0.17
5	L8・D6	40	0.24	0.22	0.16
5	L8・D6	41	0.26	0.26	0.09
5	L8・D6	42	0.36	0.34	0.59
5	L8・D6	43	0.50	0.45	0.12
5	L8・D6	44	—	0.50	0.53
5	L8・D6	45	0.40	0.28	0.48
5	L8・D6	46	0.32	0.28	0.38
5	L8・D6	47	—	0.28	0.22
5	L8・D6	48	0.44	0.44	0.59
5	L8・D6	49	0.54	0.52	0.66
5	L8・D6	50	0.30	0.29	0.27
5	L8・D6	51	0.50	0.36	0.60
5	L8・D6	52	0.42	0.36	0.41
5	L8・D6	53	—	—	0.35
5	L8・D6	54	0.28	0.22	0.31
5	L8・D6	55	0.30	0.24	0.13
5	L8・D6	56	0.28	0.28	0.21
5	L8・D6	57	0.24	0.20	0.18
5	L8・D6	58	0.36	0.34	0.33
5	L8・D6	59	0.42	0.38	0.17
5	L8・D6	60	0.28	0.26	0.17
5	L8・D6	61	0.30	0.28	0.10
5	L8・D6	62	0.32	0.24	0.12
5	L8・D6	63	0.37	0.36	0.48
5	L8・D6	64	0.46	0.32	0.20
5	L8・D6	65	0.26	0.22	0.46
5	L8・D6	66	0.56	0.40	0.44
5	L8・D6	67	0.28	0.26	0.35
5	L8・D6	68	0.58	0.49	0.59
5	L8・D6	69	0.57	0.35	0.44
5	L8・D6	70	0.56	—	0.26
5	L8・D6	71	0.44	0.44	0.41
5	L8・E6	1	0.28	0.16	0.28
5	L8・F6	1	0.36	0.28	0.25
5	L8・F6	2	0.22	0.22	0.28
5	L8・F6	3	0.59	0.38	0.23
5	L8・H6	1	0.39	0.25	0.07
5	L8・H6	2	0.27	0.24	0.07
5	L8・H6	3	—	0.49	0.11
5	L8・H6	4	0.49	0.23	0.15
5	L8・H6	5	0.22	0.21	0.17

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・H6	6	0.49	0.26	0.05	1	L8・D7	4	0.18	0.16	0.32
7	K8・H7	1	0.34	0.34	0.26	1	L8・D7	5	0.37	0.34	0.33
7	K8・H7	2	0.34	0.32	0.42	1	L8・D7	6	0.52	0.44	0.29
7	K8・H7	3	0.33	0.31	0.21	1	L8・D7	7	0.30	0.12	0.26
7	K8・H7	4	0.47	0.46	0.24	1	L8・D7	8	0.30	0.28	0.47
7	K8・H7	5	0.38	0.32	0.27	1	L8・D7	9	0.28	0.20	0.17
7	K8・I7	1	0.29	0.22	0.15	1	L8・D7	10	0.26	0.22	0.20
7	K8・I7	2	0.32	0.30	0.17	1	L8・D7	11	0.40	0.30	0.17
7	K8・I7	4	0.28	0.23	0.13	1	L8・D7	12	0.42	0.30	0.70
7	K8・I7	5	0.28	0.26	0.15	1	L8・D7	13	0.27	0.24	0.11
7	K8・I7	6	0.32	0.30	0.28	1	L8・D7	14	0.31	0.27	0.89
7	K8・I7	7	0.26	0.25	0.17	1	L8・D7	15	—	0.27	0.24
7	K8・I7	8	0.31	0.30	0.13	1	L8・D7	16	—	0.40	0.30
7	K8・I7	9	0.28	0.26	0.20	1	L8・D7	17	0.43	0.28	0.23
7	K8・I7	10	0.28	0.26	0.17	1	L8・D7	18	0.52	0.38	0.15
7	K8・I7	11	0.22	0.22	0.19	1	L8・D7	19	0.27	0.21	0.26
7	K8・I7	12	0.24	0.23	0.12	1	L8・D7	20	—	0.34	0.12
7	K8・I7	13	0.29	0.26	0.20	1	L8・D7	21	0.51	0.42	0.98
7	K8・I7	14	0.34	0.32	0.35	1	L8・D7	22	0.64	—	0.77
7	K8・J7	1	0.30	0.22	0.36	1	L8・D7	23	0.40	0.30	0.59
7	L8・A7	1	0.49	0.40	0.28	1	L8・D7	24	—	0.40	0.13
7	L8・A7	2	0.34	0.32	0.13	1	L8・D7	25	0.34	0.26	0.65
7	L8・A7	3	—	0.42	0.43	1	L8・D7	26	—	0.28	0.39
7	L8・A7	4	0.34	0.30	0.27	1	L8・D7	27	0.54	0.50	0.72
7	L8・A7	5	0.28	0.25	0.28	1	L8・D7	28	—	0.34	0.24
7	L8・A7	6	0.23	0.22	0.22	1	L8・D7	29	0.38	0.34	0.49
7	L8・A7	7	0.40	0.39	0.39	1	L8・D7	30	0.34	0.22	0.71
7	L8・A7	8	—	0.34	0.60	1	L8・D7	31	—	0.44	0.63
7	L8・C7	1	0.22	0.18	0.08	1	L8・D7	32	—	0.50	0.25
7	L8・C7	2	0.50	0.35	0.16	1	L8・D7	33	0.34	0.26	0.25
7	L8・C7	3	0.55	0.44	0.55	1	L8・D7	34	0.36	0.24	0.25
7	L8・C7	4	0.43	0.34	0.56	1	L8・D7	35	0.24	0.16	0.09
7	L8・C7	5	0.28	0.22	0.19	1	L8・D7	36	0.76	0.67	0.42
7	L8・C7	6	0.24	0.22	0.29	1	L8・D7	37	—	0.18	0.05
7	L8・C7	7	0.38	0.26	0.24	1	L8・D7	38	0.24	0.20	0.09
7	L8・C7	8	0.20	0.20	0.11	1	L8・D7	39	0.58	—	0.52
7	L8・C7	9	0.44	0.42	0.22	1	L8・D7	40	0.40	0.26	0.28
7	L8・C7	10	0.26	0.21	0.21	1	L8・D7	41	0.46	0.28	0.34
7	L8・C7	11	0.38	0.34	0.29	1	L8・D7	42	—	0.26	0.14
7	L8・C7	12	0.24	0.20	0.48	1	L8・D7	43	—	0.38	0.30
7	L8・C7	13	0.26	0.22	0.19	1	L8・D7	45	0.15	0.12	0.07
1	L8・D7	1	0.44	0.32	0.79	5	L8・D7	47	0.30	0.30	0.36
1	L8・D7	2	0.38	0.38	0.38	5	L8・E7	1	0.24	0.22	0.33
1	L8・D7	3	0.32	0.24	0.12	5	L8・E7	2	0.26	0.25	0.21

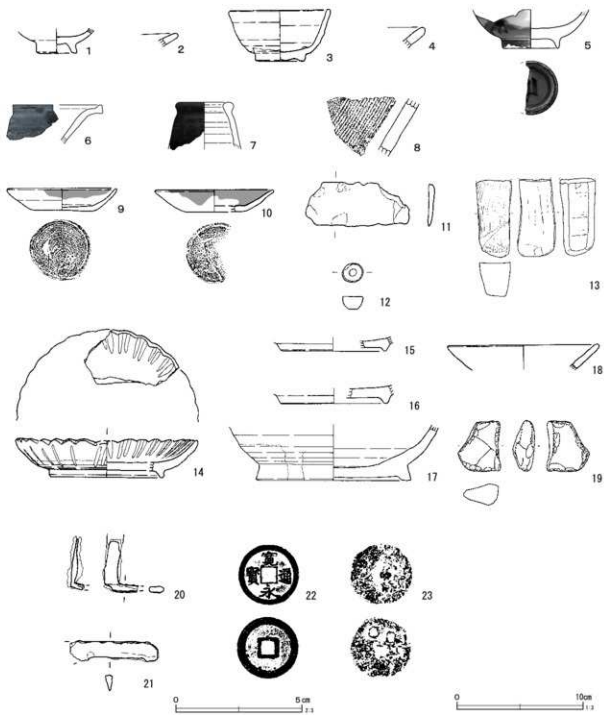
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・E7	3	—	0.24	0.11
5	L8・E7	4	0.26	0.22	0.39
5	L8・E7	5	0.34	0.32	0.65
5	L8・E7	6	0.26	0.26	0.17
5	L8・E7	7	0.46	0.40	0.24
5	L8・E7	8	0.28	0.26	0.46
5	L8・E7	9	0.36	0.24	0.51
5	L8・E7	10	0.27	0.26	0.23
5	L8・E7	11	0.34	0.26	0.48
5	L8・E7	12	0.40	0.30	0.63
5	L8・E7	13	0.38	0.36	0.51
5	L8・E7	14	0.29	0.29	0.49
5	L8・E7	15	0.30	0.28	0.27
5	L8・E7	16	0.39	0.35	0.77
5	L8・E7	17	—	0.24	0.30
5	L8・E7	18	0.40	0.36	0.51
5	L8・E7	19	0.58	0.46	0.78
5	L8・E7	20	0.32	—	0.29
5	L8・E7	21	0.48	0.37	0.53
5	L8・E7	22	—	0.30	0.23
1	L8・E7	23	0.35	0.32	0.51
1	L8・E7	24	—	0.18	0.55
1	L8・E7	25	0.40	0.32	0.49
1	L8・E7	26	0.40	0.34	0.67
1	L8・E7	27	0.44	0.38	0.65
1	L8・E7	28	0.38	0.26	0.71
1	L8・E7	29	0.30	0.26	0.80
1	L8・E7	30	0.58	0.55	0.45
1	L8・E7	31	0.21	0.17	0.09
1	L8・E7	32	0.28	0.24	0.17
1	L8・E7	33	0.30	0.28	0.49
1	L8・E7	34	0.22	0.18	0.63
1	L8・E7	35	0.50	0.48	0.59
1	L8・E7	36	0.40	0.32	0.76
1	L8・E7	37	0.20	0.18	0.23
5	L8・F7	1	0.25	0.24	0.54
5	L8・F7	2	0.60	0.42	0.36
5	L8・F7	3	0.38	0.36	0.60
5	L8・F7	4	0.50	0.32	0.46
5	L8・F7	5	0.43	0.30	0.22
5	L8・F7	6	—	0.22	0.15
5	L8・F7	7	—	0.32	0.33
5	L8・F7	8	—	0.36	0.60
5	L8・F7	9	0.40	0.34	0.81

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
5	L8・F7	10	—	0.38	0.47
5	L8・F7	11	0.30	0.28	0.81
5	L8・F7	12	—	0.26	0.31
5	L8・H7	1	0.58	0.32	0.12
5	L8・H7	2	0.36	0.36	0.10
5	L8・H7	3	0.20	0.14	0.07
7	K8・J8	1	0.29	0.25	0.49
7	K8・J8	2	—	0.41	0.27
7	K8・J8	3	0.65	0.50	0.62
7	L8・A8	1	0.22	0.18	0.47
7	L8・A8	2	0.52	0.43	0.36
7	L8・A8	3	0.36	0.36	0.28
7	L8・A8	4	0.34	0.31	0.56
7	L8・A8	5	0.31	0.25	0.38
7	L8・A8	6	0.36	0.34	0.14
7	L8・A8	7	0.52	0.46	0.51
7	L8・A8	8	0.41	0.34	0.35
7	L8・A8	9	0.45	0.40	0.31
7	L8・A8	10	0.59	0.45	0.42
7	L8・A8	11	0.42	0.36	0.33
7	L8・A8	12	—	0.44	0.27
1	L8・B8	1	0.46	0.40	0.41
1	L8・C8	1	1.20	0.64	0.23
1	L8・C8	2	0.26	0.18	0.12
1	L8・C8	3	0.18	0.18	0.11
1	L8・C8	4	0.50	0.50	0.81
1	L8・C8	14	0.16	0.16	0.10
1	L8・C8	16	0.22	0.20	0.11
1	L8・C8	17	0.40	0.32	0.28
1	L8・C8	18	0.25	—	0.16
1	L8・C8	19	0.28	0.24	0.44
1	L8・C8	20	0.34	0.34	0.25
1	L8・C8	21	0.30	0.30	0.12
1	L8・C8	22	0.45	0.30	0.40
1	L8・C8	23	0.39	0.32	0.65
1	L8・C8	24	0.45	0.42	0.42
1	L8・C8	25	0.28	0.25	0.15
1	L8・C8	26	0.14	0.12	0.45
1	L8・C8	27	0.20	0.16	0.13
1	L8・D8	1	0.30	0.27	0.26
1	L8・D8	2	0.35	0.30	0.26
1	L8・D8	3	0.40	0.34	0.23
1	L8・D8	4	0.30	0.27	0.33
1	L8・D8	5	0.50	0.40	0.18

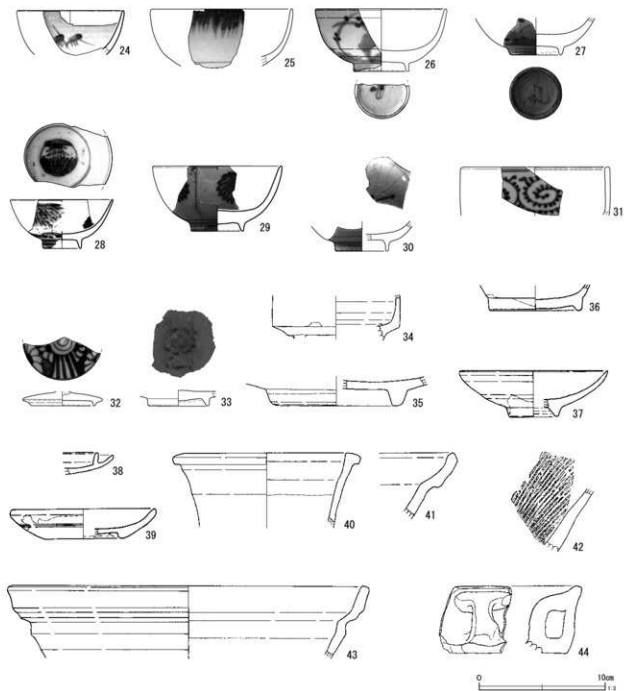
地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1	L 8・D 8	6	0.30	0.23	0.13	1	L 8・F 8	12	—	0.34	0.34
1	L 8・D 8	7	0.30	0.27	0.17	1	L 8・F 8	13	0.38	0.37	0.60
1	L 8・D 8	9	0.22	0.18	0.07	1	L 8・F 8	14	0.26	0.24	0.42
1	L 8・D 8	10	0.68	0.46	0.27	1	L 8・G 8	1	—	0.38	0.45
1	L 8・D 8	11	0.40	0.35	0.27	1	L 8・G 8	2	0.52	0.37	0.52
1	L 8・D 8	12	0.30	0.18	0.36	1	L 8・G 8	4	0.52	0.31	0.58
1	L 8・D 8	13	—	0.32	0.15	1	L 8・G 8	5	0.29	—	0.21
1	L 8・D 8	14	0.26	0.22	0.61	1	L 8・G 8	6	0.26	0.24	0.52
1	L 8・D 8	16	0.38	0.32	0.23	1	L 8・G 8	7	0.41	0.34	0.47
1	L 8・D 8	17	0.48	0.36	0.29	1	L 8・G 8	8	0.41	0.29	0.57
1	L 8・D 8	18	0.32	0.26	0.30	1	L 8・G 8	9	0.26	0.25	0.28
1	L 8・D 8	19	0.18	0.15	0.13	1	L 8・G 8	10	0.31	0.27	0.35
1	L 8・D 8	21	0.25	0.17	0.21	7	K 8・J 9	1	0.40	0.38	0.28
1	L 8・D 8	22	0.30	0.30	0.49	7	K 8・J 9	2	0.32	0.30	0.37
1	L 8・D 8	23	0.65	0.46	0.29	7	K 8・J 9	3	0.48	0.31	0.32
1	L 8・D 8	24	0.33	0.25	0.76	7	K 8・J 9	4	0.45	0.41	0.20
1	L 8・D 8	25	0.35	0.31	0.46	7	K 8・J 9	5	0.34	0.30	0.41
1	L 8・E 8	1	0.33	0.32	0.30	7	K 8・J 9	6	0.59	0.49	0.26
1	L 8・E 8	2	—	0.26	0.23	7	K 8・J 9	7	0.38	0.36	0.38
1	L 8・E 8	3	0.28	0.26	0.21	7	K 8・J 9	8	0.34	0.32	0.42
1	L 8・E 8	4	0.36	0.30	0.20	7	K 8・J 9	9	0.42	0.37	0.34
1	L 8・E 8	5	0.26	0.24	0.33	7	K 8・J 9	10	0.28	0.23	0.22
1	L 8・E 8	6	0.42	0.32	0.56	7	L 8・A 9	1	0.28	0.26	0.36
1	L 8・E 8	8	0.51	0.32	0.60	1	L 8・C 9	1	0.45	0.30	0.17
1	L 8・E 8	9	0.54	0.30	0.92	1	L 8・C 9	2	0.47	0.29	0.30
1	L 8・E 8	10	0.28	0.24	0.29	1	L 8・C 9	5	0.26	0.24	0.19
1	L 8・E 8	11	0.38	0.34	0.35	1	L 8・C 9	6	0.26	0.22	0.20
1	L 8・E 8	12	0.70	0.54	0.34	1	L 8・C 9	7	0.25	0.24	0.65
1	L 8・E 8	13	0.33	0.32	0.25	1	L 8・C 9	8	0.31	0.29	0.35
1	L 8・E 8	14	0.54	0.38	0.60	1	L 8・C 9	9	0.45	0.30	0.26
1	L 8・E 8	15	0.38	0.32	0.49	1	L 8・C 9	10	0.26	0.26	0.22
1	L 8・E 8	16	0.40	0.30	0.53	1	L 8・C 9	11	0.37	0.35	0.60
1	L 8・E 8	17	0.25	0.21	0.34	1	L 8・C 9	12	0.65	0.42	0.35
1	L 8・F 8	1	0.56	0.28	0.78	1	L 8・C 9	13	0.28	0.22	0.03
1	L 8・F 8	2	0.28	0.28	0.33	1	L 8・C 9	14	0.32	0.28	0.50
1	L 8・F 8	3	0.22	0.20	0.26	1	L 8・C 9	15	0.25	0.20	0.39
1	L 8・F 8	4	0.30	0.24	0.33	1	L 8・C 9	16	0.28	0.23	0.09
1	L 8・F 8	5	0.46	0.39	0.24	1	L 8・C 9	17	0.25	0.25	0.07
1	L 8・F 8	6	0.48	0.35	0.25	1	L 8・C 9	18	0.33	0.32	0.34
1	L 8・F 8	7	0.42	0.40	0.63	1	L 8・C 9	19	0.22	0.18	0.32
1	L 8・F 8	8	0.34	0.26	0.56	1	L 8・C 9	20	0.25	0.22	0.37
1	L 8・F 8	9	0.42	—	0.48	1	L 8・C 9	21	0.20	0.18	0.41
1	L 8・F 8	10	—	0.39	0.68	1	L 8・C 9	22	0.26	0.22	0.17
1	L 8・F 8	11	0.61	0.45	0.72	1	L 8・C 9	23	0.23	0.23	0.47

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1	L8・C9	24	0.24	0.23	0.24
1	L8・C9	25	0.30	0.30	0.22
1	L8・D9	1	0.28	0.28	0.09
1	L8・D9	2	0.32	0.30	0.19
1	L8・D9	3	0.30	0.24	0.12
1	L8・D9	4	0.28	—	0.10
1	L8・D9	5	0.28	0.28	0.21
1	L8・D9	6	0.42	0.32	0.32
1	L8・D9	7	—	0.22	0.07
1	L8・D9	8	—	0.22	0.31
1	L8・D9	9	0.36	0.28	0.26
1	L8・D9	10	0.36	0.32	0.27
1	L8・D9	11	0.40	0.31	0.36
1	L8・D9	12	0.42	0.40	0.81
1	L8・D9	13	0.20	0.19	0.27
1	L8・D9	14	0.28	0.26	0.19
1	L8・D9	15	0.32	0.30	0.22
1	L8・D9	16	0.14	0.14	0.09
1	L8・D9	17	0.20	0.19	0.09
1	L8・E9	1	0.48	0.32	0.58
1	L8・E9	2	0.56	0.44	0.48
1	L8・E9	3	0.38	0.32	0.62
1	L8・E9	4	—	0.24	0.40
1	L8・E9	5	0.46	0.44	0.82
1	L8・E9	6	0.30	0.28	0.37
1	L8・E9	7	0.41	0.34	0.62
1	L8・E9	8	0.24	0.24	0.21
1	L8・E9	10	0.62	0.50	0.65
1	L8・E9	11	0.38	0.36	0.42
1	L8・E9	12	0.48	0.42	0.30
1	L8・E9	13	0.45	0.44	0.23
1	L8・E9	14	0.33	0.32	0.33
1	L8・E9	15	0.36	0.32	0.33
1	L8・E9	16	0.38	0.26	0.33
1	L8・E9	17	0.41	0.38	0.37
1	L8・E9	18	0.55	0.38	0.20
1	L8・E9	19	0.30	0.26	0.19
1	L8・E9	20	0.31	0.25	0.13
1	L8・E9	21	0.28	0.24	0.20
1	L8・E9	22	0.22	0.22	0.22
1	L8・E9	23	0.28	0.27	0.30
1	L8・E9	24	0.19	0.17	0.17

地点	グリッド	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1	L8・E9	25	0.62	0.51	0.20
1	L8・E9	26	0.32	0.30	0.17
1	L8・F9	1	0.31	0.28	0.20
1	L8・F9	2	0.40	0.34	0.24
1	L8・F9	3	0.28	0.25	0.18
1	L8・F9	4	0.28	0.24	0.18
1	L8・F9	5	0.30	0.30	0.12
1	L8・F9	6	0.40	0.38	0.32
1	L8・F9	7	0.71	0.62	0.27
1	L8・F9	8	0.18	0.16	0.29
1	L8・F9	9	0.32	0.26	0.32
1	L8・F9	10	0.36	0.34	0.27
1	L8・F9	11	0.45	0.37	0.30
1	L8・F9	12	0.26	0.26	0.62
7	K8・J10	1	0.33	0.24	0.24
1	L8・B10	1	0.30	0.30	0.30
1	L8・B10	2	0.36	0.27	0.23
1	L8・B10	3	0.56	0.16	0.29
1	L8・B10	4	0.25	0.18	0.35
1	L8・C10	1	0.35	0.32	0.45
1	L8・C10	2	0.22	0.21	0.19
1	L8・C10	3	0.39	0.23	0.23
1	L8・C10	4	0.27	0.21	0.16
1	L8・C10	5	0.26	0.20	0.12
1	L8・C10	6	0.17	0.16	0.21
1	L8・C10	7	0.30	0.26	0.22
1	L8・D10	1	0.18	0.18	0.10
1	L8・D10	2	0.44	0.39	0.33
1	L8・D10	3	—	0.26	0.33
1	L8・D10	4	0.38	0.33	0.55
1	L8・D10	5	—	0.26	0.27
1	L8・D10	6	0.32	0.30	0.19
1	L8・D10	7	0.32	0.22	0.19
1	L8・D10	9	0.27	0.26	0.21
1	L8・D10	10	0.30	0.26	0.29
1	L8・D10	11	0.39	0.30	0.45
1	L8・D10	12	0.49	0.36	0.61
1	L8・E10	1	0.28	0.24	0.32
1	L8・E10	2	0.25	0.24	0.26
1	L9・E1	1	0.22	0.20	0.12
1	L9・E1	2	0.30	0.26	0.19
1	L9・J3	1	0.59	0.55	0.78



第116図 グリッド出土遺物(1)



第117図 グリッド出土遺物(2)

第10表 グリッド出土遺物観察表

番号	類別	器種	産地	焼成率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成温度(℃)	胎土	地成	胎土	成形技法	器種・器形の 特徴	文様	備考
1	陶器	小坏	瀬戸・美濃	80			3.8	(1.3)	灰	緻密	良好	突輪	縦縞			
2	陶器	皿	瀬戸・美濃	5				(1.6)	灰白	普通	灰粘	縦縞				18Cか
3	陶器	小坏	瀬戸・美濃	45	8.4	3.4	3.9		灰白	普通	鉄粘	縦縞				17C後半
4	陶器	皿	瀬戸・美濃	5				(1.6)	灰白	普通	灰粘	縦縞				18Cか
5	磁器	碗	肥前	10	(4.3)	(3.1)			乳白	緻密	良好	灰粘	縦縞			高台内張 18C前~中
6	陶器	鉢	瀬戸・美濃	5				(3.1)	浅黄	緻密	良好	灰粘 鉄粘輪	縦縞			18C後半

番号	種別	器種	産地	焼成率 (%)	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎土	焼成	釉薬状況	成型技法	装飾・彫刻の 有	文様	備	考	
7	陶器	徳利か	瀬戸・美濃	5	(4.0)		(3.8)	灰白	良好	鉄釉	轆轤	灰吹き			18C	
8	陶器	徳鉢	瀬戸・美濃	5	(8.6)		(4.5)	灰白 鉄粉粒	普通	鉄釉	轆轤				18C代か	
9	土器	かわらけ		85	(8.6)	8.8	1.7	灰黄 鉄粉	良好	鉄釉					灯明道に転用か、チール付替	
10	土器	かわらけ		35	(9.1)	(5.0)	1.7	灰黄 陶粉	普通	鉄釉					灯明道に転用か、チール付替	
11	鉄製品	燗か			A8.3cm	B13.3cm	C6.6cm	重さ37.4g								錆化著しい
12	金属製品	煙管		大径部90%	A1.5cm	B1.6cm	C1.8cm	重さ2.1g	銅合金							緑錆
13	石製品	礎石			A6.3cm	B2.8cm	C3.8cm	重さ89.6g								
14	陶器	皿	瀬戸・美濃	10	(14.9)	(8.8)	3.9	灰白	良好	灰釉・油黒 鉄	轆轤	買人多			菊文 17C中～後半 二次的焼成	
15	陶器	皿	瀬戸・美濃	5	(8.4)	(3.1)		灰白 鉄粉粒	良好	灰釉・油黒 鉄	轆轤	買人多			志野 17C前半	
16	陶器	皿	瀬戸・美濃	20	(8.6)	(12)		灰白	普通	長石釉	轆轤	買人多			志野 見込み目録 17C前半	
17	陶器	瓢か	瀬戸・美濃	90	(12.0)	(4.4)		灰白	良好	灰釉	轆轤				19C前半	
18	土器	かわらけ		10	(11.8)	(1.9)		灰黄	普通	鉄釉						
19	石製品	火打石			長さ3.91cm	幅3.25cm	厚3.17cm	重さ25.3g								メノウ
20	鉄製品	刀子か			A4.8cm	B2.8cm	C1.2cm	D9.5cm	重さ19.7g							錆化著しい
21	鉄製品	刀子か			A6.8cm	B1.3cm	C0.5cm	重さ24.1g								錆化著しい
22	古銭	寛永通寶														寛永通宝
23	銭か															キセルの火皿を譲したもの
24	磁器	碗	肥前	5	(8.4)	(3.6)		灰白 鉄粉	良好	鉄釉	轆轤	轆轤目取	草花文		18C前～中	
25	磁器	碗	肥前	10	(11.2)	(4.6)		灰白 鉄粉	普通	鉄釉	轆轤	両隣り文	18Cか			
26	磁器	碗	肥前	50	49.4	(4.2)	5.9	灰白 鉄粉	良好	鉄釉	轆轤	限り出し真白 付道絵 管輪 梅樹文	くらわんか碗 器付に砂粒付替 18C中			
27	磁器	碗	肥前	60		4.0	(3.0)	灰白 鉄粉	良好	鉄釉	轆轤	高台内砂粒付 替 高台内鉄 あり	管輪梅樹文	くらわんか碗 18C中		
28	磁器	碗	肥前	35	(8.2)	(2.9)	3.9	灰白	良好	鉄釉	轆轤	限り出し真白			青裏くらわんか碗 18C前半	
29	磁器	碗	肥前	30	(10.2)	4.0	(5.2)	灰白	良好	鉄釉	轆轤	買人多	菊花文		18C中～後	
30	磁器	碗	肥前	20	(6.2)	(2.4)		灰白 鉄粉	良好	鉄釉	轆轤	銀あり	買人多		17C後半	
31	磁器	碗	肥前	10	(11.6)	(3.9)		灰白 鉄粉	良好	鉄釉	轆轤		繪唐草文		18C後～19C前半	
32	磁器	蓋	瀬戸・美濃	40	(6.4)	(1.1)		灰白 鉄粉	普通	鉄釉	轆轤		矢野梅樹花梨 子文		18C後半～19C前半	
33	陶器	皿	瀬戸・美濃	90		4.8	(1.3)	灰黄 鉄粉	普通	鉄釉	轆轤		買人多	18C代 磨給道		
34	陶器	香炉	瀬戸・美濃	20	(2.9)	(2.9)		灰黄	良好	鉄釉	轆轤	三足 二次的 焼成			19C	
35	陶器	鉢	肥前	5	(8.0)	(2.4)		c.c.15%赤鉄	良好	鉄釉	轆轤	限り出し真白 見込み砂目録			17C末～18C前	
36	陶器	片口鉢	瀬戸・美濃	50	(7.2)	(2.0)		灰黄	良好	鉄釉	轆轤	限り出し真白			17C～18C	
37	白磁	皿	肥前	40	(11.6)	(3.8)	(3.6)	灰白 鉄粉	良好	鉄釉	轆轤	限り出し真白 見込み砂目録 筒付			18C前～中	
38	陶器	灯明受皿	瀬戸・美濃	5				灰白	良好	鉄釉	轆轤				19C前半	
39	陶器	灯明皿	瀬戸・美濃	40	(11.2)	(6.2)	2.6	灰黄	良好	鉄釉・灰 釉高じ	轆轤	見込み目録で し跡			18C中～後	
40	陶器	仏花彫か	瀬戸・美濃	10	(12.8)	(5.8)		灰黄	良好	鉄釉	轆轤	買人多			18C後半～19Cか	
41	陶器	徳鉢	瀬戸・美濃	5	(5.2)	(2.9)		灰黄 鉄粉	普通	鉄釉	轆轤				18C後半～19C前半	
42	陶器	徳鉢	瀬戸・美濃	5	(7.4)	(3.7)		灰黄	良好	鉄釉	轆轤				18C後半	
43	陶器	徳鉢	丹波	5	(4.5)	(4.5)		陶灰	良好			輪彫みか、内 面鉄釉 灰目 跡			18C	
44	土器	信筒		5	(5.3)	(5.3)		灰黄	普通							

V 第2・3地点の遺構と遺物

1. 概要

第2・3地点は遺跡範囲の南西部、一般国道16号バイパスの南側に位置している。大グリッドでM5、M6、M7、N5、N6、N7グリッドにまたがっている。第2地点は現道を挟んで2区画に分かれる。第3地点は台地西縁に位置し、発掘調査前の状況は崖線に沿って竹藪であった。

調査面積は広いが、遺構の分布は比較的散漫で、時期ごとに小さなまとまりに分かれる。第2地点は台地奥に入らため、近世の遺構が主であった。第3地点は台地の西縁に沿って旧石器時代及び縄文時代の遺構・遺物が見つかっている。

検出された遺構は、旧石器時代は石器集中1箇所。縄文時代は早期の竈穴1基、中期後半から後期の住居跡3軒、集石土壇2基、土壇2基。近世は掘立柱建物跡2棟とそれを「コ」字状に囲む柵列跡5条、溝跡39条、土壇173基である。

旧石器時代は、第2暗色帯上面から石器集中1箇所が検出された。第1次調査区（一般国道16号バイパス部分）では、第2暗色帯中の石器時代集物が報告され、大宮台地における後期旧石器時代前半期の石器群として注目されている。今回検出された石器群は、第2暗色帯上面と第1次調査よりは編年的に新しくなるが、後期旧石器時代前半期の基礎資料として重要である。第1次調査で出土した石器群は、ガラス質黒色安山岩を主体的に用いて、亀甲状の石核から小形幅広い剥片を石器集中内で剥片剥離しており、明確な製品が無い。それに対し、今回の調査で検出された石器群は、黒色頁岩と黒曜石が用いられ、前者は縦長剥片を主体に遺跡内に持ち込まれており、ナイフ形石器が含まれる。後者は小形の不定形剥片の縁辺の一部

に微細な剥離痕が見られる。定型的な石器というより、便宜的に使用した結果と思われる。第1次調査と今回の調査で検出された石器群は、石器の技術形態及び石器石材の運用方法が異なっている。

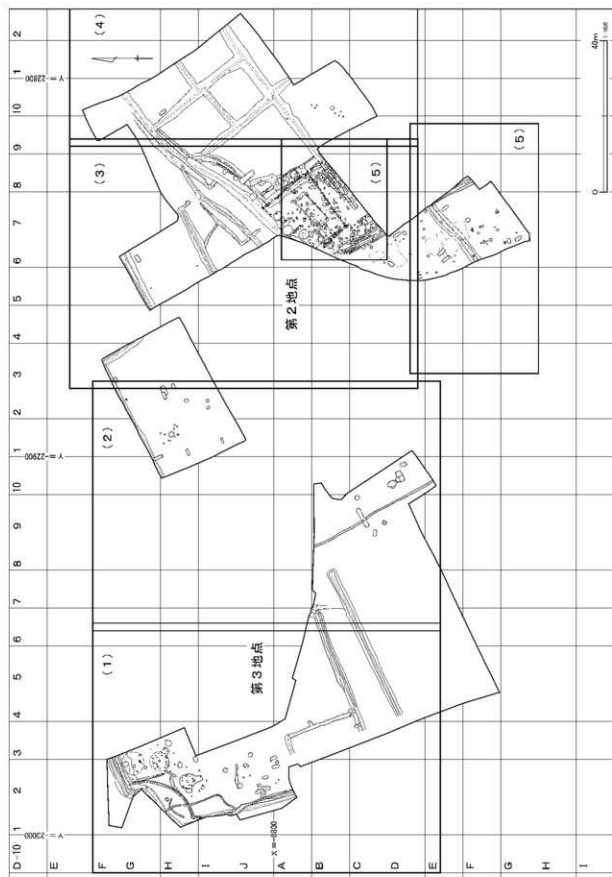
縄文時代の遺構と遺物は、台地の西縁部から竈穴が検出された。焼土の範囲から数回に渡って使われたと思われる。焼土の一箇所から条痕文系土器がほぼ1個体潰れた形で検出された。

中期末葉から後期初頭の遺構は、住居跡が台地西縁の一般国道16号バイパスに隣接した地点から3軒検出された。遺構はいずれも耕作等によって削平されており、遺存状態は悪かった。

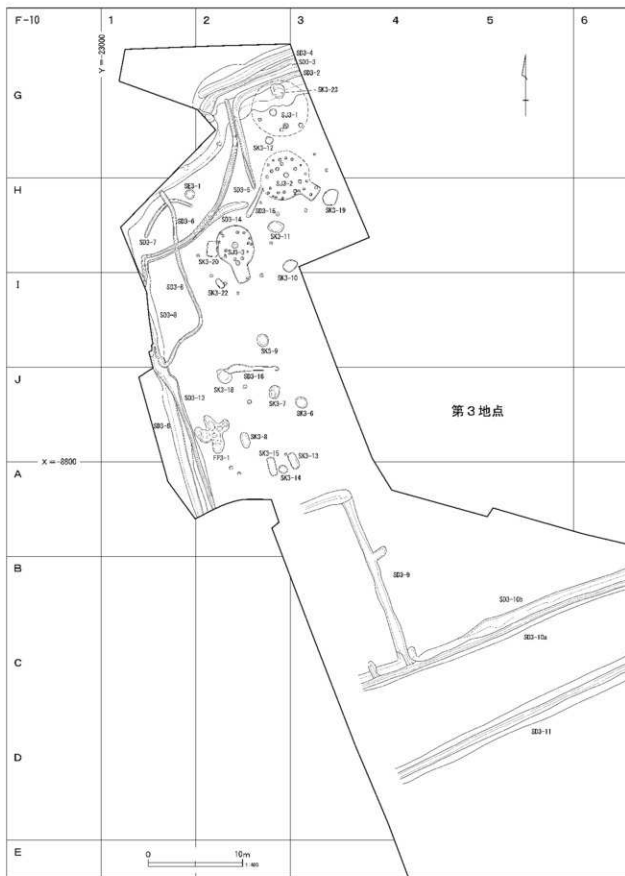
集石土壇は第2地点と第3地点からそれぞれ1基検出された。住居跡等が台地の西縁に近接するのに対し、集石土壇は台地奥に入ったところから検出された。

土壇は、竈穴の周辺と第2地点の台地奥部から検出された。第2地点の第2-18号土壇は、円形で掘り込みは浅いが、黒曜石製の破片が出土している。

近世の遺構は、第2地点から、「コ」字状に柵列で囲まれ、北側を溝跡で区切られた範囲から、掘立柱建物跡が検出された。掘立柱建物跡は2回の立て替えが行われており、長軸9.2m、単軸3.6mで4間×2間の長方形である。掘立柱建物跡を囲む柵と建物の長軸方位がずれている。また、掘立柱建物跡の北側で柵列に囲まれた範囲から、第2-71号土壇が検出された。第2-5号溝跡の一部壊されているが、陶器類が多量に出土している。



第118图 第2·3地点全体园区分割图



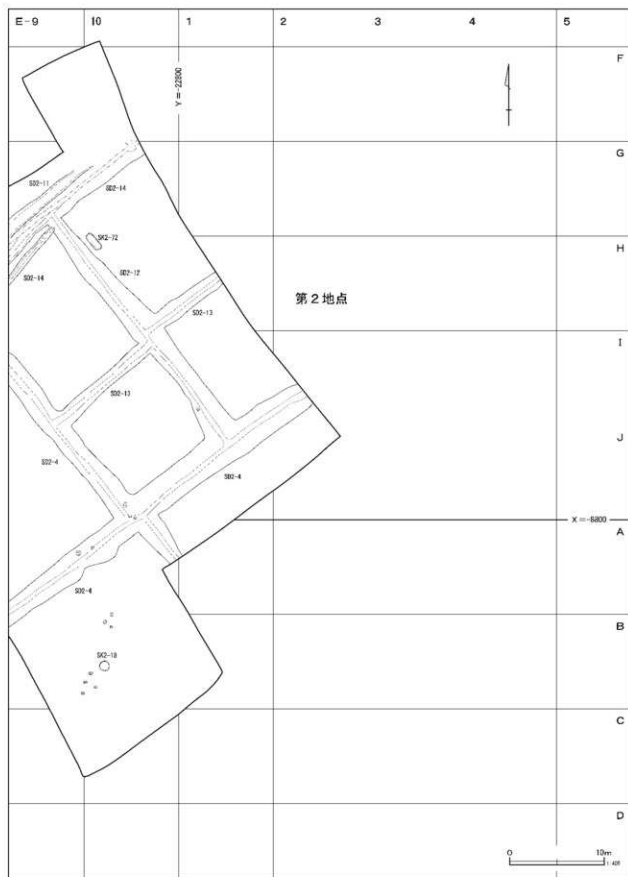
第119图 第2・3地点全体图(1)



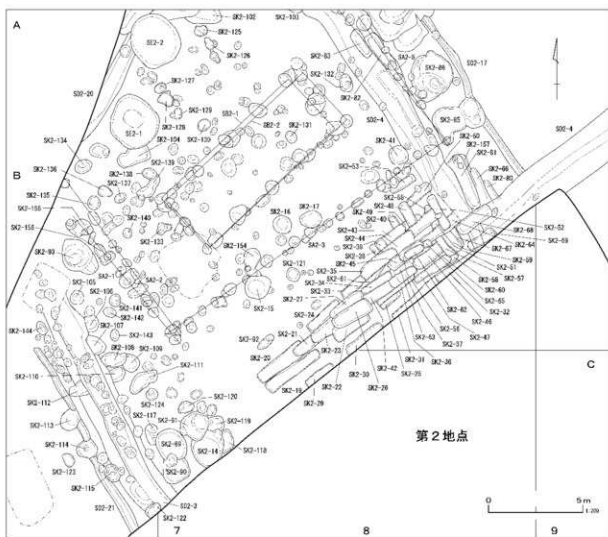
第120图 第2・3地点全体图(2)



第121图 第 2・3 地点全体图 (3)



第122図 第2・3地点全体図(4)



第123图 第2・3地点全体图(5)

2. 旧石器時代

第2・3地点は遺跡の範囲の中で西側に位置し、一般国道16号バイパスの南側に当たる。特に、第3地点は台地の西縁に近く、一般国道16号バイパス建設に伴う第1次調査で、近接した地点から第2暗色帯とハードルーム層から石器群が検出されているため、旧石器時代の石器群が検出される可能性が高いと想定された。

旧石器時代の調査は、10mグリッドの北西杭を基本に、調査区に合わせて全体を網羅するように、2×2mの小グリッドを25箇所設定し、ルーム層の掘り下げを行った。

ルーム層の堆積状況は、台地を東西、南北に横断するように土層断面を観察した。

C・D・Eグリッドの断面図は、台地西縁に沿って南北方向に20m間隔で並べ、Fグリッドは南側に40m、台地の奥まったところの断面である。ルーム層の堆積状況はほぼフラットで、D・Eグリッドは第1暗色帯と第2暗色帯の間に、黄褐色ルームブロックが部分的に層を成しており、第VI層として分層した。また、第2暗色帯は上下に分層され、第VIII層に黄褐色ルームがブロック状に含まれていた。Fグリッドは台地奥部になるためか、第VI層は確認できず、第2暗色帯の層厚が薄くなっている。

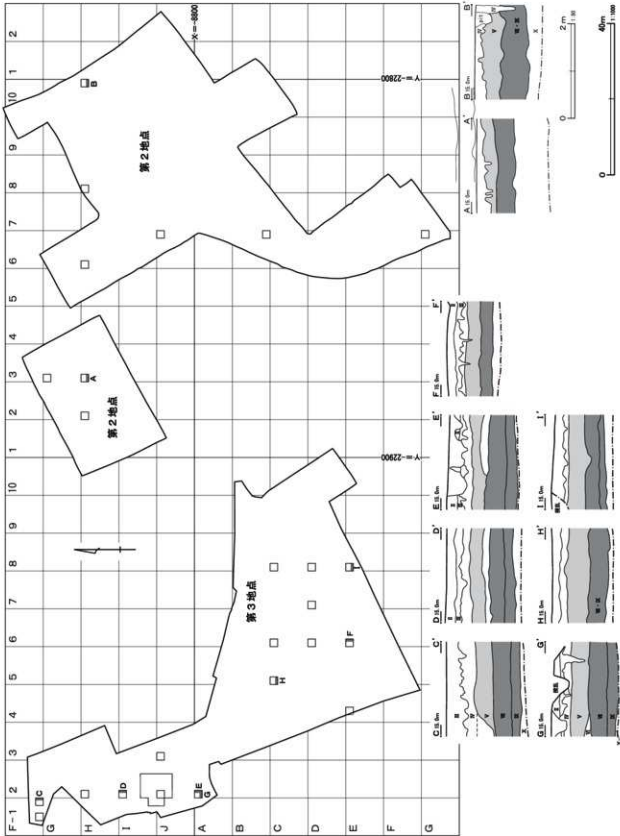
一方、G・H・Iグリッドの断面図は、台地を東西方向に30m間隔で並べた。Gグリッドの断面は南北方向の断面を同じく、第VI層が部分的に確認され、第2暗色帯も上下に分層できた。しかし、台地の奥部になるH・Iグリッドの断面図は、第VI層は確認されなかった。また、第2暗色帯の層厚は薄くなり、第VII層と第IX層の分離は不明確になる。上層では第III層のソフトルーム化によって、第IV層ハードルームの分離が難しくなっている。

第X層は色調的に明るい黄褐色となり、第2暗色帯に比べ粘性が弱く軟質になる。また、小礫(イモ石)が多く含まれる。

第2地点は台地崖線から100m以上、台地の奥まったところに位置する。土層断面はA・Bグリッドの断面を観察すると、Aグリッドの断面はソフトルーム化が第V層の第1暗色帯中まで進み、第IV層が断面で観察することができなかった。第2暗色帯の層厚も薄く、第VII層と第IX層の分離が不能であった。Bグリッドの断面はAグリッド同様、ソフト化が第1暗色帯中まで進んでおり、第2暗色帯の分離も不能であったが、層厚はAグリッド断面より厚く、台地奥部に向かって単純に層厚が薄くなるのではないことが分かった。

全体の傾向は、台地縁辺部は堆積が厚く第VI層の分離、第2暗色帯の第VII層と第IX層の分離が比較的明確であった。一方、台地奥部になると層厚が薄くなる傾向に伴い、ソフトルーム化が第1暗色帯(第V層)中まで達し、断面で第IV層が確認できなくなる。第2暗色帯の分離もできなかった。

25箇所グリッドを設定し、第3地点の台地縁辺部を中心に、複数グリッドで石器群が検出されると想定したが、M5・J2グリッドからの検出のみであった。しかし、当グリッドからは第2暗色帯上面(第VII層)の石器群が検出され、調査範囲の拡張をおこなった。その結果、第VII層上面に張り付くように、殆どレベルの上下差が無い状態でナイフ形石器、縦長剥片等が径2.5～3mの範囲にまとまって検出された。出土点数は30点であったが、第1次調査下層の石器群と合わせて、大宮台地の後期旧石器時代前半を検討するのに、基礎的資料となる石器群である。



第124图 第2・3地点旧石器調査区

第3-1号石器集中 (第125~131図)

M5・I2、J2グリッドに位置する。

遺物分布

石器は南北約3.0m、東西約4.0mの範囲に分布し、北東側の長径2.5m、短径2.0mの楕円形に27点が比較的まとまり、南西側に少しはなれて3点出土している。前者をa後者をbとし検討してゆく。

a：は楕円形に分布しているが、中央部がやや散漫で、南東部の4点を挟んで、北東部に13点、南西部に10点の小さなまとまりがみられる。それぞれのまとまりは、ナイフ形石器、縦長剃片、磨石等の大形の石器と、黒耀石、硬質頁岩製の小形の石器が含まれており、有意な差はない。

b：はaの南西約1m離れた地点から、剃片と砕片が出土している。出土層位や石器石材等から同一時期と判断される。

層位

土層断面図は、拡張区の東壁と南壁を図化した。

第II層：暗黄褐色土、縄文時代早期の土器が含まれる。

第III層：ソフトローム、ソフト化は第V層上部まで達している。

第IV層：ハードローム、ソフト化が進んでいるが、南壁は比較的残りがよく、東壁でもブロック状に確認できる。

第V層：第1暗色帯、白色粒子を多く含む。

第VI層：ハードローム、第V層をベースに黄褐色のブロックが入る。第V層との分離は難しいが、第V層下部に水平に堆積しているのので、第VI層として捉えた。白色粒子を多く含む。

第VII層：第2暗色帯上部、赤色スコリアを多く、黒色スコリアを少量、炭化物粒子を多く含む。

第IX層：第2暗色帯下部、暗黄褐色のブロックを含む。色調は第VII層より明るい。

第X層：ハードローム、黄褐色土、第IX層と比べ柔らかく、粘性は弱い。

※第VII~IX層は小礫(イモ石)を多く含む。

出土層位

石器は第VII層の上面に張り付くように検出された。各石器のレベル頻度分布をみると、標高14.25mを中心に上下幅15cmの範囲に分布している。ローム層中に遺物は上下差を持って出土する場合が多く、大木戸遺跡の他地点及び周辺の遺跡においてもローム層中の遺物は、かなりのレベル差がみられる。当該石器集中の在り方は、第VII層すなわち第2暗色帯直上という条件によるためか、今後の類例をもって検討したい。

器種別分布 (第125図)

上記の遺物分布の検討では、各まとまりに有意な差はみられないが、器種ごとの分布という視点では、aの南西側に縦長剃片が分布し、北東側に小形の剃片及び微細な加工が施された剃片が分布する傾向が僅かにみられる。

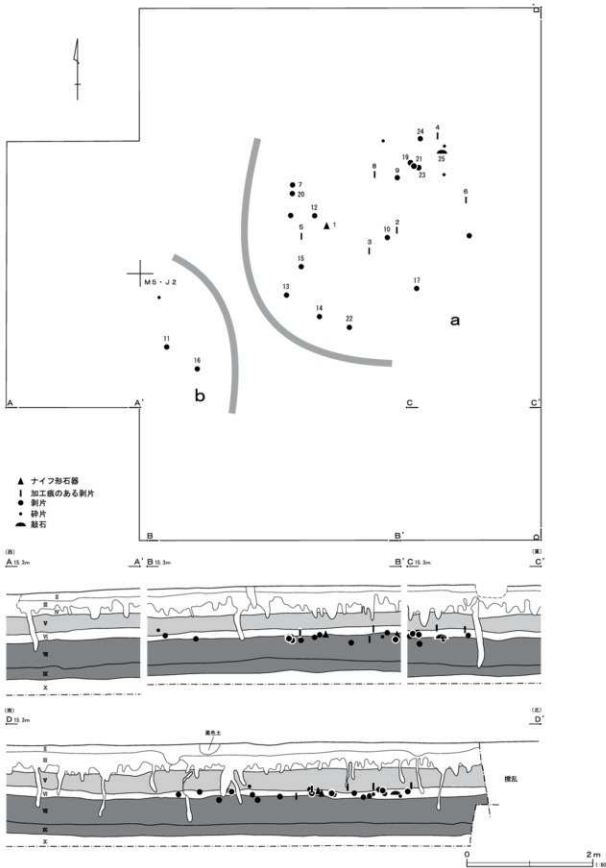
ナイフ形石器は2点とも分布の中心に近く、縦長剃片は分布の周辺から出土する傾向がある。また、敲石は分布の北東端近くから出土している。砕片はaの北東部とbから出土しており、分布の中心部からは検出されていない。

石器石材分布 (第126図)

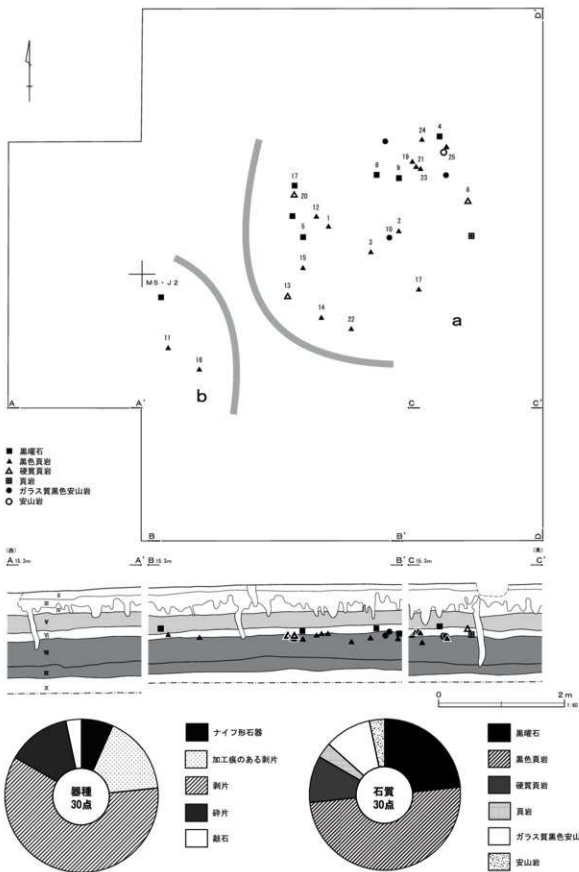
次に、石器石材分布を検討する。第3-1号石器集中では、黒色頁岩、頁岩、ガラス質黒色安山岩製のナイフ形石器、縦長剃片等の大形の石器群と、黒耀石・硬質頁岩製の剃片及び微細な加工のある剃片等の小形の石器群が認められる。前者は全体に分布し、後者は北側にやや偏って分布している。なお、砕片はガラス質黒色頁岩と黒色頁岩が4点中3点を占め、多くが前者の石器石材に含まれる。

器種組成

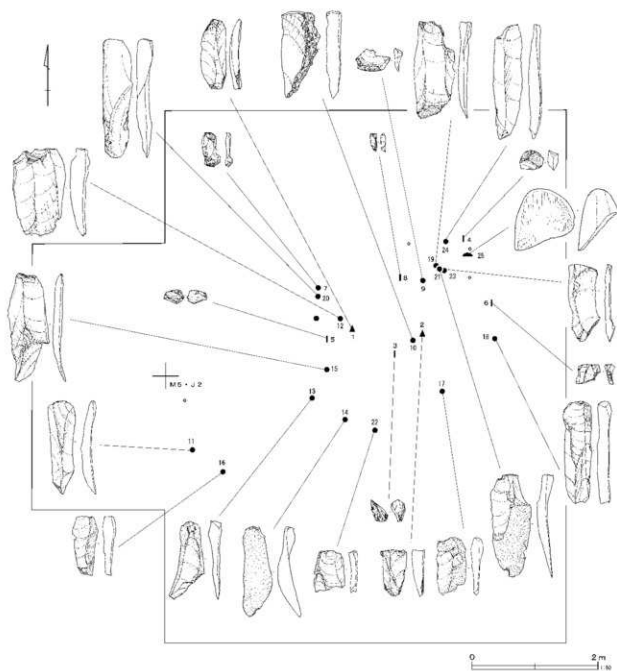
石器の総点数は30点である。器種組成はナイフ形石器2点、剃片18点、加工痕のある剃片5点、砕片4点、敲石1点と比較的単純である。剃片の内15点が7~10cmの縦長剃片で全体の60%を占めている。



第125図 第3-1号石器集中(1)



第126図 第3-1号石器集中(2)



第127图 第3-1号石器集中 (3)

石器石材

石器石材の組成は、黒色頁岩が15点50%と主体を占め、頁岩が1点3%、硬質頁岩が3点10%、ガラス質黒色安山岩が3点10%、黒曜石が7点23%、安山岩が1点3%である。黒色頁岩・ガラス質安山岩等がナイフ形石器・縦長剥片の大型の石器群と、黒曜石・硬質頁岩が加工痕のある剥片等の小形石器群と有意な関係がみられる。

石器点数は30点と少ないが、肉眼観察において同一母岩をまとめられる資料は殆ど無く、それぞれ剥片の状態で遺跡内に持ち込まれたものと思われる。また、器種組成も縦長剥片が主体を占め、遺跡内での剥片剥離作業の痕跡はみられない。

出土石器 (第128～131図)

石器は30点出土し、25点を図示した。

1はナイフ形石器である。先端を欠損する。外形は、両側縁が緩い弧を描きながら先端が尖る、左右対称である。素材剥片は、断打面の厚手の縦長剥片を下位に用いており、打面は残している。打面は単側離面と打面調整等は見られない。調整加工は基部周辺と先端左側縁に細かい剥離が施されている。

2はナイフ形石器である。上半部を欠損する。素材剥片は厚手の縦長剥片を下位に用い、打面は除去している。調整加工は基部周辺に細かい剥離が施されている。

3は両端を大きく欠損する。全体が把握できないため、加工痕のある剥片と分類した。素材剥片は、裏面が主要剥離面と考えられるので、厚手の剥片であったと思われる。左側縁に急角度の調整加工が見られるが、刃部加工が不明である。

4は黒曜石製の小形剥片で、側縁に微細な剥離が観察されることから、加工痕のある剥片とした。

5は黒曜石製の小形貝殻状剥片の一部に、細かい剥離調整がみられる。

6は下半部を欠損する。硬質頁岩製の剥片の一部に、細かい剥離調整がみられる。硬質頁岩製の

石器は本資料だけである。

7は黒曜石製の小形縦長剥片である。裏面の端部に自然面が残っており、小形の原石から剥がされたものと思われる。

8は黒曜石製の縦長剥片を縦方向に分割している。端部に微細な剥離が施されており、石錐等の可能性もあるが両端を欠損している。

9は黒曜石製の小形横広剥片である。端部に自然面を残しており、7と同じように小形の原石から剥離されたものと思われる。

以上4～9は、遺物分布の傾向等で小形石器としたものである。黒曜石及び硬質頁岩が用いられており、剥片の一部に微細な剥離が観察できるが、定型的な石器はない。

10は打面に最大幅になる逆三角形の縦長剥片である。右側縁に正面方向からの剥離面が連続しており、稜付石刃である。

11は両側縁が並行する形状の整った、縦長剥片である。打面調整が細かく施されている。正面は複数方向からの剥離面が構成されている。

12は幅広厚手の縦長剥片である。正面は主要剥離面と同一方向からの剥離面が3面並んでいる。打面単側離面でも厚く、三角形を呈している。

13は打面付近が厚く端部が薄くなっている。正面は両側に節理面が残っており、角縁の角部分を剥離したものと思われる。

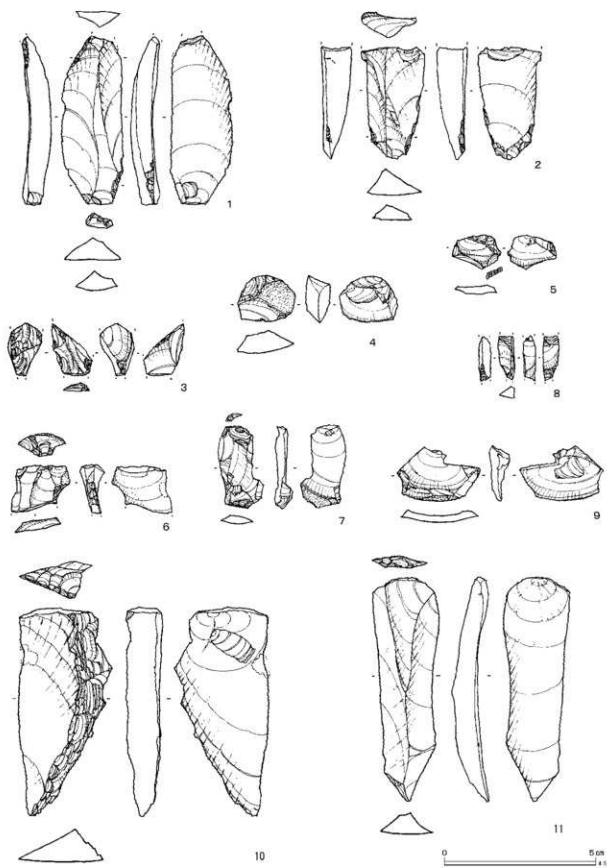
14は正面が自然面に覆われている。打面は小さく、単側離面である。

15は打面を欠損する。正面の剥離は上下から施されている。

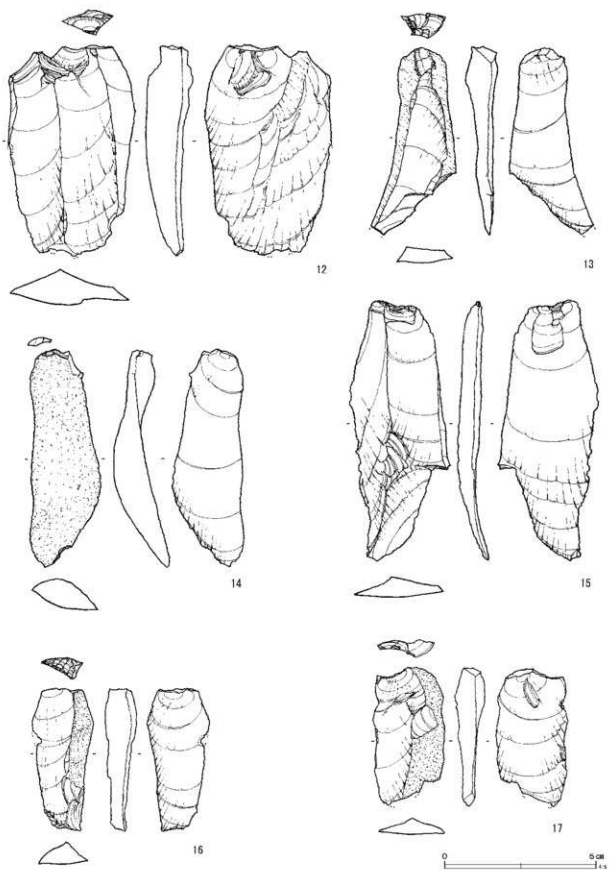
16は打面が大きく細かい打面調整が施されている。正面は主要剥離面と同一方向の剥離面と、自然面が残されている。

17は端部を欠損する。打面は大きく単側離面である。正面の主要剥離面と同一方向の剥離面と、自然面が残されている。

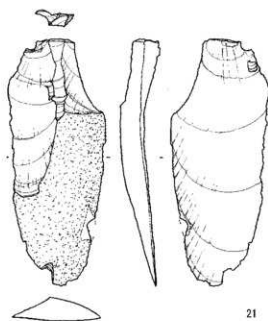
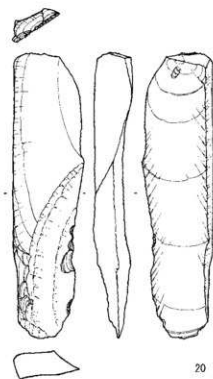
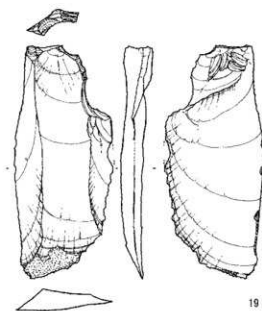
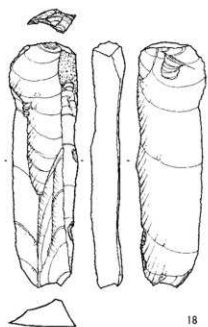
18は両側縁が並行する厚手の剥片である。打面



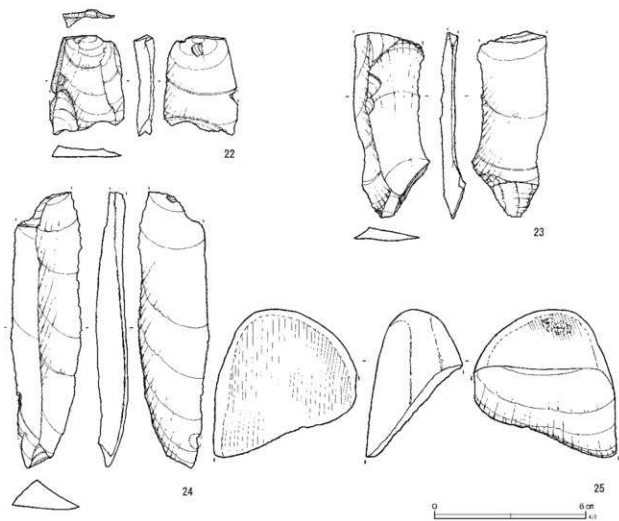
第128图 第3-1号石器集中出土遺物(1)



第129图 第3-1号石器集中出土遗物(2)



第130圖 第3-1号石器集中出土遺物(3)



第131図 第3-1号石器集中出土遺物(4)

は厚く打面調整が施されている。正面の剥離面は上下両端から施されている。

19は幅広い縦長剥片である。正面の剥離面は主要剥離面と同一方向で右から左に連続的に剥離されている。端部に自然面を残す。打面は大きく複剥離面である。

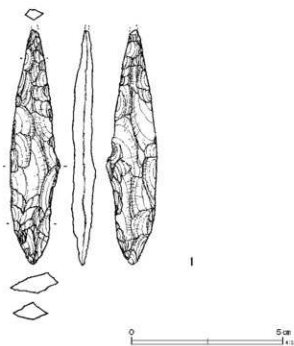
20は細身の縦長剥片である。左側面は節理面に

よって丸くなっている。

21は正面下半部に自然面を残す。打面は2方向からの剥離面で構成されている。

22は下半部、23・24は上半部を大きく欠損する。

25は敲石である。下半部を欠損する。裏面上部に痘痕状の敲打痕がみられる。



第132図 グリッド出土石器

グリッド出土石器 (第132図)

1は細身の槍先形頭器である。先端を若干欠損する。外形は左右対称形に近いが、やや右側縁中央部が突起している。側縁を見てもその部分が厚く、整形加工で除去しきれなかったのかもしい。

石器石材はガラス質黒色安山岩で、表面は風化しているが細部の剝離面は観察できる。両面とも二次加工が進んでおり、素材は剥片か否かは不明である。調整加工は先端部を中心に、両側縁から両面に施され、横断面は菱形を呈している。基部中央は、正面が両側縁からの調整加工で山形に作っているのに対し、裏面は大形の剝離によって平坦になっており、横断面は蒲針状なる。基部は先端と同じく両面に調整加工が入念に施され、横断面は菱形になっている。

第11表 第3-1号石器集中・グリッド出土石器観察表

No.	遺構名	グリッド	遺物 番号	北-南 (m)	西-東 (m)	標高 (m)	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	図版No
1	3-1石器集中	M5・I2	15	0.74	2.78	14.25	Ⅶ	ナイフ形石器	黒色頁岩	(5.55)	2.05	0.95	9.70	128-1
2	3-1石器集中	M5・I2	12	0.66	3.84	14.28	Ⅶ	ナイフ形石器	黒色頁岩	(3.7)	2.15	1.00	6.70	128-2
3	3-1石器集中	M5・I2	20	0.57	2.40	14.30	Ⅶ	加工のある剥片	黒曜石	1.15	1.60	0.28	0.60	128-3
4	3-1石器集中	M5・I2	5	2.07	4.44	14.36	Ⅶ	加工のある剥片	黒曜石	1.55	1.90	0.85	1.80	128-4
5	3-1石器集中	M5・I2	14	0.35	3.43	14.20	Ⅶ	加工のある剥片	黒色頁岩	(1.73)	(1.30)	(1.15)	1.90	128-5
6	3-1石器集中	M5・I2	2	1.12	4.88	14.33	Ⅶ	加工のある剥片	礫質頁岩	(1.55)	1.95	0.80	1.60	128-6
7	3-1石器集中	M5・I2	17	1.35	2.27	14.19	Ⅶ	加工のある剥片	黒曜石	2.70	1.50	0.65	1.40	128-7
8	3-1石器集中	M5・I2	11	1.50	3.50	14.35	Ⅶ	加工のある剥片	黒曜石	(0.95)	0.55	0.40	0.30	128-8
9	3-1石器集中	M5・I2	23	1.45	3.84	14.20	Ⅶ	剥片	黒曜石	1.80	2.80	0.65	1.70	128-9
10	3-1石器集中	M5・I2	13	0.55	3.70	14.30	Ⅶ	剥片	ガラス質黒色安山岩	6.95	3.10	1.20	22.50	128-10
11	3-1石器集中	M5・I2	4	1.84	4.51	14.24	Ⅶ	破石	安山岩	(4.90)	(4.75)	(3.20)	58.30	128-11
12	3-1石器集中	M5・I2	16	0.88	2.60	14.24	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	7.00	4.20	1.55	35.60	128-12
13	3-1石器集中	M5・I2	2	9.68	2.22	14.23	Ⅶ	剥片	礫質頁岩	(6.15)	(2.8)	1.10	8.80	129-13
14	3-1石器集中	M5・I2	1	9.37	2.70	14.28	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	7.25	2.35	1.80	16.40	129-14
15	3-1石器集中	M5・I2	21	0.11	2.40	14.19	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	(8.6)	3.30	0.95	17.80	129-15
16	3-1石器集中	M5・I2	3	8.58	0.84	14.22	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	4.70	1.70	1.05	7.40	129-16
17	3-1石器集中	M5・I2	6	9.79	4.18	14.14	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	(4.55)	2.40	1.00	7.90	129-17
18	3-1石器集中	M5・I2	1	0.58	4.93	14.25	Ⅶ	剥片	頁岩	8.45	2.30	1.10	22.30	130-18
19	3-1石器集中	M5・I2	9	1.68	4.04	14.24	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	7.70	3.25	1.10	20.60	130-19
20	3-1石器集中	M5・I2	18	1.22	2.36	14.25	Ⅶ	剥片	礫質頁岩	9.45	2.35	1.30	25.00	130-20
21	3-1石器集中	M5・I2	8	1.63	4.09	14.28	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	8.20	3.30	1.30	18.10	130-21
22	3-1石器集中	M5・I2	7	9.20	3.16	14.15	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	(3.3)	2.45	0.70	5.10	131-22
23	3-1石器集中	M5・I2	7	1.60	4.16	14.30	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	(6.15)	2.55	0.85	7.80	131-23
24	3-1石器集中	M5・I2	6	2.03	4.18	14.27	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	(9.15)	2.35	1.05	17.60	131-24
25	3-1石器集中	M5・I2	4	8.90	0.40	14.27	Ⅶ	剥片	黒色頁岩	7.40	2.20	1.25	13.50	131-25
26	3-1石器集中	M5・I2	3	1.50	4.54	14.23	Ⅶ	破片	ガラス質黒色安山岩	1.22	1.78	0.25	0.40	
27	3-1石器集中	M5・I2	10	2.00	3.62	14.24	Ⅶ	破片	安山岩	1.42	1.15	0.27	0.3	
28	3-1石器集中	M5・I2	19	0.89	2.24	14.24	Ⅶ	剥片	黒曜石	-2.29	-1.38	0.90	2.00	
29	3-1石器集中	M5・I2	22	1.92	4.54	14.20	Ⅶ	破片	黒色頁岩	-1.70	0.65	0.45	0.50	
30	3-1石器集中	M5・I2	5	9.63	0.30	14.35	Ⅶ	破片	黒曜石	1.43	1.35	0.28	0.50	
		M5・J2						槍先形頭器	ガラス質黒色安山岩	7.73	1.73	0.87	9.10	132-1

3. 縄文時代

第2・3地点では後期初頭と考えられる住居跡3軒のほか、早期の土壇1基、詳細な時期不明の土壇1基、集石土壇2基、また早期の炉穴群が1ヶ所検出された。

住居跡や炉穴は、台地の縁辺部に近い第3地点の北西端から検出されている。第3地点の北側部分で、第1次調査において住居跡が検出されていることから、住居跡の分布は北側と東側に広がると思われる。

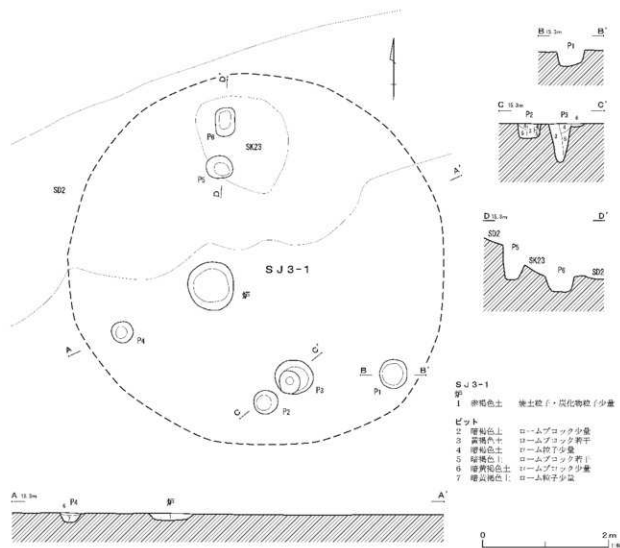
台地の奥にあたる第3地点の東側と、第2地点では、遺構はほとんど検出されなかった。

(1) 住居跡

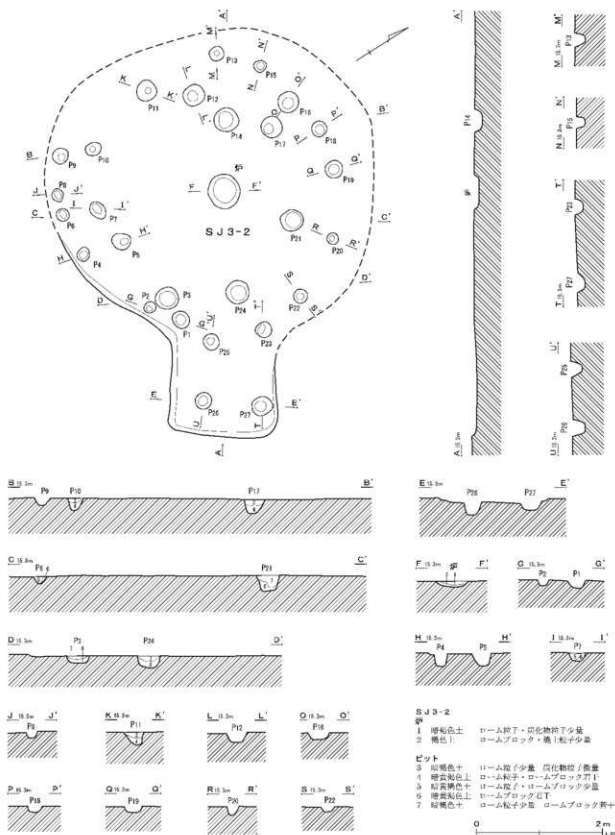
第3-1号住居跡 (第133図)

M5・F2、G2、G3グリッドに位置する。住居跡の南側には第3-2号住居跡が隣接している。住居跡の北半分は、近世の第3-2号溝跡が東西方向に横断しているため、住居跡の大半が攪乱を受けて失われている。溝跡と重複していない住居跡の南側部分においても、掘り込みは確認することができなかった。

住居跡に関連する施設としては、炉跡と柱穴が検出された。残存している柱穴配置から推定される住居跡の範囲は、長径で6.20m、短径で5.90m



第133図 第3-1号住居跡



第134図 第3-2号住居跡

である。

遺物は出土しなかったため、詳細な時期は不明確だが、周辺の住居跡や、周辺から出土した土器の時期から、後期初頭であると推定される。そのため、住居跡の平面形も柄鏡形であった可能性が考えられる。

炉跡の平面形はほぼ円形で、長径0.77m、短径0.73m、深さ0.12mである。

柱穴は、6本が検出された。深さはP1=0.23m、P2=0.23m、P3=0.60m、P4=0.15m、P5=0.45m、P6=0.23mである。

第3-2号住居跡 (第134図)

M5・G2、3、H2、3グリッドに位置する。北側には、第3-1号住居跡が隣接している。掘り込みは柄部など、部分的に確認されたのみである。柱穴の配置と張り出し部分から、平面形は南東に柄部が張り出す、柄鏡形の住居跡であると考えられる。

炉跡と柄部を基準とする主軸方向は、N-57°Wをとる。推定される住居跡の長径6.50m、短径5.22mを測る。柄部は長さ1.65m、幅1.70m、深さ0.07mを測る。

遺物は出土しなかったため、詳細な時期は不明確だが、住居跡の形状や、周辺の住居跡や、周辺から出土している土器の時期から、後期初頭であると推定される。

炉跡は地床炉で、主体部の中央に位置する。平面形はほぼ円形で、長径0.55m、短径0.50m、深さ0.10mである。

柱穴は、27本が検出された。P23~27が、入り口部の対ビットなどに相当する可能性がある。各ビットの深さは、P1=0.12m、P2=0.10m、P3=0.11m、P4=0.20m、P5=0.18m、P6=0.12m、P7=0.12m、P8=0.10m、P9=0.12m、P10=0.20m、P11=0.20m、P12=0.15m、P13=0.16m、P14=0.11m、P15=0.14

m、P16=0.10m、P17=0.22m、P18=0.10m、P19=0.10m、P20=0.13m、P21=0.24m、P22=0.08m、P23=0.13m、P24=0.19m、P25=0.16m、P26=0.20m、P27=0.15mである。

埋壁は検出されなかった。

第3-3号住居跡 (第135図・第136図)

M5・H2、I2グリッドに位置する。北東側に第3-2号住居跡が近接している。住居跡はわずかだが掘り込みが確認され、平面形は南側に張り出しを持つ、柄鏡形である。炉跡と柄部を基準とする主軸方向は、N-15°Wをとる。長径6.10m、短径3.95m、確認できた深さは最大で0.10mを測る。柄部は長さ1.90m、幅1.63m、確認できた深さは最大で0.04mを測る。

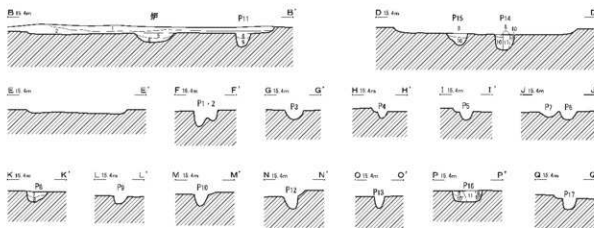
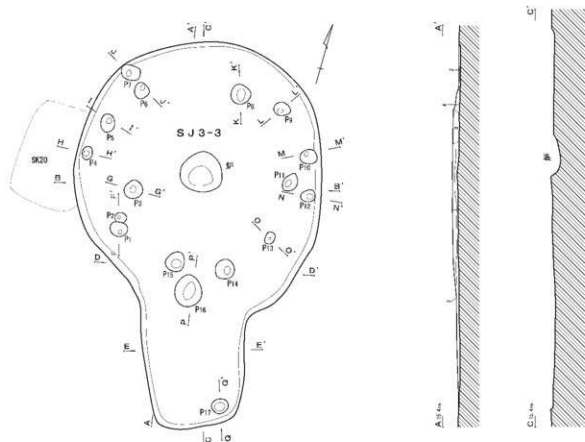
炉跡は主体部の中央部で検出されたもので、地床炉である。長径0.65m、短径0.65m、深さ0.14mを測る。

柱穴は、17本が検出された。主体部の壁際に沿って配置されたものである。P14・P15は入口部の対ビットに相当する可能性がある。深さはP1=0.23m、P2=0.15m、P3=0.14m、P4=0.13m、P5=0.15m、P6=0.13m、P7=0.08m、P8=0.15m、P9=0.11m、P10=0.19m、P11=0.30m、P12=0.20m、P13=0.18m、P14=0.25m、P15=0.19m、P16=0.18m、P17=0.19mである。

埋壁は検出されなかった。

遺物は覆土中から、土器が数点出土したのみであった(第136図1~6)。

1~6はいずれも深鉢形土器の破片であると考えられる。器面は沈線によって文様を施文している。3・4以外は、地文は施文されていない。2は沈線文が太く深く施文されるものである。3・4は地文として節歯状の条線を施文するものである。遺物の時期は後期初頭で、称名寺式土器の末葉に相当すると考えられる。



SJ 3-3

- 1 埋没土上 コーム粒子・ロームブロック少量 炭化物粒子微量
- 2 黄褐色土 コームブロック表面
- 3 黄褐色土 コームブロック少量
- 4 赤褐色土 コーム粒子・炭化物粒子・焼土粒子少量

SP

- 5 粘褐色土 炭化物粒 / 焼土粒 / 少量
- 6 褐色土 コームブロック・焼土粒子少量

ピット

- 7 褐色土 コームブロック少量
- 8 埋没土上 コーム粒子少量
- 9 粘褐色土 コームブロック表面
- 10 埋没土上 コーム粒子・ロームブロック少量
- 11 粘褐色土 コーム粒子少量

第135図 第3-3号住居跡



第136図 第3-3号住居跡出土遺物

(2) 土壌

第2-18号土壌 (第137図・第138図)

N6・B10グリッドに位置する。周辺からは、縄文時代の遺構は検出されていない。

平面形はほぼ円形で、長径1.05m、短径1.05m、深さ0.17mである。

土壌内からは、黒曜石製の剥片や破片が出土した。分布に偏りはなく、散らばるように検出されたものである。第138図1～3は、出土した剥片である。剥片の鋭い縁辺などに、使用の痕跡は認められなかった。

土器は出土しなかった。土壌の周辺には縄文時

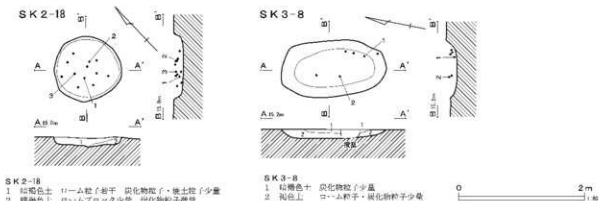
代の遺構はなく、遺物も検出されていないことから、詳細な時期については不明である。

第3-8号土壌 (第137図・第139図)

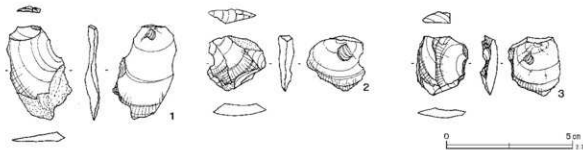
M5・J2グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.65m、短径0.89m、深さは0.15mである。

土壌内からは、遺物として早期後葉の条痕文系の土器片が出土した (第139図1・2)。

1・2は内外面に条痕が施文されるものである。1は、胴部の破片である。白色粒子を胎土に多く含むもので、繊維は少量含まれている。2は底部



第137図 土壌



第138図 第2-18号土壌出土遺物

付近の破片である。堅緻な土器で条痕は深く施文されている。

西側に第3-1号炉穴が近接していることから、第3-8号土壇は、炉穴群の一部であった可能性が考えられる。



第139図 第3-8号土壇出土遺物

焼礫は最大で10cm程度で、重さは10~20gの間に集中している。総重量は1802.7gである。

土器などの遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明であるが、他の地点の集石土壇の中には、中期中葉の土器が出土したのもも見られた。

(3) 集石土壇

集石土壇は2基検出されているが、調査区の北側と南側に50m程離れて位置するため、時期などの関連は不明である。

第2-79号集石土壇 (第140図)

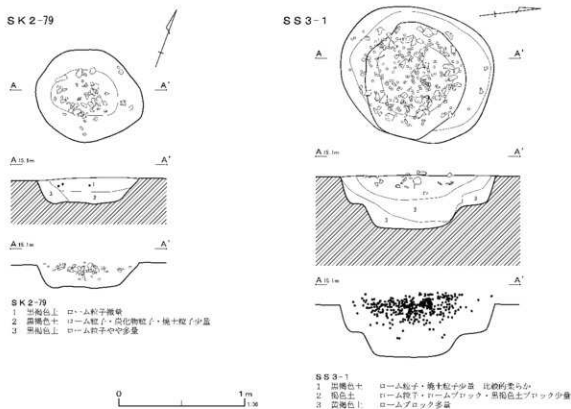
M6・I2グリッドに位置する。平面形は不定形で、長径0.88m、短径0.73m、深さ0.22mである。

焼礫は土壇の中央からまともって検出された。覆土では1層内から主體的に出土しており、集石土壇がある程度埋まった後に、焼礫が廃棄されたものと考えられる。

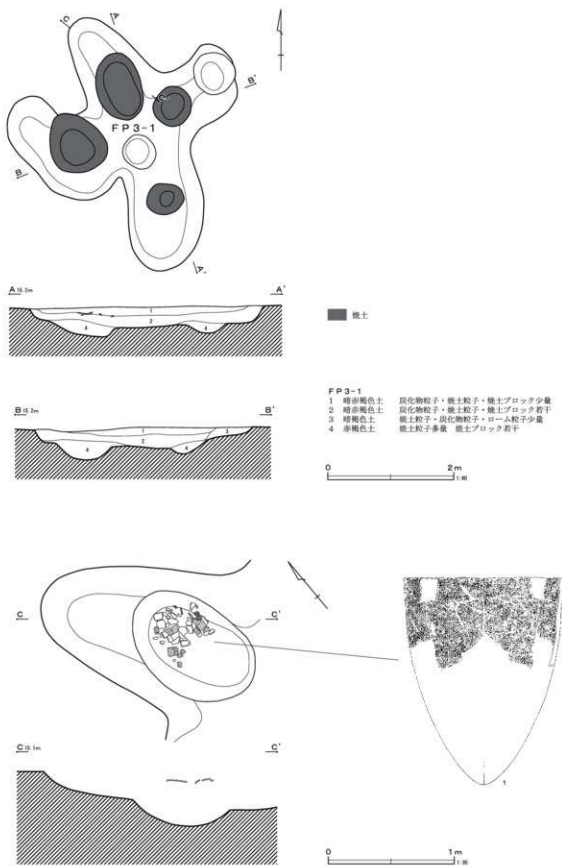
第3-1号集石土壇 (第140図)

N5・C9グリッドに位置する。平面形は不定形で、比較的規模は大きいもので、長径1.22m、短径1.02m、深さ0.43mである。

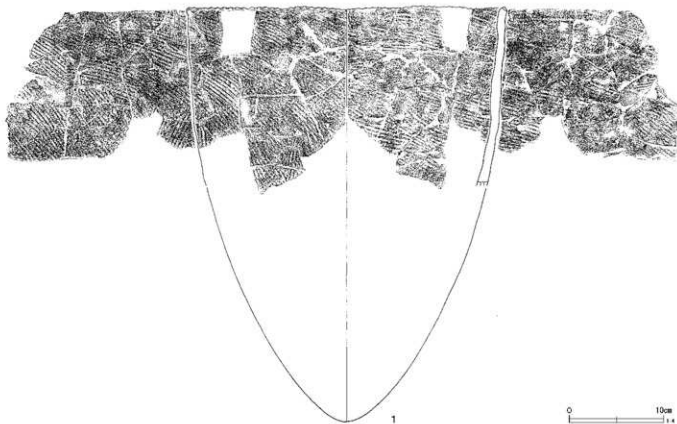
焼礫は土壇の中央からまともって検出された。



第140図 集石土壇



第141図 炉穴



第142図 炉穴出土遺物

覆土では1層内から主体的に出土しており、集石土壌がある程度埋まった後に、焼跡が廃棄されたものと考えられる。

焼跡は最大でも長さが10cmで、重さについては0～10gの間に集中していた。

出土した跡の確認された点数は、353点であった。353点中で砂岩が254点、チャートが88点、頁岩が3点、その他8点であった。跡の総重量は12193.5gであった。

土器などの遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明であるが、他の地点の集石土壌の中には、中期中葉の土器が出土したのも見られた。

(4) 炉穴

第3-1号炉穴 (第141図・第142図1)

M5・J1、2グリッドに位置する。西側の一部が、近世の第3-13号溝跡によって失われている。東側には第3-8号土壌が、近接して検出され

た。平面形は不定形で、南北方向である長径が4.16m、東西方向である短径が3.60mの範囲で検出されている。

炉穴内では、ちょうど東西南北それぞれ1ヶ所ずつ、合計4ヶ所で焼土範囲が確認されており、炉床として使用されたと考えられる。炉床の新旧関係は、土層からは確認できなかったが、北側の炉床内からのみ土器が出土した。

北側の炉床は長径1.05m、短径0.70m、深さ0.43m、南側の炉床は長径0.60m、短径0.50m、深さ0.42m、西側の炉床は長径0.95m、短径0.85m、深さ0.47m、東側の炉床は長径0.60、短径0.58m、深さ0.47mである。

遺物は第142図1の条痕文系土器が検出された。

第142図1は縄文時代早期後葉の条痕文系土器で、器形を復元できる大形破片である。他に、同一個体の胴部破片が多数出土しているが、明確な

位置関係は把握されない。口縁部は、約3分の2周が現存する。

この土器は推定口径約33.5cmを測り、接合部分での現存高19.2cmを測る。平口縁を呈し、口縁部が直行気味に立ち上がる尖底深鉢形を呈するものと思われ、底部は丸底に近い尖底になるものと推定される。口唇部は、端部の尖る内削状を呈し、この端部にのみ丸棒状工具で、口唇部に対して直角方向の刻みを施している。この刻みの圧痕内部には、工具に対して直角方向に擦痕が観察される箇所があり、絡条体圧痕文ではないことは明らかであるが、工具の詳細については不明である。

条痕は貝殻条痕であり、外面の口縁部付近では斜位に、以下胴部にかけて縦位に施し、内面では口縁部付近で横位に、以下斜位に施文している。

胎土には少量の繊維と白色粒子を少量含み、焼成は良く、色調は明橙褐色を呈する。

文様は無く時期を明確にし得ないが、口唇部形態や刻みの手法、色調等から、野島式土器の終末から鶴が島台式にかけての位置付けが推定される。

(5) グリッド出土遺物

出土土器 (第143図)

第I群土器 (第143図1・2)

早期後葉の条痕文系土器群を一括する。

1・2は内外面に条痕を施文するものである。1は口縁部、2は胴部の破片である。

第II群土器 (第143図3～10)

前期の土器群を一括する。

3～5は前期初頭の花積下層式土器で、胎土に繊維が含まれる土器である。3は表面に貝殻圧痕文を施文するものである。4・5は地文として0段多条の縄文を施文している。

6～10は前期末葉の十三菩提式土器である。6は結節浮線文と、三角形の印刻文を器面に施文するものである。7～9は、器面に側面圧痕文を施文する口縁部の破片である。7は口唇部に刺突列

が施文されている。8は口縁部に刻みが施されている。また刻み部分には、側面圧痕文が施文されている。9は器面が剥落などで荒れている。10は口縁部の破片で、面を持っている口唇部に、大きな刻みを施文している。地文は単節R Lの縄文を横方向に施文している。

第III群土器 (第143図11～14)

中期の土器群を一括する。

11～14は加曾利E式土器で、深鉢形土器の胴部の破片である。11～13は胴部に、間を磨り消す2本1組の沈線文を垂下させているものである。地文として、11・12は単節R Lの縄文を縦方向に施文している。13は単節L Rの縄文を縦方向に施文している。14は間を磨り消す、2本1組の微隆起状の隆帯を施して文様を施文するものである。地文として単節R Lの縄文を施文している。

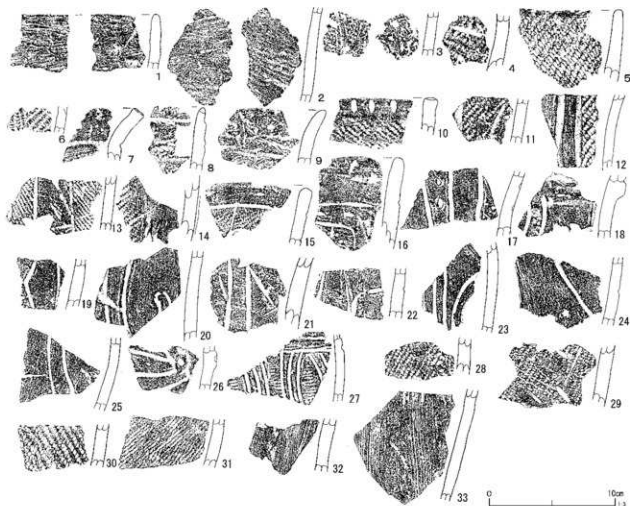
11～13は中期後半の加曾利E III式、14は中期末葉の加曾利E IV式土器と考えられる。

第IV群土器 (第143図15～33)

後期の土器群を一括する。

15～25は後期初頭の称名寺式土器である。2本1組の沈線によって文様が施文されている。15は口縁部の破片で、単節L Rの縄文が充填されている。16・17は沈線文間に列点文を充填するものである。16は口縁部、17は胴部の破片である。列点文はいずれもまばらで不規則に、1列施文されている。18は頸部から胴部の破片で、隆帯上に列点文を施文している。19～25は胴部の破片で、沈線間に文様が充填されない無文のものである。15は称名寺式の中段階、他は新段階の土器である。

26～33は後期前葉の堀之内式土器である。26・27は堀之内1式土器で、26は円形の貼付文を施文している。27は地文である単節R Lの縄文を斜め方向に施文している。28～33は地文のみが施文される土器で、28～31は地文縄文で、28・29、31は単節L R、30は単節R Lを施文する。32・33は櫛歯状の条線を施文している。



第143図 グリッド出土遺物(1)

出土石器 (第144図)**石鏃 (第144図34)**

34は石鏃の未製品と考えられるものである。左側縁部に、調整刻離は施されていない。基部加工も途中でであると考えられる。

くさび形石器 (第144図35)

35は角柱状の礫の上下両端部から、剥離を施しているもので、表裏面と右側面の3面に原礫面が残存している。

磨製石斧 (第144図36~38)

36~38は磨製石斧である。36・37は基部の破片である。36は両側面が面取り状となっており、定角式と考えられる。37は乳棒状の磨製石斧である。38は胴部の破片で、右側面には面取り状の平坦面が認められる。

打製石斧 (第144図39~41)

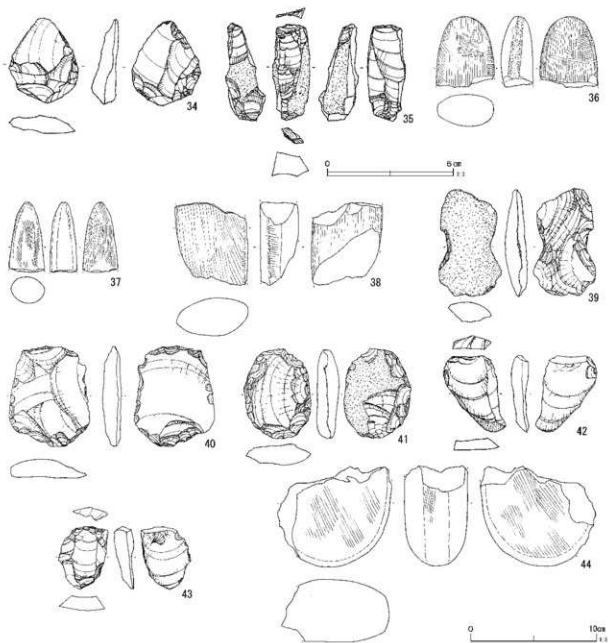
39~41は打製石斧である。39は表面に大きく自然面を残すもので、左側縁部の抉り部分以外は調整刻離が施されない。両側縁には浅い抉りが入っている。刃部は丸刃である。40は左側縁部分に、幅の狭い自然面が残存している。調整刻離は最小限行われるのみである。刃部は偏刃である。41は平面形が楕円形に近いもので、裏面に大きく自然面を残す。刃部は丸刃である。

剝片 (第144図42・43)

42・43は剝片である。43の側縁部分には微細な刻離が認められ、使用された可能性がある。

磨石 (第144図44)

44は磨石の破片である。表裏面の中央付近と、側縁部に敲打痕が認められる。



第144図 グリッド出土遺物(2)

第12表 出土石器観察表

図版No.	出土遺構	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第138図1	第2-18号土壇	剝片	黒曜石	3.80	2.60	0.55	2.8	
第138図2	第2-18号土壇	剝片	黒曜石	2.20	2.40	0.60	2.3	
第138図3	第2-18号土壇	剝片	黒曜石	2.40	2.10	0.65	2.1	
第144図34	M6・18	石鏃	チャート	3.40	2.75	1.00	7.1	未製品
第144図35	第3地点 表土	くまび形石器	黒曜石	3.80	1.50	1.55	7.7	
第144図36	第2-4号酒跡	磨製石斧	砂岩	(5.60)	4.60	2.60	90.1	
第144図37	第3地点 表探	磨製石斧	蛇紋岩	(5.50)	2.85	2.15	50.2	
第144図38	第2-5・7号酒跡	磨製石斧	砂岩	(6.50)	5.70	3.00	135.3	
第144図39	第3地点 表土	打製石斧	ホルンフェルス	8.45	4.90	1.75	79.3	
第144図40	第2-4号酒跡	打製石斧	ホルンフェルス	7.90	6.30	2.50	82.6	
第144図41	M5・C3	打製石斧	砂岩	7.15	5.35	1.80	89.8	
第144図42	N6・C6	剝片	黒色安山岩	6.00	4.90	1.35	35.5	
第144図43	第2-26号土壇	剝片	球質頁岩	4.90	3.90	1.65	24.0	
第144図44	第2-4号酒跡	磨石	安山岩	(7.85)	9.00	5.00	474.7	

4. 近世

(1) 掘立柱建物跡

第2地点では、2棟の掘立柱建物跡が検出された。両者の位置関係や主軸方位から、建て替えの結果と思われる。この2棟の近くには数多くのピットが存在していることから、この他にも掘立柱建物跡が存在していた可能性があるが、掘立柱建物跡として結線するには至らなかった。

第2-1号掘立柱建物跡 (第145～147図)

N6・A7、B7グリッドに位置する。

土層断面の重複関係から、第2-2号掘立柱建物跡に切られていると判断した。なお、建物の範囲内に多数のピットが存在するが、新旧関係は不明である。

第2-1・3・5号柵列跡、または第2-2・3・4号柵列跡とセット関係にあると推定される。

P1～18で1棟と想定したが、P1・2、P4・5、P9・10、P14・15、P16・17は重複関係にあることから、建て替えの可能性が考えられる。なお、P8は、平面図上2つのピットとして表現されているが、土層断面図から1つのピットであると判断した。

母屋の規模は、桁行4間(9.2m)×梁行2間(3.6m)、面積は33.12㎡である。主軸方位はN-48°Eを指す。

柱間は、桁行1.8～2.4m(平均2.3m)、梁行1.2～2.2m(平均1.75m)である。

柱穴の規模は36×43cm～90×106cmの円形または楕円形であるが、P6・12はやや隅丸方形に近い。柱穴の深さは40～75cmと幅があり、規則性が弱い。

P7・8・11・13では、柱痕跡(第1層)が確認された。

遺物は、P3から瀬戸・美濃系の碗・香炉、P

13から瀬戸・美濃系の香炉、P8とP9からかわらけの破片がそれぞれ出土した。また、古銭が出土した。

その他の遺物は、P1から瀬戸・美濃系の香炉と思われる陶器片1点、P6から瀬戸・美濃系の陶器香炉片1点、碗と思われる陶器片1点、P7から瀬戸・美濃系の皿と思われる陶器片1点、P8から肥前系の磁器碗1点、P12から肥前系の碗と思われる陶器片1点、碗と思われる磁器片2点など、図示できない小破片が出土している。

第2-2号掘立柱建物跡 (第148図)

N6・A7、B7グリッドに位置する。

土層断面の重複関係から、本掘立柱建物跡が第2-1号掘立柱建物跡を切っていると判断した。なお、建物の範囲内に多数のピットが存在するが、新旧関係は不明である。

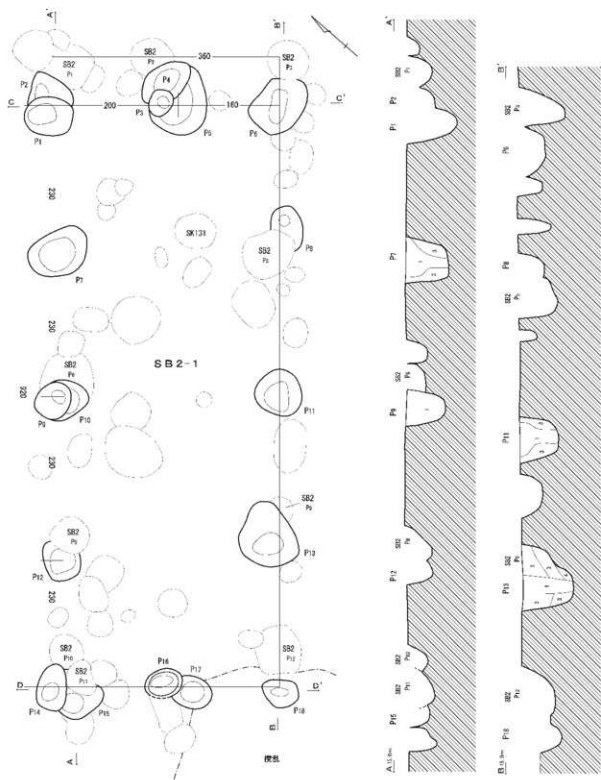
第2-1・3・5号柵列跡、または第2-2・3・4号柵列跡とセット関係にあると推定される。

P1～18で1棟と想定した。これには2棟以外の建て替えの可能性を考え、第2-1号掘立柱建物跡に関連すると推定されるピットを含んでいる。P10～12間には、柱穴は確認されなかった。P18またはP19が相当するのであろうか。

母屋の規模は、桁行4間(9.4m)×梁行2間(3.4m)、面積は31.96㎡である。主軸方位はN-48°Eを指す。

柱間は、桁行1.7～2.5m(平均2.23m)、梁行1.2～2.2m(平均1.75m)である。

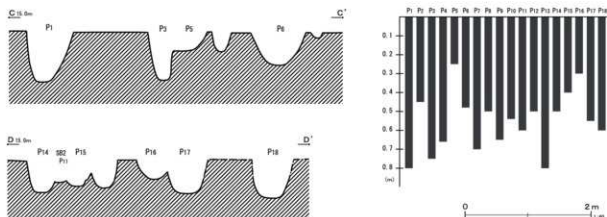
柱穴の規模は(35)×(38)～62×(80)cmの円形または楕円形であるが、P1・12はやや隅丸方形に近い。柱穴の深さは25～70cmと比較的、幅がある。



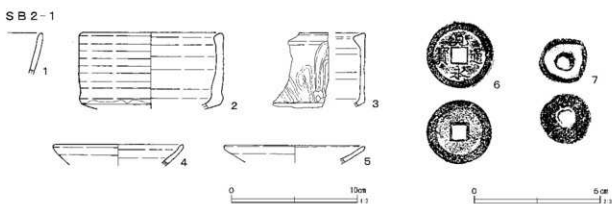
SB2-1

- 1 高欄色土 ローム殻付・ロームブロック多量
- 2 白粉地上 ロームブロック多量
- 3 高欄色土 ロームブロック多量
- 4 暗褐色土 ローム殻付・ロームブロック多量

第145図 第2-1号掘立柱建物跡(1)



第146図 第2-1号掘立柱建物跡(2)



第147図 掘立柱建物跡出土遺物

第13表 掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	素材	所在地	現存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	胎土	構成	胎土表層	成型技法	器形・形状の 特徴	文様	備考
1	SB2-1	陶器	陶	銅 ² ・灰土	5			(3.2)	浅黄	良好	灰胎	轆轤	貫入多		SB1P3
2	SB2-1	陶器	香灰	銅 ² ・灰土	20	(10.9)		(6.1)	緑黄	良好	灰胎	轆轤			SB1P3 18C前半
3	SB2-1	陶器	香灰	銅 ² ・灰土	5			(5.1)	灰黄	調査良好	灰胎	轆轤	丸ノミ削ぎ	半菊冠紋	SB1P9 18C中葉
4	SB2-1	土器	かわらけ		10	(10.2)		(1.7)	粉 緑黄	普通		轆轤			SB1P8
5	SB2-1	土器	かわらけ		15	(11.0)		(1.4)	粉 緑黄	普通		轆轤			SB1P9
6	SB2-1	古銭	寛永通寶												
7	SB2-1														幣原の銅貨を譲り受けたもの

(2) 柵列跡

M6・J7、N6・A7、A8、B6～8グリッドから、柵列が5列検出された。第2-5号溝跡に南側を「コ」字状に区画しており、第2-1・2号掘立柱建物跡を囲んでいる。

柵列は、南西側と北東側の2列に別れている。掘立柱建物跡を完全に囲んでいたのか、一角が開いていたのかは不明である。また、ピットの間隔は不揃いであるため、複数回における立替等が行

われたと想定される。

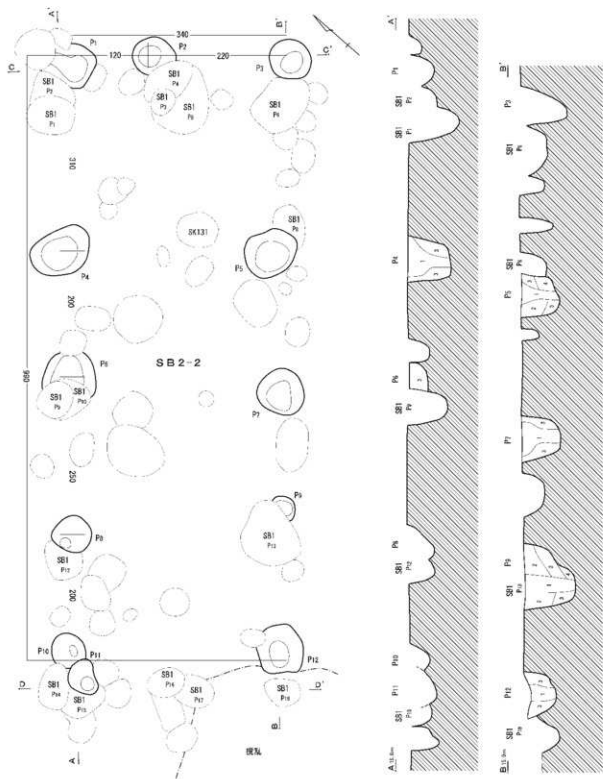
柵列と第2-1・2号掘立柱建物跡の主軸方位と、第2-3号柵列の軸方位は8度ずれており、建物を囲む塀であるとするやや不規則である。

柵列で区画される範囲は、約15×17.5mで、面積は262.5m²ほどである。

第2-1号柵列跡(第150・151図)

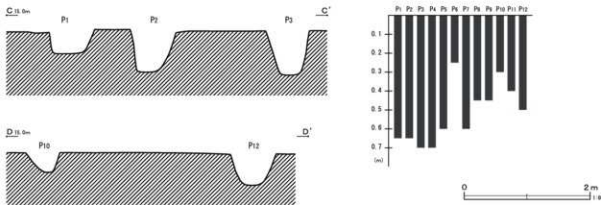
N6・B6、B7グリッドに位置する。

柱穴は12箇所検出された。



- SB2-2
- 1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
 - 2 暗褐色土 ロームブロック多量
 - 3 結核色土 ロームブロック多量
 - 4 軽褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

第148図 第2-2号掘立柱建物跡(1)



第149図 第2-2号掘立柱建物跡(2)

第2-1号柵列跡は、軸方向はN-41°-Wを指す。「コ」に囲む南東側で、第2-2号柵列と近接し並んでいる。

柵列の長さは9.3mである。

柱間は0.6~1.3mと幅がある。

柱穴の規模は28×35cm~70×80cmの円形または楕円形である。

柱穴の深さは20~60cmと比較的幅があるといえる。

遺物は出土しなかった。

第2-2号柵列跡(第150・151図)

N6・B6、B7グリッドに位置する。

柱穴は9箇所である。

第2-2号柵列跡は、軸方位はN-37°-Wを指す。第2-1号柵列と近接し並行する。

柵列の長さは現況で9.8mであるが、北側は調査区外に続き、第2-20号溝跡まで延びると思われる。

柱間は0.4~2.4mと幅がある。

柱穴の規模は28×30cm~70×80cmの円形または楕円形である。

柱穴の深さは13~60cmと比較的幅があるといえる。

遺物は出土しなかった。

第2-3号柵列跡(第150・151図)

N6・A8、B7、B8グリッドに位置する。

柱穴は27箇所検出された。内、P27は第2-5号柵列と共有している。

第2-3号柵列の軸方位は、N-37°-Wを指す。他の柵列とはほぼ90度異なる。

柵列の長は17.5mを測る。柱間は0.4~1.4mと幅があるが、重複しているものもあり、いくつかの時期に分かれる可能性もある。

柱穴の規模は28×30cm~70×80cmの円形または楕円形である。柱穴の深さは13~60cmと比較的幅があるといえる。

遺物は出土しなかった。

第2-4号柵列跡(第150図)

N6・J8、N6・A7、A8グリッドに位置する。

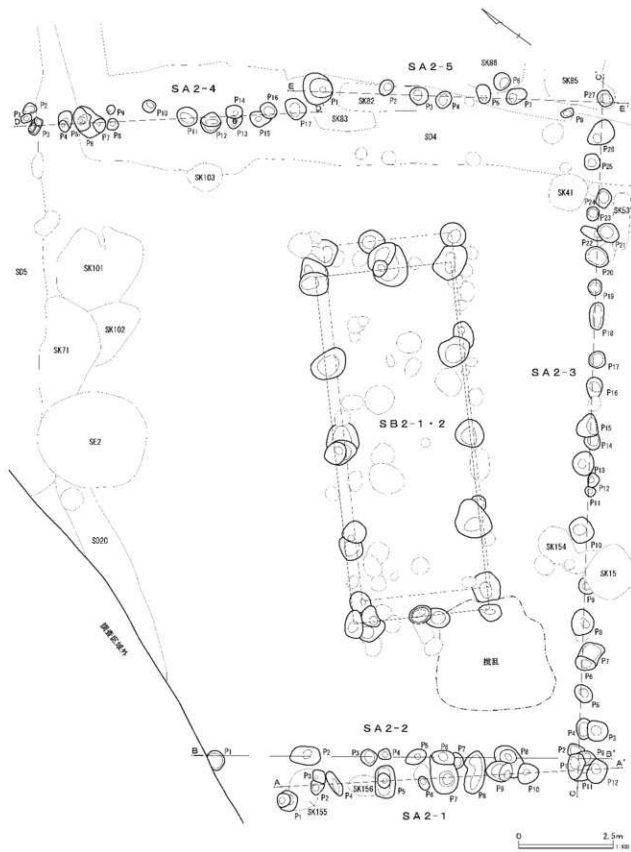
柱穴は17箇所検出された。

第2-4号柵列の方位は、N-42°-Wを指す。

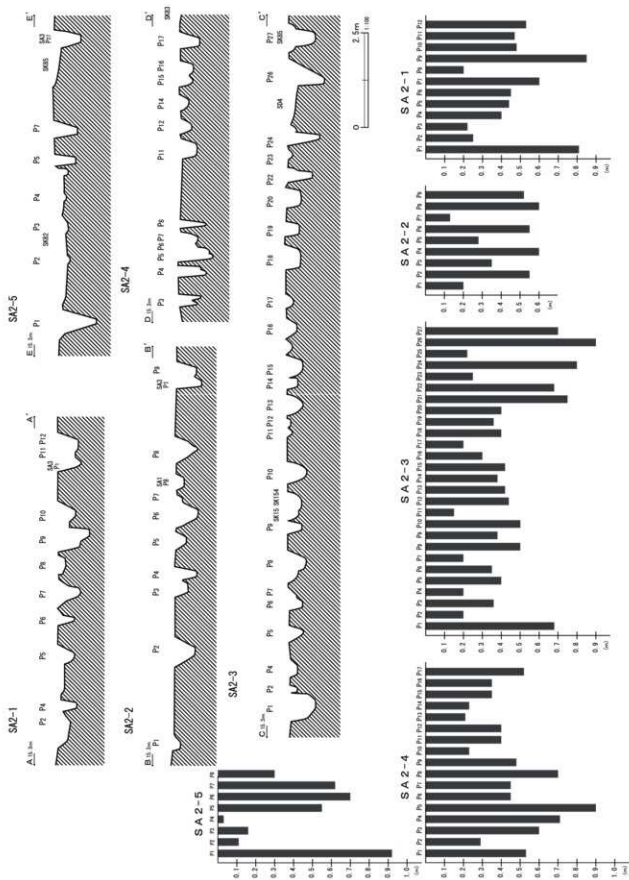
柵列の長さは現況で7.2mを測る。北西端は第2-9号溝跡まで達しており、溝跡を利用して柵を閉じているのかもしれない。第2-5号柵列と近接するが、南西側の第2-1・2号柵列が並列しているのに対し、本柵列と第2-5号柵列はお互いに端部が接する形で、同じ柵列の北側と南側であった可能性がある。

柱間は0.2~2.0mと不規則である。

柱穴の規模は30×30cm~52×56cmの円形または楕円形である。



第150図 櫛列 (1)



第151图 册列(2)

柱穴の深さは23~90cmと比較的幅があるといえる。

遺物は出土しなかった。

第2-5号柵列跡 (第150図)

N6・A8グリッドに位置する。

柱穴は9箇所検出された。内、P27は第2-3号柵列と共有である。

第2-5号柵列の軸方位は、N-37°-Wを指す。

柵列の長さは7.5mを測る。第2-4号柵列と一連とすると、総延長は約15.0mになり、南東側の第2-3号柵列の長さと同じ数値になる。

柱間は0.6~2.4mと不規則である。

柱穴の規模は38×38cm~75×85cmの円形または楕円形である。

柱穴の深さは6~92cmと幅がある。

遺物は出土しなかった。

(3) 土壌

第2-1号土壌 (第152図)

M6・I1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.52m、短軸は0.53m、深さは0.11mである。長軸方位はN-71°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-2号土壌 (第152図)

M6・H1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.81m、短軸は0.64m、深さは0.15mである。長軸方位はN-66°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-3号土壌 (第152図)

N6・G6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.00m、短軸は0.88m、深さは0.03mである。長軸方位はN-37°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-4号土壌 (第152図)

N6・G6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.40m、短径は0.98m、深さは0.23mである。長軸方位はN-67°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-5号土壌 (第152図)

N6・F6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.98m、深さは0.27mである。

遺物は出土していない。

第2-6号土壌 (第152図)

N6・E6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.27m、短軸は0.82m、深さは0.47mである。長軸方位はN-35°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-7号土壌 (第152図)

N6・E6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.25m、短軸は0.90m、深さは0.35mである。長軸方位はN-45°-Wを指す。

遺物は緑泥片岩の破片が出土した。

第2-8号土壌 (第152図)

N6・F7グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。辺の長さは1.20m、深さは0.3mである。

遺物は出土していない。

第2-9号土壌 (第152図)

N6・E7グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.15m、短軸は0.73m、深さは0.26mである。長軸方位はN-43°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-10号土壌 (第152図)

N6・D7グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北東側は調査区外となるため長軸は不明である。短軸は0.50m、深さは0.15mである。長軸方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-11号土壌 (第152図)

N6・D6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.18m、短径は0.84m、深さは0.25mである。長軸方位はN-45°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-12号土壌 (第152図)

N6・D6グリッドに位置する。平面形は長方形

形を呈する。長軸は2.39m、短軸は0.67m、深さは0.11mである。長軸方位はN-33°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-13号土壌 (第153図)

N6・D6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.77m、短軸は1.00m、深さは0.30mである。長軸方位はN-45°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-15号土壌 (第153図、第165図1~3)

N6・B7グリッドに位置する。第2-15号土壌と重複する。平面形は円形を呈し、底面は平坦である。径は1.48m、深さは0.41mである。

遺物は1の信楽系の碗と2の瀬戸・美濃系の香炉の破片、3の瀬戸・美濃系の徳利が出土した。

第2-15号土壌 (第153図)

N6・B7グリッドに位置する。第2-15号土壌と重複する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.45m、短径は0.71m、深さは0.47mである。長軸方位はN-3°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-14号土壌 (第153図)

第2-14・91・118・119号土壌の4基が重複している。N6・C7グリッドに位置する。南側の一部が調査区外となる。平面形は楕円形を呈し底面は平坦である。径は1.77m、深さは0.42mである。長軸方位はN-51°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-91号土壌 (第153図、第169図98・99)

N6・C7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、西側と東側が一部深くなっている。長径は1.50m、短径は1.45m、深さは0.49mである。長軸方位はN-42°-Eを指す。

遺物は98と99は肥前系の碗である。

他に肥前系の碗破片が出土している。

第2-118号土壌 (第153図)

N6・C7グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈すると考えるが、西側は第2-14号土壌

と切りあっているため不明である。規模は現況で南北は約1.20m、深さは0.16mである。

遺物は出土していない。

第2-119号土壌 (第153図)

N6・C7グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈すると考えられるが、西側を第2-14・91号土壌によって切られているため不明である。短軸は現況で0.83m、深さは0.18mである。

遺物は出土していない。

第2-16号土壌 (第153図)

N6・B7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は1.00m、深さは0.56mである。

遺物は出土していない。

第2-17号土壌 (第153図、第165図4・5)

N6・B7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.15m、短径は0.91m、深さは0.58mである。長軸方位はN-65°-Eを指す。

遺物は4の瀬戸・美濃系の碗破片、5の土錫の破片が出土した。

第2-41号土壌 (第153図)

N6・A8、B8グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。一辺の長さは1.00m、深さは0.43mである。

遺物は出土していない。

第2-70号土壌 (第153図)

M6・G6グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.11m、短軸は1.04m、深さは0.34mである。長軸方位はN-57°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片と礫が出土した。

第2-71号土壌 (第154図、第165~168図)

N6・A7グリッドに位置する。第2-1号掘立柱建物跡の北東側に位置し、北東側を第2-5号溝跡によって壊されている。

全体の形状は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。深さは0.60mである。

遺物は11~77が出土した。瀬戸・美濃系と信楽系の碗を主体に、31は瀬戸・美濃系の仏飯具、33

は徳利、35～44は鉢鉢、74は瓦、75は板碑の破片、76と77は磁石など多数出土した。

その他に瀬戸・美濃、肥前、堺系他の陶磁器数点と、焙烙の破片、緑泥片岩の破片が出土した。

第2-101号土壌 (第154図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は不整形である。西側は第2-71、第2-102号土壌と重複する。径は約2.35m、深さは0.22mである。長軸方位は、N-58°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-102号土壌 (第154図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈すると思われるが、北西側は第2-71号土壌と重複する。長径は現況で1.18m、短径は1.30m、深さは0.23mである。長軸方位はN-58°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-74号土壌 (第154図)

M6・H2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.18m、短径は0.95m、深さは0.34mである。長軸方位はN-22°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-72号土壌 (第154図)

M6・H10グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.02m、短軸は0.81m、深さは0.13mである。長軸方位はN-39°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-73号土壌 (第154図)

M6・H2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.48m、短軸は0.9m、深さは0.14mである。長軸方位はN-63°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-75号土壌 (第154図)

M6・H1グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、底面は平坦である。中央部は被熱しており、焼土層ができていて、一辺の長さは1.4m、深さは0.2mである。

遺物はかわらけと焙烙の破片が出土した。

第2-76号土壌 (第154図)

M6・H2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.03m、短軸は0.85m、深さは0.23mである。長軸方位は、N-69°-Eを指す。

遺物はかわらけの破片が出土した。

第2-78号土壌 (第154図)

M6・H2グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。北西側は第2-76号土壌に切られている。長軸は2.68m、短軸は1.38m、深さは0.20mである。長軸方位は、N-66°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-77号土壌 (第154図)

M6・I2グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.18m、短径は0.62m、深さは0.20mである。長軸方位はN-35°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-82号土壌 (第154図)

N6・A8グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.03m、短軸は0.70m、深さは0.28mである。長軸方位はN-32°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-83号土壌 (第154図)

N6・A8グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.61m、短軸は0.62m、深さは0.20mである。長軸方位はN-32°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-85号土壌 (第155図、第168図78)

N6・A8グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、東側が円形の深い部分がある。長径は2.80m、短径1.70m、深さは0.97mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は78のかわらけが出土した。底部破片で穿孔がみられる。

第2-86号土壌 (第155図)

N6・A8グリッドに位置する。平面形は不整形楕円形を呈し、中央部が深くになっている。長径は

2.50m、短径2.30m、深さは1.31mである。長軸方位はN-15°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-87号土壌 (第155図、第168図79~86)

N6・A8グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は2.25m、短径は1.32m、深さは0.88mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。

遺物は79~86から出土した。肥前系、京・信楽系、瀬戸・美濃系の碗、香炉、播鉢が出土した。

他に堺、瀬戸・美濃系の鉢、肥前系の碗、焙烙等の破片が多数出土した。

第2-89号土壌 (第155図)

N6・C7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.75m、短径は1.50m、深さは0.44mである。長軸方位はN-18°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-90号土壌 (第155図、第169図87~97)

N6・C7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈すると思われる。北側は第2-89号土壌と重複する。長径は現況で1.00m、短径は1.35m、深さは0.23mである。長軸方位はN-57°-Wを指す。

遺物は87~97である。肥前系の小鉢、碗と摺鉢、焙烙の破片が出土した。

他に堺系の播鉢、瀬戸・美濃系の碗、鉢の破片が出土している。

第2-117号土壌 (第155図)

N6・C7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、北側が深くになっている。東側の一部が第2-89号土壌と重複する。長径は1.09m、短径は0.64m、深さは0.70mである。長軸方位はN-9°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-92号土壌 (第155図)

N6・B7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.03m、短径は0.42m、深さは0.25mである。長軸方位はN-46°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-88号土壌 (第155図)

M6・J8グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は4.63m、短軸は1.49m、深さは1.26mである。長軸方位はN-40°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-93号土壌 (第156図)

N6・B6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し底面は2段になり、南東側に張り出しが着く。長径は2.31m、短径は1.57m、深さは0.76mである。長軸方位はN-50°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-94号土壌 (第156図)

M6・F3グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は1.54m、短軸は0.74m、深さは0.38mである。長軸方位はN-56°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-95号土壌 (第156図)

M5・G10、M6・G1、H1グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長軸は2.56m、短軸は0.81m、深さは0.33mである。長軸方位はN-22°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-96号土壌 (第156図)

M6・I8グリッドに位置する。南東側を第2-15号溝跡によって削平されている。平面形は円形を呈すると思われる。径は現況で1.60m、深さは0.30mである。

遺物は出土していない。

第2-97号土壌 (第156図)

M6・I8グリッドに位置する。南東側を第2-15号溝跡によって削平されている。平面形は円形を呈すると思われる。径は現況で1.17m、深さは0.61mである。

遺物は出土していない。

第2-98号土壌 (第156図)

M6・I8グリッドに位置する。南東側を第2

-15号溝跡によって一部削平されている。平面形は不整形を呈する。径は約1.00m、深さは0.24mである。

遺物は出土していない。

第2-99号土壌 (第156図)

M6・I8、J8グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。長径は1.35m、短径は1.20m、深さは0.24mである。

遺物は出土していない。

第2-100号土壌 (第156図)

M6・J8グリッドに位置する。南東側を第2-15号溝跡によって削平されているため、平面形は不明である。現況で長径は約2.00m、深さは0.22mである。

遺物は出土していない。

第2-103号土壌 (第156図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.90m、短径は0.75m、深さは0.17mである。長軸方位はN-35°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-104号土壌 (第156図)

N6・A6、B6グリッドに位置する。北東隅は第2-1号井戸跡と重複している。平面形は長方形を呈する。長軸は1.76m、短軸は0.87m、深さは0.33mである。長軸方位はN-62°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-105号土壌 (第156図)

N6・B6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.74m、深さは0.11mである。

遺物は出土していない。

第2-106号土壌 (第156図)

N6・B6グリッドに位置する。西側は第2-3号溝跡によって削平されている。平面形は円形を呈するものと思われる。径は現況で0.86m、深さは0.26mである。

遺物は出土していない。

第2-107号土壌 (第157図)

N6・B6グリッドに位置する。西側は第2-3号溝跡によって削平されている。平面形は楕円形を呈すると思われる。径は現況で1.20m、深さは0.23mである。

遺物は出土していない。

第2-109号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。西側は第2-108号土壌と重複している。平面形は円形を呈する。径は0.97m、深さは0.17mである。

遺物は出土していない。

第2-108号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。東側は第2-109号土壌と重複し、西側は一部調査区外となる。平面形は楕円形を呈する。長径は1.36m、短径は0.74m、深さは0.13mである。長軸方位はN-88°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-110号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。西側は一部調査区外となる。平面形は楕円形を呈する。長径は現況で0.82m、短径は0.72m、深さは0.22mである。長軸方位はN-68°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-111号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は1.77m、短径は0.84m、深さは0.15mである。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-112号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。北東側を第2-3号溝跡によって切られている。平面形は楕円形を呈するものと思われる。長径は現況で0.94m、短径は0.84m、深さは0.35mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-113号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。平面形は円形呈する。径は1.12m、深さは0.24mである。

遺物は出土していない。

第2-114号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、底面中央部にビット状に深い部分がある。径は1.05m、深さは0.32mである。

遺物は出土していない。

第2-115号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、底面中央部に1段深くなっている。長径は1.00m、短径は0.75m、深さは0.30mである。長軸方位はN-11°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-120号土壌 (第157図)

N6・C7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、西側が深くなっている。長径は0.89m、短径は0.60m、深さは0.19mである。長軸方位はN-90°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-121号土壌 (第157図)

N6・B7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.79m、深さは0.34mである。

遺物は出土していない。

第2-122号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。南側は調査区外に延び、東側は第2-3号溝跡によって上部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、東側が深くなっている。長径は0.88m、短径は現況で0.55m、深さは0.69mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-123号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.76m、短径は0.52m、深さは0.21mである。長軸方位はN-35°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-124号土壌 (第157図)

N6・C6グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、北側が深くなっている。径は0.63m、深さは0.34mである。

遺物は出土していない。

第2-125号土壌 (第157図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.70m、短径は0.51m、深さは0.41mである。長軸方位はN-82°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-126号土壌 (第157図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は幾つかの小土壌が連結するような楕円形を呈する。長径は1.52m、短径は約0.60m、深さは0.31mである。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第2-127号土壌 (第157図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、西側が深くなっている。長径は0.63m、短径は0.48m、深さは0.44mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2-128号土壌 (第157図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.80m、短径は0.57m、深さは0.31mである。長軸方位はN-60°-Wを指し。

遺物は出土していない。

第2-129号土壌 (第157図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.66m、深さは0.26mである。

遺物は出土していない。

第2-130号土壌 (第157図)

N6・A7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.74m、短径は0.58m、深さは0.26mである。

遺物は出土していない。

第2-131号土壌 (第157図)

N 6・A 7グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.60m、深さは0.31mである。

遺物は出土していない。

第2-132号土壌 (第158図)

N 6・A 7、A 8グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、東側が一部深くなっている。長径は0.95m、短径は0.65m、深さは0.63mである。長軸方位はN-13°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-133号土壌 (第158図)

N 6・B 7グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、東側に浅い張り出しがある。長径は0.80m、短径は0.73m、深さは0.94mである。長軸方位はN-28°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-134号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、北側が深くなっている。長径は0.95m、短径は0.70m、深さは0.48mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-135号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.74m、深さは0.10mである。

遺物は出土しなかった。

第2-136号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.78m、短径は0.57m、深さは0.18mである。長軸方位はN-70°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-137号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、南東側が深くなっている。長径は0.60m、短径は0.47m、深さは0.42mである。長軸方位はN-64°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-140号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.57m、深さは0.28mである。

遺物は出土しなかった。

第2-141号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径は0.66m、深さは0.26mである。

遺物は出土しなかった。

第2-138号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。南側は第2-139号土壌と重複している。平面形は楕円形を呈し、西側が深くなっている。長径は0.78m、短径は0.57m、深さは0.37mである。長軸方位はN-86°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-139号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。北側は第2-138号土壌と重複している。平面形は楕円形を呈する。長径は1.53m、短径は0.48m、深さは0.25mである。長軸方位はN-42°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-142号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.68m、短径は0.48m、深さは0.18mである。長軸方位はN-65°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第2-143号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.63m、短径は0.45m、深さは0.24mである。長軸方位はN-5°-Wである。

遺物は出土しなかった。

第2-144号土壌 (第158図)

N 6・B 6グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は0.74m、短径は0.48m、深さは0.41mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。